熊本県文化財調査報告第248集

隈府土井ノ外遺跡

（伝菊池氏館跡）

熊本県立菊池高等学校校舎等改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2009.3

熊本県教育委員会

隈府土井ノ外遺跡の発掘調査でわかったこと

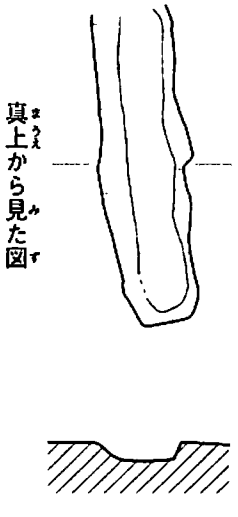
隈府土井ノ外遺跡で発掘調査をした場所は、新しく菊池高校の体育館やプール、地下雨水貯留槽をつくるところです。それらをつくることで、地面の下にある昔の人たちが生活したあとがなくなってしまうので、発掘調査をしました。

発掘調査では、中世の頃（約14世紀後半～15世紀）の生活のあとが見つかりました。地面に穴を掘り、そこに柱を立てた建物である掘立柱建物や井戸のあと、溝や大きい穴などのほかに、それらを囲むと思われる二重の堀がありました。また、食器や煮炊きに使われた土師器という素焼きした赤褐色の土器や輸入陶磁器が多数出てきました。これらはこの建物群周辺に住んでいた人々が日常的に使ったものと考えられています。

この隈府土井ノ外遺跡には約100m四方に区画をする中世の堀と、その区画の内部に建物のあとがあります。そしてその区画の内側にさらに堀に囲まれた空間があり、内側の空間にも建物のあとがあるのではないかと思われます。

[堀跡・溝跡]

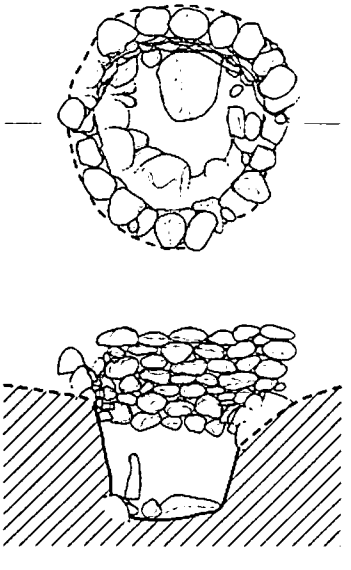
水が流れていた道



断面図

[井戸跡]

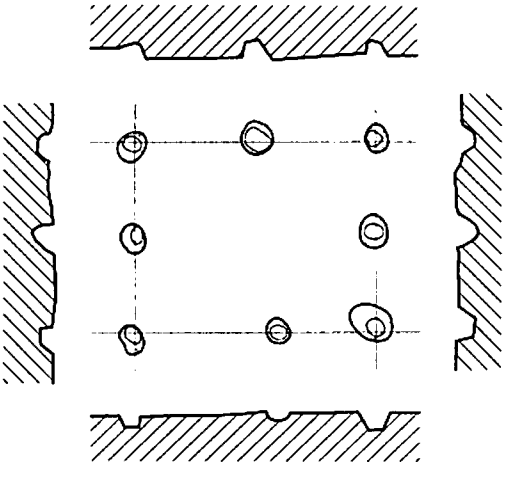
飲料水などをくみ上げていた井戸のあと



断面図

[掘立柱建物跡]

人々が暮らしていた建物のあと



真上から見た図と断面図

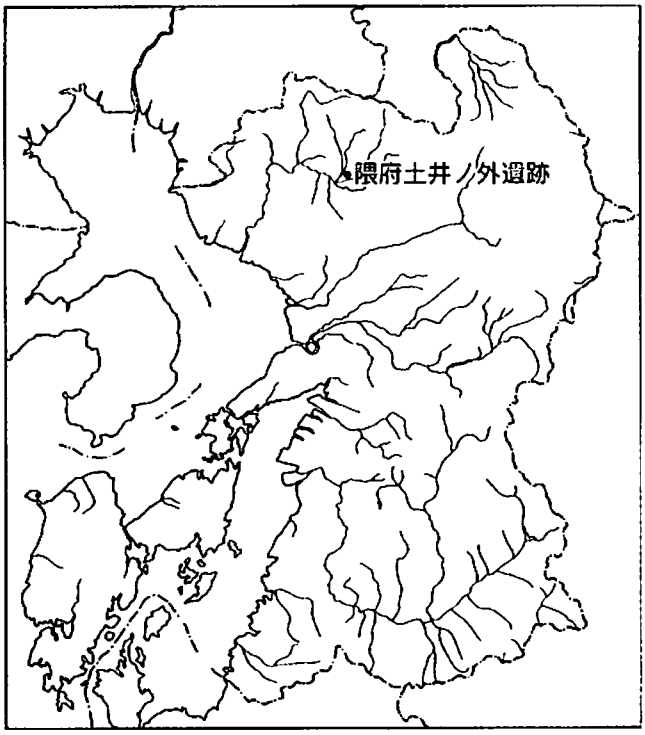
空撮1　隈府土井ノ外遺跡（菊池高校敷地内）周辺航空写真（遠方に金峰山を望む）

空撮2　隈府土井ノ外遺跡（菊池高校敷地内）航空写真

熊本県文化財調査報告第 248 集

隈府土井ノ外遺跡

熊本県立菊池高等学校校舎等改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査



2009.3

熊本県教育委員会

序　文

熊本県教育委員会では、熊本県立菊池高等学校校舎等改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、菊池市の隈府土井ノ外遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、遺跡の中心となる中世の堀跡、掘立柱建物跡、柵列跡、井戸跡、土壙などを確認することができました。

この報告書が県民の皆様をはじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財の関心と理解を深めていただく一助となれば、喜びに堪えません。

なお、調査の実施に御理解と御協力をいただいた地元の方々、関係機関、並びに指導・助言をいただいた先生方に対して厚くお礼申し上げます。

平成 21 年 3 月 31 日

熊本県教育長　　山　本　隆　生

例　言

1 本書は、熊本県立菊池高等学校校舎等改築工事に伴い、記録保存を目的として実施した、熊本県菊池市に所在する隈府土井ノ外遺跡の発掘調査報告書である。
2 現地の本発掘調査は、熊本県教育庁施設課の依頼を受け、平成17年度から平成18年度にかけて、熊本県教育庁文化課が行った。
3 整理・報告書作成は平成19年度(2007年)から平成20年度(2008年)にかけて熊本県教育庁文化課、熊本県文化財資料室で行った。
4 国土座標軸による測量基準杭の設定は㈱有明測量開発社に委託した。
5 本書に掲載した航空写真は、九州航空株式会社に委託した。
6 本書の周辺遺跡分布図に掲載した地図は国土地理院発行の熊本1；50,000地形図である。
7 遺構実測・地形測量及び製図の一部は株式会社九州文化財研究所に委託した成果品である。
8 遺物実測及び製図の一部は東海アナース株式会社に委託した成果品である。
9 遺構の写真撮影は調査担当者、遺物写真撮影は村田百合子、平岡浩晃が行った。
10 鉄器処理は今田里枝、大塚トシ子、平川早苗が行った。
11 自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
12 本書の編集は西住欣一郎、廣田静学、木村元浩を中心に行い、岩下萌、加藤早織、佐藤淳子、府内博子、松本裕子が補助した。
13 出土遺物・写真・図面等は、熊本県文化財資料室に保管している。

凡　例

1 本書で使用している方位は、座標軸を基準とした北を示している。
2 報告書に掲載した実測図の縮尺は、掘立柱建物跡・柵列跡はS=1/80、井戸跡・土壙・不明遺構はS=1/20・1/40、堀跡・溝跡・その他は不統一である。
3 須恵器については、断面を黒で塗色し、その他のものは白抜きにした。
4 土層及び土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版　標準土色帖」(財団法人日本色彩研究所；2004)に準拠した。
5 写真の縮尺は任意である。
6 発掘遺構には遺構の種別を示す以下の略号を使用した。
SB(掘立柱建物跡) SA(柵列跡) SD(堀跡・溝跡) SE(井戸跡) SK(土壙) SX(不明遺構)
7 遺構図中の断面にかかる石については、斜線で表記している。

本 文 目 次

隈府土井ノ外遺跡の発掘調査でわかったこと
口絵
序文
例言・凡例
目次

第Ⅰ章　調査の経緯と経過 …… 1
　第1節　調査の経緯 …… 1
　第2節　調査の組織 …… 1
　第3節　遺構保存等の協議 …… 2
　第4節　調査の方法と経過 …… 2
第Ⅱ章　位置と環境 …… 6
　第1節　地理的環境 …… 6
　第2節　歴史的環境 …… 6
第Ⅲ章　調査の成果 …… 11
　第1節　調査区の基本土層 …… 11
　第2節　1区の調査 …… 13
　　1. 調査開始前の状況 …… 13
　　2. 遺構分布 …… 13
　　3. 遺構・遺物 …… 13
　　4. その他 …… 53
　第3節　2区の調査 …… 58
　　1. 遺構分布 …… 58
　　2. 遺構・遺物 …… 58
　　3. その他 …… 71
　第4節　3区の調査 …… 73
　　1. 遺構分布 …… 73
　　2. 遺構・遺物 …… 73
　　3. その他 …… 80
　第5節　確認調査 …… 85
　　1. 実施場所と経緯 …… 85
　　2. 確認調査結果 …… 85
第Ⅳ章　自然科学分析
　　隈府土井ノ外遺跡の自然科学分析報告《パリノ・サーヴェイ(株)》 …… 87
第Ⅴ章　総括 …… 93
　第1節　遺構の保存と活用 …… 93
　　1. 遺構の保存 …… 93
　　2. 調査成果の活用 …… 93
　第2節　遺構と遺物 …… 93
　　1. 掘立柱建物跡と柵列跡の変遷 …… 93
　　2. 堀跡の変遷 …… 93
　　3. 1期～3期の遺構構成の想定 …… 95
　　4. 1期～3期の時期 …… 95
　　5. 土師器 …… 95
　第3節　今回検出した遺構の評価 …… 98
　　1. 菊池市隈府の字図 …… 98
　　2. 菊池十八外城跡 …… 99
　　3. 大友氏と大内氏に関連する遺跡の調査成果 …… 101
　　4. まとめ …… 104
引用・参考文献 …… 104
観察表 …… 105
写真図版
あとがき
報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図　周辺遺跡分布図 …… 8
第 2 図　基本土層柱状図 …… 11
第 3 図　隈府土井ノ外遺跡全体遺構配置図（S=1/700） …… 12
第 4 図　1 区遺構配置図（S=1/350） …… 14
第 5 図　掘立柱建物跡（SB12）実測図及び出土遺物実測図 …… 16
第 6 図　掘立柱建物跡（SB19・26）実測図 …… 17
第 7 図　掘立柱建物跡（SB91）実測図 …… 18
第 8 図　掘立柱建物跡（SB86・95）実測図 …… 19
第 9 図　掘立柱建物跡（SB174）実測図 …… 20
第 10 図　柵列跡（SA22・144・175・177・178・179・180・206）実測図 …… 21
第 11 図　柵列跡（SA183・205・207・208・215）実測図 …… 22
第 12 図　堀跡（SD4・5）実測図及び出土遺物実測図 …… 24
第 13 図　溝跡（SD6・7・15・17・29・33）実測図及び SD7 出土遺物実測図 …… 25
第 14 図　溝跡（SD33）出土遺物実測図 …… 26
第 15 図　溝跡（SD18）実測図及び出土遺物実測図（1） …… 26
第 16 図　溝跡（SD18）出土遺物実測図（2） …… 27
第 17 図　溝跡（SD16・85・121・239）実測図 …… 28
第 18 図　溝跡（SD121）出土遺物実測図 …… 29
第 19 図　溝跡（SD121・85）出土遺物実測図 …… 30
第 20 図　井戸跡（SE1・2）実測図及び出土遺物実測図 …… 31
第 21 図　土壙（SK8）実測図及び出土遺物実測図（1） …… 33
第 22 図　土壙（SK8）出土遺物実測図（2） …… 34
第 23 図　土壙（SK9）出土遺物実測図 …… 35
第 24 図　土壙（SK10）実測図及び出土遺物実測図（1） …… 36
第 25 図　土壙（SK10）出土遺物実測図（2） …… 37
第 26 図　土壙（SK116・117）実測図及び出土遺物実測図（1） …… 39
第 27 図　土壙（SK116・117）出土遺物実測図（2） …… 40
第 28 図　土壙（SK35・36・39・42・43・44・47・48・53・57）実測図 …… 41
第 29 図　土壙（SK58・59）実測図 …… 42
第 30 図　土壙（SK54・56・60・63・92・100）実測図 …… 43
第 31 図　土壙（SK96・119・120・122・123・124・126）実測図 …… 44
第 32 図　土壙（SK146・168・170・171・172・189・190）実測図 …… 45
第 33 図　土壙（SK194・198・199・200・201・203・204・217・218・220）実測図 …… 46
第 34 図　土壙（SK219・222・223・224・225・226・227・228・229・231・237）実測図 …… 47
第 35 図　土壙（SK230・232・234・236・238・240・270・271）実測図 …… 48
第 36 図　土壙（SK53・55・58・59・100・122・124）出土遺物実測図 …… 49
第 37 図　不明遺構（SX193・196）実測図 …… 49
第 38 図　1 区出土遺物実測図（1） …… 50
第 39 図　1 区出土遺物実測図（2） …… 51
第 40 図　1 区出土遺物実測図（3） …… 52
第 41 図　2 区遺構配置図（S=1/150） …… 57
第 42 図　掘立柱建物跡（SB247・251）実測図 …… 59
第 43 図　柵列跡（SA246・248・255・261・262・264・265）実測図 …… 60
第 44 図　堀跡（SD99）実測図及び出土遺物実測図 …… 62
第 45 図　堀跡（SD186）実測図及び出土遺物実測図（1） …… 63
第 46 図　堀跡（SD186）出土遺物実測図（2） …… 64
第 47 図　溝跡（SD132・142・160・164・280）実測図 …… 65
第 48 図　溝跡（SD268・272・281）実測図 …… 66
第 49 図　土壙（SK101・105・108・127・131・140・157）実測図 …… 68
第 50 図　土壙（SK150・154・161・162・163・165・245）実測図 …… 69
第 51 図　2 区出土遺物実測図 …… 70
第 52 図　2 区出土古銭拓本 …… 70
第 53 図　3 区遺構配置図（S=1/150） …… 72

第 54 図　掘立柱建物跡（SB64）実測図 …… 74
第 55 図　掘立柱建物跡（SB65・69）実測図 …… 75
第 56 図　掘立柱建物跡（SB72・283）実測図 …… 76
第 57 図　掘立柱建物跡（SB284）実測図 …… 77
第 58 図　柵列跡（SA70・71）溝跡（SD50）井戸跡（SE73）実測図 …… 79
第 59 図　土壙（SK30・31）実測図 …… 79
第 60 図　土壙（SK46・74・75・76・77・78・79・80・82・83・87・88）実測図 …… 81
第 61 図　土壙（SK84・134・135・136・137・138）実測図 …… 82
第 62 図　3 区遺構出土遺物実測図 …… 82
第 63 図　3 区出土遺物実測図 …… 83
第 64 図　確認調査遺構配置図（S=1/500） …… 86
第 65 図　遺構の保存と活用状況 …… 94
第 66 図　遺構変遷図（1）（S=1/1000） …… 96
第 67 図　遺構変遷図（2）（S=1/1000） …… 96
第 68 図　遺構変遷図（3）（S=1/1000） …… 97
第 69 図　菊池市隈府字図 …… 98
第 70 図　菊池市周辺史跡図（十八外城） …… 98
第 71 図　大分平野の地形と主要遺跡（1/32500） …… 100
第 72 図　「府内古図」と街路名称の設定 …… 101
第 73 図　史跡大内氏館跡遺構配置略図（1/1500） …… 102
第 74 図　大内氏館跡の変遷 …… 103

表 目 次

表 1　周辺遺跡一覧表（1） …… 9
表 2　周辺遺跡一覧表（2） …… 10
表 3　1 区掘立柱建物跡計測表 …… 20
表 4　1 区検出遺構一覧表 …… 53
表 5　1 区検出遺構土層注記表（1） …… 54
表 6　1 区検出遺構土層注記表（2） …… 55
表 7　1 区検出遺構土層注記表（3） …… 56
表 8　2 区掘立柱建物跡計測表 …… 60
表 9　2 区検出遺構一覧表 …… 66
表 10　2 区検出遺構土層注記表 …… 71
表 11　3 区掘立柱建物跡計測表 …… 74
表 12　3 区検出遺構土層注記表 …… 84
表 13　3 区検出遺構一覧表 …… 84
表 14　土師器法量比較表 …… 97
表 15　出土遺物観察表（1） …… 105
表 16　出土遺物観察表（2） …… 106
表 17　出土遺物観察表（3） …… 107
表 18　出土遺物観察表（4） …… 108
表 19　出土遺物観察表（5） …… 109
表 20　出土遺物観察表（6） …… 110
表 21　出土遺物観察表（7） …… 111
表 22　出土遺物観察表（8） …… 112
表 23　出土遺物観察表（9） …… 113
表 24　その他の遺物観察表 …… 114
表 25　出土古銭観察表 …… 114

写 真 目 次

空撮 1　隈府土井ノ外遺跡（菊池高校敷地内）周辺航空写真（遠方に金峰山を望む）
空撮 2　隈府土井ノ外遺跡（菊池高校敷地内）航空写真
図版 1　1区全景
図版 2　掘立柱建物跡（SB12）（西→東）
図版 3　掘立柱建物跡（SB19）（西→東）
図版 4　掘立柱建物跡（SB26）（西→東）
図版 5　掘立柱建物跡（SB86）（西→東）
図版 6　掘立柱建物跡（SB91）（東→西）
図版 7　掘立柱建物跡（SB95）（北→南）
図版 8　掘立柱建物跡（SB174）（東→西）
図版 9　柵列跡（SA22）（西→東）
図版 10　柵列跡（SA144）（南→北）
図版 11　柵列跡（SA175）（東→西）
図版 12　柵列跡（SA177・178）（東→西）
図版 13　柵列跡（SA180）（西→東）
図版 14　柵列跡（SA183）（東→西）
図版 15　柵列跡（SA205）（東→西）
図版 16　柵列跡（SA215）（西→東）
図版 17　堀跡（SD5）（南→北）
図版 18　溝跡（SD6）（南→北）
図版 19　溝跡（SD16）（西→東）
図版 20　溝跡（SD18・SX112）（南→北）
図版 21　溝跡（SD29・33）（北→南）
図版 22　溝跡（SD85・121）（南西→北東）
図版 23　溝跡（SD33）遺物出土状況（北→南）
図版 24　井戸跡（SE1）（東→西）
図版 25　井戸跡（SE2）（南→北）
図版 26　土壙（SK8）遺物出土状況（西→東）
図版 27　土壙（SK9）（東→西）
図版 28　土壙（SK10）遺物出土状況（南→北）
図版 29　土壙（SK42）（西→東）
図版 30　土壙（SK44・47）（西→東）
図版 31　土壙（SK48）（南西→北東）
図版 32　土壙（SK54）（東→西）
図版 33　土壙（SK56）（東→西）
図版 34　土壙（SK58）（北→南）
図版 35　土壙（SK63）（北→南）
図版 36　土壙（SK100）（東→西）
図版 37　土壙（SK116・117）（南→北）
図版 38　土壙（SK119・120）（南→北）
図版 39　土壙（SK122）（北→南）
図版 40　土壙（SK123）（西→東）
図版 41　土壙（SK124）（南→北）
図版 42　土壙（SK126）（北→南）
図版 43　土壙（SK146）（北→南）
図版 44　土壙（SK170）（西→東）
図版 45　土壙（SK171）（東→西）
図版 46　土壙（SK194）（北→南）
図版 47　土壙（SK200）（東→西）
図版 48　土壙（SK217）（北→南）
図版 49　土壙（SK218）（東→西）
図版 50　土壙（SK219）（東→西）
図版 51　土壙（SK220）（北→南）
図版 52　土壙（SK224・237）（北→南）
図版 53　土壙（SK234）（東→西）
図版 54　土壙（SK240）（東→西）
図版 55　2区全景（南→北）
図版 56　掘立柱建物跡（SB248）（東→西）
図版 57　掘立柱建物跡（SB251）（東→西）
図版 58　柵列跡（SA248）（東→西）
図版 59　柵列跡（SA255）（南→北）
図版 60　柵列跡（SA261）（東→西）
図版 61　柵列跡（SA262）（東→西）
図版 62　柵列跡（SA264）（北→南）
図版 63　溝跡（SD132）（北東→南西）
図版 64　溝跡（SD142）（東→西）
図版 65　溝跡（SD160）（南→北）
図版 66　堀跡（SD186）（南→北）
図版 67　溝跡（SD272）（東→西）
図版 68　溝跡（SD280）（北→南）
図版 69　溝跡（SD281）（西→東）
図版 70　土壙（SK105）（南→北）
図版 71　土壙（SK108）（東→西）
図版 72　土壙（SK127）（北→南）
図版 73　土壙（SK131）（北→南）
図版 74　土壙（SK140）（南→北）
図版 75　土壙（SK150）（東→西）
図版 76　土壙（SK154）（北→南）
図版 77　土壙（SK157）（東→西）
図版 78　土壙（SK161）（東→西）
図版 79　土壙（SK162）（南→北）
図版 80　土壙（SK163）（東→西）
図版 81　土壙（SK165）（北→南）
図版 82　土壙（SK245）（東→西）
図版 83　3区全景（1）（東→西）
図版 84　3区全景（2）（東→西）
図版 85　3区全景（3）（東→西）
図版 86　掘立柱建物跡（SB64）（東→西）
図版 87　掘立柱建物跡（SB65）（東→西）
図版 88　掘立柱建物跡（SB69）（西→東）
図版 89　掘立柱建物跡（SB72）（南→北）
図版 90　柵列跡（SA70・71）（西→東）
図版 91　溝跡（SD50）（西→東）
図版 92　井戸跡（SE73）（西→東）
図版 93　土壙（SK30・31）（西→東？）
図版 94　土壙（SK75・76・77・78・79）（北→南）
図版 95　土壙（SK82・83）（北→南）
図版 96　土壙（SK84）（南→北）
図版 97　土壙（SK135）（北→南）
図版 98　土壙（SK136）（西→東）
図版 99　土壙（SK137）（東→西）
図版 100　土壙（SK138）（北→南）
図版 101　1区 SB12・SE1・2 出土遺物
図版 102　1区 SD4・5・7 出土遺物
図版 103　1区 SD33 出土遺物
図版 104　1区 SD121 出土遺物
図版 105　1区 SD85 出土遺物
図版 106　1区 SD18 出土遺物
図版 107　1区 SK8 出土遺物
図版 108　1区 SK9 出土遺物
図版 109　1区 SK10 出土遺物
図版 110　1区 SK116 出土遺物
図版 111　1区 SK117 出土遺物
図版 112　1区 SK53・55・58・59・122・124 出土遺物
図版 113　1区 SK100 出土遺物
図版 114　1～3区出土古銭
図版 115　1区出土遺物
図版 116　2区 SD99・272 出土遺物
図版 117　2区 SD186 出土遺物
図版 118　2区 SK131・150・その他出土遺物
図版 119　3区 SB64・SA70・SK30・31 出土遺物
図版 120　3区出土遺物

第Ⅰ章　調査の経緯と経過

第1節　調査の経緯

熊本県教育庁文化課は、熊本県立菊池高等学校校舎等改築工事に伴い平成15年11月12日付け教施第2016号で熊本県教育庁施設課から埋蔵文化財の予備調査依頼を受け、平成16年1月6日～7日と平成16年2月24日～26日の2度にわたって埋蔵文化財の確認調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の存在を確認し、それぞれ平成16年1月15日付け教文第2842号、平成16年3月12日付け教文第3421号で施設課に結果と本調査の必要性を通知した。しかし、建設予定地の変更等により平成16年10月26日付け教施第438号で改めて施設課から新たな建設予定地の予備調査依頼を受け、平成17年1月12日～17日と平成17年1月25日の2度にわたって埋蔵文化財の確認調査を実施したところ、埋蔵文化財の存在を確認し、それぞれ平成17年2月4日付け教文第3054号、平成17年3月7日付け教文第3302号で施設課に結果と本調査の必要性を通知した。

その後、建設予定地について、施設課より文化財保護法第94条第1項の規定に基づく発掘調査の通知（平成17年6月8日付け教施第267号、平成17年8月18日付け教文第1293号）を受けた。その後、発掘調査の期日等の協議を進め、施設課より発掘調査の依頼文と承諾書（平成17年9月29日付け教施第507号）を受け、文化財保護法第99条第1項の規定に基づき、発掘調査実施の通知（平成17年10月7日付け教文第1800号）を行った。そして、平成17年11月21日より、平成17年度の隈府土井ノ外遺跡の発掘調査を開始し、平成18年3月31日に終了した。平成18年度は、改めて施設課より発掘調査の依頼文と承諾書（平成18年4月12日付け教施第42号）を受け、文化財保護法第99条第1項の規定に基づき、発掘調査実施の通知（平成18年4月13日付け教文第87号）を行い、平成18年4月14日より発掘調査を開始し、平成18年11月30日に終了した。遺物整理・報告書作成については、すべての調査が完了した平成19年度～平成20年度に行った。

なお、遺跡名については、熊本県遺跡地図には「菊池氏館跡」と登録されているが、本書では混乱を避けるため、字名より「隈府土井ノ外遺跡」を使用する。

第2節　調査の組織

●確認調査

【平成15年度】

調査責任者　成瀬烈大（文化課長）

調査総括　　島津義昭（教育審議員兼課長補佐）　西住欣一郎（文化財調査第2係長）

調査事務局　吉田　恵（課長補佐）　欄杭正義（主幹兼総務係長）　天野寿久（主任主事）　杉村輝彦（主事）

調査担当　　野田英治（文化財保護主事）

【平成16年度】

調査責任者　島津義昭（文化課長）

調査総括　　倉岡　博（課長補佐）　西住欣一郎（文化財調査第2係長）

調査事務局　吉田　恵（課長補佐）　欄杭正義（主幹兼総務係長）　天野寿久（主任主事）　小谷仁志（主任主事）

調査担当　　廣田静学（参事）　木村龍生（学芸員）　中尾健照・内田成香（以上非常勤職員）

●本調査

【平成17年度】

調査責任者　梶野英二（文化課長）

調査総括　　倉岡　博（課長補佐）　西住欣一郎（文化財調査第2係長）

調査事務局　吉田　恵（課長補佐）　四元正明（主幹兼総務係長）　塚原健一（参事）　小谷仁志（主任主事）

調査担当　　廣田静学（参事）　松村洋史（文化財保護主事）　内田成香・戸田英佑（以上非常勤職員）

【平成18年度】

調査責任者　梶野英二（文化課長）

調査総括　　江本　直（課長補佐）　西住欣一郎（文化財調査第2係長）

調査事務局　吉田　恵（課長補佐）　髙宮優美（主幹兼総務係長）　塚原健一（参事）　小谷仁志（主任主事）

調査担当　　廣田静学（参事）　松村洋史（文化財保護主事）　内田成香・牛島晋治・上土井朋美（以上非常勤職員）

●整理・報告書作成

【平成19年度】

整理責任者　梶野英二（文化課長）

整理総括　　江本　直（課長補佐）　西住欣一郎（主幹兼文化財調査第2係長）

整理事務局　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）髙宮優美（主幹兼総務係長）塚原健一（参事）髙松克行（主任主事）

整理担当　　松村洋史（文化財保護主事）　岩下　萌・松尾麻由（以上非常勤職員）

【平成20年度】

整理責任者　米岡正治（文化課長）

整理総括　　江本　直（課長補佐）　西住欣一郎（主幹兼文化財調査第2係長）

整理事務局　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）川上勝美（主幹兼総務係長）山田京子（参事）髙松克行（主任主事）

整理担当　　西住欣一郎　廣田静学（参事）　木村元浩（参事）　岩下　萌・加藤早織・佐藤淳子・松尾麻由（以上非常勤職員）

第3節　遺構保存等の協議

平成17年度から平成18年度にかけて行った遺構保存協議の主なものは次のとおりである。

(1) 平成17年度

10月20日：確認調査の結果、本発掘調査で中世の館跡が検出される可能性が高いと判断したので、重要な遺構が見つかった場合の共通理解を図る目的で、発掘調査開始前に県教育庁施設課と協議した。

11月14日：旧第2体育館、旧武道場の建物解体工事に立ち会った結果、建物基礎以外の部分での遺構の残存状況が良いので、解体工事では基礎を残したままにする協議を県教育庁施設課、県土木部営繕室と行った。

(2) 平成18年度

4月6日：施設課・営繕室・文化課の三者で、新たに建設するプール、アリーナの設計を変更して遺跡を保存できないかの協議を行った。

4月17日：文化課から施設課に平成17年度の発掘調査の成果を報告し、プール、アリーナを建設する際に遺構を極力保存し、最小限度の記録保存の発掘調査に止めることを要望した。

5月8日：施設課・営繕室・文化課の三者で、遺構保存のための設計変更協議を行った。協議の結果は次の通りである。

プールは30cmかさ上げし、遺構の全面保存を図る。アリーナはできるだけ遺構に影響を及ぼさないような工事を行う。駐車場は遺構に影響がない工事を行い、全面保存を図る。井戸跡は移設復元をする。

第4節　調査の方法と経過

今回、調査を行った箇所は、熊本県立菊池高等学校敷地内に位置し、菊池市中心部の御所通りに面していて、3つの調査区に分かれており、その総面積は約4,400㎡である。

調査は、まず1区（平成17年11月～）、3区（平成18年2月～）、2区（平成18年6月～）の順に重機による表土掘削を行った。その後、全ての調査区の基準点及びメッシュ杭設置を㈱有明測量開発社に委託し、世界測地系の国土座標軸を使用する区画設定をした。区画は10m × 10mで設定した。

表土掘削後、それぞれの調査区で清掃し遺構検出を行ったが、攪乱が多く難航した。遺構は、土層断面図作成のため半裁し、図面をとったあと完掘して平面図の作成を行った。遺構実測図については、その一部を株式会社九州文化財研究所に業務委託を行ったが、各調査員が補足部分等は随時書き足しを行い、より精度の高いものとなるように努めた。またそれぞれの遺構や全景の写真撮影には、35mm及び中版の2種類の機材を用い、35mmは断面から平面すべての撮影に使用し、中版はそれぞれの遺構の完掘状況・全景撮影のみに使用した。なおそれぞれリバーサル・白黒で撮影を行った。さらに、調査区全体の地形情報や遺構配置等を知るため、地形測量も株式会社九州文化財研究所に委託した。

空中写真撮影は、平成17年度に2回（いずれも大型ラジコンヘリコプター）と平成18年度に1回（実機ヘリコプター）の計3回、いずれも九州航空株式会社に業務委託を行い、広大な調査区全体を明らかにすることができた。

発掘調査は、平成17年11月より開始し、平成18年11月に終了した。当初、15ヶ月の調査期間で予定してあったが、急遽工事等の関係で12ヶ月という慌しいものとなった。その間の経過は、次の通りである。

【平成17年11月】

21日　発掘調査開始。重機によるトレンチを入れて遺構面を確認しながら層位の確認を行う。

24日　入れたトレンチを元に1区全体の表土掘削を重機で行う（～12月13日）。

28日　山鹿市教育委員会の中村氏、前田氏来跡。助言をいただく。菊池市教育委員会の高見氏も来跡。菊池市との協力を確認。

【平成17年12月】

1日　鹿本商工高等学校教諭水野氏（元文化課職員）来跡。助言をいただく。

9日　1区中央付近で巨石を円形に組んだ井戸検出。

12日　基準点及びメッシュ杭設置作業開始（～13日）。

22日　大雪のため調査区は全て雪に隠れる。

28日　平成17年最後の作業。年明けの空撮に向けて近世の石列の検出をする。

【平成18年1月】

10日　新年最初の作業。明日の空撮に向けて石列をきれいに洗う。

11日　午後より1回目の空撮を行う。被写体は近世の石列。撮影後、中世の遺構検出面に向けて掘る。係長来跡。

18日　課長、課長補佐来跡。

24日　午後より教育庁文化課、教育庁施設課、土木部営繕室、菊池高校の四者協議を現地で行う。

25日　温故創生館の村崎氏、矢野氏来跡。助言をいただく。

27日　大溝の存在を確認する（後に堀に変更）。

【平成18年2月】

3日　菊池地域振興局と協議。

8日　3区の電柱撤去。それにより3区が掘削できる状態になる。地下式防空壕を検出。

13日　3区の重機による表土掘削を開始（～23日）。

14日　福岡大学の小田富士雄先生来跡。温故創生館の矢野氏と視察される。山鹿市教委の中村氏来跡。

15日　装飾古墳館の池田氏来跡。

23日　植木町教育委員会の中原氏、増田氏来跡。

27日　菊池市教委阿南氏来跡。関連調査のため福井県の一乗谷朝倉氏遺跡に出張（～3月1日）。

28日　菊池市教委阿南氏来跡。

【平成18年3月】

3日　菊池市教委高見氏来跡。

8日　2回目の空撮を行う。被写体は1区及び3区の全景。

9日　菊池市教委阿南氏来跡。

10日　非常勤職員の牛島、末永が調査手伝いのため合流（～31日）。

14日　菊池市文化財保護審議委員会委員15名来跡。菊池市教委高見氏、阿南氏同行。

24日　菊池市教委阿南氏来跡。

29日　課長、課長補佐、係長来跡、現地協議。

31日　平成17年度最後の作業。予算の関係で午前中のみ作業を行う。

【平成18年4月】

14日　平成18年度最初の作業を行う。1区の清掃から行う。

20日　3区の清掃を始める。

28日　菊池市教委坂本氏来跡。

【平成18年5月】

9日　県教育長来跡。

10日　非常勤職員の中尾、調査手伝いのため合流（～6月2日）。

18日　県教育次長来跡。

25日　3区全体の遺構検出状況撮影を始める（～26日）。

【平成18年6月】

5日　2区の重機による表土掘削をはじめる（～9日）。

8日　2区の清掃をし、遺構検出を始める。

13日　2区の遺構検出状況撮影を行う。3区の掘立柱建物跡の掘削に入る。

14日　2区の遺構配置図の作成を行う。

27日　前日までの大雨で2区の壁が崩れ復旧作業を行う。前日はプールのようになっていた。

【平成18年7月】

6日　熊本大学名誉教授の北野先生と熊本大学教授の甲元先生来跡。貴重なご意見をいただく。

7日　熊本大学名誉教授の工藤先生来跡。貴重なご意見をいただく。

18日　この日から4日連続で雨のため作業中止。

【平成18年8月】

5日　熊本市立熊本博物館の考古学講座の現地講座を本遺跡で行う。約40名来跡。

7日　山鹿市教委中村氏来跡。

8日　大分県教育庁坂本課長来跡。

17日　台風対策をする。3区は土層注記を行い、調査はほぼ終了。

18日　台風襲来。大きな被害はなし。

23日　励徳小学校教諭野田氏（元文化課職員）来跡。本遺跡の試掘調査を担当されたときの情報などを伺う。

28日　隈府小学校4・5・6年生約40人、本遺跡を見学。

29日　課長補佐来跡。

【平成18年9月】

12日　1区の堀跡の掘削を始める。

20日　菊池市文化財保護協会見学のため来跡。

21日　菊池市教委高見氏来跡。

25日　2区の堀跡の掘削を始める。

26日　菊池市教委堤氏来跡。

29日　菊池市教委阿南氏来跡。

【平成18年10月】

10日　掘削スピードにあわせるため、現場をストップし、実測のみを職員で行う。

18日　課長補佐、係長来跡。今後の予定を確認する。

27日　1区の作業終了。

30日　菊池高校の生徒の見学。11月7日までに10クラスほど見学する。

【平成18年11月】

3日　現地説明会。午前と午後それぞれ行う。あわせて約80人集まる。

4日　熊本日日新聞に現地説明会の記事が載る。

5日　熊本市教育委員会冨田氏来跡。助言をいただく。

7日　3回目の空撮を実機ヘリコプターで行う。

14日　1区の堀跡の土層剥ぎ取りを行う（～17日まで）。

16日　県文化財保護審議員今村氏来跡。菊池高校学校長以下4名来跡。遺跡の説明を行う。

20日　調査区全ての埋め戻し開始。1区及び3区には保存のため山砂を入れる（～30日まで）。

27日　菊池北小学校、学校長及び6年生全員見学のため来跡。現場及び遺物の説明を行う。

30日　機材及び資材等の県文化財資料室への搬出。

【平成18年12月】

1日　コンテナハウス事務所の撤去。

第Ⅱ章　位置と環境

第1節　地理的環境

菊池市は、熊本県の北部を流れる一級河川菊池川の中流域に位置している。菊池川は、東の阿蘇外輪山に源を発し、数多くの支流を合流させながら平野部をつくり、西の有明海に注ぐ。東高西低のこの地形は、そのほとんどが、地殻変動や阿蘇の火山活動によって形成された溶結凝灰岩をはじめとする堆積物と、それを侵食した菊池川などの川の堆積作用によって生まれたものである。当該遺跡は、菊池市の中心部、菊池川の支流迫間川によって形成された「隈府扇状地」にある。この地点の標高は約75ｍで南西に向かって低くなっている。豊後や阿蘇と接する北東部は、険しい山々がそびえ、外敵を防ぐ天然の要害となっており、菊池の生活文化が川を通して発展してきたことが、菊池川流域に集中する数多くの遺跡からうかがえる。

第2節　歴史的環境

菊池地域に分布する遺跡について時代ごとに述べる。

旧石器時代

この地域における旧石器時代の遺跡で正式に調査が行われたものはない。しかし、細永地区ではナイフ形石器、尖頭器、剥片石器などが採集され、長野地区では尖頭器が採集されている。その他では、伊野遺跡のナイフ形石器や尖頭器、原遺跡の細石器、松島遺跡の細石器などがこれまでに確認されているが、いずれも調査がなされたわけではなく、ほとんどが表採によるものである。これらの出土地はいずれも開墾等の撹乱を受けており、調査を困難なものにしている。

縄文時代

この地域の縄文時代の遺跡には、押型文土器が出土している西ノ平遺跡がある。竹ノ上原遺跡は、後期の住居跡が確認されている。岡田遺跡では、中期の遺物が出土しているとともに、弥生時代の複合遺跡である。西村上遺跡は、縄文時代晩期から平安時代の複合遺跡である。一本松遺跡は、後晩期の土器とともに勾玉が採取されている。その他、岡田野寺遺跡、山崎遺跡、亀尾原遺跡、流川遺跡、三万田東原遺跡、天城遺跡、医者どん坂遺跡等がある。三万田東原遺跡、天城遺跡については、それぞれ、三万田式土器、天城式土器の標識遺跡である。

弥生時代

弥生時代の遺跡では、うてな遺跡と小野崎遺跡が、大規模な環濠集落として注目される。うてな遺跡は、弥生時代の他、古墳時代及び奈良・平安時代の遺構が確認されている。岡田遺跡では、多数の甕棺墓群が検出され、その隣接には、支石墓の上石と思われるものが確認されている。水次遺跡では、甕棺墓35基と土壙墓28基が検出されている。周辺には、津袋大塚遺跡・津袋甕棺墓群、袈裟尾遺跡、立石遺跡、神来支石墓等が主な遺跡として注目される。

古墳時代

うてな台地の東部には、袈裟尾丸山古墳、袈裟尾茶臼塚古墳、袈裟尾高塚古墳の3基が存在する。袈裟尾丸山古墳は直径約20ｍの円墳である。これは6世紀後半代の築造と考えられており、小型の竪穴式石室と考えられるが、内部主体部は破壊されている。袈裟尾茶臼塚古墳の内部主体は、横穴式石室であり、袈裟尾高塚古墳は、複室構造の横穴式石室である。

この古墳群の北西方向の谷には、大井桶谷横穴群、大井桶横穴群がある。また、うてな台地の南端部には、山崎古墳、十蓮寺古墳、水次遺跡、ハヤマ塚古墳が存在する。うてな台地の西端部には、瀬戸口横穴墓群、うてな古墳、北上原古墳、豊水横穴墓群が近接して存在する。さらに、うてな台地の北側の谷部には、ヒジョウ谷横穴墓群がある。桶之口Ｂ横穴墓群、山田・桶之口Ａ横穴墓群、井桶谷・大井桶横穴墓群については、未調査で詳細は不明である。

菊池平野を挟んだうてな台地の対岸の花房台地上には、石人や石製品が出土している木柑子のフタツカサン古墳と木柑子高塚古墳がある。

古代

古代の遺跡では、西ノ平遺跡、流川遺跡、十蓮寺跡がある。

西ノ平遺跡では、竪穴住居跡が検出されている。流川遺跡では、竪穴住居が検出された上、墨書土器、越州窯青磁、銅椀等が出土している。十蓮寺跡は、菊池市西寺の西寺遺跡の西北、約 1.5㎞の地点であり、塔の心礎や、多数の布目瓦、墨書土器等が確認され、菊池の郡寺ではないかとされている。

周辺については、うてな台地の北側の山鹿市から菊池市にかけて所在する鞠智城跡が注目される。鞠智城跡の重要性については、あえてここで述べるまでもないため省略するが、菊池市深川、西寺に存在する遺跡の位置付けを考えるためには、その関連性も含めて避けて通ることができない。なお、菊池郡衙推定地の西寺遺跡の周辺地域には、条里制が施行されていたとされ、大淋寺西部にも断続的に確認できるとされている。

中世

菊池には、中世の遺構として「菊池十八外城」がある。

現在の隈府城山で菊池神社鎮座の地が菊池氏の本城で、ここから南及び西方一帯にかけて戸崎城、古池城、菊池古城、亀尾城、増永城、台城、神尾城が丘陵地や平地を利用して配置されている。また、本城の東、北方面には菊池川、迫間川、両河川の渓谷付近に、城林城、茂藤里城、黄金塚城、市成城、掛幕城、鷹取城、五社尾城、葛原城、虎口城、穴の城がある。

このように、隈府の菊池本城を中心にして多くの支城が網の目を張ったように配置された姿は、中世の都市の様相を表している。

第１図　隈府土井ノ外遺跡周辺遺跡分布図

0　2km

熊本県（43）菊池市（210）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　考
001	虎口城跡（八方嶽城跡）	龍門	中世	城		菊鹿町ではシンノス城
002	葛原城跡	市野瀬　城山	中世	城	市	
008	内城		中世	城		
041	大塚	長田（通称大塚）	弥生～古代	包蔵地		弥生後期土器、土師器
047	堀切の長者の的石	木野（通称堀切）	古代	石造物		
048	迫間眼鏡橋	迫間	近世	建造物	市	
053	孔子堂跡	玉祥寺	近世	寺社	市	
054	守山城跡及内裏尾跡	隈府　城山	中世	城	市	
056	正観寺の礎石群	隈府（通称正観寺）	中世	寺社	県	礎石列、布目瓦
057	菊池武光外歴代墳墓	隈府（通称正観寺）	中世	墳墓		正観寺境内墓地　外、市内一帯
059	玉祥寺の梵鐘	玉祥寺	中世	石造物	県	梵鐘が県指定、宝篋印塔あり
063	内田川流域条里跡	高橋　古閑・宮の前ほか	古代・中世	生産		高橋全域に及ぶ
064	九蟻山大琳寺跡	大琳寺	中世	寺社	市	
065	袈裟尾山北福寺跡	袈裟尾	中世	寺社	市	五輪塔を含む
066	熊耳山正観寺跡	隈府　正観寺	中世	寺社	市	
068	隈府土井ノ外	隈府	中世	包蔵地		
069	竹ノ上原	袈裟尾　竹ノ上原	古代	集落		
071	無量山西福寺跡	西寺	中世	包蔵地	市	布目瓦・土師器・須恵器・瓦器出土
072	赤星有隆の墓	西寺　水町	中世	墓		西福寺境内墓地
083	菊の城跡	北宮　城ノ堀	弥生～中世	城	市	別名菊之城跡、菊池十八外城の１つ、弥生、土師も包含
085	西寺郡家及び土畳跡	西寺（通称高田）	古代・中世	包蔵地	市	布目瓦出土、菊池郡家か？
086	西寺	西寺（通称高田）	古代・中世	包蔵地		
088	南園	西寺　南園	古代・中世	包蔵地		布目瓦・土師器
090	深川城	北の宮町　城の堀	中世	城		
091	菊の池跡	深川	中世	包蔵地	市	
092	赤星福土・水溜	赤星　福土・水溜	縄文～古代	集落		
097	古池城跡	出田	中世	城	市	十八外城の１つ
100	万太郎Ａ	赤星　万太郎	縄文・古代・中世	包蔵地		
102	城山	赤星　万太郎	縄文・弥生・古代	包蔵地		
103	手洗山南福寺跡	出田	中世	寺社	市	
105	正観寺地蔵堂	隈府（通称正観寺）	中世	寺社	県	
108	東福寺	亘　堂山	古代	寺社	市	本堂裏、青磁・白磁壺の蔵骨器
	東福寺古塔群	亘　堂山	中世	石造物		菊池氏関係五輪塔、その他の群
109	菊池氏墓所	亘　屋敷	中世	墓地	市	
110	城林城跡	木庭　古城	中世	城	市	菊池氏十八外城の１つ、山城
113	キリシタン墓地	木庭　中尾	近世	墓地	市	十字ある無銘墓碑数基（ｷﾘｼﾀﾝ墓地）
117	亘の経筒出土地	亘　道ノ上	古代	包蔵地		青銅経筒の一部、緑釉
118	中尾の宝篋印塔	木庭　中尾	中世	石造物		弘治四年銘、２基
120	戸崎城跡	今　南山ノ上	中世	城	市	菊池氏十八外城の１つ、山城
147	樋面之口	米原	縄文～中世	包蔵地		
150	神来	大琳寺	古代	包蔵地		
151	鞠智城木野神社礎石	米原　長者原	中世	城		移転したもの、祭祀
152	鞠智城堀切門礎石	米原　長者原	中世	城		
153	鞠智城深迫門礎石	米原　長者原	中世	城		
158	西原Ｂ	木柑子	古代	包蔵地		
159	東山ノ上	木柑子	古代	包蔵地		
161	条里跡		古代・中世	生産		
162	条里跡		古代・中世	生産		
163	条里跡		古代・中世	生産		
167	広瀬下ノ平	広瀬下の平	古代	包蔵地		柱穴、土坑出土
168	広瀬無田Ａ	広瀬無田	中世	生産		青磁出土
170	藤田上原	藤田上原	奈良	包蔵地		
171	森北院ノ馬場・迫畑		縄文（早期・晩期）・古代	包蔵地		縄文土器（押型文土器、縄文晩期の土器）、古代の土師器・須恵器

熊本県（43）旧鹿本郡菊鹿町（現山鹿市）（382）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　考
028	隈部館跡	上永野　高地	中世	館跡	県	隈部氏一族の墓町指定あり、遺構全面遺存
029	倉井屋敷	阿佐古	中世	包蔵地		
030	鷹取城跡	太田　鷹取	中世	城		
032	造音寺隈部氏墓地	上永野　構口	中世	墓地	町	
033	広の原城	長	中世	城		
038	清潭寺古塔碑群	上永野　大丸	中世	石造物	町	十六羅漢町指定
039	上永野勢中寺跡	上永野	中世	寺社		
040	鷹取城	太田　鷹取	中世	城		
041	五郎丸の宝篋印塔	五郎丸	中世	石造物		
042	阿佐古城跡	阿佐古	中世	城		通称陣の口
043	清潭寺隈部氏墓地	上永野　大丸	中世	墓地		大乗経十一部経塔、板碑・宝篋印塔
044	阿佐古氏の屋敷跡	上永野	中世	包蔵地		
045	乙子明神跡・雄明神跡	阿佐古	中世	寺社		

表１　隈府土井ノ外遺跡周辺遺跡一覧表（1）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　　考
046	若宮城跡	下内田　若宮	中世	城		
050	玉専山妙覚寺跡	下内田（通称川西）	中世	寺社		
051	若宮原	下内田　若宮原	縄文～中世	包蔵地		縄文土器・磁器・黒曜石剥片
054	下内田の宝篋印塔	下内田　川西	中世	石造物	町	６段式・頂部を失う、正和三年銘
055	内田相良先祖の墓	下内田　川西	近世	墓地		江戸時代建設
057	島田	下内田　上島田･下島田		包蔵地		
058	山の井城跡	下内田　山の井	中世	城		井戸あり
060	辺田目六地蔵塔	下永野　辺田目	中世	石造物		享保８年建立
065	日渡経塚	大田　長谷原	中世	経塚		長谷原経塚、天文 18 年鬼塚武蔵守純方立碑、経石埋納
066	日渡城跡	下内田　上日渡	中世	城		下永野城、隈部武治・富田氏統
070	川西の六地蔵	下内田　川西	中世	石造物		
073	龍前寺跡	太田　猟	中世	寺社		
074	合勢古戦場	松尾　桐枕	中世	軍事		
075	原谷原経塚	長	中世	経塚		
076	石工仁平眼鏡橋	下内田	近世	建造物	町	
077	累世窟跡	下内田	中世	包蔵地		
079	日渡六地蔵	太田	中世	石造物		
080	来民駅家跡	下内田　下島田	古代	交通		
085	滑圓寺跡	下内田　山の井	中世	寺社		
086	下永野田中寺跡	下永野　田中	中世	寺社		
087	下永野城跡	下永野　三反田	中世	城		
088	造音寺古塔碑群	上永野	中世	石造物		
089	上永野	上永野　高池	縄文～古代	包蔵地		
090	道場寺跡	松尾　道場	中世	寺社		
093	大林照迎寺跡	松尾（通称大林）	中世	寺社		
094	彰教禅寺跡	松尾　竜徳	中世	寺社		
095	腰（輿）掛松	木野（通称迫）	縄文～古代	包蔵地		
096	木山城跡（木野城）	木野（通称迫）	中世	城		
100	鞠智城跡	米原　長者原	古代	城	県	古代山城
101	池の尾門礎石	米原　長者原	古代	城		鞠智城内
102	馬こかしの石垣	米原　長者原	古代	城		後世の築造、石垣あり
103	長者原礎石群	米原　長者原	古代	城		鞠智城内
104	長者山礎石群	米原　長者原	古代	城		鞠智城内
105	鞠智城少監殿礎石群	米原　長者原	古代	城		
106	紀屋敷礎石群	米原　長者原	古代	城		鞠智城内
107	鞠智城野座	米原　長者原	古代	祭祀		巨岩堆積、七五三縄信仰の対象とする
108	鞠智城水門跡	米原　長者原	古代	城		
109	鞠智城わくど石	米原　長者原	古代	祭祀		
110	鞠智城涼御所跡	米原　長者原	古代	城		小高い丘、涼御所と呼ばれる建物跡か
111	鞠智城権現さん	米原　長者原	古代	祭祀		祭祀遺跡、神祠
112	鞠智城佐官殿	米原　長者原	古代	城		
115	木山妙音寺跡	松尾　木山	中世	寺社		
117	同田貫刀工屋敷跡	米原（通称鐘掛松）	中世	包蔵地		
120	長者どん足型石	米原　長者原	中世	石造物		
121	大門口	松尾	古代	城		
122	長者井戸	米原	古代	城		

熊本県（43）旧鹿本郡鹿本町（現山鹿市）（383）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　　考
025	鹿本平野条里跡	庄　大草ほか	古代・中世	生産		庄地区水田全面に及ぶ
028	津袋城跡	津袋　広江	中世	城		
033	平源寺跡	津袋　本村	中世	寺社		
035	光明寺跡	庄　小路	中世	寺社		
036	泉福寺跡	庄　小路	中世	寺社	町	二天及び古碑古塔
043	高橋氏館跡	高橋（通称門内）	中世	包蔵地		
063	内田川流域条里跡	高橋　古閑ほか	古代～中世	生産		高橋全域に及ぶ

熊本県（43）旧菊池郡七城町（現菊池市）（401）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　　考
001	台城跡	台　城之上	中世	城	町	水島城の別名あり
005	菊池兼朝の墓	岡田　宅地	中世	墓	町	正観寺跡にあり、菊池家 18 代
007	十連寺跡	水次　久保ノ上	奈良・平安	寺社	町	奈良・平安期、塔心礎・布目有文多数
008	神尾城跡	水次　屋敷	中世	城	町	七城の１つ、水次氏の居城、水次城の別名あり
012	岡田の無縫塔	岡田　宅地	中世	石造物		
014	神撒山正観寺跡	岡田　宅地	中世	寺社		
019	岡田	岡田	縄文～中世	包蔵地		
024	西郷城跡	砂田　宮ノ前	中世	城	町	七城の１つ、西郷氏代々居住、別名増永城跡
025	船着場・俵落し場跡	甲佐	近世	港湾		藩営米の積出場、高瀬御蔵へ舟運
037	上鶴頭	小野崎　上鶴頭	平安	官衙		
042	亀尾城跡	亀尾　城平	中世	城	町	菊池十八外城の１つ、熊野神社中心
045	碧巌正観寺跡	亀尾　城平	中世	寺社		

表２　　隈府土井ノ外遺跡周辺遺跡一覧表（2）

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　調査区の基本土層

発掘調査は１区・２区・３区に分けて実施した。１区はアリーナ（旧第２体育館、旧武道場）、２区は地下貯留槽（旧体育館と管理棟の間の広場）、３区はプール（建て替え）を建設する場所である。

各調査区は第Ⅰ章第３節で述べたように、できるだけ遺構等を保存するための協議を関係者で行い、３区は全面、１区は部分的に保存することができた。２区は地下深く掘削する必要があるため、設計変更が不可能であったので、記録保存目的の発掘調査を実施した。

第２図は１区～３区で確認できた基本土層の略図である。現地表の標高は約 75m である。最上層は表土層であり、最大厚さは約 10cm である。

１層は盛土層で、江戸時代の遺物が包含されている。最大厚さは約 60cm である。

２層は a・b の二つに細分できる。

2a 層は 2b 層よりやや明るい黒褐色土層で、最大厚さは約 16cm である。

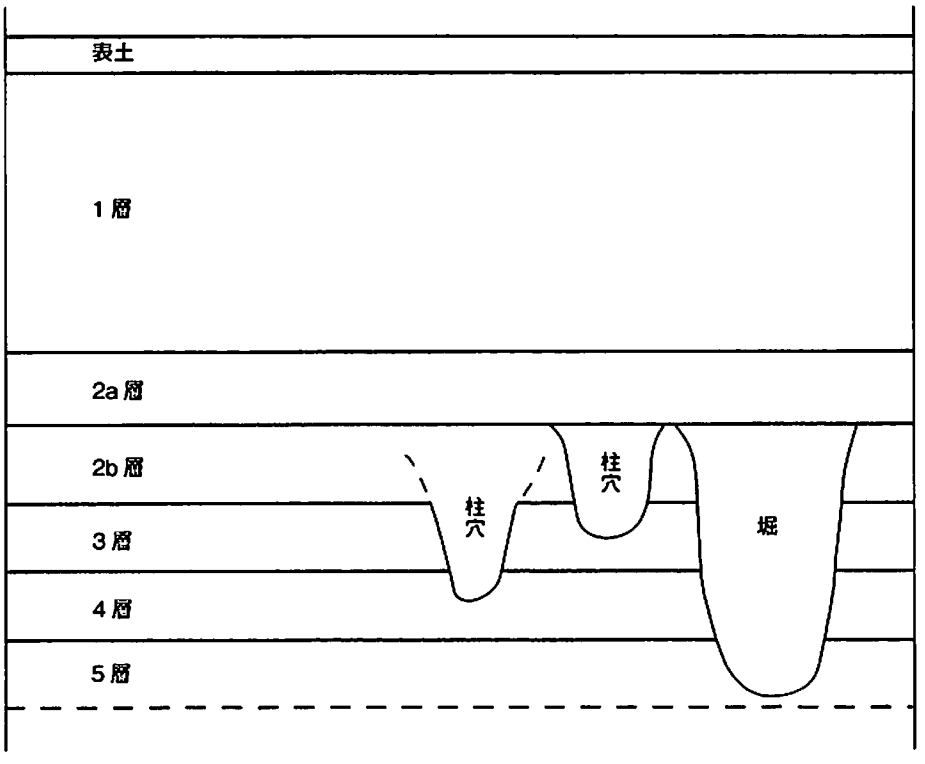
2b 層は黒色土層で、最大厚さは約 17cm である。2a 層・2b 層は中世の遺物包含層である。

３層は黄褐色土でアカホヤ火山灰が混じる層である。最大厚さは約 15cm である。

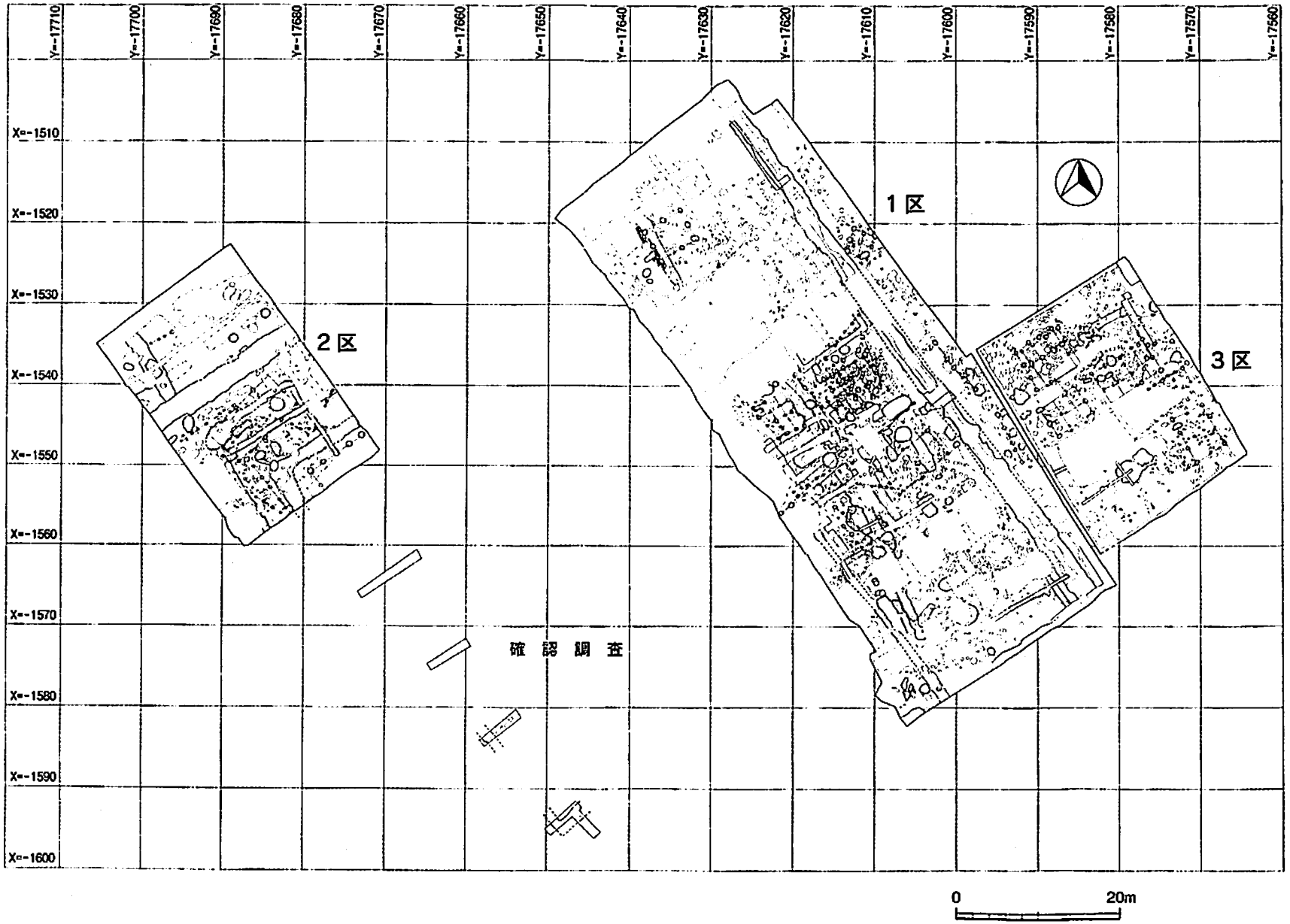
４層は褐色土で、固くしまっている。最大厚さは約 15cm である。

５層は砂礫層で、約 20cm の深さまで掘り下げている。この層の堆積には遺跡付近に流れている迫間川が起因していると考えられる。

各調査区で検出した掘立柱建物跡、土壙等の遺構は 2a 層、2b 層、３層から掘り込まれている。１区、２区で確認した大きな堀跡は５層の砂礫層まで掘り込んでいる。



第２図　　基本土層柱状図



第３図　隈府土井ノ外遺跡全体遺構配置図（S=1/700）

第2節　1区の調査

1. 調査開始前の状況

アリーナを建設する箇所に1区を設定した。1区には旧第2体育館、旧武道場があり、これらの解体で基礎まで撤去すると遺構が破壊されるので、営繕室・施設課と協議を行い、基礎部分は残して解体することにしてもらった。その結果、基礎撤去による新たな破壊を受けることなく、発掘調査を実施することができた。また、旧第2体育館、旧武道場を建てた時の基礎は余掘が殆どなく、埋蔵文化財に配慮した工事方法を採用したことも分かった。

2. 遺構分布（第3図～第4図）

第4図の1区遺構配置図中で、一点破線で表現した箇所は上記の旧第2体育館、旧武道場の基礎部分や撹乱されている部分である。それら以外のところから遺構を検出した。検出した遺構は、掘立柱建物跡7棟、柵列跡13基、堀・溝跡15条、井戸跡3基、土壙67基、不明遺構7基である。

遺構の分布状況を見ると、4・5号堀跡（SD4・5）が調査区の東隅にほぼ南北方向に伸びている。この堀跡にほぼ並行・直交する状態の掘立柱建物跡が堀跡の内部（西側）に集中しており、その周辺には井戸跡が分布している。

3. 遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は表3～7・表15～25のとおりである。以下は各遺構を概観する。

(1) 掘立柱建物跡

12号掘立柱建物跡【SB12】（第5図）

SB12は4・5号堀跡（SD4・5）近くの西側に位置する2間×4間の総柱建物で、桁行方向はN55° Eである。建物の主軸はSD4・5に直交している。北側桁部で、西側から東側に向かって2つめの柱穴の覆土中から瓦質土器の火舎底部片が出土した。

19号掘立柱建物跡【SB19】（第6図）

SB19はSB12の南側に位置する2間×2間の側柱建物で、桁行方向はN47° Eとなっており、建物の主軸がSB12とほぼ同じである。

26号掘立柱建物跡【SB26】（第6図）

SB26は調査区の北隅にある2間×2間の側柱建物で、桁行方向はN60° Eである。この建物の梁方向はSB12と比べると、やや東側に振れる。

86号掘立柱建物跡【SB86】（第8図）

SB86はSD4・5の東側に隣接している2間×2間の総柱建物で、桁行方向はN70° Wである。SD4・5と建物の主軸は異なっており、南西隅の柱穴がそれに切られている。

91号掘立柱建物跡【SB91】（第7図）

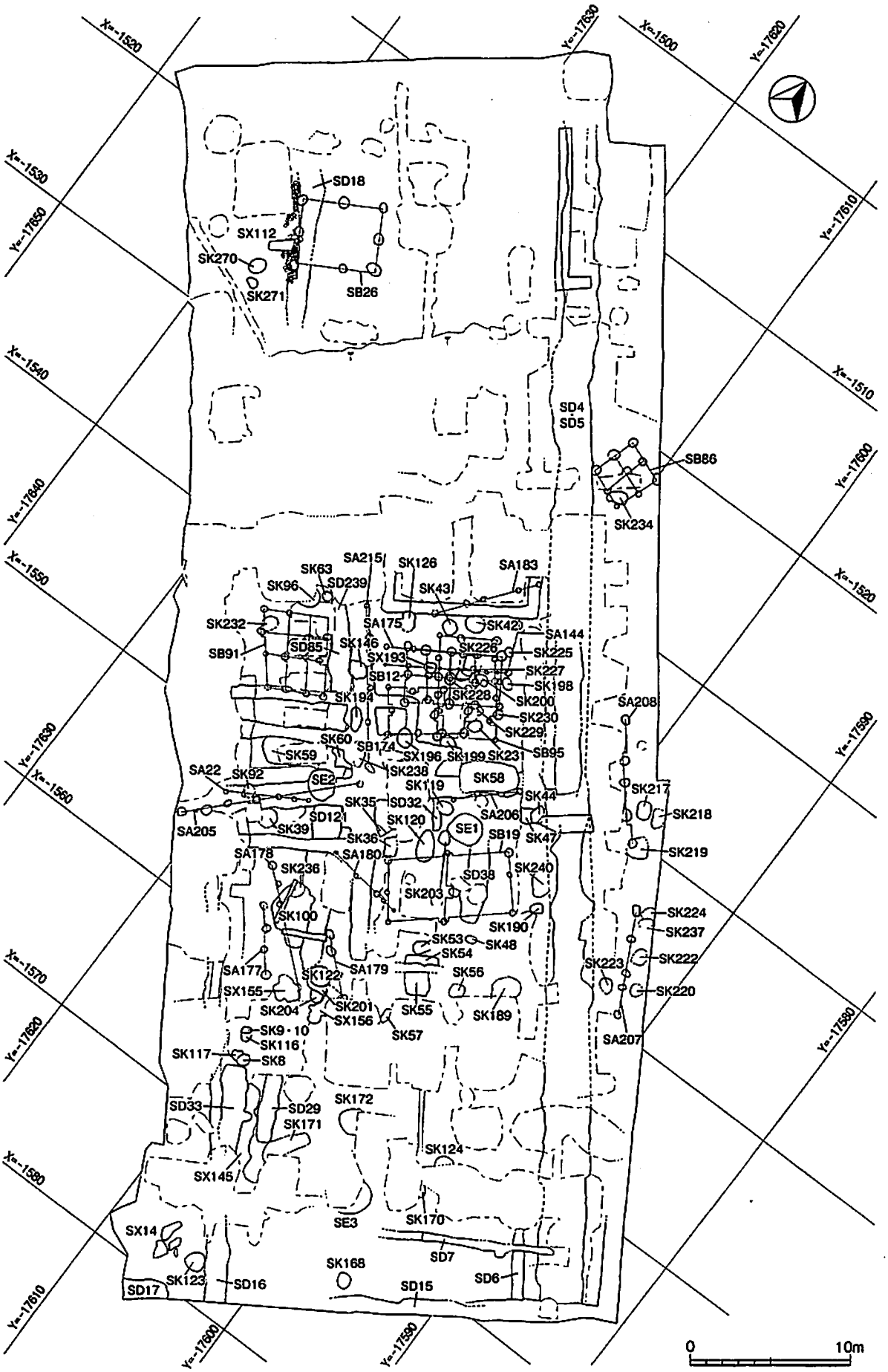
SB91は北東部の二つの柱穴が撹乱されているために確認できていないが、3間×3間の総柱建物と考えられる。建物としてはやや歪な平面形を呈しているが、柱穴の覆土が同一であることより、掘立柱建物跡とした。これはSB12の西側に隣接しており、桁行方向はN67° Eと建物の主軸はSB12とほぼ同一である。

95号掘立柱建物跡【SB95】（第8図）

SB95はSD4・5近くの西側に位置する2間×5間の側柱建物で桁行方向はN34° Wである。建物の主軸はSD4・5と並行している。

174号掘立柱建物跡【SB174】（第9図）

SB174はSD4・5の西側近くに位置する2間×2間で東側に庇がつく側柱建物で、桁行方向はN52° EとSB12とほぼ同じである。建物の主軸はSD4・5とほぼ直交している。



第4図　1区遺構配置図（S=1/350）

(2) 柵列跡

22 号柵列跡【SA22】(第 10 図)

SA22 の柱列の軸は N64° E で、確認できたのはほぼ東西に並ぶ 5 つの柱穴である。柱列の長さは 5.2m (約 17.2 尺) で、柱穴は直径 20 ～ 32cm、深さ 18 ～ 34cm で、下端レベルは一定でない。

144 号柵列跡【SA144】(第 10 図)

SA144 の柱列の軸は N56° E で、SB12 の主軸とほぼ並行している。同一方向に並ぶ柱穴 9 つと、その北側に位置する柱穴 1 つを確認した。柱列の長さは 7.8m (約 25.7 尺) と 3.0m (約 9.9 尺) で、柱穴は直径 6 ～ 48cm、深さ 14 ～ 58cm で、下端レベルは一定でない。

175 号柵列跡【SA175】(第 10 図)

SA175 の柱列の軸は N58° E で、SB12 とほぼ並行している。確認できた柱穴は 4 つである。柱列の長さは 5.8m (約 19.1 尺)、柱穴は直径 24 ～ 28cm、深さ 5 ～ 34cm で、下端レベルは一定でない。SB174 に伴う可能性が高いと思われる。

177 号柵列跡【SA177】(第 10 図)

SA177 の柱列の軸は N40° W で、4 つの柱穴からなっている。柱列の長さは 4.3m (約 14.2 尺)、柱穴は直径 40 ～ 50cm、深さ 16 ～ 32cm で、下端レベルは一定でない。この柵列跡は掘立柱建物群の南側に位置している。

178 号柵列跡【SA178】(第 10 図)

SA178 の柱列の軸は N54° W で、確認できた柱穴は 4 つである。柱列の長さは 7.7m (約 25.4 尺)、柱穴は直径 36 ～ 44cm、深さ 24 ～ 42cm で、下端レベルは一定でない。この柵列跡は掘立柱建物群の南側に位置している。

179 号柵列跡【SA179】(第 10 図)

SA179 の柱列の軸は N51° W で、4 つの柱穴からなっている。柱列の長さは 4.0m (約 13.2 尺)、柱穴は直径 20 ～ 60cm、深さ 12 ～ 48cm で、下端レベルは一定でない。この柵列跡は掘立柱建物群の南側に位置している。

180 号柵列跡【SA180】(第 10 図)

SA180 の柱列の軸は N84° W で、確認できた柱穴は 5 つである。柱列の長さは 5.1m (約 16.8 尺)、柱穴は直径 16 ～ 32cm、深さ 14 ～ 36cm で、下端レベルは一定でない。

183 号柵列跡【SA183】(第 11 図)

SA183 の柱列の軸は N38° E で、5 つの柱穴からなっている。この柵列跡は、SB12 などの 1 区で最も掘立柱建物跡が密集した箇所の北側に位置している。柱列の長さは 6.7m (約 22.1 尺)、柱穴は直径 26 ～ 42cm、深さ 6 ～ 36cm で、下端レベルは一定でない。

205 号柵列跡【SA205】(第 11 図)

SA205 の柱列の軸は N43° E で、確認できた柱穴は 6 つである。この柵列跡は、1 区で検出されたものの中でも比較的大型である。柱列の長さは 11.3m (約 37.3 尺)、柱穴は直径 34 ～ 66cm、深さ 18 ～ 50cm で、下端レベルは一定でない。

206 号柵列跡【SA206】(第 10 図)

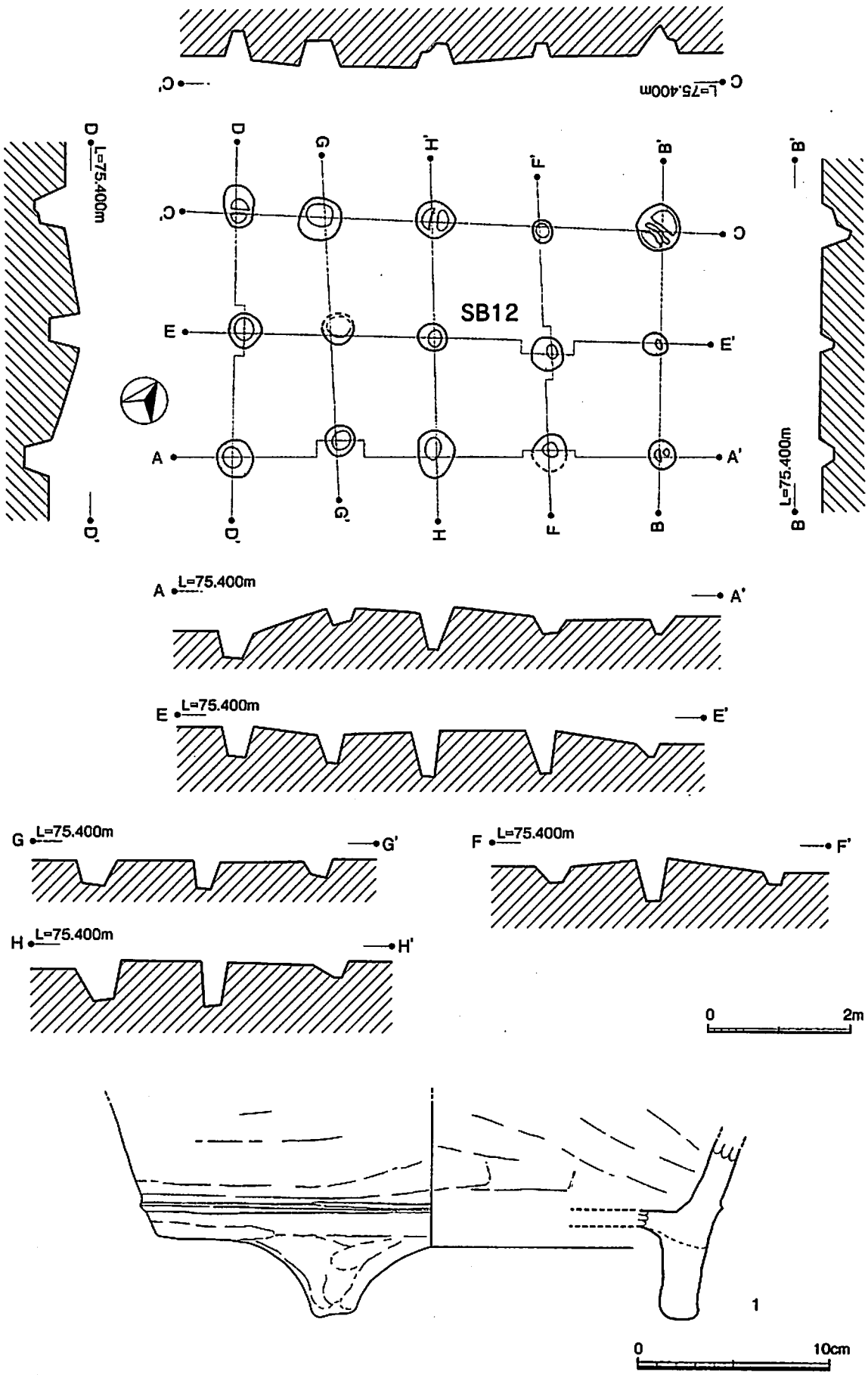
SA206 の柱列の軸は N47° E で、4 つの柱穴からなっている。SB12 と SB19 の間に位置し、ほぼ並行している。柱列の長さは 4.2m (約 13.9 尺)、柱穴は直径 24 ～ 44cm、深さ 22 ～ 42cm で、下端レベルは一定でない。

207 号柵列跡【SA207】(第 11 図)

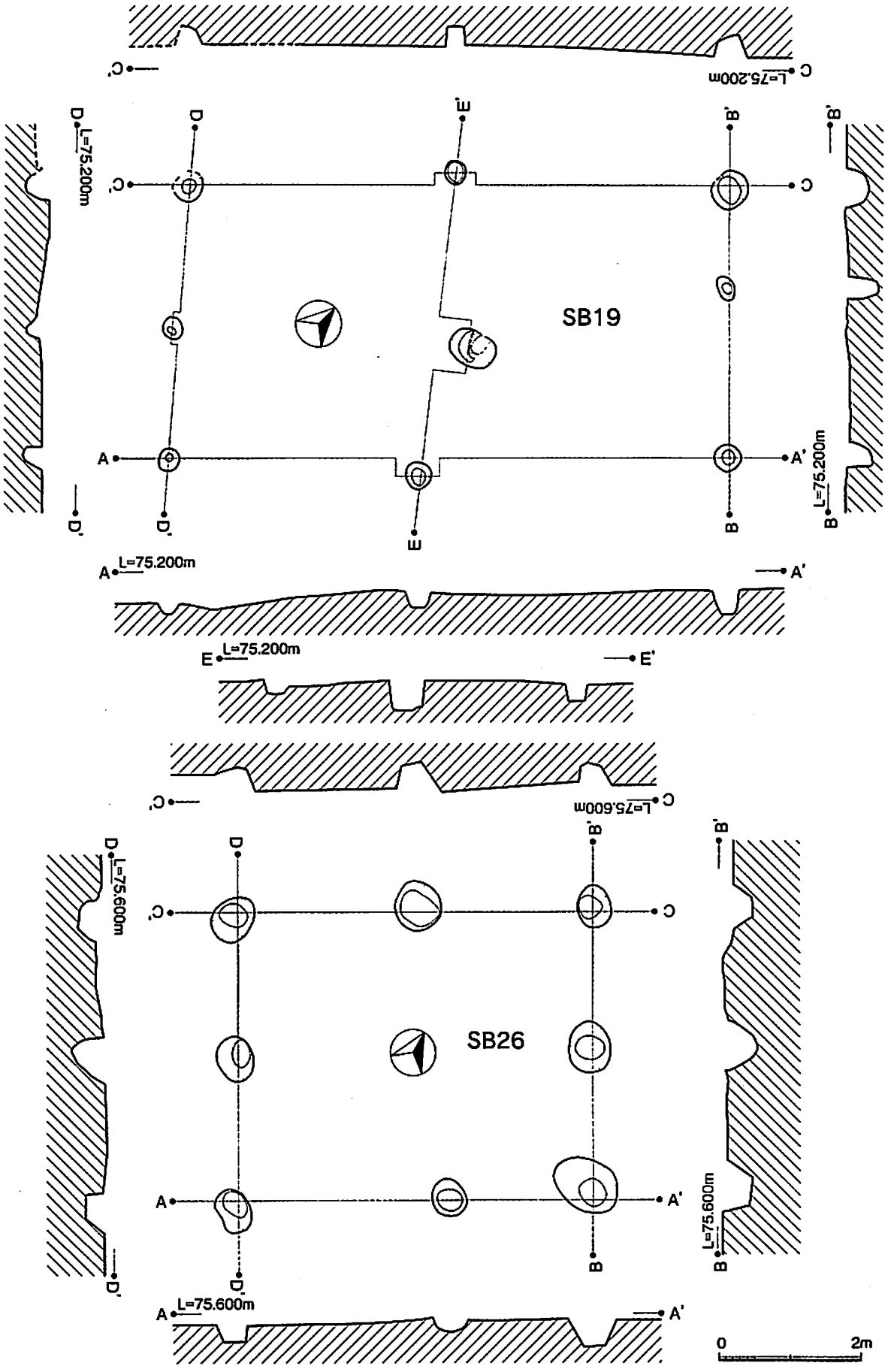
SA207 の柱列の軸は N30° W で、確認できた柱穴は 5 つである。柱列の長さは 6.5m (約 21.5 尺)、柱穴は直径 28 ～ 62cm、深さ 12 ～ 32cm で、下端レベルは一定でない。SD4・5 の東側に位置するこの柵列跡の配置状況から、3 区で検出した 283 号掘立柱建物跡 (SB283) に伴う可能性が高い。

208 号柵列跡【SA208】(第 11 図)

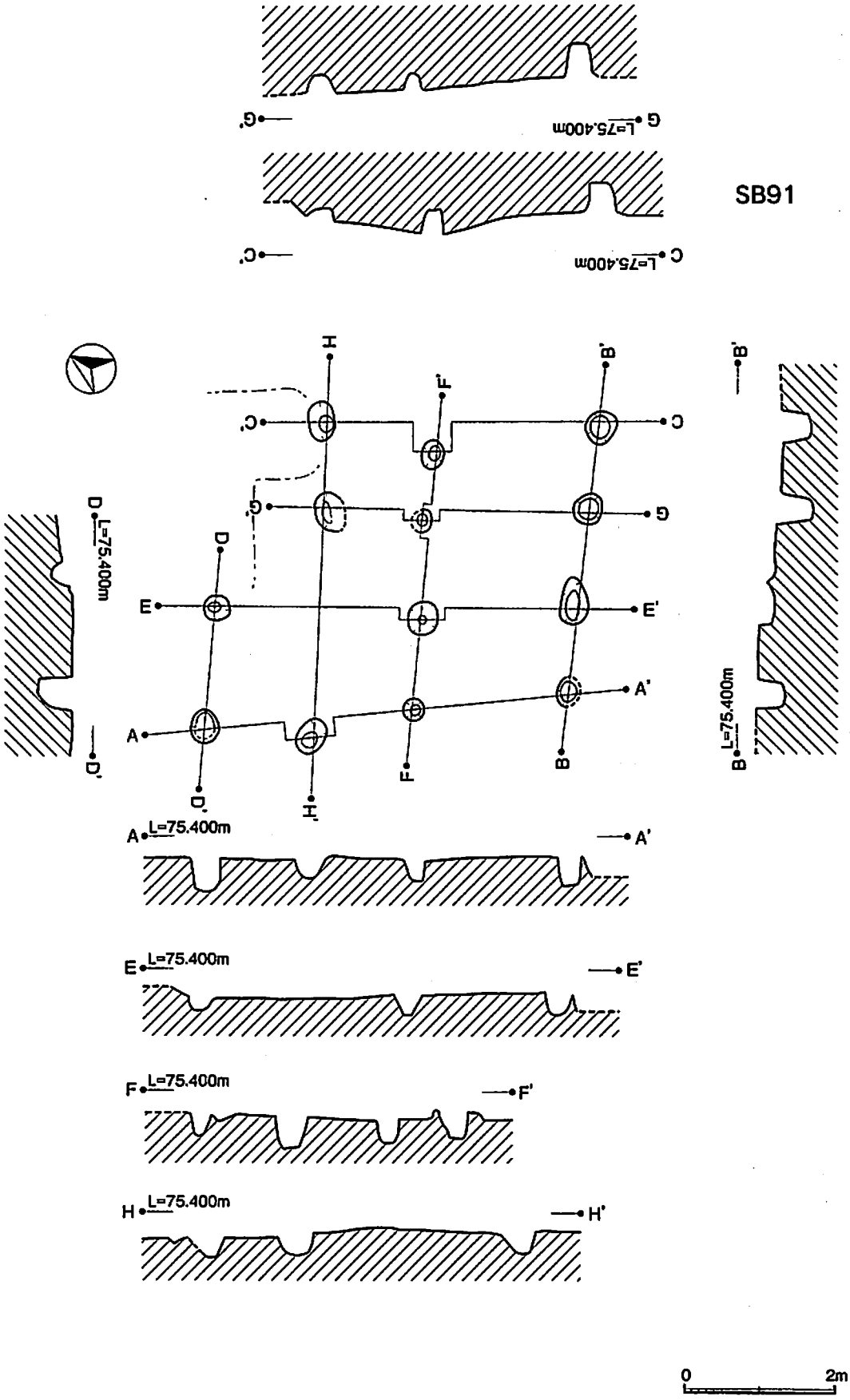
SA208 の柱列の軸は N43° W で、5 つの柱穴からなっている。柱列の長さは 7.7m (約 25.4 尺)、柱穴は直径 46 ～ 72cm、深さ 8 ～ 36cm で、下端レベルは一定でない。この柵列跡は未検出の掘立柱建物跡に伴うものと考えられる。



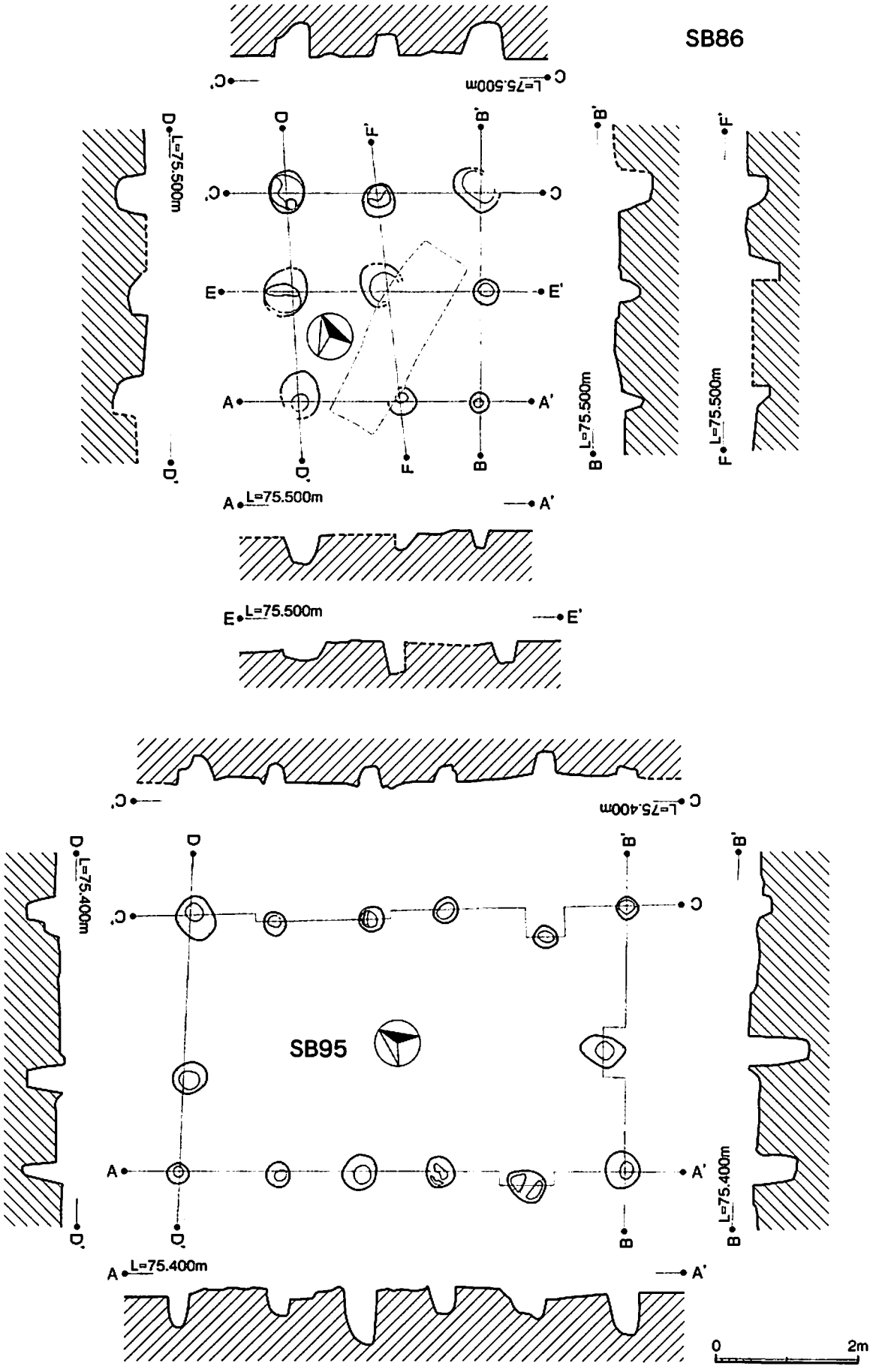
第5図　掘立柱建物跡（SB12）実測図及び出土遺物実測図



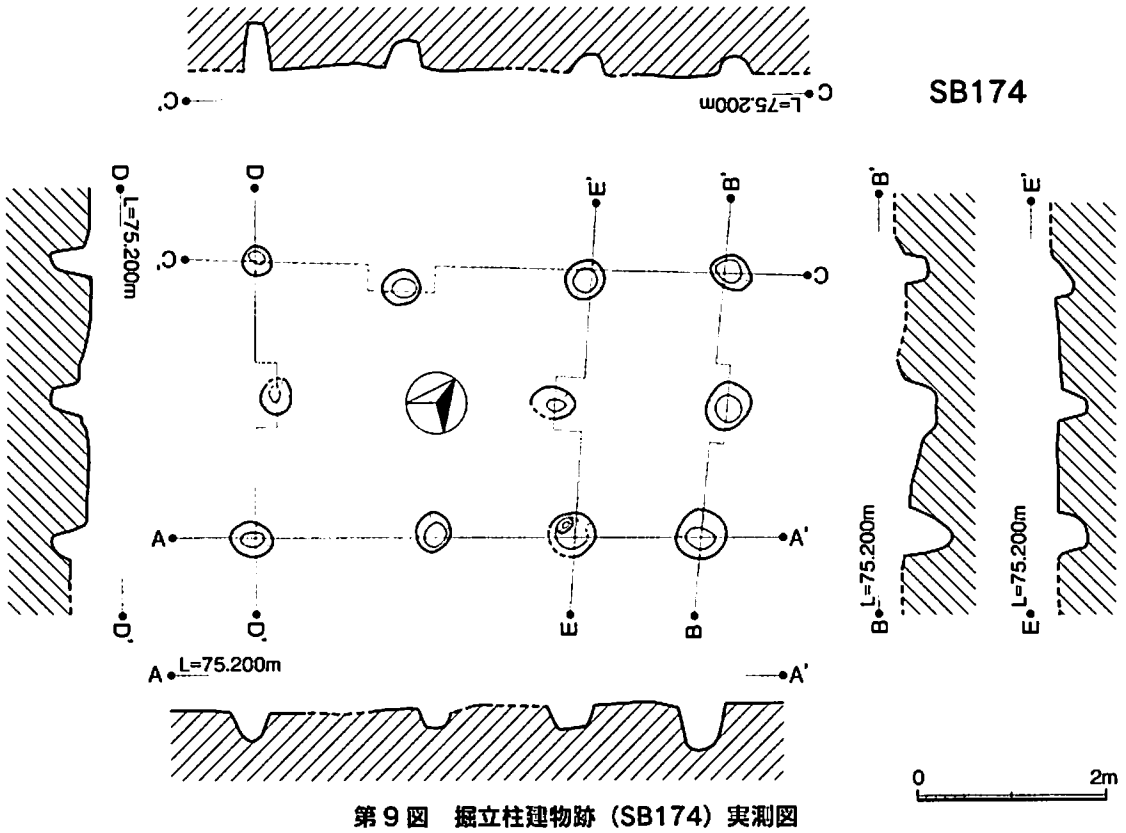
第６図　掘立柱建物跡（SB19・SB26）実測図



第7図　掘立柱建物跡（SB91）実測図



第８図　掘立柱建物跡（SB86・SB95）実測図



第9図　掘立柱建物跡（SB174）実測図

遺構番号	間数	桁長 m	桁長 尺	梁長 m	梁長 尺	建物の向き	型式	方位	庇	庇 m	桁行平均 m	桁行平均 尺	梁行平均 m	梁行平均 尺	柱穴直径 cm	柱穴深さ cm
SB12	2×4	5.9	19.5	3.2	10.6	東西	総柱	N 55°E			1.5	5.0	1.6	5.3	24～64	14～62
SB19	2×2	7.8	25.7	3.8	12.5	東西	側柱	N 47°E			3.9	12.9	1.9	6.3	28～48	4～42
SB26	2×2	5.0	16.5	4.0	13.2	東西	側柱	N 60°E			2.5	8.3	2.0	6.6	44～68	20～42
SB86	2×2	2.8	9.2	3.0	9.9	南北	総柱	N 70°W			1.4	4.6	1.5	5.0	24～58	26～44
SB91	3×3	4.8	15.8	3.7	12.2	東西	総柱	N 67°E			1.6	5.3	1.2	4.0	24～56	18～46
SB95	2×5	6.2	20.5	3.7	12.2	南北	側柱	N 34°W			1.2	4.1	1.9	6.3	28～56	16～84
SB174	2×2	5.0	16.5	2.9	9.6	東西	側柱	N 52°E	東	1.4	1.7	5.6	1.5	5.0	26～50	18～54

表3　1区掘立柱建物跡計測表

215号柵列跡【SA215】（第11図）

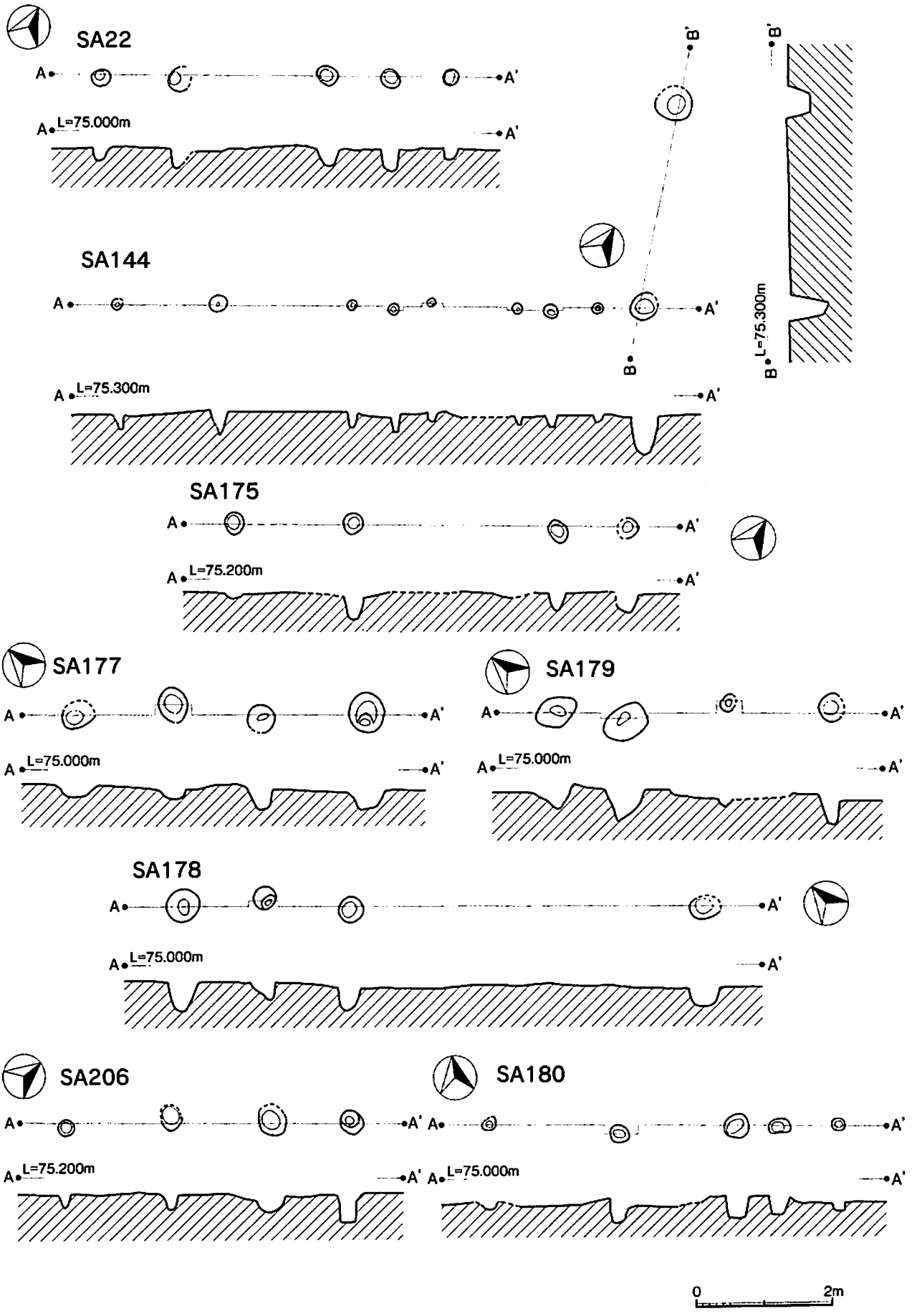
SA215の柱列の軸はN40°Wで、SB12に直交している。6つの柱穴からなっており、比較的大型の柵列跡である。柱列の長さは10.1m（約33.3尺）、柱穴は直径16～48cm、深さ10～36cmで、下端レベルは一定でない。

SD4・5の西側にある柵列跡の中で、SA175とこのSA215はセットか単独になるかで、伴う掘立柱建物跡が異なる。まず、セットとすれば、SB174に伴うと考えられる。単独であれば、SA175はSB174に伴い、SA215はSB12、SB95、SB91の何れかに伴うと考えられる。上記以外の柵列跡は伴う掘立柱建物跡が不明である。

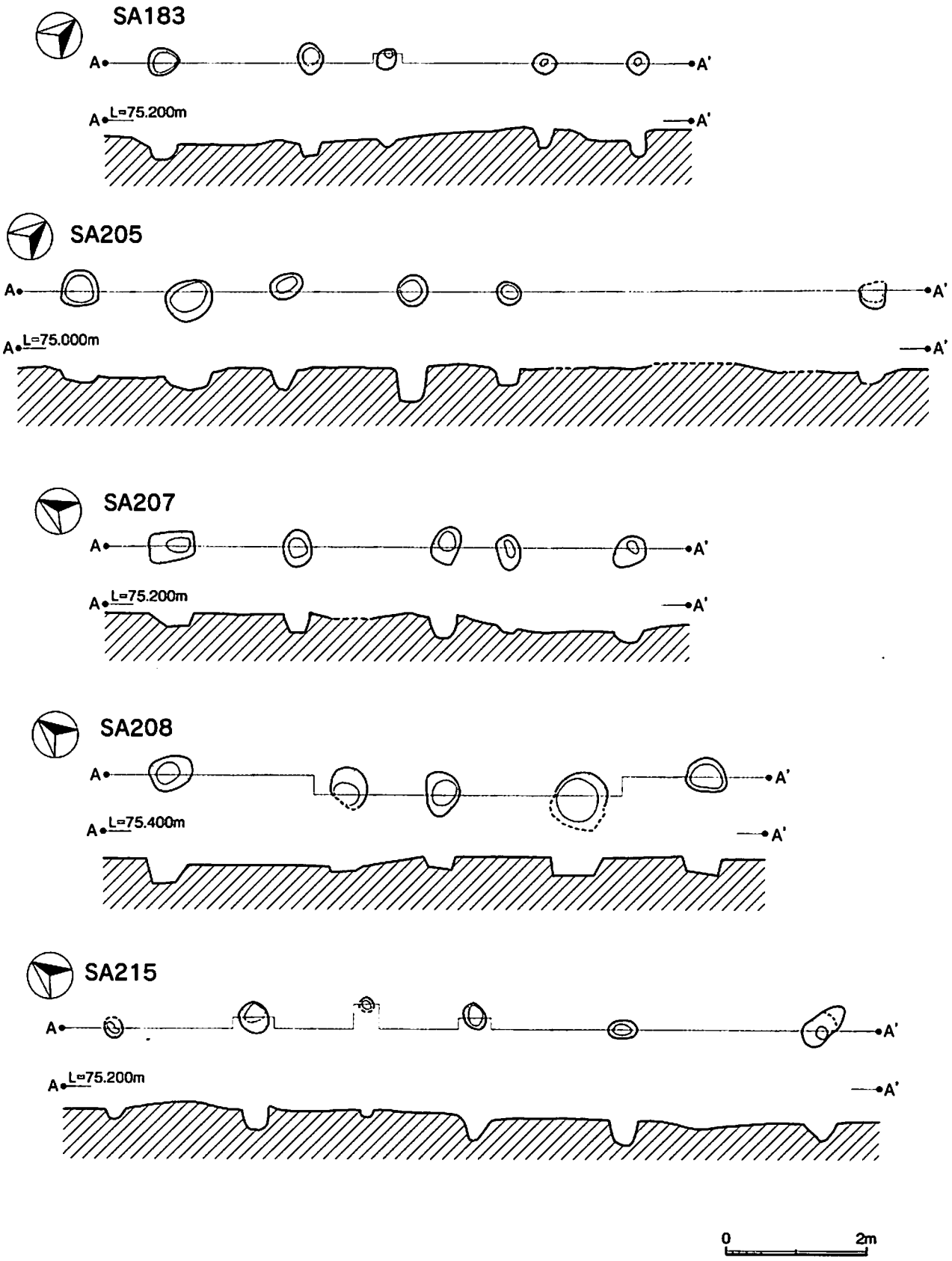
(3) 堀跡

4・5号堀跡【SD4・5】（第12図）

SD4とSD5はほぼ南北方向に伸びており、幅2.60m、深さ2.10mと大きく、堀跡であろうと考えられる。撹乱等により部分的に確認できていない箇所があり、途中で途切れているが同一遺構であることは明確であり、一度掘られた後に再度掘り直しが行われたと思われる。この堀跡の断面形は台形を呈しており、土層を観察すると、大型円礫を多量に含む土層に掘り込んでいる。この円礫は迫間川に関連した産物と考えられる。また、この堀跡の土層断面は菊池高校玄関横に移設展示している。



第10図　柵列跡（SA22・144・175・177・178・179・180・206）実測図



第11図　柵列跡（SA183・205・207・208・215）実測図

1～12はこの堀跡から出土した遺物である。1は青磁小皿片で、口縁部がほぼ直角に折れ曲がる。2・11・12は瓦質土器の摺鉢片で、内器面に6条、7条の沈線を単位としたクシ目がある。3・4は外底部に糸切り痕のある土師器片である。3は小型皿、4は中型杯である。5・6は瓦質土器の火鉢の口縁部片である。7は青磁椀の口縁部片で、外器面に蓮弁の文様がある。8は白磁の高台部付近の破片で、高台先端部は露胎である。9は青磁の把手片である。10は青磁の大皿と思われるものの高台片で、底部が肉厚である。

(4) 溝跡

6号溝跡【SD6】（第13図）

SD6は幅0.64m、深さ0.32mの溝で、SD4・5とほぼ並行して南北方向に伸びている。どこまで伸びるかは撹乱のため、確認できていない。

7号溝跡【SD7】（第13図）

SD7は幅0.44m、深さ0.34mの溝で、SD4・5とSD6にほぼ直交する状態で両者を切っている。

1はSD7より出土した白磁椀の高台付近の破片である。

15号溝跡【SD15】（第13図）

SD15は幅0.78m、深さ0.90mの溝で、調査区の南側端部にあるため、北側肩部しか確認できていない。ほぼ東西方向に伸びているが、隣接するSD4・5やSD6との前後関係は不明である。

16号溝跡【SD16】（第17図）

SD16は幅0.65m、深さ0.28mの溝で、調査区の西側端部付近をほぼ南北方向に伸びている。この溝跡は33号溝跡（SD33）に切られている。

17号溝跡【SD17】（第13図）

SD17は幅1.16m、深さ0.72mの溝で、調査区の南西隅で確認した。ほぼ東西方向に伸びる溝跡の東側端部の一部は確認したが、南側の肩部は確認できていない。端部付近の底部はさらに掘り込み、楕円の平面形を呈している。

18号溝跡【SD18】（第15図～第16図）

SD18は幅0.80m、深さ0.64mの溝で、調査区の北側隅寄りの箇所で検出した。ほぼ北側方向に伸びており、SB26の柱穴に切られている。西側に112号不明遺構（SX112）を伴っている。

1～9、10～38はこの溝跡から出土した遺物である。1～9は口径約6～7cmの土師器の小型皿で、10～37は口径11cm前後の土師器の中型杯で、全て外底部に糸切り痕がある。20・21・23・25・26は体部外器面の中程に強い窪みが段となり、そこから先が口縁端部に向けて外に開く。38は高台付きの天目椀片で、口縁部付近の内外器面は黒味が濃い茶色を呈している。また、外器面の底部付近は露胎である。

29号溝跡【SD29】（第13図）

SD29は幅0.96m、深さ0.28mの溝でほぼ南北方向に伸びており、南側の端部を確認した。

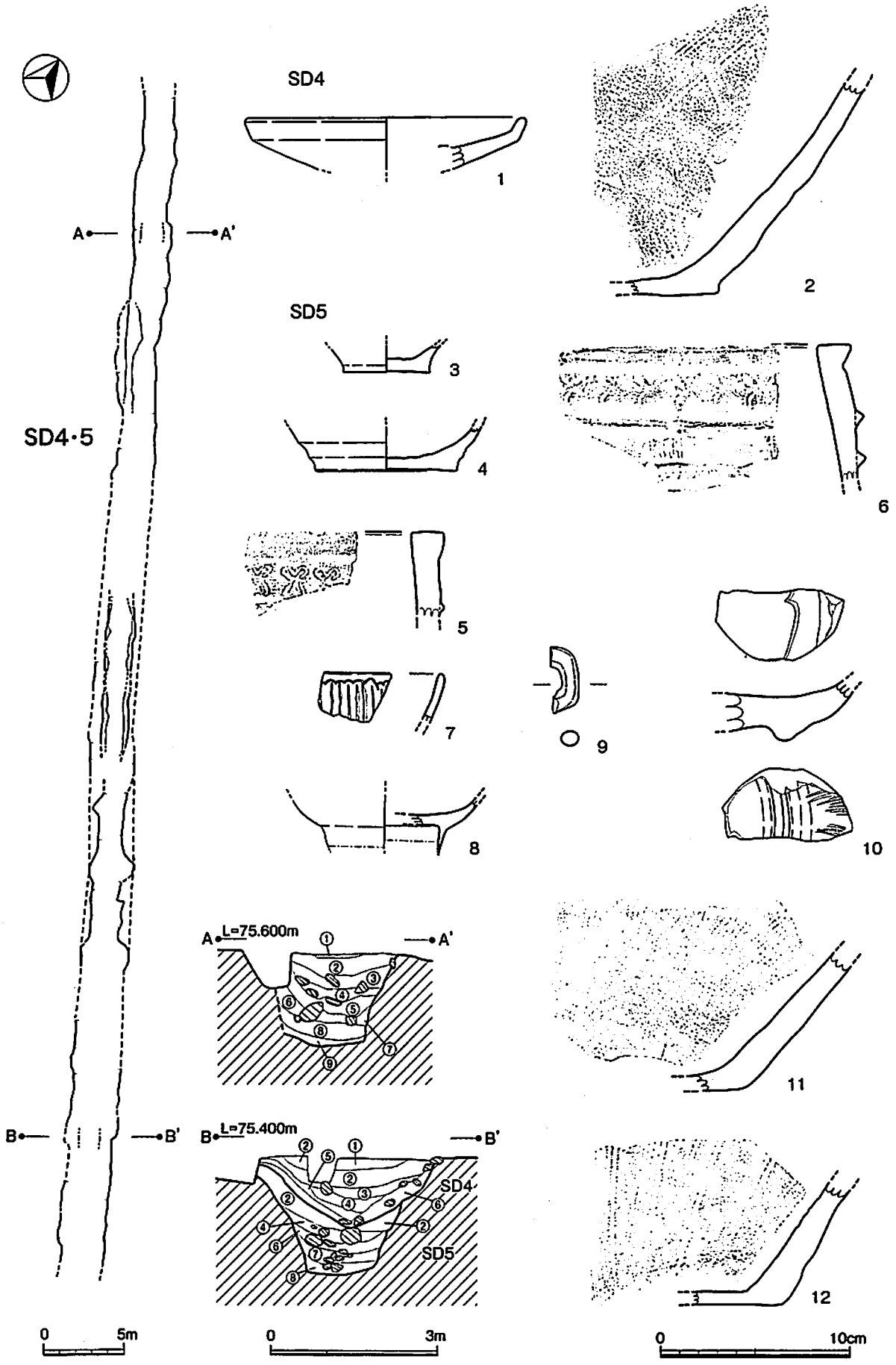
33号溝跡【SD33】（第13図～第14図）

SD33は幅1.40m、深さ0.40mの溝で、SD29とほぼ並行、隣接しており、16号溝跡（SD16）を切っている。溝の北側端部を確認した。

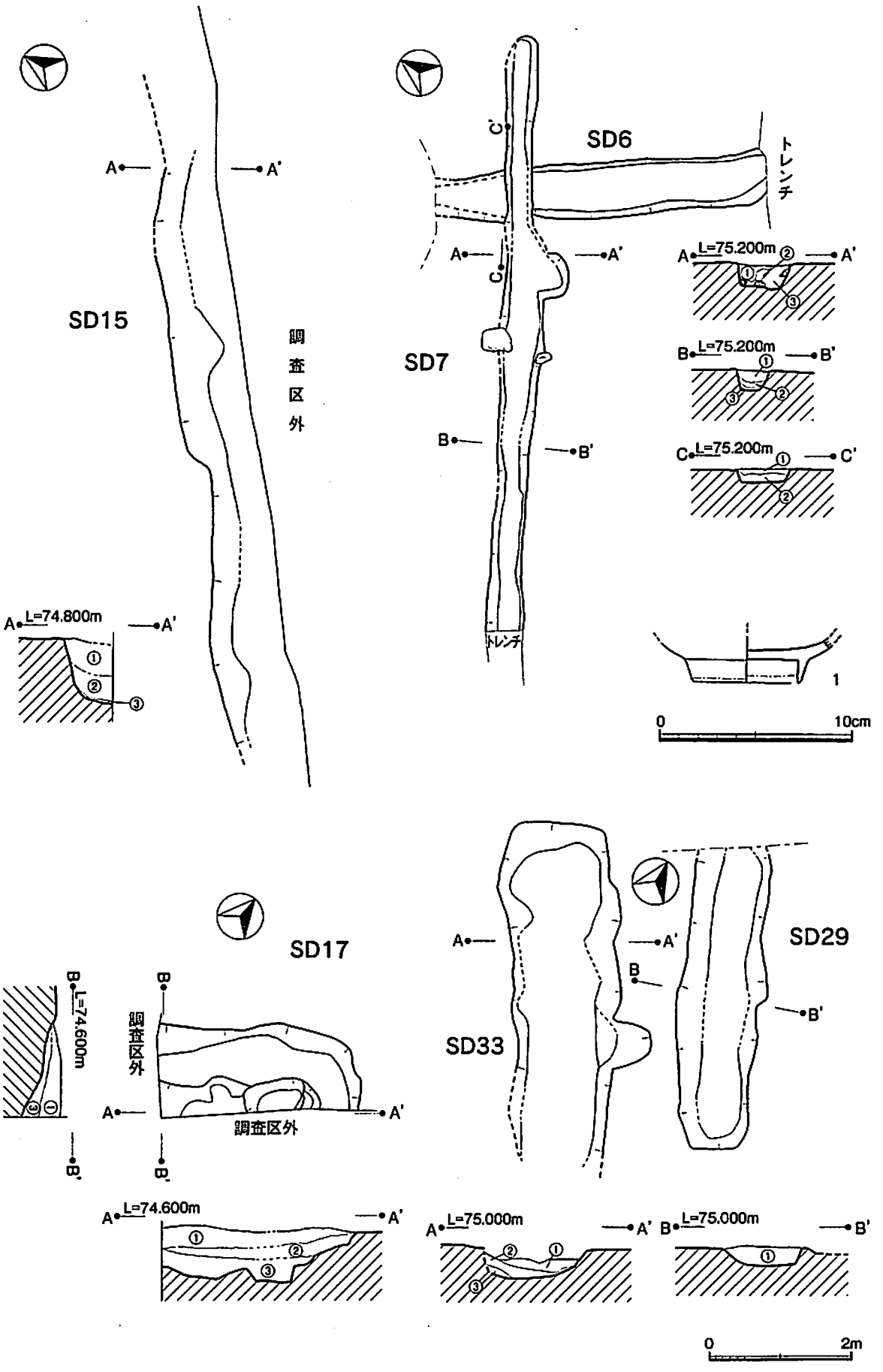
1～20はこの溝跡から出土した土師器であり、外底部に糸切り痕がある。1～10は口径6cm前後、器高1.5～2.0cmの小型皿である。11～20は口径約10～11cm、器高3cm前後の中型杯である。11は他のものに比べて、体部が長く伸びている。4の胴部には内側から穿孔があり、また、17の底部には内・外からの穿孔があり、いずれも焼成後に穴が作られている。

85・121・239号溝跡【SD85・121・239】（第17図～第19図）

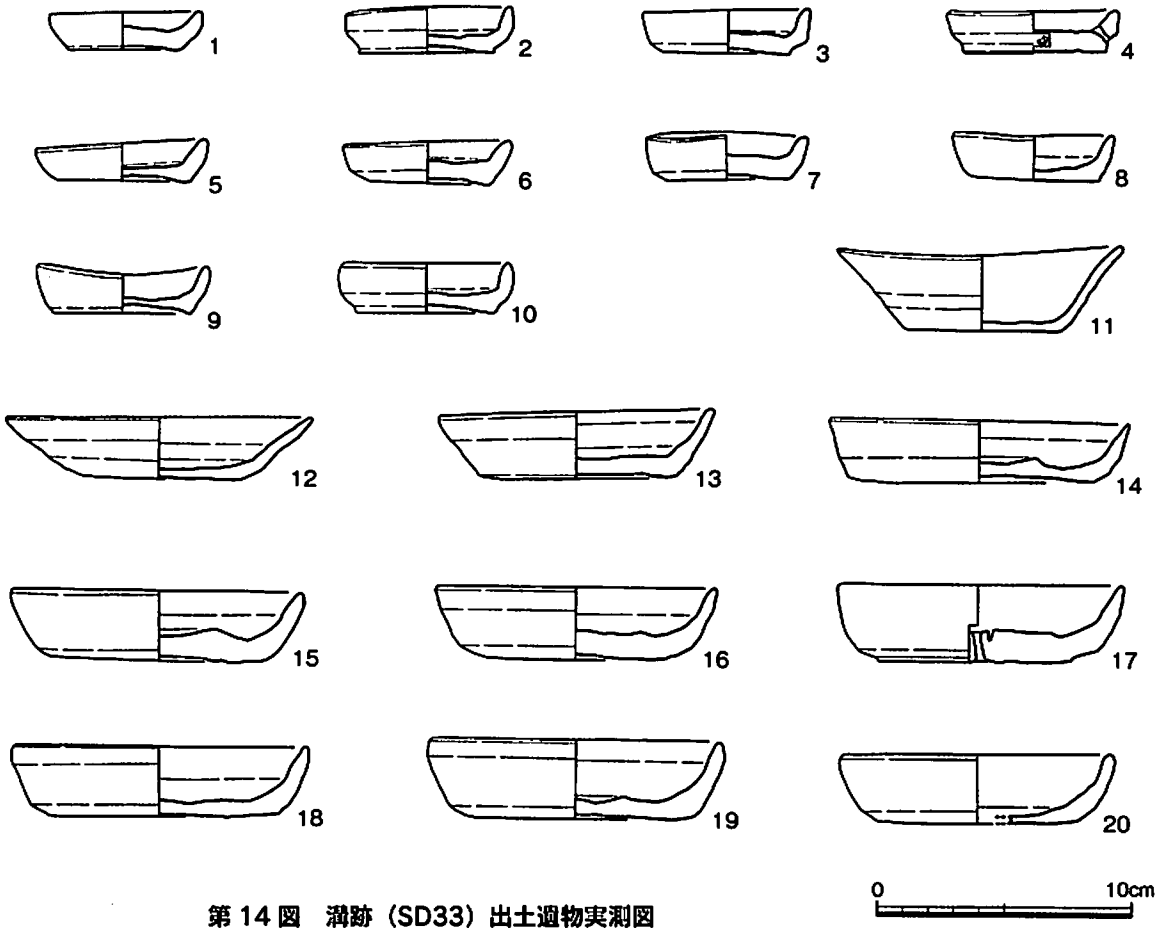
この溝跡はSD85・121・239と3つ遺構番号がついているが、幅1.10～1.30m、深さ0.70～0.90mを測り、各遺構の配置状況から同一の遺構であると思われる。南北方向に伸びており、南北端部を確認した。また、SB12・95・174とSB91の間にあり、建物跡と溝跡の配置状況から、両者の建物跡に付随するものと考えられる。



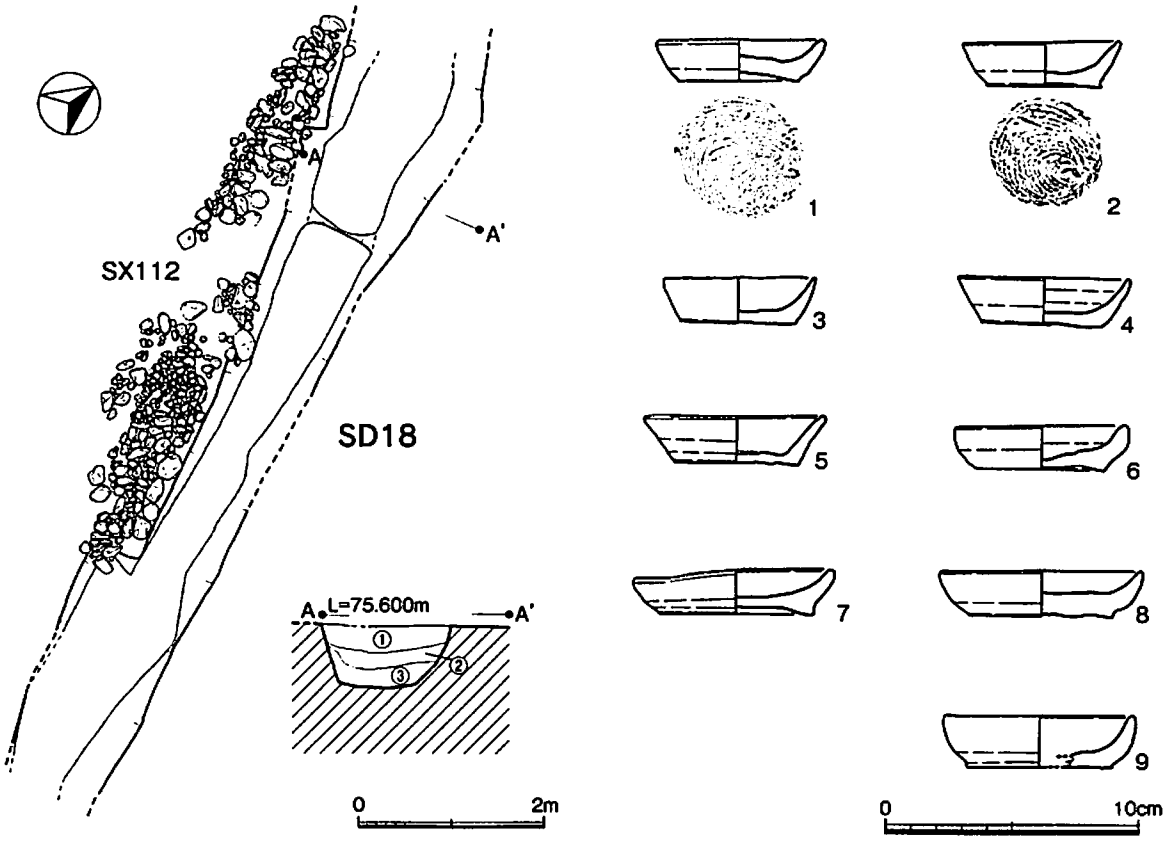
第12図　堀跡（SD4・5）実測図及び出土遺物実測図



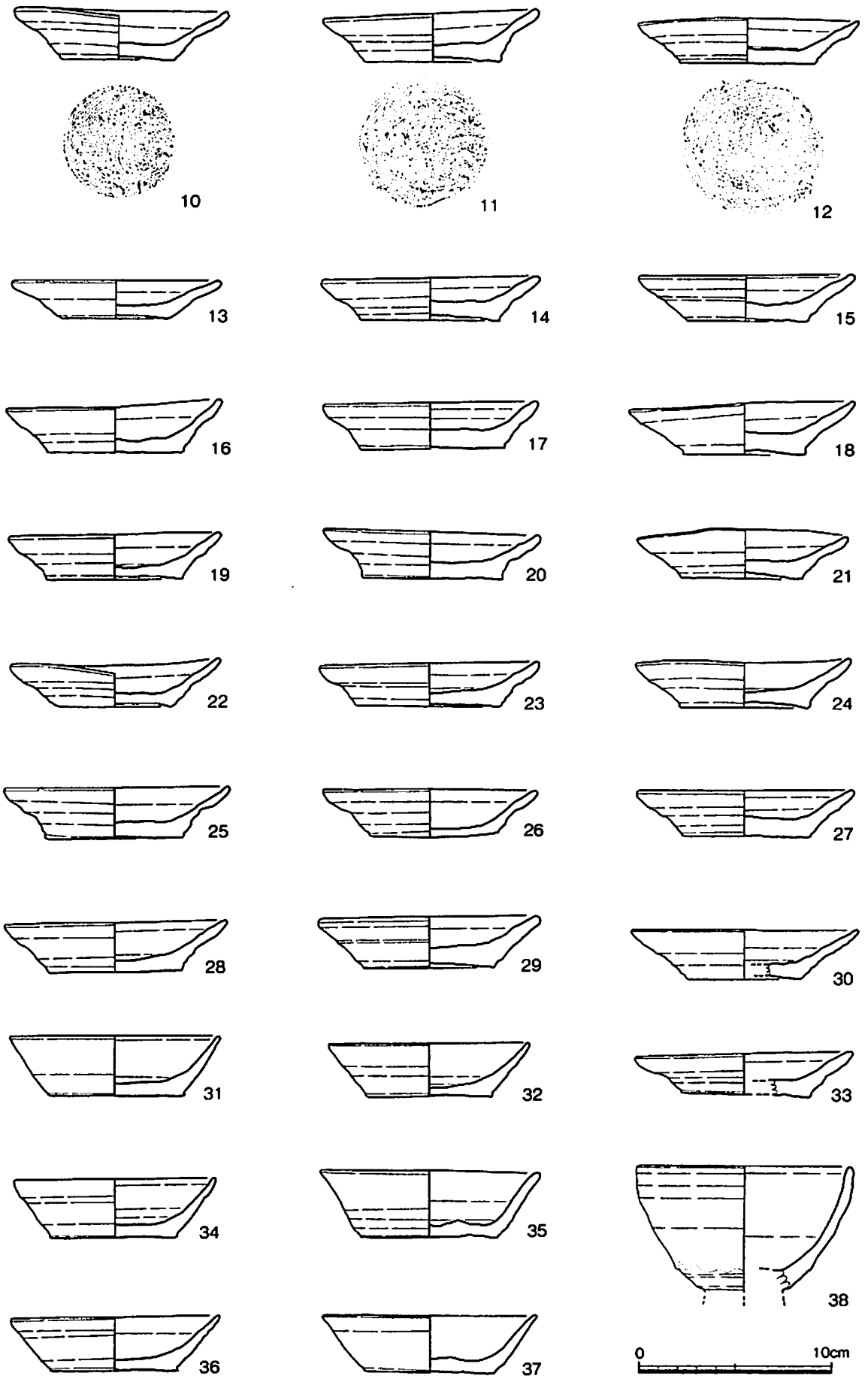
第13図　溝跡（SD6・7・15・17・29・33）実測図及びSD7出土遺物実測図



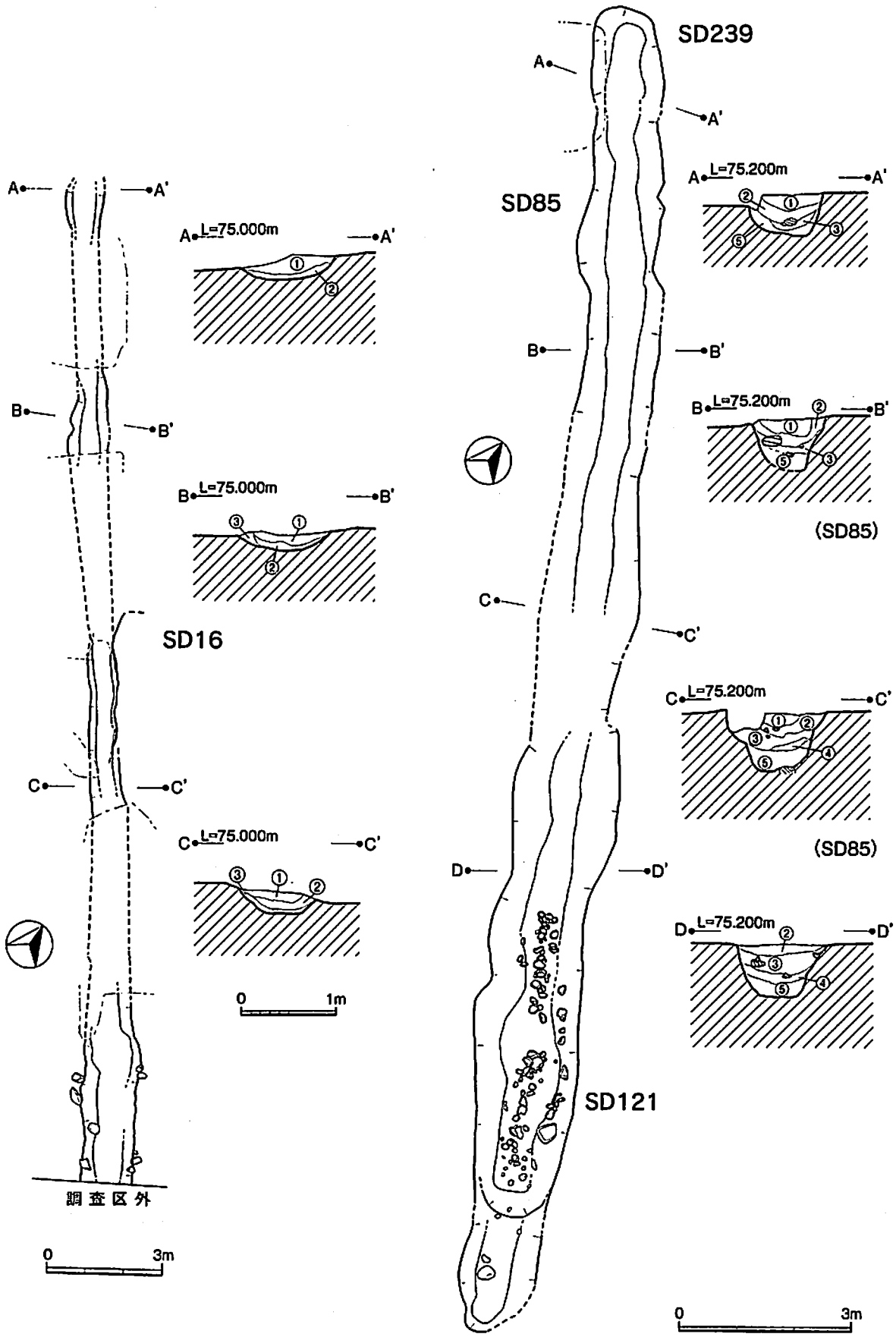
第14図　溝跡（SD33）出土遺物実測図



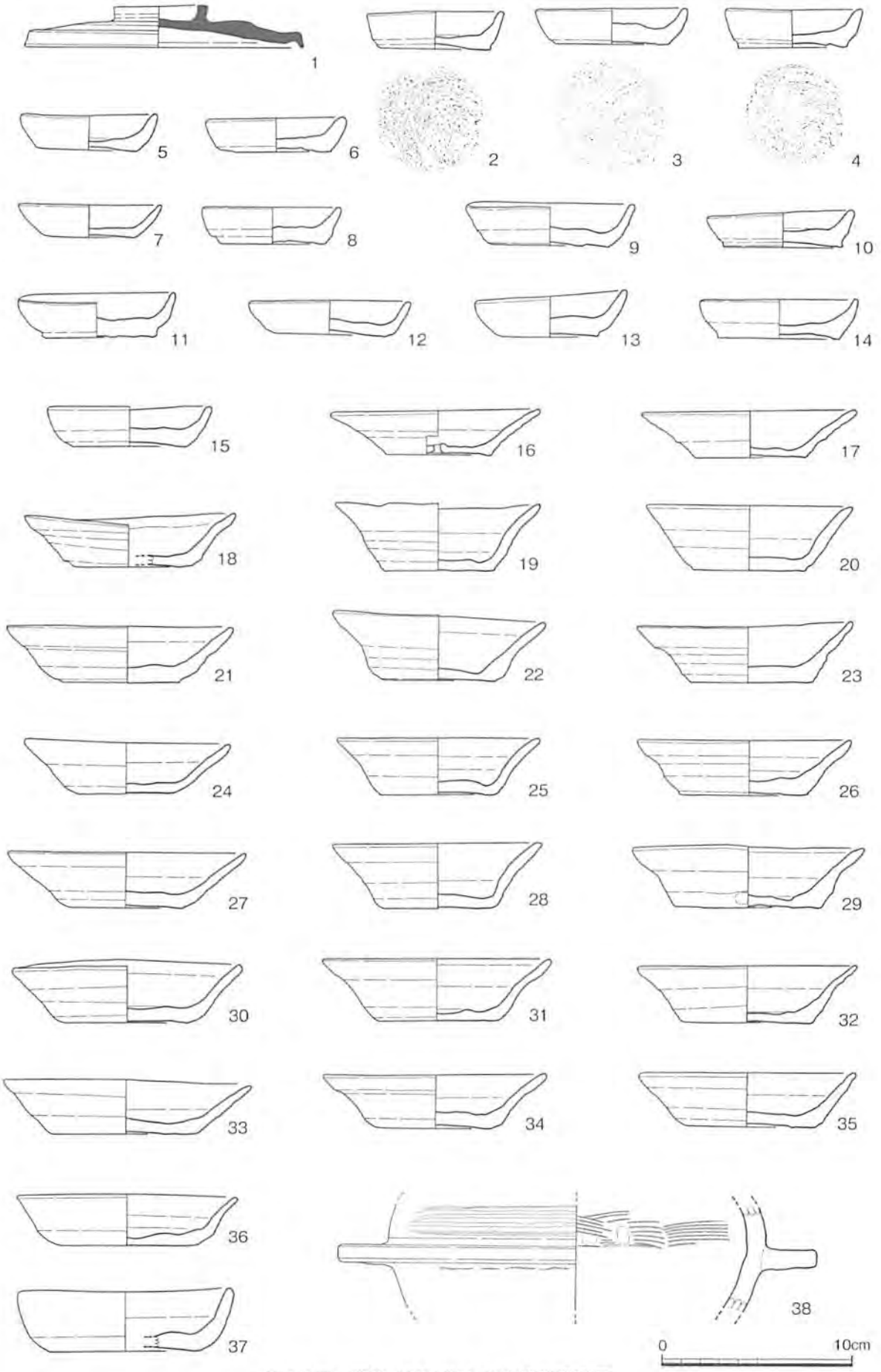
第15図　溝跡（SD18）実測図及び出土遺物実測図（1）



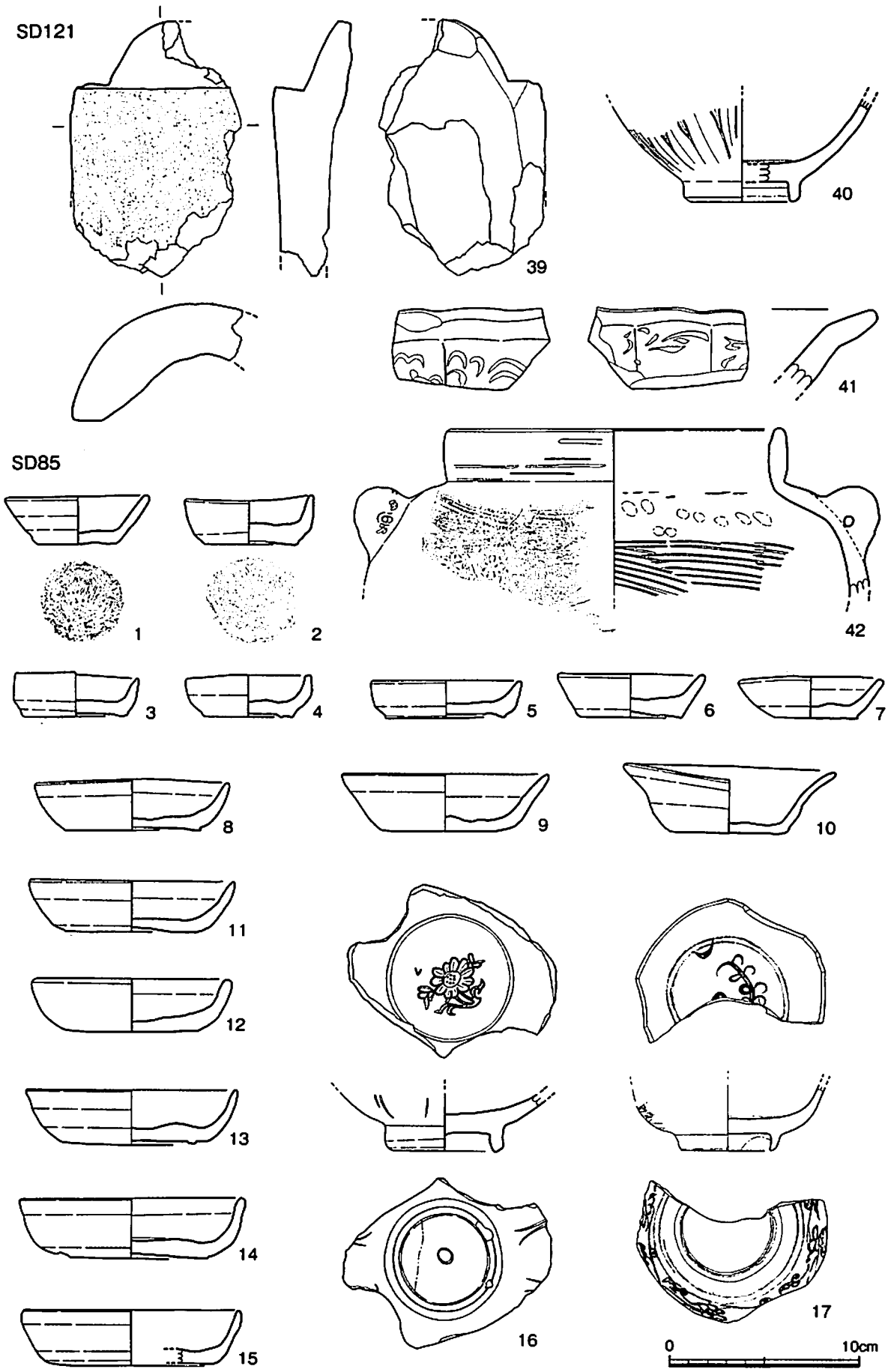
第16図　溝跡（SD18）出土遺物実測図（2）



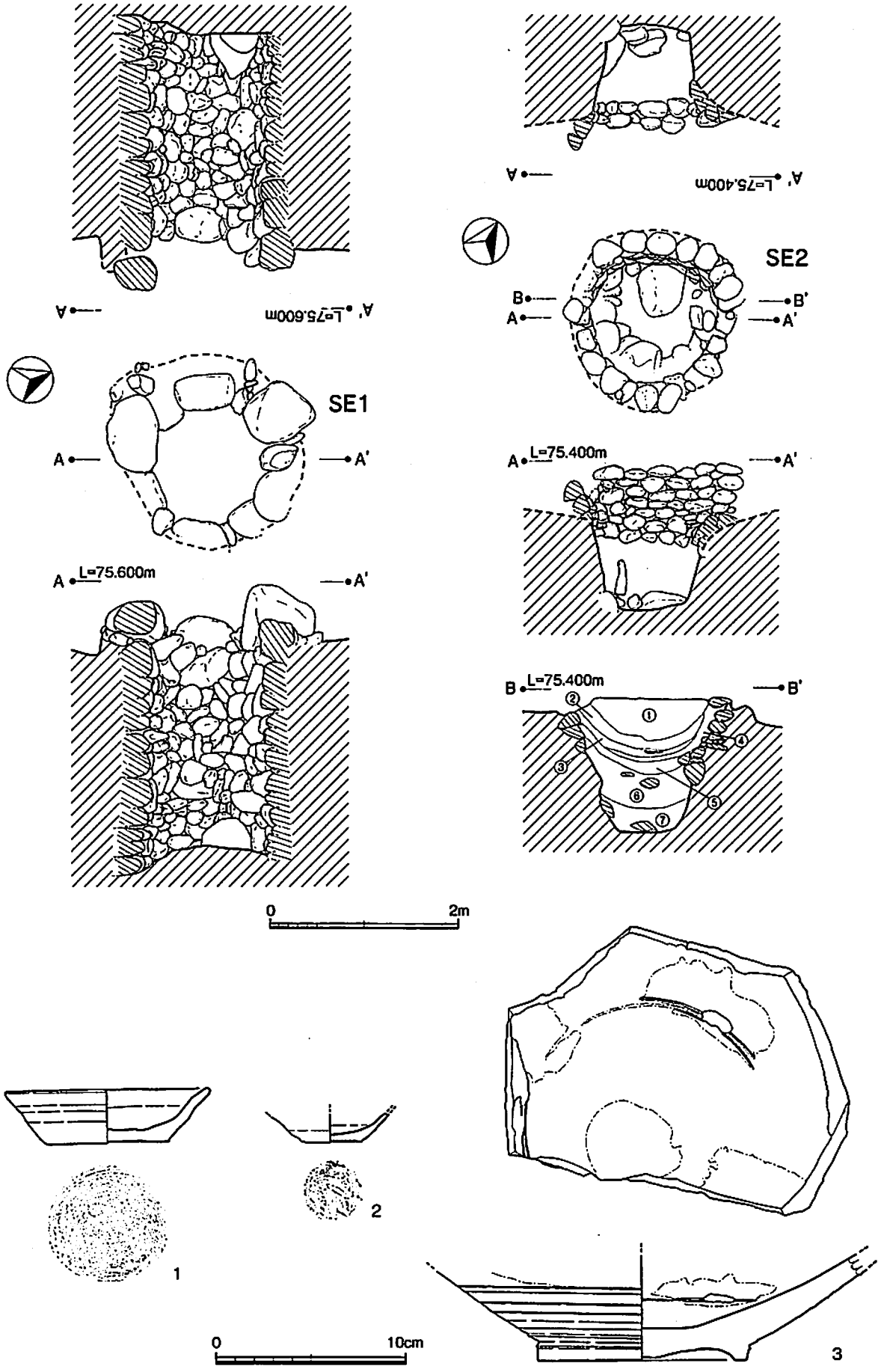
第17図　溝跡（SD16・85・121・239）実測図



第18図　溝跡（SD121）出土遺物実測図



第19図　溝跡（SD121・85）出土遺物実測図



第 20 図　井戸跡（SE1・2）実測図及び出土遺物実測図

第18図1～38・第19図39～42はSD121から出土した遺物である。1は須恵器の杯蓋である。2～15は口径約7～8cmの土師器の小型皿で、16～37は口径10～12cm前後の土師器の中型杯で、全て外底部に糸切り痕がある。

中型杯は体部の形態で大きく3つに分けることができる。18・19・22・23・25・26・28・29・31・32・34・36は体部中程付近で屈曲し、口縁端部に向けて外湾する。37の体部は内側に丸くなりながら立ち上がっている。その他の杯は体部が外に開きながらほぼ直線的に立ち上がる。38・42は瓦質土器の茶釜片である。39は丸瓦片である。40は高台から体部にかけての青磁椀片で、底部が肉厚である。41は青磁皿の口縁部片である。

第19図1～17はSD85から出土した遺物である。1～15は外底部に糸切り痕がある土師器である。1～7は口径6～7cm前後の小型製品である。2～5の体部は内側に丸くなりながら立ち上がる。1・6・7の体部はほぼ直線的に伸びる。8～10は口径10～11cm前後の中型杯で、体部の形状で3つに分けられる。9はほぼ直線的に立ち上がる。10は中程で段を持ち、そこからさらに外湾する。両者以外は内側に丸くなりながら立ち上がる体部を持つ。16は青磁椀の高台付近の破片である。17は染付椀の高台から体部一部にかけての破片である。

(5) 井戸跡

1号井戸跡【SE1】(第20図)

SE1は長軸2.05m、短軸1.85m、深さ2.85mを測り、SB19の北側に隣接している。平面形は円形、断面形は筒状で、底部から上端部にかけて円礫を積んでいる。上端部付近には大型の礫を用いている。

1はこの井戸跡から出土した土師器杯で、外底部に糸切り痕がある。

2号井戸跡【SE2】(第20図)

SE2は長軸1.95m、短軸1.63m、深さ1.40m～を測り、北側にSB91、北東側にSB12・95・174がある。平面形は円形、断面形は略筒状で、先端部がやや細くなる。底部に大型礫を配置し、底部から中程の部分は素堀のままで、中程から上端部にかけては円礫を積んでいる。この井戸跡は菊池高校正門西側のビオトープ内に移設復元している。

2・3はこの井戸跡から出土した遺物である。2は小型皿の底部付近の破片で、外底部に糸切り痕がある。3は肥前陶器の茶壺の底部付近の破片で、内器面、外器面の一部に黒味を帯びた茶色に発色した釉薬が施されている。これは、高台径10.8cm、高台高1.2cmで残存高5.6cmを測る。

(6) 土壙

8号土壙【SK8】(第21図～第22図)

SK8は長軸0.84m、短軸0.68m、深さ0.44mで、平面形は略楕円形、断面形は略台形を呈している。土壙内の西側に寄った箇所から土師器がまとまって出土した。土器溜めではないかと考えられる。出土状態は口縁部や底部が上になったり、横位の状態であったり様々である。

第21図1～34、第22図35～69はこの土壙から出土したもので、外底部に糸切り痕がある。1～33は口径6～7cm前後の小型皿で、34～69は口径10～11cm前後の中型杯である。1・6～10・12・20～22・28・29・31の体部は内側に丸くなりながら立ち上がる。これら以外は前者より比較的直線的に立ち上がる。35～69の体部は中程に各々強い・弱いはあるが、段を持つ特徴がある。強い段を持つものは段から口縁部に向けてさらに外湾している。

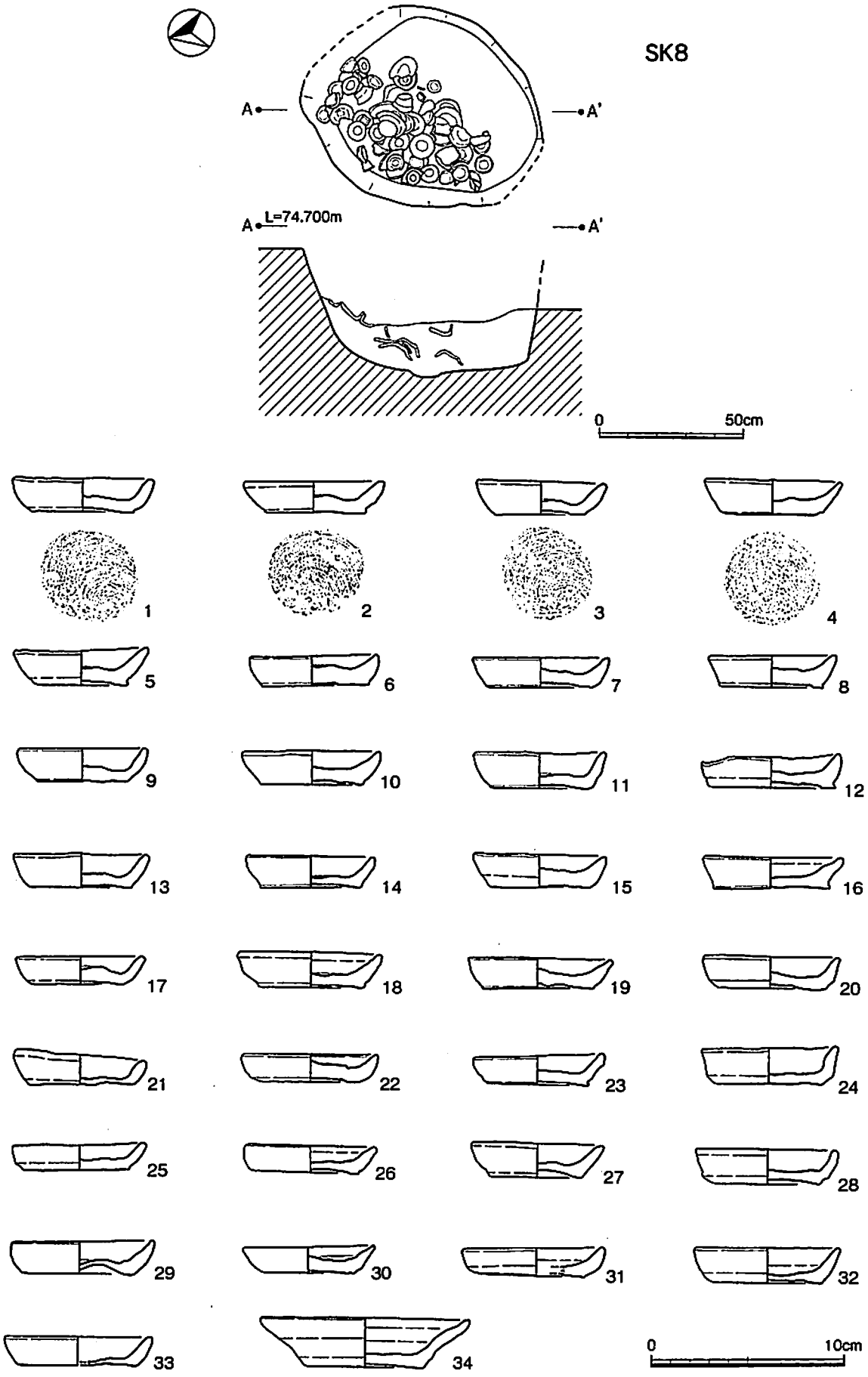
9号土壙【SK9】出土遺物(第23図)

SK9は後述の10号土壙(SK10)とほぼ同じ位置にあり、同一ではないかと考えられる。

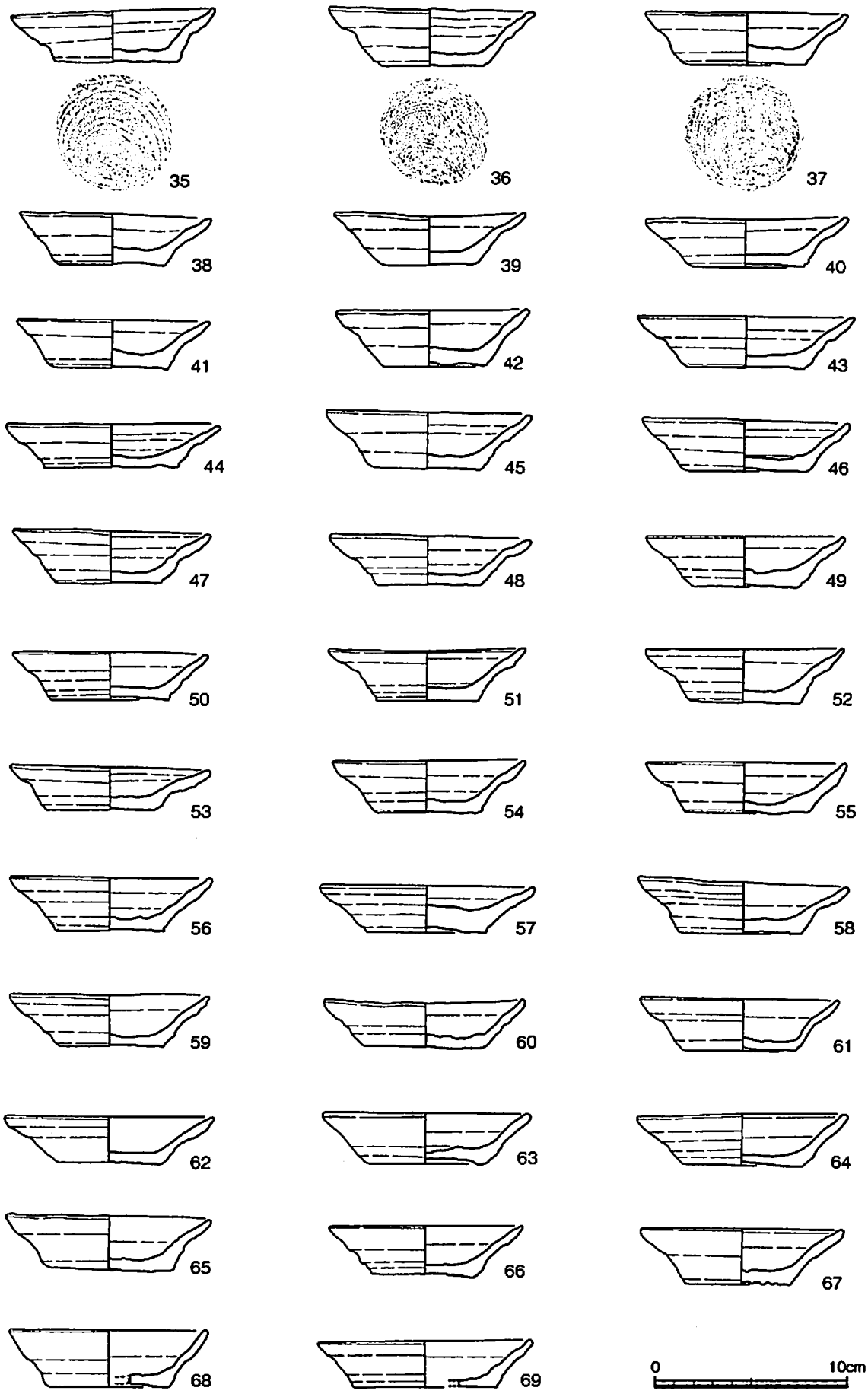
1～37は外底部に糸切り痕がある土師器である。1～23は口径6～7cm前後の小型製品で、24～37は口径10～11cm前後の中型杯である。1～23の体部は大小の差はあるが、内側に丸くなりながら立ち上がる。中型杯の内で26の体部はほぼ直線的に立ち上がるが、それ以外は体部中程に段があり、段から口縁部にかけてさらに外湾する。38は青磁椀の高台付近の破片である。

10号土壙【SK10】(第24図～第25図)

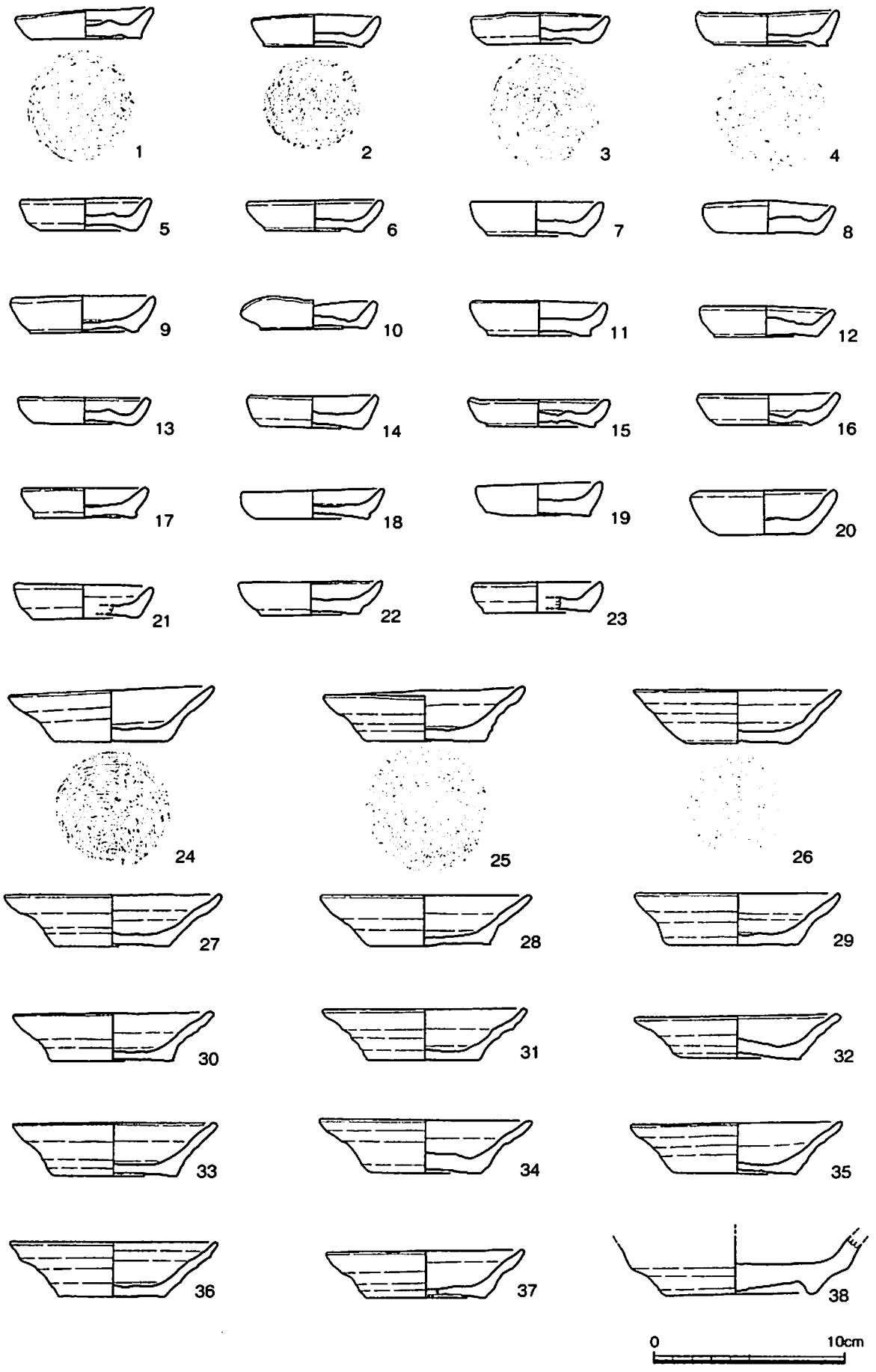
SK10は長軸0.67m、短軸0.36m、深さ0.31mを測り、平面形は略楕円形、断面形は略台形を呈している。土壙内のほぼ中央で底部から浮いた状態で土師器がまとまって出土した。土器溜めではないかと考えられる。



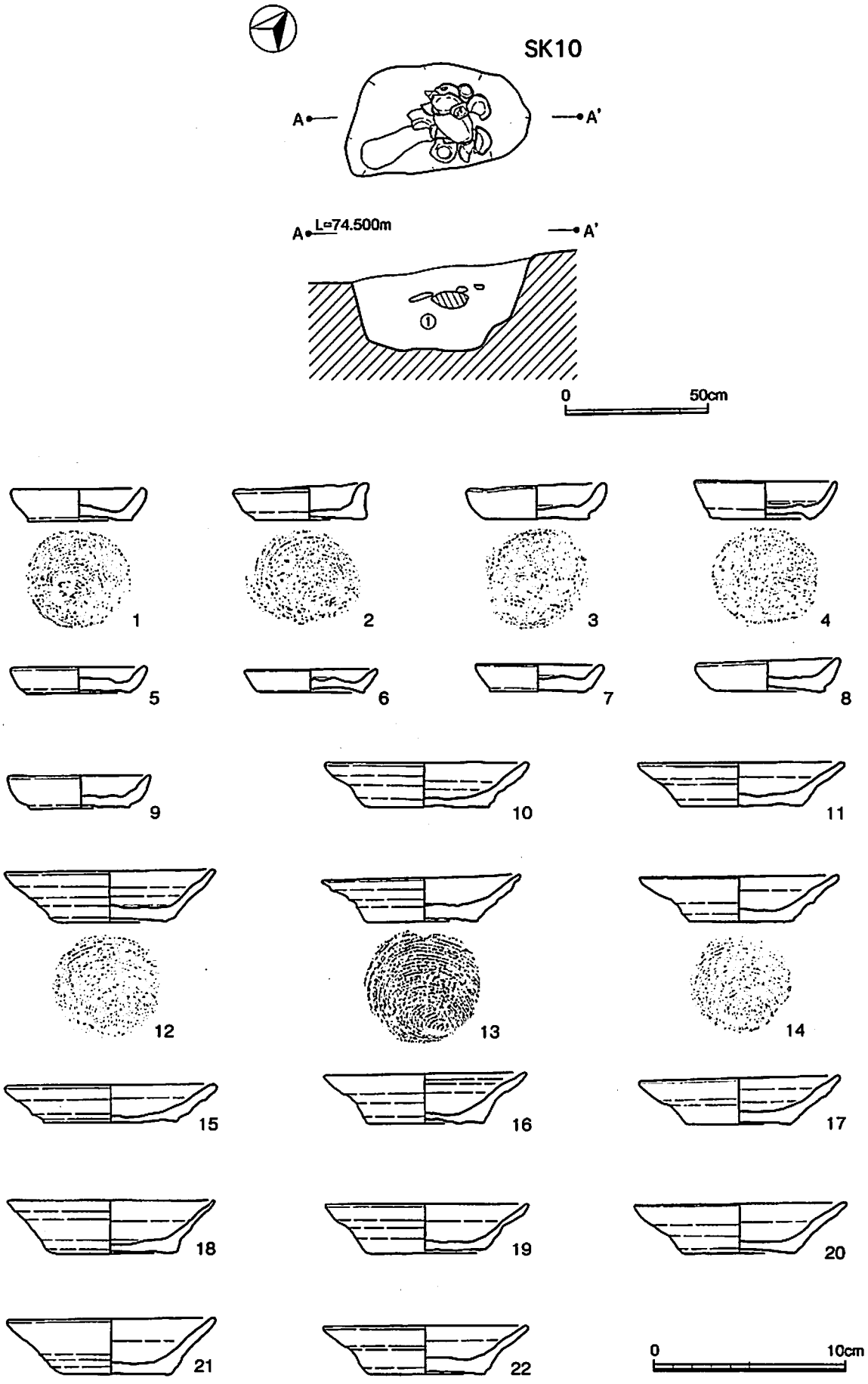
第21図　土壙（SK8）実測図及び出土遺物実測図（1）



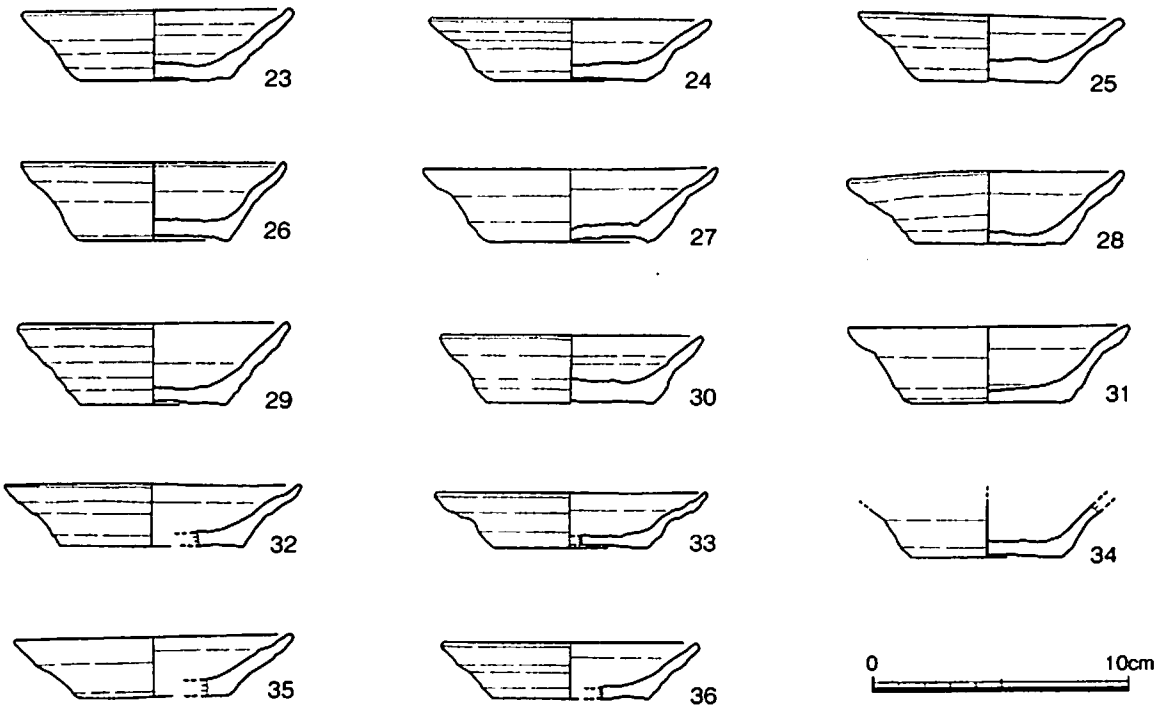
第22図　土壙（SK8）出土遺物実測図（2）



第23図　土壙（SK9）出土遺物実測図



第24図　土壙（SK10）実測図及び出土遺物実測図（1）



第25図　土壙（SK10）出土遺物実測図（2）

第24図1～22、第25図23～36はこの土壙から出土したもので、外底部に糸切り痕がある。1～9は口径6～7cm前後の小型皿で、10～36は口径10～11cm前後の中型杯である。小型皿の体部は内側に丸くなりながら立ち上がる。中型杯の12・18・21・29の体部はほぼ直線的に立ち上がる。これら以外の中型杯の体部は中程で段があり、そこから口縁部に向けてさらに外湾する。

116号土壙【SK116】（第26図～第27図）

SK116は長軸0.65m～、短軸0.57m、深さ0.31mを測り、平面形は略円形になると思われ、断面形は略台形である。SK9・10に切られており、ほぼ中央部で底部から浮いた状態で土師器が出土した。土器溜めではないかと考えられる。

第26図1～23、第27図24～44はこの土壙から出土した土師器で、外底部に糸切り痕がある。第26図1は口径3.4cmの極小皿である。2～21は口径6～7cm前後の小型皿、24～44は口径10～11cm前後の中型杯、22・23は口径13cm前後のやや大型杯である。小型製品のうち、7・9・16・17・19の体部はほぼ直線的に立ち上がる。これら以外の小型製品の体部は丸くなりながら立ち上がる。中型製品は体部中程に大小の段があり、段から口縁部に向けてさらに外湾する。大型製品である23の底径は22の底径4.2cmと比べて、7.5cmと大きい。

117号土壙【SK117】（第26図～第27図）

SK117は長軸0.70m、短軸0.50m～、深さ0.12mを測り、SK8から切られており、平面形は不整な円形、検出できた箇所の断面形は深い皿状である。ほぼ中央部で底部から浮いた状態で土師器が出土した。土器溜めではないかと考えられる。

第27図1～14はこの土壙出土のもので、外底部に糸切り痕がある。1～13は口径6～7cm前後の小型製品、14は口径約11cmの中型製品である。小型製品は体部が内側に丸くなる。14は体部中位に段があり、そこから口縁部に向けてさらに外湾する。

58号土壙【SK58】（第29図・第36図）

SK58はSD4・5の西側でこれと直交し、掘立柱建物跡群のほぼ中間地点に位置している。長軸3.75m、短軸1.80m、深さ0.46mと他の土壙と比べると大型で、平面形は隅丸長方形、断面形は深い皿状を呈する。土壙の南西隅の肩部に円礫があり、覆土は①～⑤層に分層できる。この土壙からは遺物が出土している。

59号土壙【SK59】（第29図・第36図）

SK59はSK58とほぼ同じ主軸で、SB91の南側に位置している。長軸3.62m、短軸2.14m、深さ1.02mとこの土壙も他と比べると大型で、平面形は不整な楕円形で、底部のほぼ中央部をさらに平面形が不整な楕円形に掘り込んでおり、断面形は略台形を呈している。覆土は①～⑤層に分層できる。この土壙からは遺物が出土している。

100号土壙【SK100】（第30図・第36図）

SK100はSD121を切っており、長軸3.10m、短軸2.28m、深さ0.26mとこの土壙も他と比べて大型である。平面形は不整な楕円形、断面形は浅い皿状を呈する。床面には平面形が円形・楕円形・不整形の浅い掘り込みがあり、覆土は①～③層に分層できる。この土壙からは遺物が出土している。

122号土壙【SK122】（第31図・第36図）

SK122は長軸1.74m、短軸1.16m、深さ0.65mを測り、平面形は略円形の掘り込みの西側に浅い掘り込みがあり、二段掘りになっている。深い箇所の断面形は台形を呈している。覆土は①・②層に分層できる。

126号土壙【SK126】（第31図）

SK126は長軸1.30m～、短軸0.80m、深さ0.48mを測り、平面形は略楕円形で、断面形は略台形である。掘り込み内には密集した状態で中型礫が入っている。

172号土壙【SK172】（第32図）

SK172は長軸1.98m、短軸1.58m、深さ0.36mを測り、平面形は略楕円形、断面形は略台形であり、西側部分は段掘りになっている。掘り込み肩部には小型・中型礫が配置されている。覆土は①・②層に分層できる。

189号土壙【SK189】（第32図）

SK189は長軸1.77m、短軸1.24m～、深さ1.18mを測り、平面形は略円形になると思われ、断面形は筒状である。掘り込み肩部には小型・中型礫が配置され、環状になっている。覆土は①～⑤層に分層できる。

その他の土壙（第28図～第35図）

平面形が方形または方形になると考えられるものは36・54号土壙である。平面形が円形・略円形または円形になると考えられるものは39・42・43・56・57・63・92・96・123・124・168・170・219・222・223・225・228・229・230・270号土壙である。平面形が楕円形または略楕円形になると思われるものは48・53・119・120・190・194・198～200・203・220・217・227・231・232・236・237・238号土壙である。平面形が不整形または不整形になると考えられるものは44・47・146・171・234・271号土壙である。平面形が不明であるのは35・60・201・204・218・224・240号土壙である。断面形は浅いまたは深い皿状、台形・略台形、筒状、隅丸三角形である。

土壙出土遺物（第36図）

1はSK53、2・5・6はSK100、3・4はSK122、7はSK124、8はSK58、9・10・12はSK59、11はSK55から出土した。1～7は土師器で、外底部に糸切り痕がある。1～4は口径約7cmの小型皿で、1以外は体部が内側に丸くなりながら立ち上がる。5・7は口径11cm前後の中型杯で、体部中程に段を持ち、そこから口縁部にかけて外湾する。6は口径約15cmの大型杯である。8・9は体部を内側に折り曲げた土師器の耳皿で、外底部に糸切り痕がある。10は青磁椀片で、外器面の口縁部に沿って帯状に雷文があり、その下部に曲線文を描く。11は須恵器甕の口縁部から胴部にかけての破片である。12は軽石（凝灰岩）製の浮子で、中央の穴は上下面の両方から穿孔している。

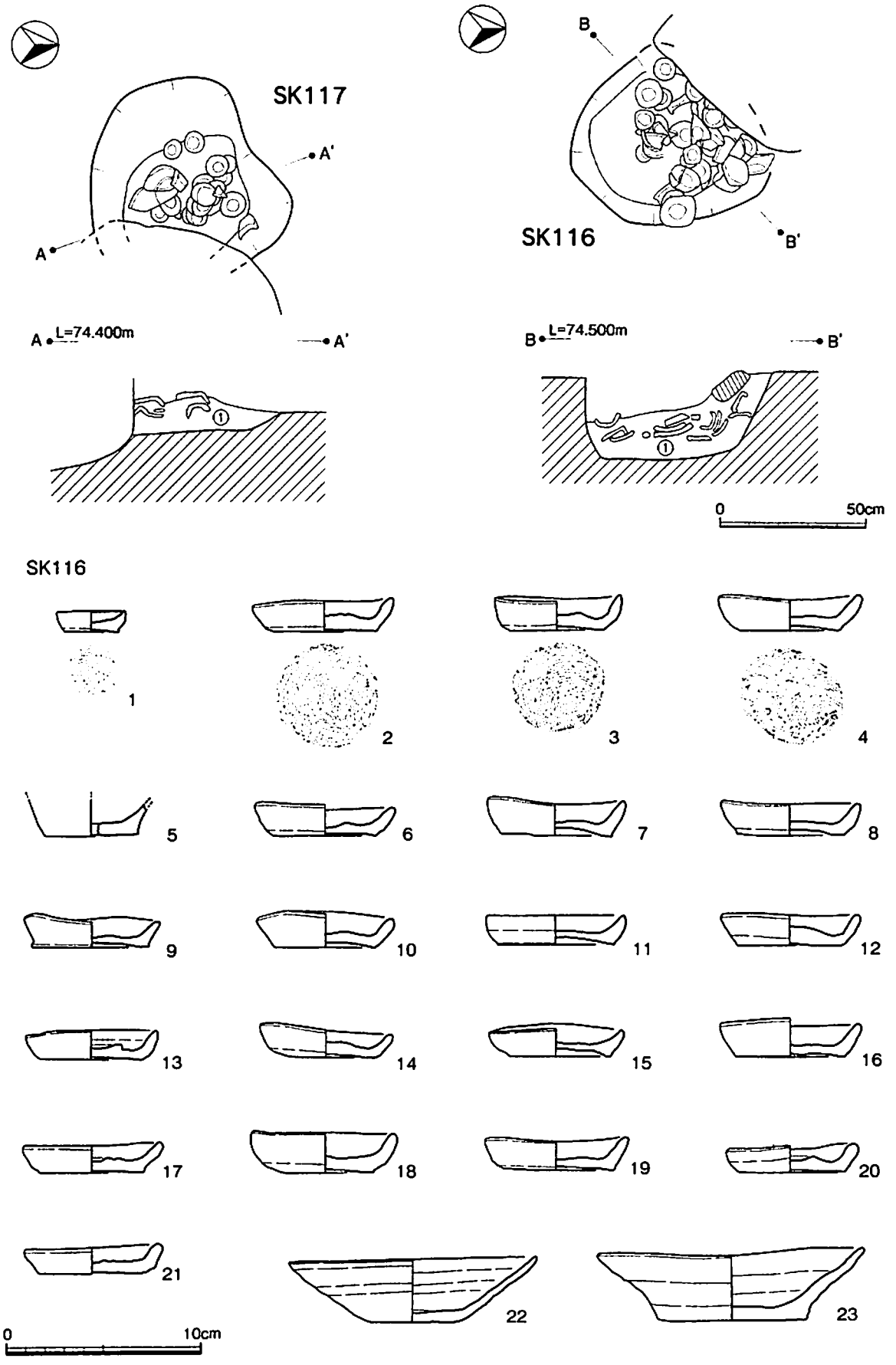
(7) 不明遺構

193・196号不明遺構【SX193・196】（第37図）

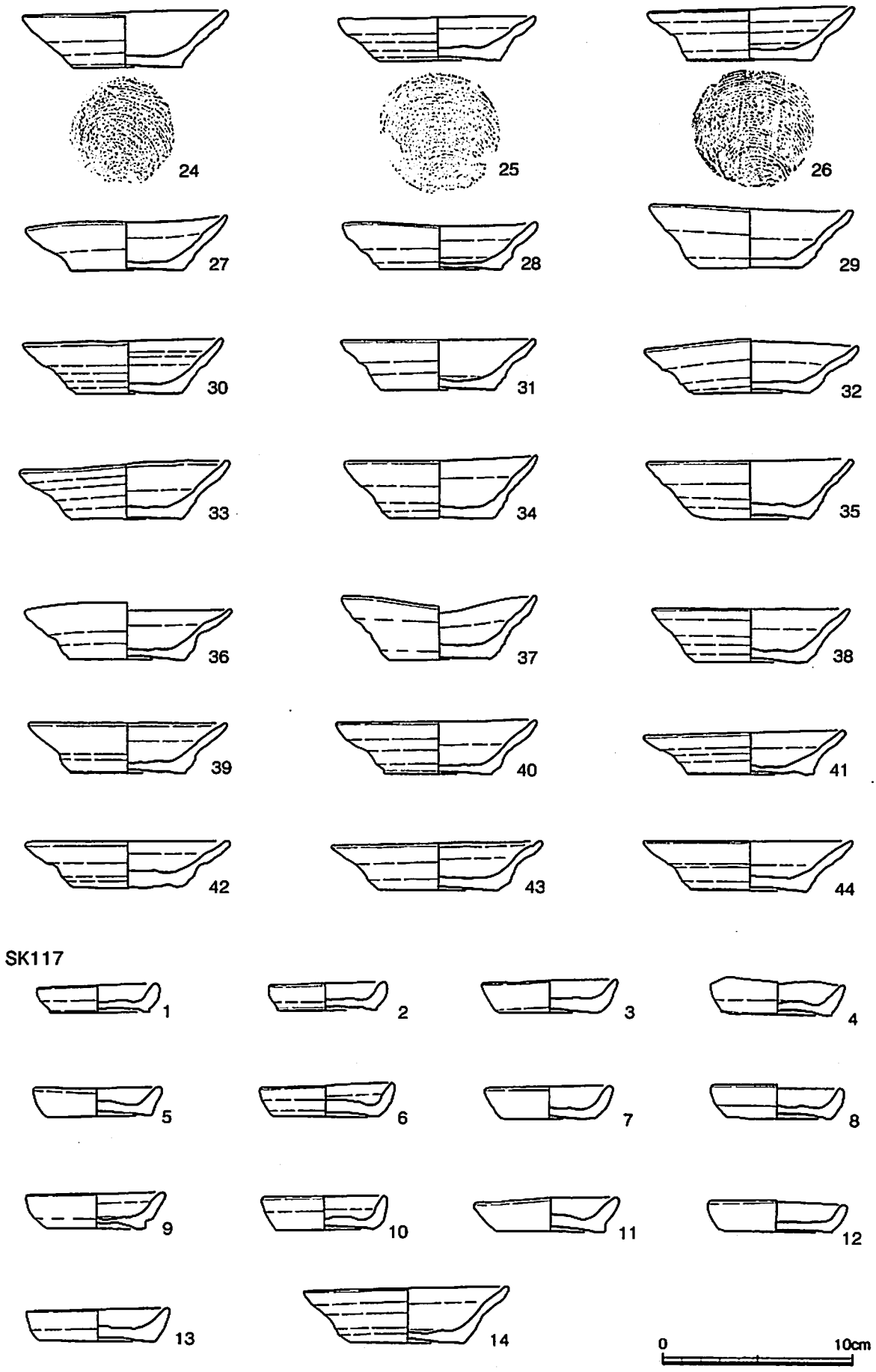
この2つの不明遺構は平面形が楕円形の掘り込みの内部に大小の礫を密集した状態で入れてある。SX193は長軸0.74m、短軸0.66m、深さ0.60mを測り、断面形は略台形になっている。また、SX196は長軸1.19m、短軸0.94m、深さ0.60m～を測り、断面形は台形になると思われる。

112号不明遺構【SX112】（第15図）

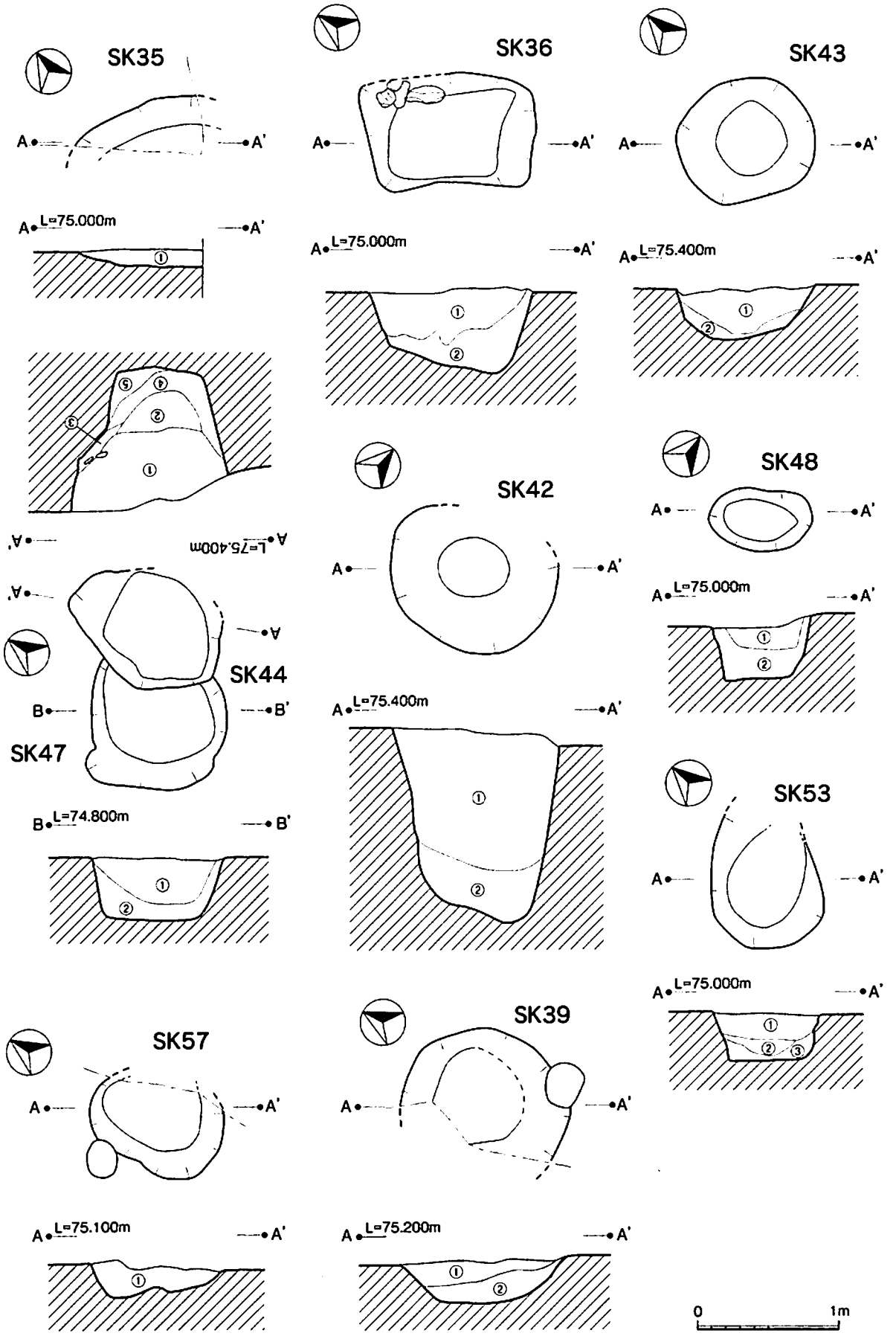
SX112はSD18の西側肩部に沿って小型の礫が帯状に並んでいる。



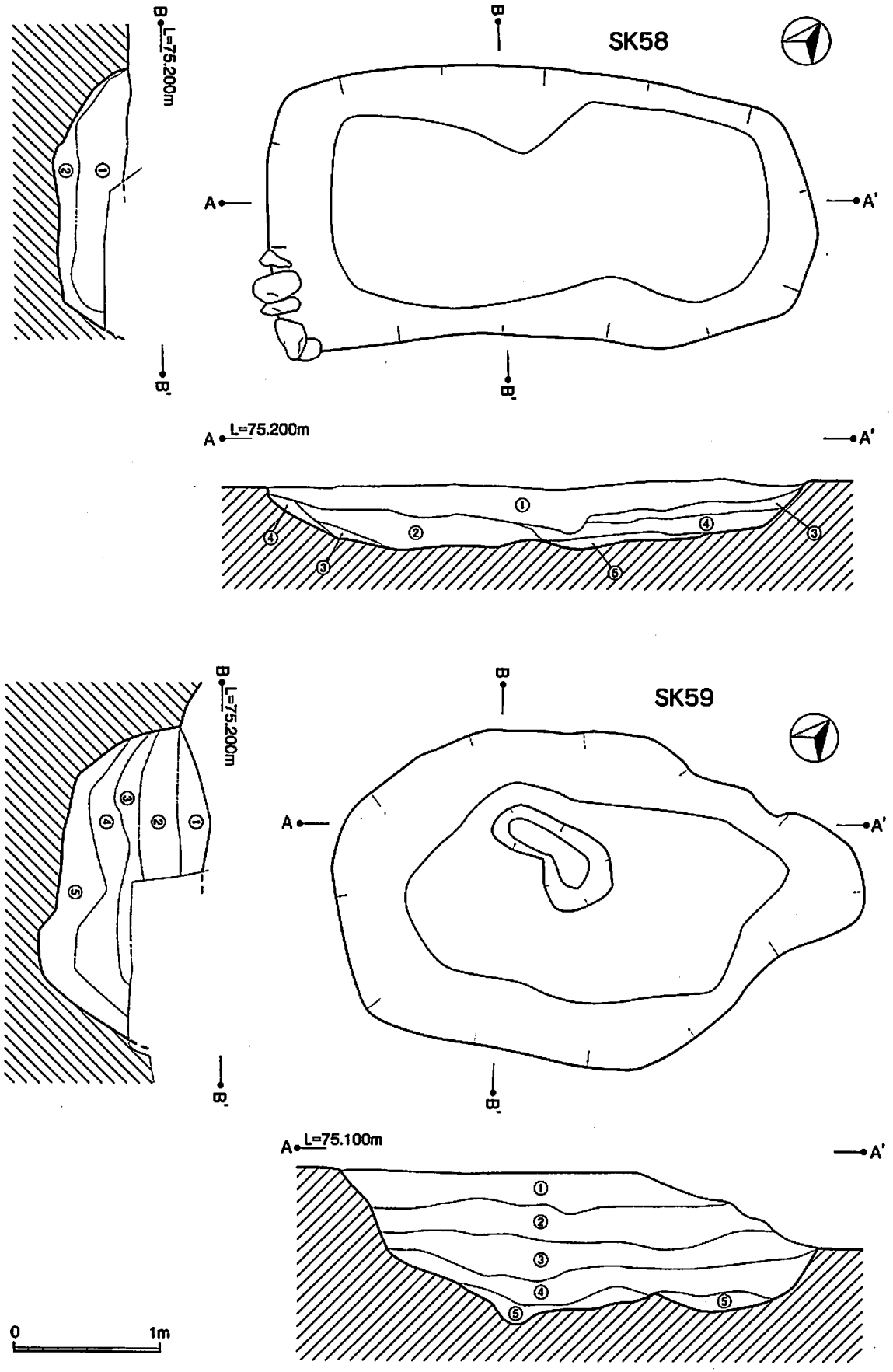
第26図　土壙（SK116・117）実測図及び出土遺物実測図（1）



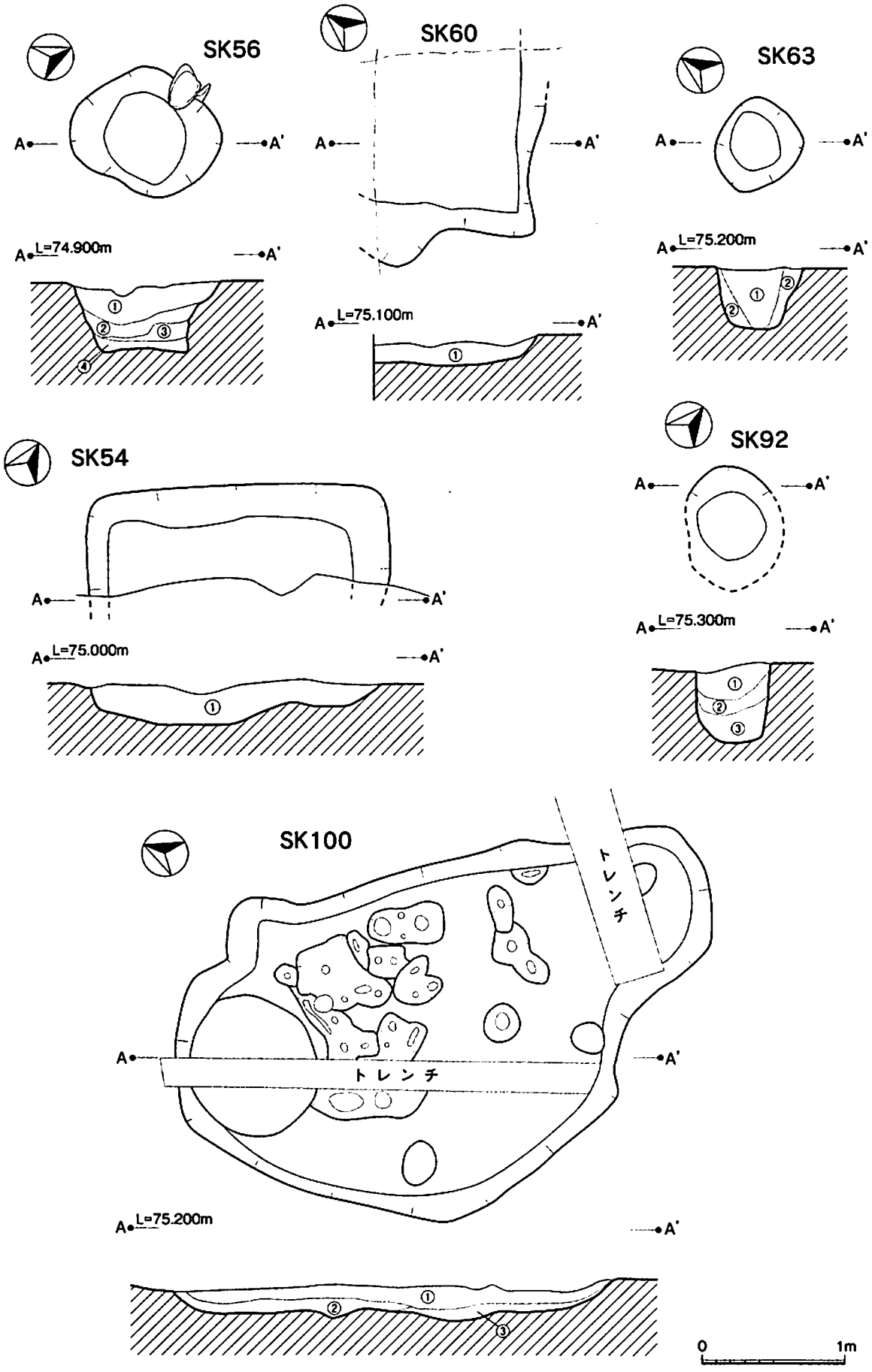
第27図　土壙（SK116・117）出土遺物実測図（2）



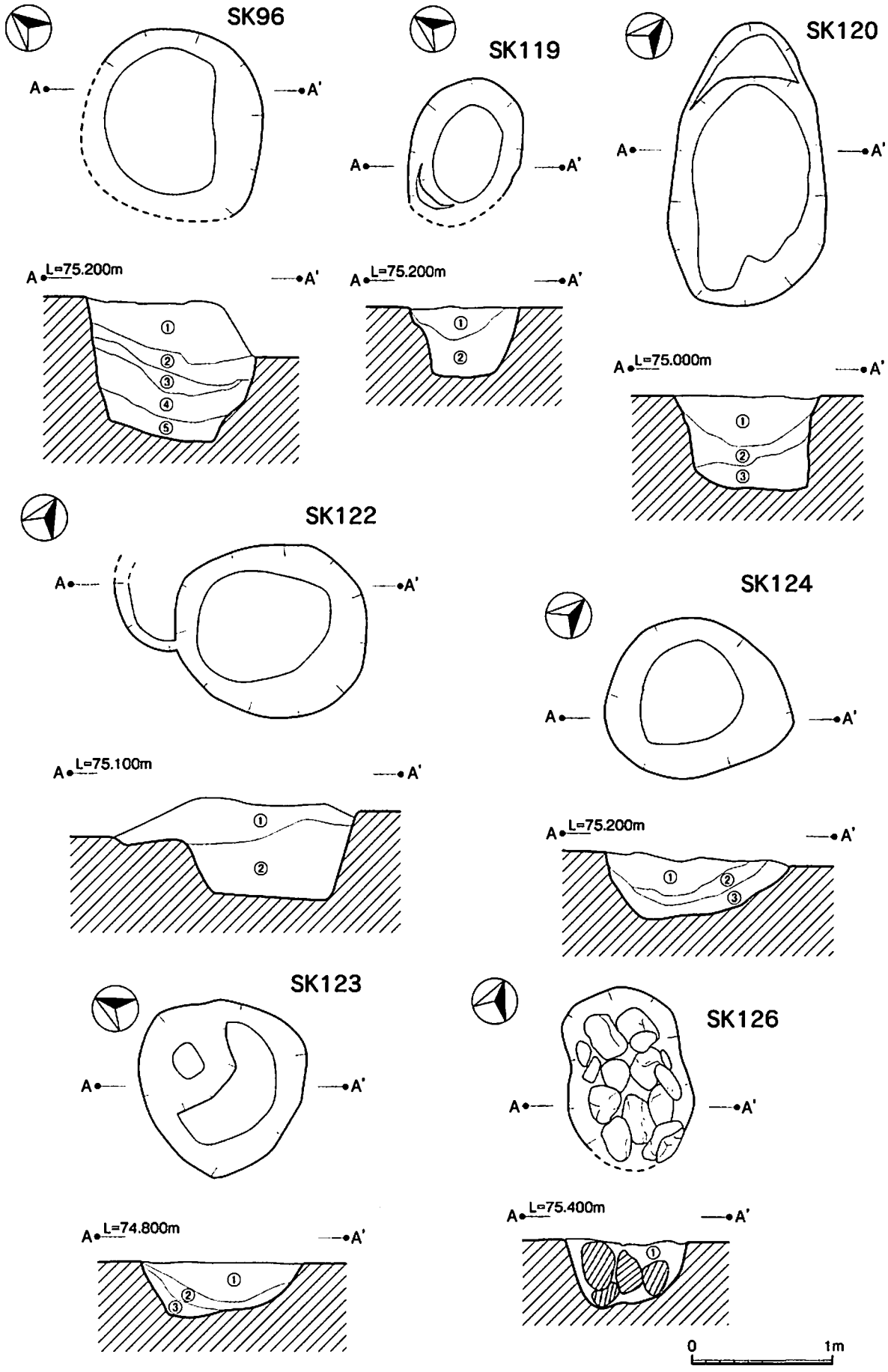
第28図　土壙（SK35・36・39・42・43・44・47・48・53・57）実測図



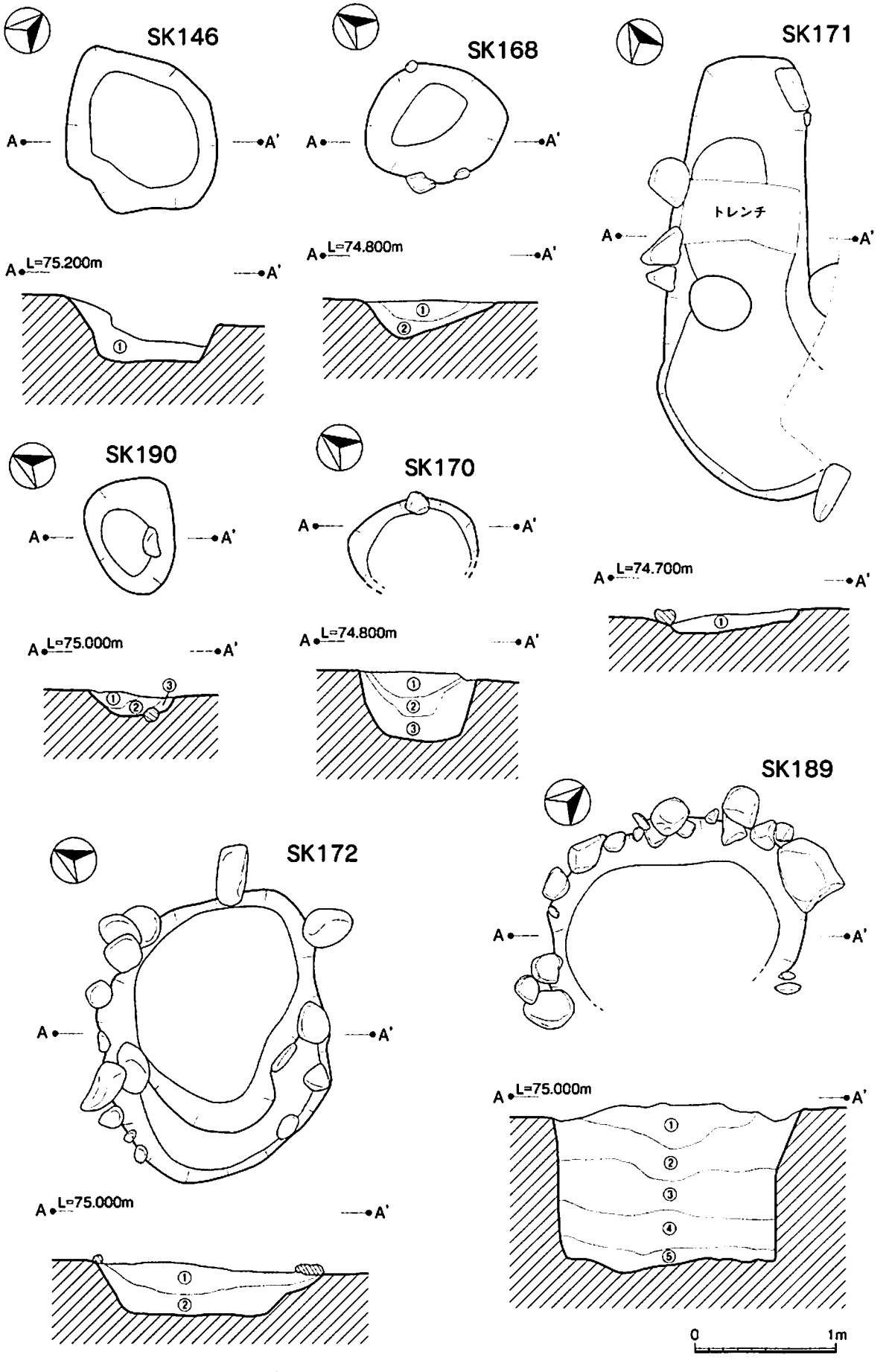
第29図　土壙（SK58・59）実測図



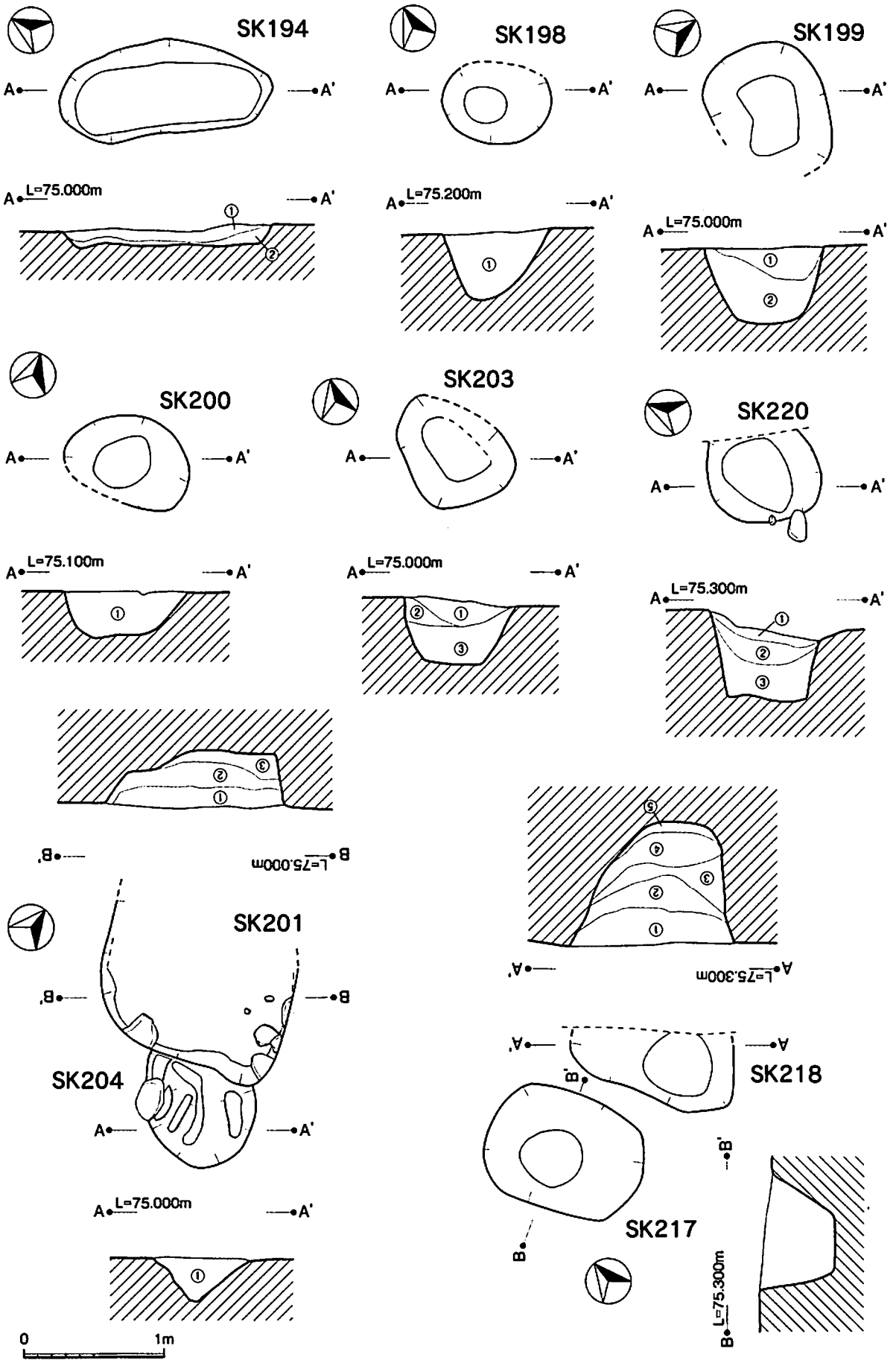
第30図　土壙（SK54・56・60・63・92・100）実測図



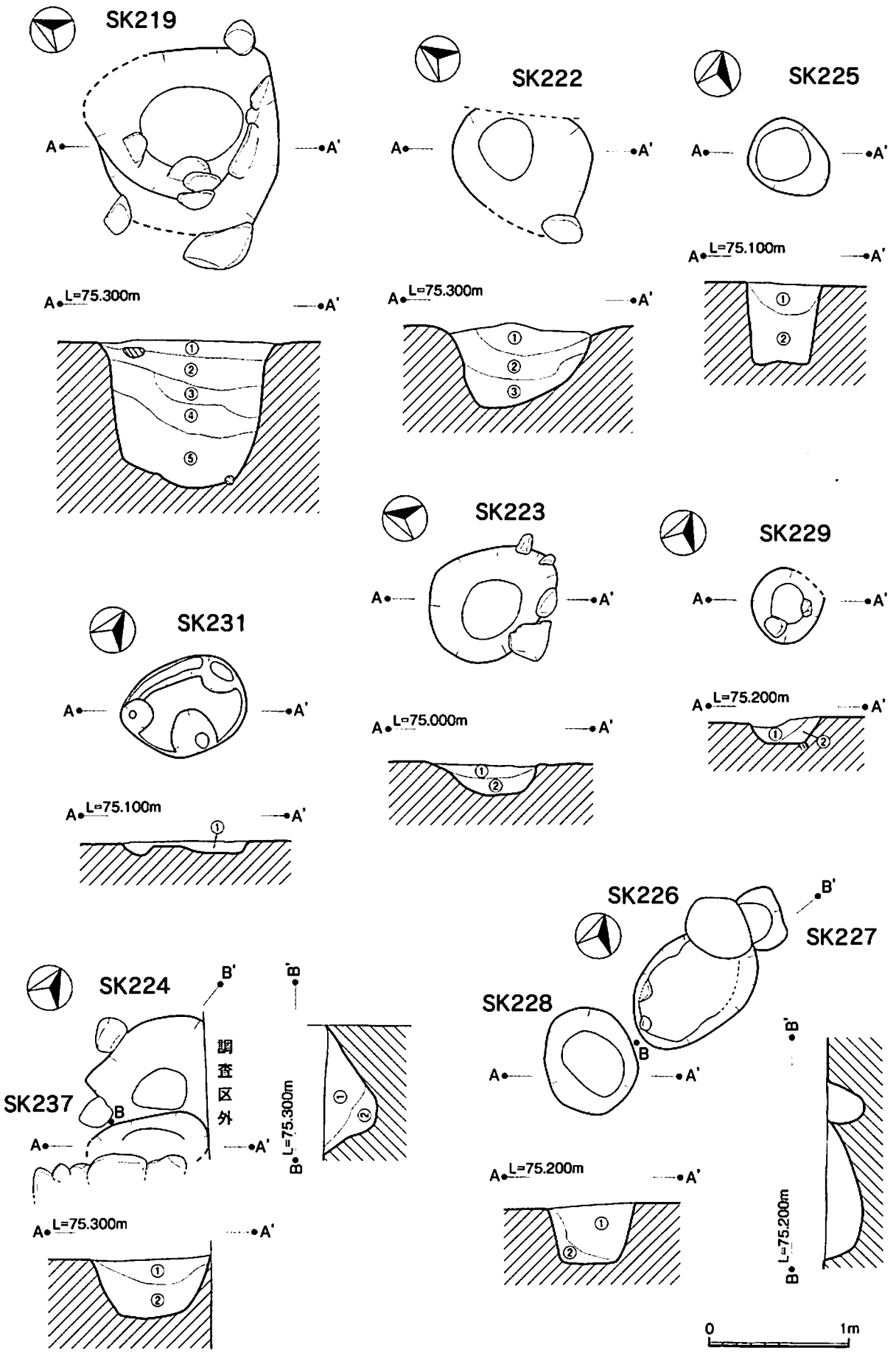
第31図　土壙（SK96・119・120・122・123・124・126）実測図



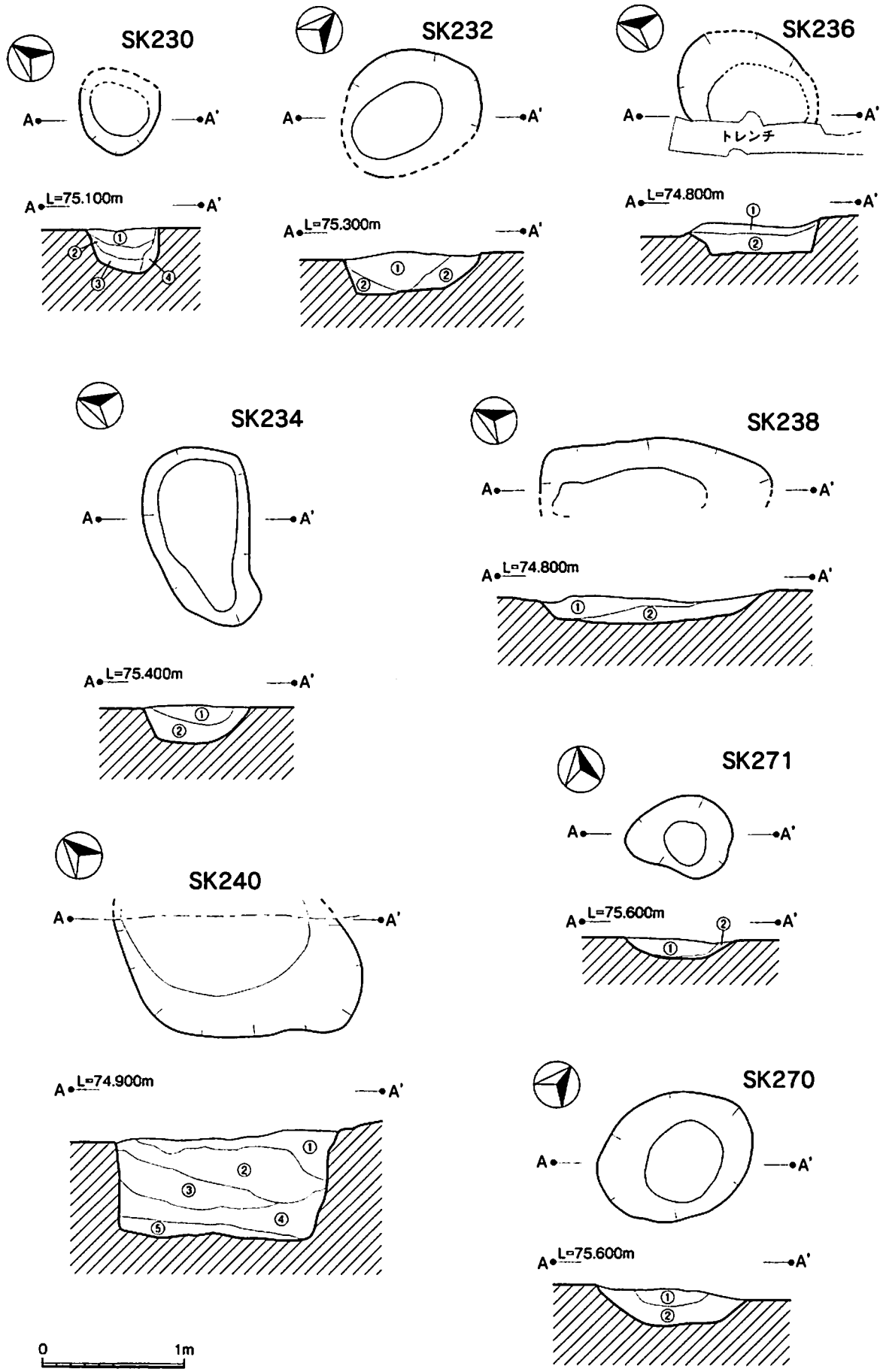
第32図　土壙（SK146・168・170・171・172・189・190）実測図



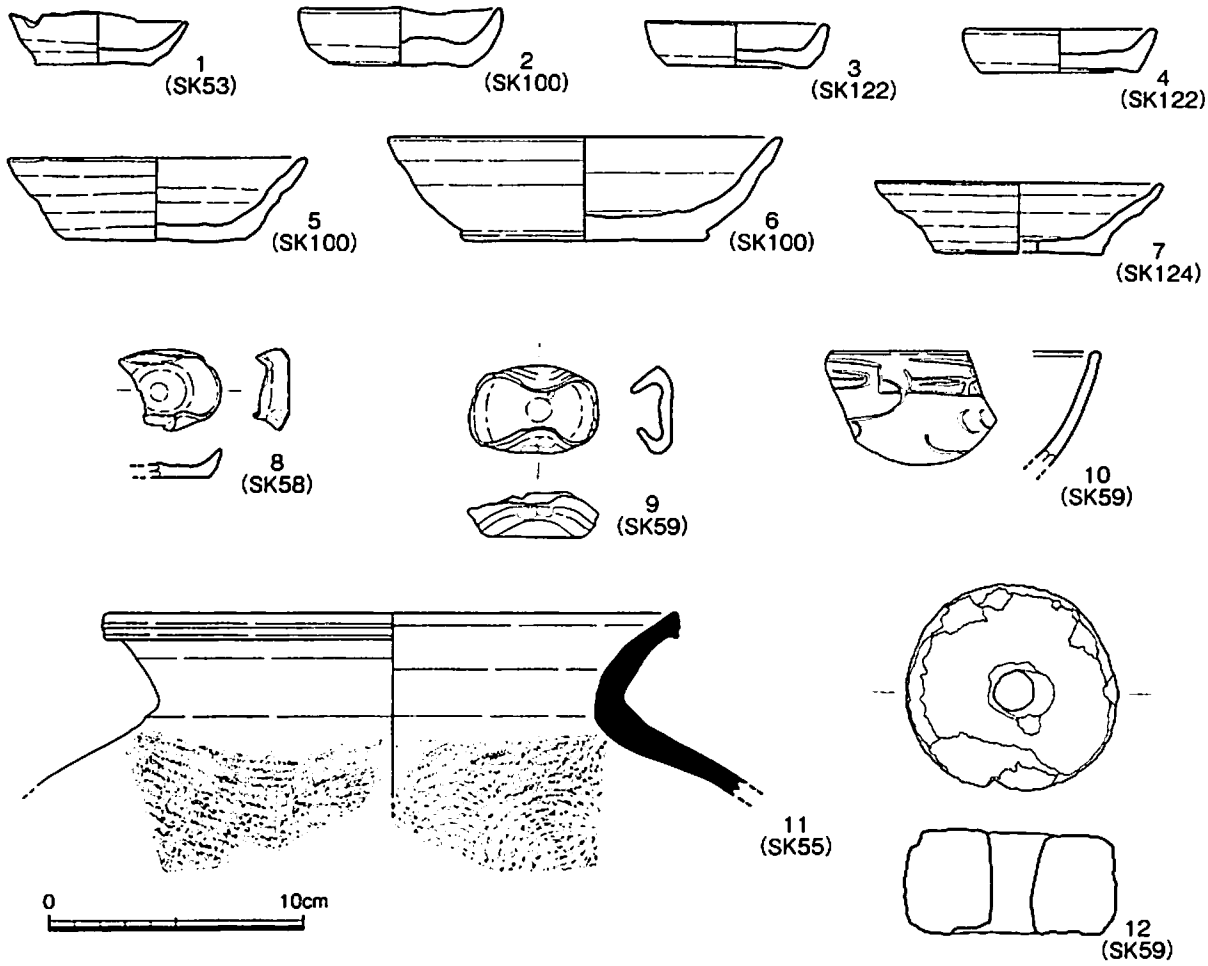
第33図　土壙（SK194・198・199・200・201・203・204・217・218・220）実測図



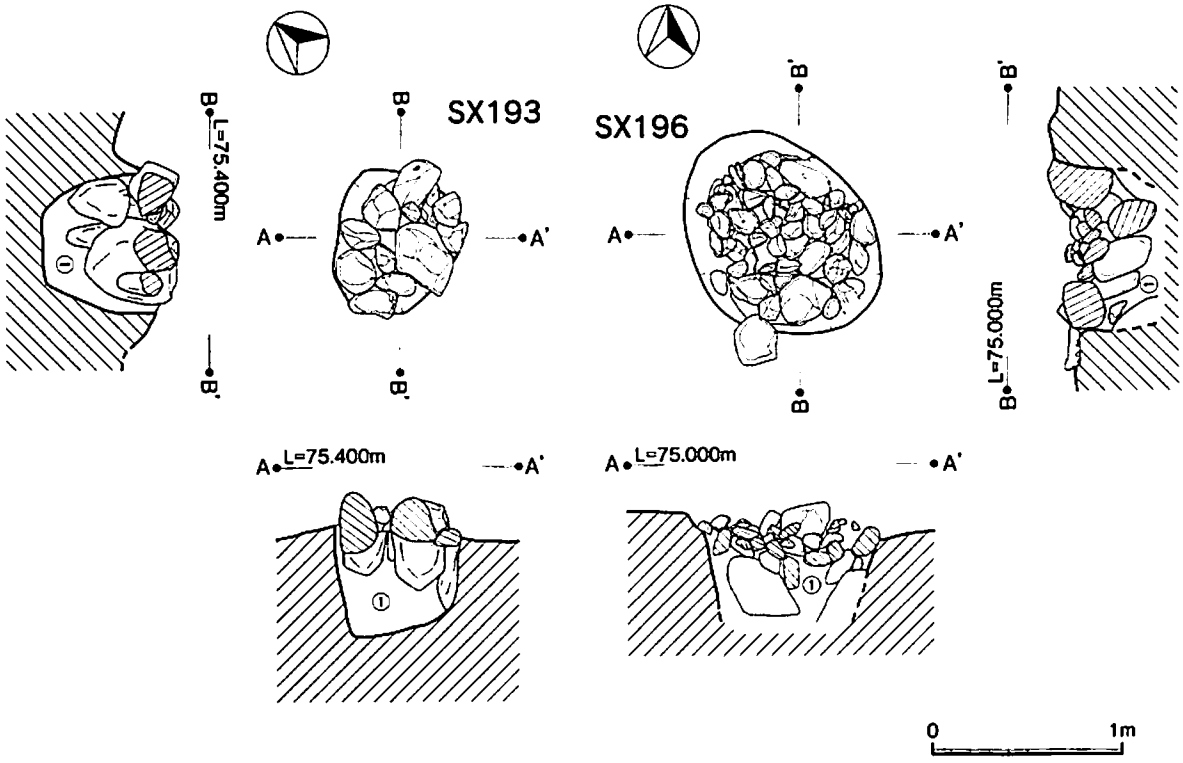
第34図　土壙（SK219・222・223・224・225・226・227・228・229・231・237）実測図



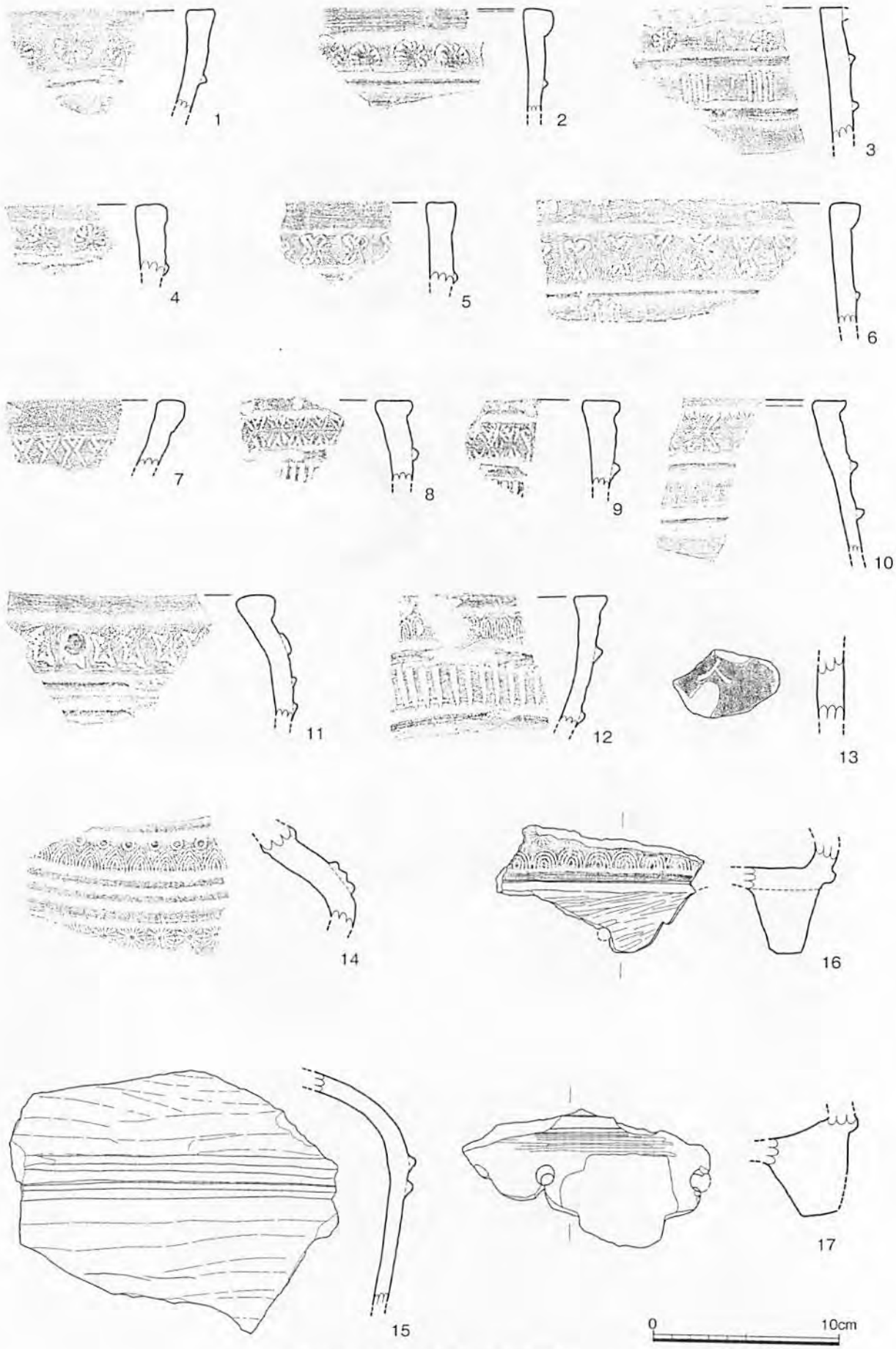
第35図　土壙（SK230・232・234・236・238・240・270・271）実測図



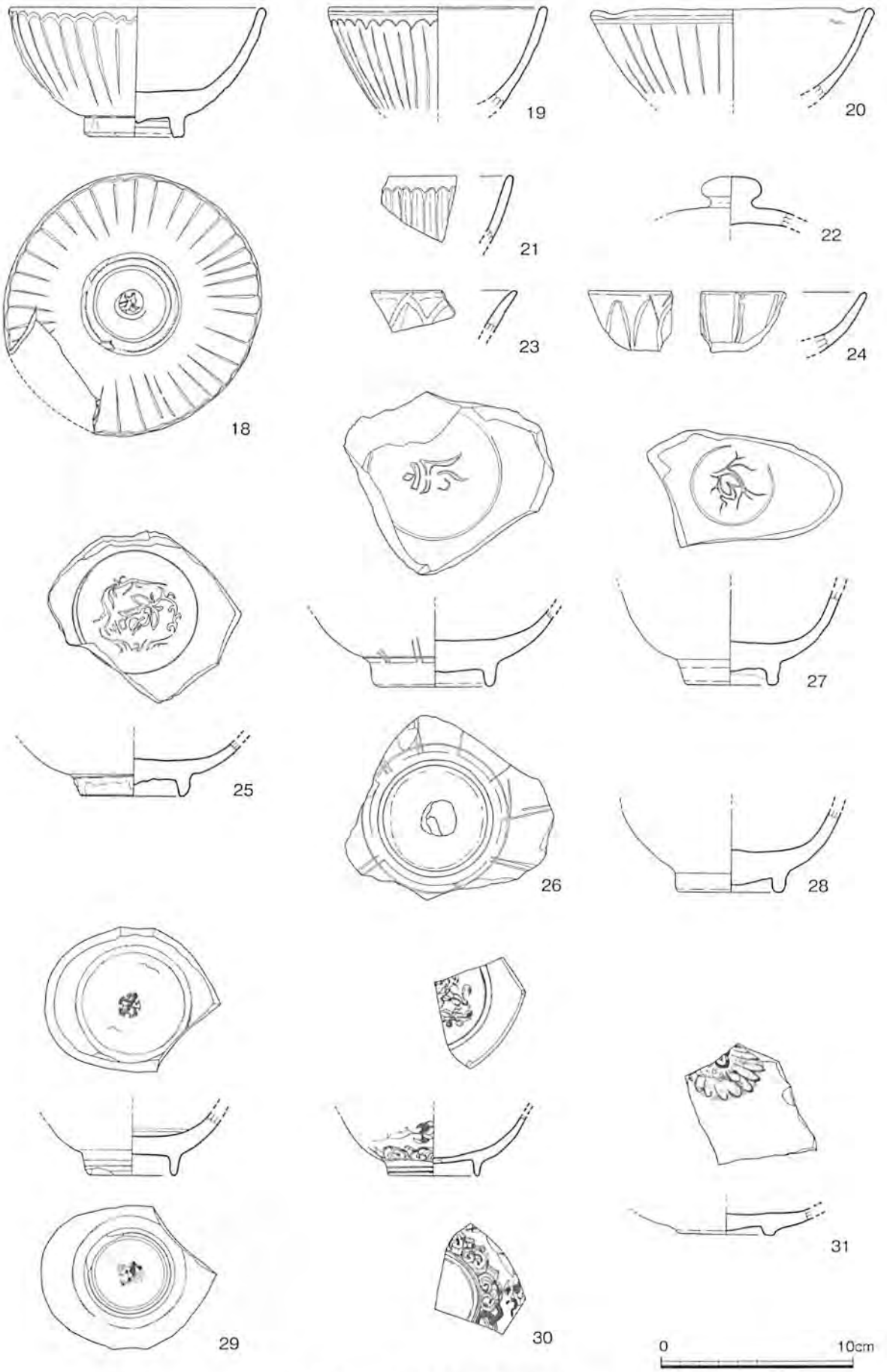
第36図　土壙（SK53・55・58・59・100・122・124）出土遺物実測図



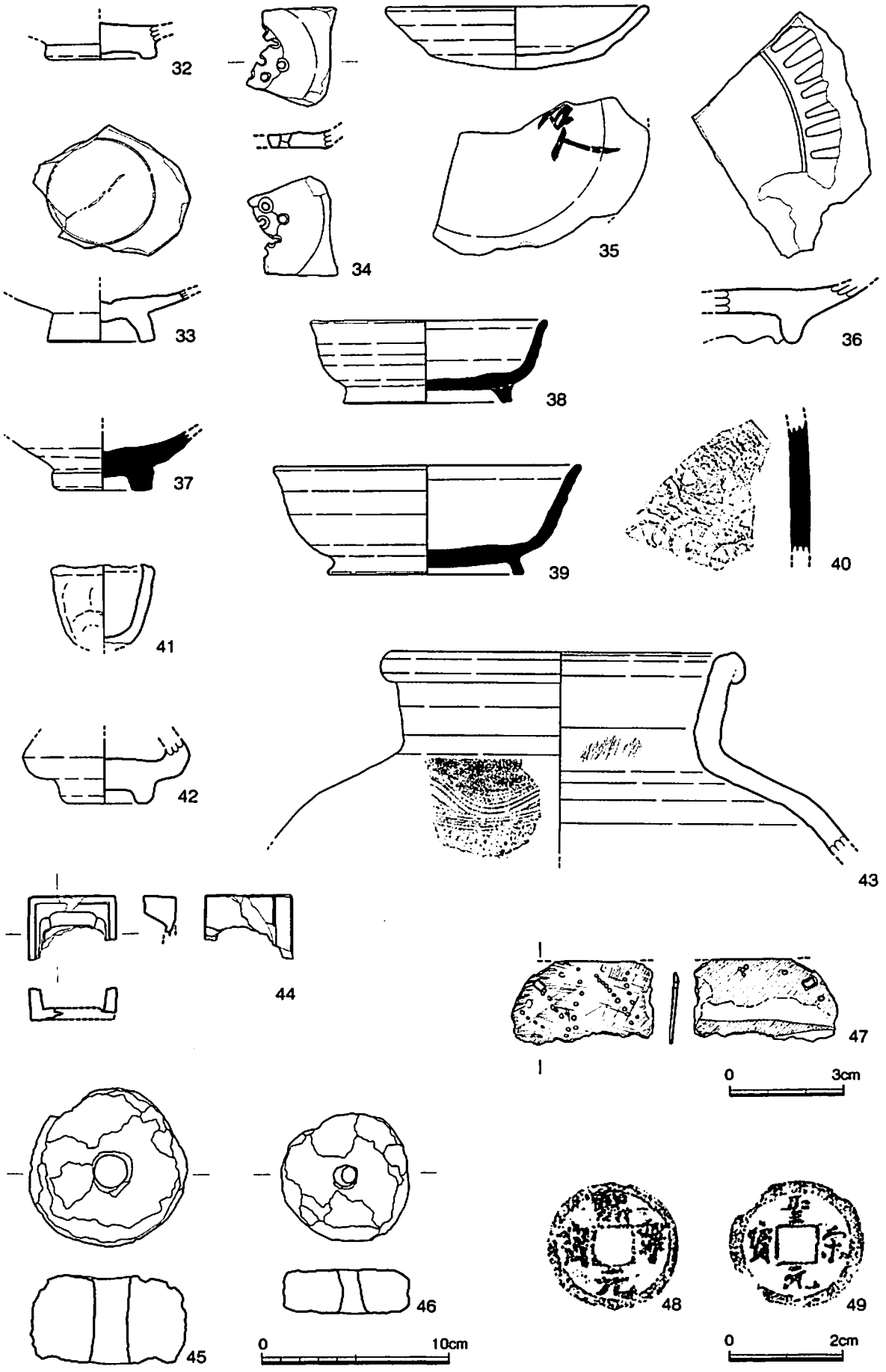
第37図　不明遺構（SX193・196）実測図



第38図　1区出土遺物実測図（1）



第 39 図　1 区出土遺物実測図（2）



第40図　1区出土遺物実測図（3）

4. その他

ここでは、3. 遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。

1区出土遺物（第38図～第40図・表15～表25）

第38図～第40図は1区の遺構以外から出土した遺物である。出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、表15～表25のとおりである。

第38図1～17は瓦質土器である。1～12は火鉢の口縁部片、14は火鉢の胴部片である。13は外器面に「人」の字の陰刻がある。15は茶釜片、16・17は火舎の脚部片である。

第39図18～21・23～28は青磁椀片、22は青磁蓋つまみ、29～31は染付椀片である。青磁椀片の中で、底部の厚みが確認できるものは肉厚で、外底部の一部は露胎である。露胎部が赤く発色しているものもあり、また26の見込みには梵字が確認できる。

第40図32・33は白磁椀片、34は土師器の香炉、35は皿の破片である。34は焼成後に内外器面から穿孔した穴が底部に5箇所確認できる。35の外底部には墨書があり、「舎人」と描かれていると思われる。36は青磁大皿片、37～40は須恵器の椀・高台付杯・甕の破片、41は坩堝片、42は不明製品、43は陶器の茶壺片、44は粘板岩製の硯片、45・46は軽石（凝灰岩）製の浮子、47は青銅製の飾り金具、48は古銭の熙寧元寶、49は古銭の聖宋元寶である。

（寸法は検出面で計測したもの）　（単位：m）

遺構名	遺構番号	長軸	短軸	深さ	備　考
堀跡	SD4・5	72.90～	2.60	2.10	遺物出土
溝跡	SD6	4.44～	0.64	0.32	
	SD7	8.34～	0.44	0.34	SD6を切る、遺物出土
	SD15	8.20～	0.78	0.90	
	SD16	25.11～	0.65	0.28	
	SD17	2.84～	1.16	0.72	
	SD18	8.80～	0.80	0.64	遺物出土
	SD29	4.10～	0.96	0.28	
	SD33	4.68～	1.40	0.40	土師器出土
	SD85	10.80～	1.30	0.90	遺物出土
	SD121	10.75～	1.30	0.90	遺物出土
	SD239	1.50～	1.10	0.70	
井戸跡	SE1	(2.05)	(1.85)	2.85	遺物出土
	SE2	(1.95)	(1.63)	1.40～	遺物出土
土壙	SK8	0.84	0.68	0.44	SK117を切る、土師器出土
	SK10	0.67	0.36	0.31	SK116を切る、土師器出土
	SK35	0.90～	0.38	0.12	
	SK36	1.22	0.78	0.60	
	SK39	1.23～	0.86～	0.30	
	SK42	1.20	1.04～	1.32	
	SK43	0.96	0.82	0.36	
	SK44	1.10	0.84～	0.98	SK47を切る
	SK47	0.96	0.72～	0.44	SK44に切られる
	SK48	0.74	0.44	0.47	
	SK53	0.98～	0.78	0.33	遺物出土
	SK54	2.12	0.64～	0.32	
	SK56	1.06	0.90	0.48	
	SK57	0.98	0.60～	0.27	
	SK58	3.75	1.80	0.46	遺物出土
	SK59	3.62	2.14	1.02	遺物出土
	SK60	1.48～	1.14～	0.32	
	SK63	0.64	0.60	0.42	
	SK92	0.88～	0.54	0.54	
	SK96	1.32～	1.26～	0.99	
	SK100	3.10	2.28	0.26	遺物出土
	SK116	0.65～	0.57	0.31	SK10に切られる、土師器出土
	SK117	0.70	0.50～	0.12	SK8に切られる、土師器出土
	SK119	1.06～	0.78	0.49	
	SK120	1.98	1.02	0.64	
	SK122	1.74	1.16	0.65	遺物出土
	SK123	1.24	1.14	0.39	

（寸法は検出面で計測したもの）　（単位：m）

遺構名	遺構番号	長軸	短軸	深さ	備　考
土壙	SK124	1.32	1.13	0.46	遺物出土
	SK126	1.30～	0.80	0.48	
	SK146	1.32	1.00	0.40	
	SK168	0.98	0.82	0.26	
	SK170	0.94	0.58～	0.48	
	SK171	3.10	0.97	0.17	
	SK172	1.98	1.58	0.36	
	SK189	1.77	1.24～	1.18	
	SK190	0.60	0.80	0.17	
	SK194	1.48	0.66	0.14	
	SK198	0.78	0.58～	0.47	
	SK199	0.89～	0.85	0.54	
	SK200	0.86	0.65	0.32	
	SK201	1.36	0.86～	0.38	SK204を切る
	SK203	0.90	0.64～	0.46	
	SK204	0.72	0.66～	0.32	SK201に切られる
	SK217	1.15	0.84	0.54	
	SK218	1.20	0.50～	0.87	
	SK219	1.26	1.30～	1.04	
	SK220	0.80	0.61～	0.63	
	SK222	1.00	0.76～	0.60	
	SK223	0.87	0.81	0.21	
	SK224	0.86～	0.68～	0.38	
	SK225	0.58	0.54	0.59	
	SK226	0.80～	0.68	0.28	
	SK227	0.44	0.26～	0.27	
	SK228	0.76	0.65	0.44	
	SK229	0.54	0.50	0.18	
	SK230	0.60～	0.54	0.31	
	SK231	0.88	0.71	0.10	
	SK232	1.07～	0.78～	0.28	
	SK234	1.22	0.74	0.27	
	SK236	1.02～	0.50～	0.26	
	SK237	0.82～	0.32～	0.43	
	SK238	1.60	0.50～	0.27	
	SK240	1.64	0.87～	0.82	
	SK270	1.12	0.90	0.28	
	SK271	0.75	0.56	0.14	
不明遺構	SX193	0.74	0.66	0.60	
	SX196	1.19	0.94	0.60～	

表4　1区検出遺構一覧表

遺構番号	層順	土層名	特　　徴
SE2	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。黄褐色の小さなブロックを全体的に含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。砂粒を多く含む。礫混入。
	③層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。上部に黄褐色の土をすじ状に含む。遺物も含む。
	④層	黄褐色土（Hue 10YR 5/6）	粘性なし、しまりなし。黒色の土をブロックで含む。
	⑤層	褐灰色土（Hue 10YR 4/1）	粘性なし、しまりあり。砂と小礫を含む。
	⑥層	にぶい黄褐色土（Hue 10YR 5/4）	粘性あり、しまりあり。大礫を含む。あまり混じりなし。
	⑦層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。大礫と焼土の小粒子を少量含む。
SD4 (B-B')	①層	にぶい黄褐色土（Hue 10YR 4/3）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒少し入る。
	②層	灰黄褐色土（Hue 10YR 4/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒とカーボン粒わずかに含む。小石大の礫もわずかに混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。カーボン粒わずかに含む。黄色い土と礫が混じる。
	④層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。焼土粒とカーボン粒を含む。黄色い砂がブロックで混じる。
	⑤層	にぶい黄褐色土（Hue 10YR 5/4）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒ごくわずかとカーボン粒を少し含む。
	⑥層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。焼土粒とカーボン粒を少し含む。
SD5 (A-A')	①層	にぶい黄褐色土（Hue 10YR 4/3）	粘性なし、しまりあり。焼土粒が入る。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土粒とカーボン粒を含む。小石大の礫が混じる。
	③層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒とカーボン粒をごくわずかに含む。
	④層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。焼土粒とカーボン粒をごくわずかに含む。黄色い土が混じる。
	⑤層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。全体に極小の焼土粒とわずかなカーボン粒を含む。
	⑥層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒とカーボン粒をごくわずかに含む。大きな礫が混じる。
	⑦層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒とカーボン粒をごくわずかに含む。
	⑧層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒をごくわずかに含む。礫が入る。
	⑨層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりあり。焼土粒がわずかに入る。粗砂と礫が混じる。
SD5 (B-B')	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土粒とカーボン粒を含む。礫が混じる。
	④層	にぶい黄褐色土（Hue 10YR 5/4）	粘性なし、しまりあり。焼土粒とカーボン粒を含む。礫もわずかに混じる。
	⑥層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒とカーボン粒わずかに含む。大きな礫が混じる。
	⑦層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒少量とカーボン粒わずかに含む。大小の礫が混じる。
SD6	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。焼土粒とカーボン粒を多く含む。全体的に明るい色調。
	②層	黒色土（Hue 7.5YR 1.7/1）	粘性あり、しまりなし。焼土粒をわずかに含む。小石と暗褐色土の２～3cm 程度のブロックが混じる。
SD7	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりなし。パサパサした感じ。黒色土が混じる。3cm 程度の小石をわずかに含む。
	②層	黒色土（Hue 7.5YR 1.7/1）	粘性あり、しまりあり。きめ細かく、わずかに黄色味を帯びる。わずかに小石含む。
	③層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性なし、しまりなし。サラサラしきめ細か。３層である。頭大から拳大、小石と多くの礫を含む。
SD15	①層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子を少量含む。小礫が混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。基本土層３層の土をブロックで含む。焼土の混じりなし。
	③層	黒色土（Hue 7.5YR 2/1）	粘性あり、しまりなし。少量の粗砂が混じる。
SD16 (A-A')	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒をごくわずかに含む。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。焼土粒をわずかに含む。
SD16 (B-B')	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。礫が混じる。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒をごくわずかに含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりあり。
SD17	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子を全体的に多く含む。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。焼土やカーボンを含まない。拳大の礫が混じる。
	③層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりなし。焼土は含まない。人頭大から拳大の礫と、粗砂が混じる。
SD18	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。焼土の粒子とカーボンを多量含む。遺物の小破片が上層に多く混じる。
	②層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子を少量含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土もカーボンも含まず。砂を少量含む。大きな土器片が混じる。
SD29	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりなし。焼土の粒子とカーボンの小粒子を多量含む。遺物は小破片が多く混じる。小礫と砂も混じる。
SD33 (A-A')	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。焼土粒とカーボンと鉄分をごくわずかに含む。小礫が混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土とカーボンを含む。多量の土器と礫が混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子を含む。小さな礫が混じる。
SD85 SD121 SD239	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。褐色の粘土を大きなブロックで、黄褐色の小ブロックと粗砂を含む。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。焼土の小粒子とカーボンを多量含む。
	③層	黒色土（Hue 7.5YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子と小礫を少量含む。
	④層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性あり、しまりあり。３層の土をブロックで、小礫と焼土の小粒子を少量含む。
	⑤層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりなし。焼土の小粒子と小礫を少量含む。
SK10	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。茶色土がブロックで、焼土とカーボンが少量混じる。
SK35	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子とカーボンを多く含む。オレンジ色の土（3層）をブロックで含む。遺物は小破片。
SK36	①層	褐色土（Hue 10YR 4/4）	粘性あり、しまりあり。暗褐色土がブロックで、焼土とカーボンも含む。混じり激しい。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを微量含む。オレンジ色の砂質土も混じる。
SK39	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/1）	粘性なし、しまりあり。鉄分を含む。小礫わずかに入る。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。鉄分を含む。全体に 2mm 大のカーボンを含み、焼土が入る。
SK42	①層	橙色土（Hue 7.5YR 6/6）	粘性あり、しまりあり。黒色の土をブロックで、小礫を少量含む。
	②層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりなし。焼土の小粒子少量、大礫を多量含む。
SK43	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンの小粒子を多く含む。若干砂を含む。
	②層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。３層の土をブロックで、焼土とカーボンの小粒子も含む。
SK44	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。焼土と黒色土が交互やブロックで、カーボンも混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。やや砂と小礫混じる。焼土をブロックで含む。
	③層	黒色土（Hue 7.5YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンの小粒子を含む。遺物多く混じる。
	④層	黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンの小粒子が混じる。
	⑤層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりなし。①の土がブロックで混じる。
SK47	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。粘土ブロックが大きく多量に、焼土粒とカーボンを微量含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性あり、しまりなし。粘土ブロックと焼土を含む。カーボンの 5cm 以下を全体的に含む。下層に小礫を含む。

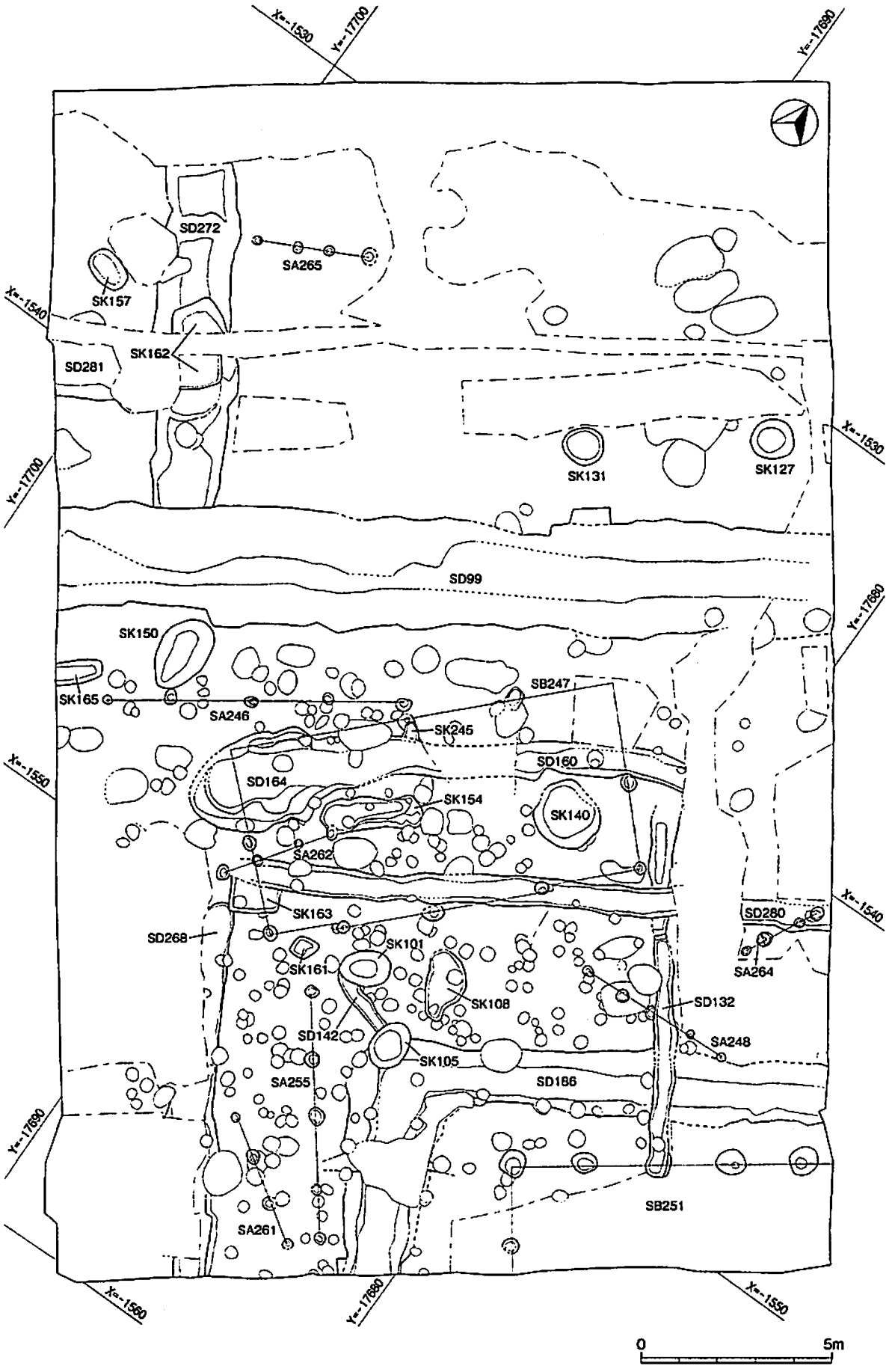
表５　１区検出遺構土層注記表（1）

遺構番号	層順	土層名	特　　徴
SK48	①層	―	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子多量に、カーボンが少量混入。
	②層	―	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子少量混入。
SK53	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土をブロックで多量に、小礫を少量含む。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子を少量含む、カーボンの小粒子混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。焼土の大粒子を多く、３層の土も少量含む。
SK54	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性なし、しまりなし。極小の焼土が全体に混じる。カーボンと小礫わずかに含む。
SK56	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性なし、しまりなし。焼土とカーボンの小粒子を少量含む。拳大の礫と粗砂を多量に含む。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。①に比べ大きな焼土とカーボンを多量に含む。
	③層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを大きなブロックで、粗砂も多量に含む。
	④層	黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。小礫を多量に含む。
SK57	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。焼土とカーボンの小粒子を少量含む。小礫も混じる。
SK58	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりなし。カーボンとオレンジ色の粒（焼土）を、まばらに微量含む。１～3cmの小礫混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性なし、しまりなし。カーボンとオレンジ色の粒（焼土）を、微量含む。
	③層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性なし、しまりなし。全体的に焼土ブロックを、カーボンをまばらに含む。
	④層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。焼土粒をまだらに、土器片を少量含む。
	⑤層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性あり、しまりあり。粘土ブロック（ニガ？）が混じる。焼土粒と白色礫を少量含む。③に類似する土が入る。
SK59	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりなし。上層に焼土のブロックが部分的に、下層に焼土の小粒子を多く含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。焼土の小粒子を多く含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。黒色の土をブロックで少量含む。
	④層	黒色土（Hue 7.5YR 2/1）	粘性あり、しまりなし。焼土の小粒子を上部に、３層の土をブロックで含む。
	⑤層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりなし。焼土やカーボンは殆ど含まず、白色の小粒子を少量含む。
SK60	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性なし、しまりあり。黄褐色の土をブロックで多量含む。小礫も少量含む。
SK63	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。白色礫と粘土ブロックを含む。焼土粒も微量含む。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性弱、しまり弱。白色粒子と粘土ブロックを含む。
SK92	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性あり、しまりあり。黄色の粘土をブロックで、大きなカーボンのブロックと、焼土の小粒子を少量含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。カーボンの小粒子混じる。黄色粒土ブロックを少量含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりなし。黒色土と黄色土をブロックで、焼土も多量に含む。
SK96	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性あり、しまりなし。礫（河原石）、土器片、焼土ブロック、黒色土（２ｂ層？）を含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。粘土ブロックを含み、カーボンも微量含まれる。黄褐色土（３層？）混入。
	③層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性あり、しまりなし。褐色土が帯状で入り、カーボンも微量含む。
	④層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。小礫を含み、砂質が強い。カーボンを微量含む。
	⑤層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。焼土粒とカーボンを含む。
SK100	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりなし。３層の土を小さなブロックで、焼土を小粒子で含む。拳大の石を多く含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。焼土とカーボンを小粒子で含む。３層の土を小さなブロックで含む。
	③層	暗褐色土（Hue 10YR）	粘性あり、しまりあり。②の土と、３層の土を小さなブロックで含む。
SK116	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。黄褐色の土を大きなブロックで含む。若干、粗砂が混じる。
SK117	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりなし。若干粗砂を含みパサパサ感がある。焼土とカーボンも多量に含む。
SK119	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりなし。３層の土を小さなブロックで含む。拳大の礫が混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。３層の土を大きなブロックで含む。カーボンの小粒子を少量混じる。
SK120	①層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。３層がまばらに混じる。小礫粒を含む。カーボンと焼土を均一に多く含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。カーボンを含む。小礫と焼土が微量混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりあり。黄褐色粘土を微量含む。黒褐色土がブロックで混じる。
SK122	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。焼土と小土器片を多量の含む。人頭大の石が数個混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。焼土の小粒子を多量含む。小礫と大きな遺物も混じる。
SK123	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子とカーボンを少量含む。小礫も混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。拳大の礫と焼土粒を多量に含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。３層の土をブロックで多く含む。下層に人頭大の石が多量あり。
SK124	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子とカーボンを多量含む。小礫が少量混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。黄褐色の土をブロックで、焼土とカーボンを少量含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを微量含む。
SK126	①層	にぶい橙色土（Hue 7.5YR 6/4）	粘性なし、しまりあり。下層に人頭大の石を多量に含む。
SK146	①層	褐色土（Hue 10YR 4/4）	粘性あり、しまりあり。白色粒子を均等に含み、また礫を含む。
SK168	①層	明褐色土（Hue 7.5YR 5/6）	粘性あり、しまりなし。焼土と小礫を少量含む。
	②層	暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。小礫が少量混じる。
SK170	①層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりなし。下層に、３層の土を若干含む。焼土の小粒子と、小礫が少量混じる。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。３層の土をブロックで多量に含む。焼土の小粒子と、小礫が少量混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。３層の土を少量含む。焼土の小粒子が若干混じる。
SK171	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。４層の土が混じる感じで、白い粒が混入。極小の焼土粒わずかに入る。
SK172	①層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボン、土器片を多く含む。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性なし、しまりなし。礫と少量の焼土を含む。ニガ土のようであるがやわらかい。
SK189	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。焼土粒とカーボン粒をごくわずか含む。礫が混じる。
	②層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土とカーボンを含む。小石大の礫少量混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。４層の土が混じる。④の赤い土がブロック状に少し入る。極小の焼土粒が１～２点と礫が混じる。
	④層	褐色土（Hue 7.5YR 4/3）	粘性なし、しまりあり。焼土粒が数点と礫が混じる。
	⑤層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。礫が混じる。
SK190	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。焼土粒とカーボン粒が少し混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。３層の土混じる。焼土粒とカーボン粒をごくわずかに含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性小、しまり大。３層の土混じる。②よりやや多い焼土粒とカーボン粒をごくわずかに含む。
SK194	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性あり、しまりあり。下層に焼土の帯が入る。白色粒子と礫をまばらに含む。土器片が微量入る。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。①に比べやわらかく、フカフカする。白色粒子と焼土を所々に含む。
SK198	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性あり、しまりあり。礫、カーボン、焼土を含む。

表６　１区検出遺構土層注記表（2）

遺構番号	層項	土層名	特　　徴
SK199	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを微量含む。②に比べやわらか。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性あり、しまりあり。上部に３層の土が混じる。焼土とカーボン多量に含む。
SK200	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。
SK201	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりなし。焼土の小粒子を少量、粗砂を多量に含む。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。３層の土の小さなブロックと、小礫を少量含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性なし、しまりなし。焼土の小粒子と小礫を少量含む。
SK203	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。３層の土と、焼土とカーボンの小粒子を多量に含む。
	②層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子と小礫を少量含む。
	③層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。小礫を少量含む。
SK204	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。３層の土を小さなブロックと、小礫を少量含む。
SK218	①層	暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボンを大きな粒子で多量に含む。小礫も多量に混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボンを多量に含む。カーボンのブロックあり。
	③層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。
	④層	暗褐色土（Hue 7.5YR 3/4）	粘性あり、しまりあり。焼土を多量に、カーボンを少量含む。
	⑤層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性なし、しまりなし。カーボンを多量に含む。
SK219	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。３層の土を小ブロックで、礫を少量含む。
	②層	暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）	粘性あり、しまりなし。焼土とカーボンをブロックで多量に含む。
	③層	暗褐色土（Hue 7.5YR 3/4）	粘性あり、しまりなし。焼土を帯状に、カーボンと礫も多量に含む。
	④層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。
	⑤層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりなし。フカフカしている。焼土とカーボンを少量含む。
SK220	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。焼土と粗砂を多量に含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。３層の土をブロックで含む。焼土とカーボンと礫を少量含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。礫混入なし。
SK222	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりなし。焼土とカーボンの小粒子を多量に含む。粗砂も多量に混入。
	②層	暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）	粘性あり、しまりなし。焼土とカーボン少量、拳大の礫を多量に含む。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりなし。焼土とカーボンの大きな粒子を多量に含む。３層の土も、ブロックで少量含む。
SK223	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。焼土と２～3cm大のカーボンを多量に含む。砂が少量混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。焼土と小さなカーボンを少量含む。礫が多量混じる。
SK224	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボンの小粒子を多量に含む。小礫も少量混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子を少量含む。小礫も多く混じる。
SK225	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。３層の土と焼土とカーボンの小粒子を多量に含む。
	②層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを①より大きな粒子で多量に含む。３層の土も大きなブロックで入る。
SK226	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンの小粒子を多量に含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。礫も少量混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。３層の土をブロックで混じる。
SK227	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。３層の土を小さなブロックで含む。礫と粗砂混じる。
SK228	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。ニガに似ている。小礫が多量混じる。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。３層の土をブロックで多量に含む。
SK229	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボン小粒子と粗砂を多量に含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。３層の土をブロックで多量に含む。焼土とカーボンを少量、黒色土混じる。
SK230	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。粗砂混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンの小粒子を多量に含む。粗砂混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。３層の土をブロックで含む。混じり少ない。
	④層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。３層の土をブロックで含む。礫混じる。
SK231	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。３層の土と黒色のブロックをまだらに含む。
SK232	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンの小粒子を少量含む。粗砂多量に混じる。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性あり、しまりあり。焼土の小粒子を少量含む。礫混じる。
SK234	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンの小粒子を多量に含む。大きな礫混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。３層の土をブロックで、焼土とカーボンを多量に含む。巨大な石が多量に混じる。
SK236	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。３層の土をブロックで、焼土とカーボンの小粒子を多量に含む。礫混じる。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。３層の土をブロックで含む。粗砂混じる。
SK237	①層	暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンの小粒子を少量、小礫を多量含む。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。３層の土を小ブロックで少量、小礫を多量含む。
SK238	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。ニガに似ている。小礫が多量混じる。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性なし、しまりあり。３層の土をブロックで多量に含む。
SK240	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。
	②層	黄褐色土（Hue 10YR 5/6）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを少量含む。①がブロックで混じる。
	③層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンと礫を少量含む。
	④層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンを微量含む。
	⑤層	褐色土（Hue 10YR 4/6）	粘性あり、しまりあり。主に３層土と暗褐色土が混じる。
SK270	①層	灰黄褐色土（Hue 10YR 4/2）	粘性なし、しまりあり。焼土粒とカーボン粒をわずかに含む。礫混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボン粒をわずかに含む。礫混じる。
SK271	①層	褐色土（Hue 10YR 4/4）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボンを含む。小礫が混じる。
	②層	にぶい黄褐色土（Hue 10YR 4/3）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒とカーボン粒を含む。
SX193	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりなし。粗砂を多く、焼土とカーボンを多量に含む。
SX196	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。カーボン粒少量含む。上層は10cm程の石だが、下層にいくほど大きな礫が混じる。

表７　１区検出遺構土層注記表（3）



第41図　2区遺構配置図（S=1/150）

第3節　2区の調査

1. 遺構分布（第3図・第41図）

第41図の2区遺構配置図中で、一点破線で表現した箇所は撹乱されている箇所である。2区で検出した遺構は、掘立柱建物跡2棟、柵列跡7基、堀・溝跡10条、土壙14基である。

遺構の分布状況を見ると、調査区のほぼ中央部に99号堀跡（SD99）がほぼ東西方向に伸びている。この堀跡の南側に247号掘立柱建物跡（SB247）や柵列跡・土壙の大半が分布している。調査区の南東隅にほぼ直角屈曲した186号堀跡(SD186)があり、その南側に251号掘立柱建物跡(SB251)がある。SD99の北側に、272･281号溝跡（SD272･281）、127･131･157･162号土壙（SK127･131･157･162）、265号柵列跡（SA265）が分布している。

2. 遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は第42図～第52図・表8～表10のとおりである。以下は各遺構を概観する。

(1) 掘立柱建物跡

247号掘立柱建物跡【SB247】（第42図）

SB247は2間×4間の側柱建物と考えられる。建物の主軸はN44°Eで99号堀跡（SD99）が伸びる方向からやや南側に振れる。

251号掘立柱建物跡【SB251】（第42図）

SB251は1間×4間分を確認し、側柱建物と思われる。建物全体の規模は調査区外に柱穴が存在すると思われるので不明である。建物の主軸はN51°Eで186号堀跡（SD186）と同じである。

(2) 柵列跡

246号柵列跡【SA246】（第43図）

SA246の柱列の軸はN55°Eで、SD99とほぼ並行している。ほぼ東西に並ぶ5つの柱穴からなっている。柱列の長さは7.8m（約25.8尺）で、柱穴は直径28～44cm、深さ12～20cmで、下端レベルは一定でない。

248号柵列跡【SA248】（第43図）

SA248の柱列の軸はN88°Eで、5つの柱穴からなっている。柱列の長さは4.1m（約13.5尺）で、柱穴は直径20～36cm、深さ13～18cmで、下端レベルは一定でない。

255号柵列跡【SA255】（第43図）

SA255の柱列の軸はN40°Wで、ほぼ南北に並ぶ5つの柱穴からなっている。柱列の長さは6.6m（約21.8尺）、柱穴は直径28～44cm、深さ9～22cm、下端レベルは一定でない。

261号柵列跡【SA261】（第43図）

SA261の柱列の軸はN58°Wで、4つの柱穴からなっている。柱列の長さは3.6m（約11.9尺）、柱穴は直径24～44cm、深さ10～18cm、下端レベルは一定でない。

262号柵列跡【SA262】（第43図）

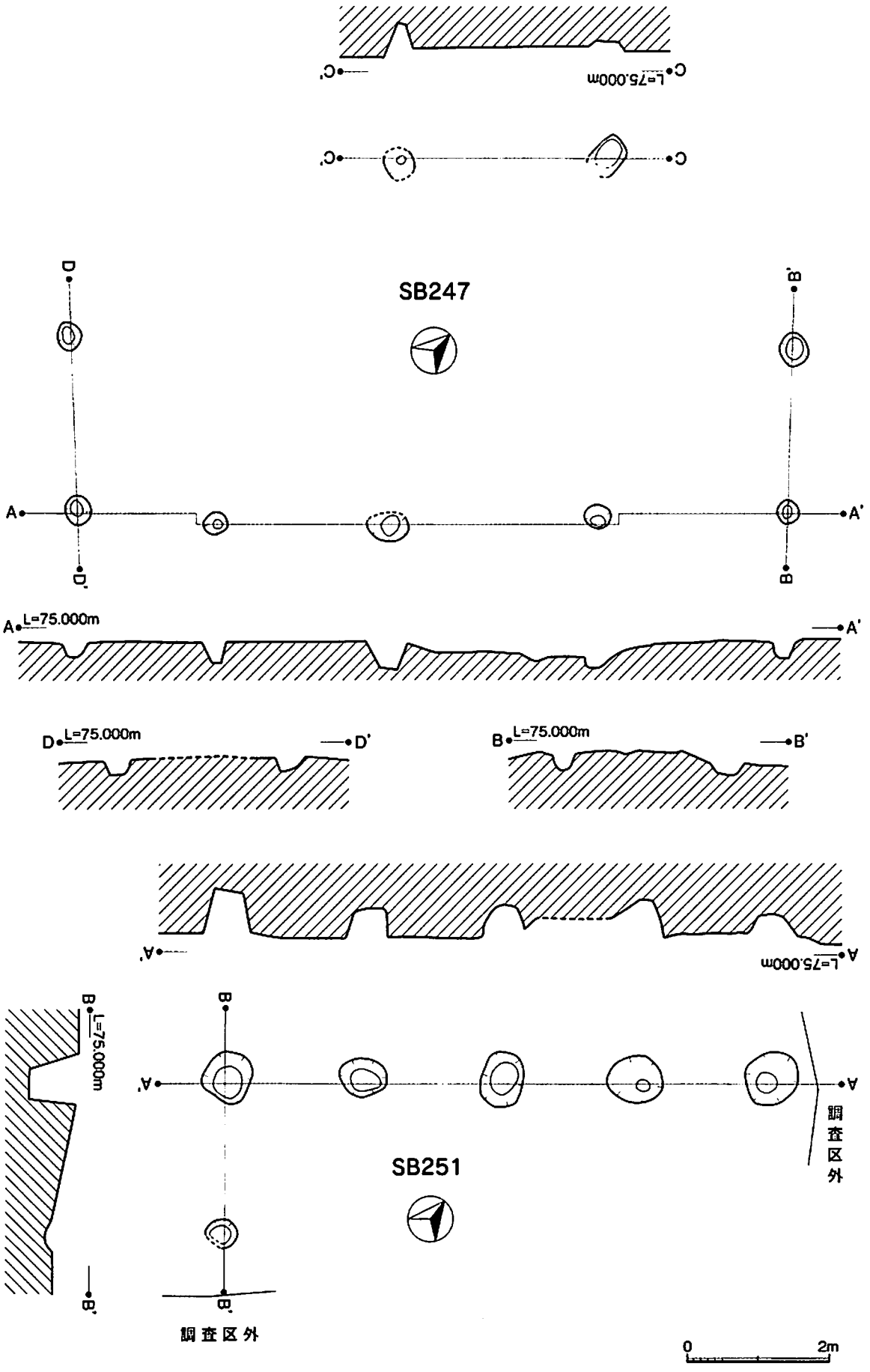
SA262の柱列の軸はN33°Eで、4つの柱穴からなっている。柱列の長さは3.0m（約9.9尺）、柱穴は直径18～34cm、深さ6～20cmで、下端レベルは一定でない。

264号柵列跡【SA264】（第43図）

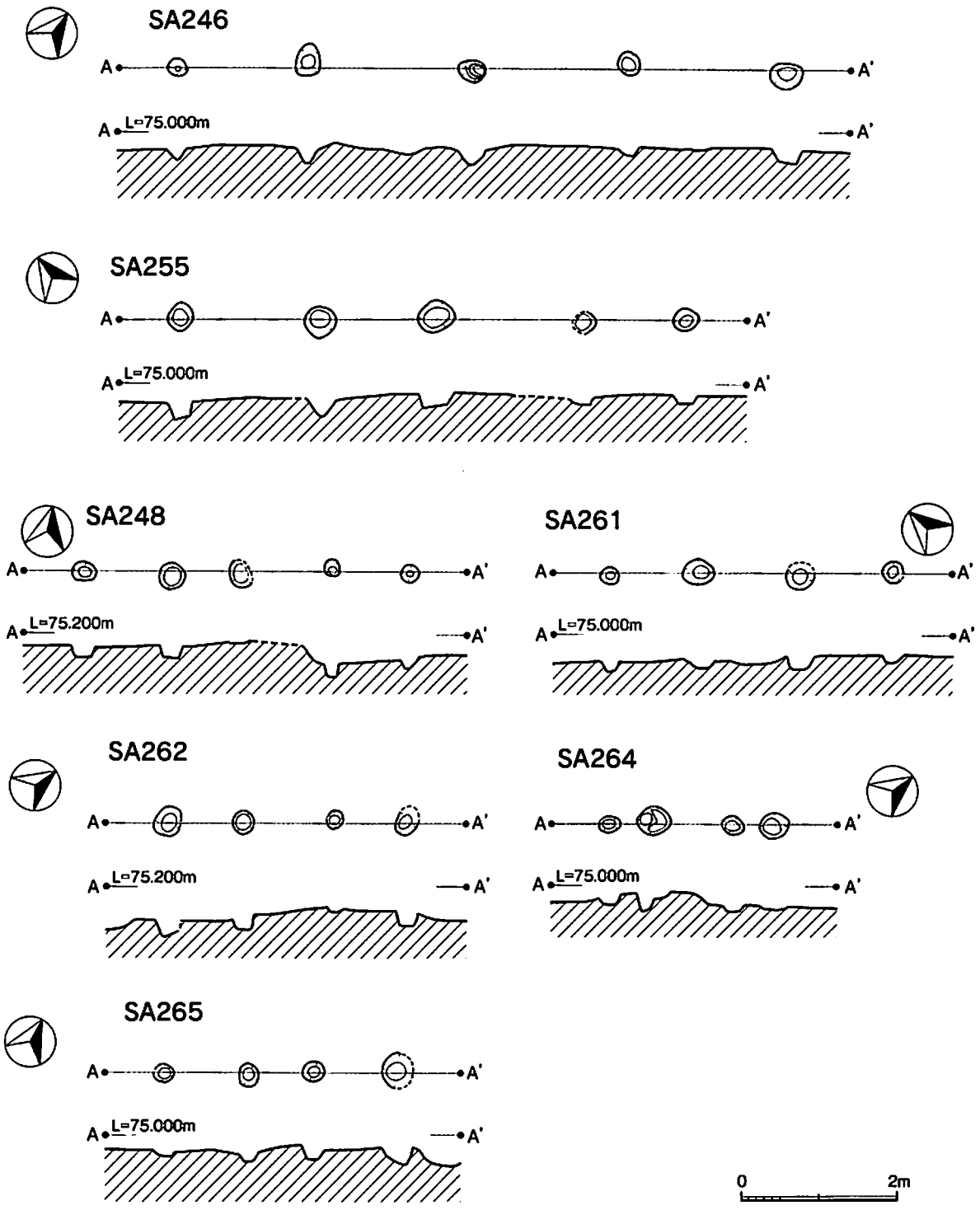
SA264の柱列の軸はN25°Eで、4つの柱穴からなっている。柱列の長さは2.1m（約6.9尺）、柱穴は直径28～44cm、深さ6～28cmで、下端レベルは一定でない。

265号柵列跡【SA265】（第43図）

SA265の柱列の軸はN62°Eで、ほぼ東西に並ぶ4つの柱穴からなっている。柱列の長さは3.0m(約9.9尺)、柱穴は直径24～48cm、深さ10～22cmで、下端レベルは一定でない。この柵列跡はSD99より北側に位置しているが、これ以外の柵列跡はSD99の南側に集まっている。



第42図　掘立柱建物跡（SB247・251）実測図



第43図　柵列跡（SA246・248・255・261・262・264・265）実測図

遺構番号	間数	桁長		梁長		建物の向き	型式	方位	庇		桁行平均		梁行平均		柱穴直径	柱穴深さ
		m	尺	m	尺					m	m	尺	m	尺	cm	cm
SB247	2×4	10.0	33.0	2.4	7.9	東西	側柱	N 44°E			2.5	8.3	2.4	7.9	28～60	16～52
SB251	1×4	7.6	25.1	2.2	7.3	東西	側柱	N 51°E			1.9	6.3	2.2	7.3	40～68	12～68

表8　2区掘立柱建物跡計測表

(3) 堀跡

99 号堀跡【SD99】(第 44 図)

SD99 は調査区のほぼ中央部で確認でき、長軸 20.40m ～、短軸 2.75m、深さ 1.60m を測り、ほぼ東西方向に伸びている。覆土を観察すると、大型円礫を多量に含む土層まで掘り込んでおり、覆土状況が同じことから、1 区で確認した 4・5 号堀跡に連続する同じ堀跡ではないかと考えられる。

1 ～ 12 はこの堀跡から出土した遺物である。1 ～ 3 は外底部に糸切り痕がある土師器で、1 は極小の耳皿と思われるもの、2 は小型杯、3 は中型杯である。4 ～ 6 は瓦質土器片で、4・5 は火鉢、6 は摺鉢である。7 は染付皿片である。8・11 は青磁皿片である。9・10 は陶器片で、9 は椀の口縁部、10 は壺の口縁部である。12 は硯片で、下半分が欠損している。

186 号堀跡【SD186】(第 45 図～第 46 図)

SD186 は長軸 18.60m ～、短軸 1.76m、深さ 0.72m を測り、ほぼ直角に屈曲する箇所とその周辺部分を確認した。この堀跡が四方に巡れば、北西隅を検出したことになる。断面形は略台形を呈する。

第 45 図 1 ～ 23、第 46 図 24 ～ 39 はこの堀跡から出土した遺物である。24 ～ 30 は土師器で、外底部に糸切り痕がある。1 ～ 12 は小型製品で、6・8 ～ 10・12 の体部は内側に屈曲しながら立ち上がり、これら以外の体部はほぼ直線的に立ち上がる。13 ～ 30 は中型製品である。14・15・17・28 の体部は口縁部近くで外に開いており、14 の口縁部付近の体部には穿孔が施されている。22 の体部は短く立ち上がっている。上記の杯と 29・30 以外の体部はほぼ直線的に立ち上がっている。31 ～ 37 は青磁である。31 ～ 36 は椀片、37 は香炉片である。38・39 は瓦質土器で、38 は火鉢片、39 は火舎片である。

(4) 溝跡

132 号溝跡【SD132】(第 47 図)

132 号溝跡は長軸 9.60m ～、短軸 0.60m を測り、ほぼ南北方向に伸びる。280 号溝跡 (SD280) に切られており、SD186 を切っている。確認できた深さは 0.16m と浅い。

142 号溝跡【SD142】(第 47 図)

この溝跡は一部分しか残存しておらず、長軸 1.90m ～、短軸 0.44m を測り、検出した深さも 0.10m と浅い。両端を 101・105 号土壙 (SK101・105) によって切られている。

160・164 号溝跡【SD160・164】(第 47 図)

SD160 は長軸 4.52m ～、短軸 0.72m、深さ 0.16m、SD164 は長軸 6.40m ～、短軸 2.56m、深さ 0.36m となっている。これらの溝跡には別々の遺構番号を調査時につけたが、その後の詳細調査で同一のものであるだろうと思われた。整理の混乱を避けるため、調査時の遺構番号のままにしてある。ほぼ東西方向に伸びており、西側端部は丸くなって終わっている。東側は撹乱を受けている。

268 号溝跡【SD268】(第 48 図)

SD268 は長軸 10.00m ～、短軸 1.32m ～を測り、ほぼ南北方向に伸びているが、西側の大半は撹乱を受けて消失している。北側端部は丸く終わっているが、一部は 163 号土壙 (SK163) によって切られている。確認できた深さは 0.20m と浅い。

272 号溝跡【SD272】(第 48 図)

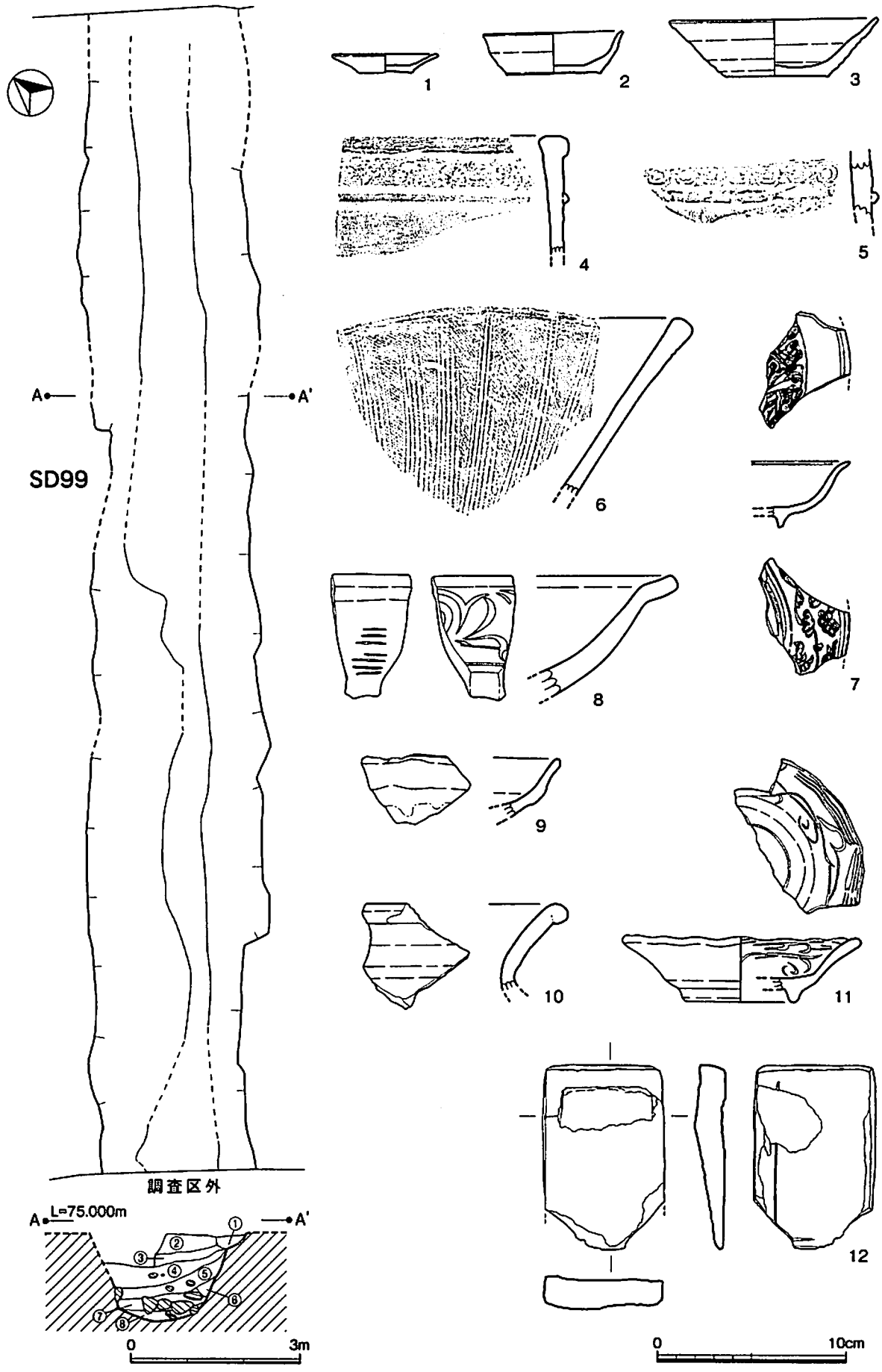
SD272 は長軸 9.00m ～、短軸 1.84m を測り、ほぼ南北方向に伸びている。南側端部は SD99 によって切られており、北側端部は撹乱を受けている。確認できた深さは 0.48m と浅い。

280 号溝跡【SD280】(第 47 図)

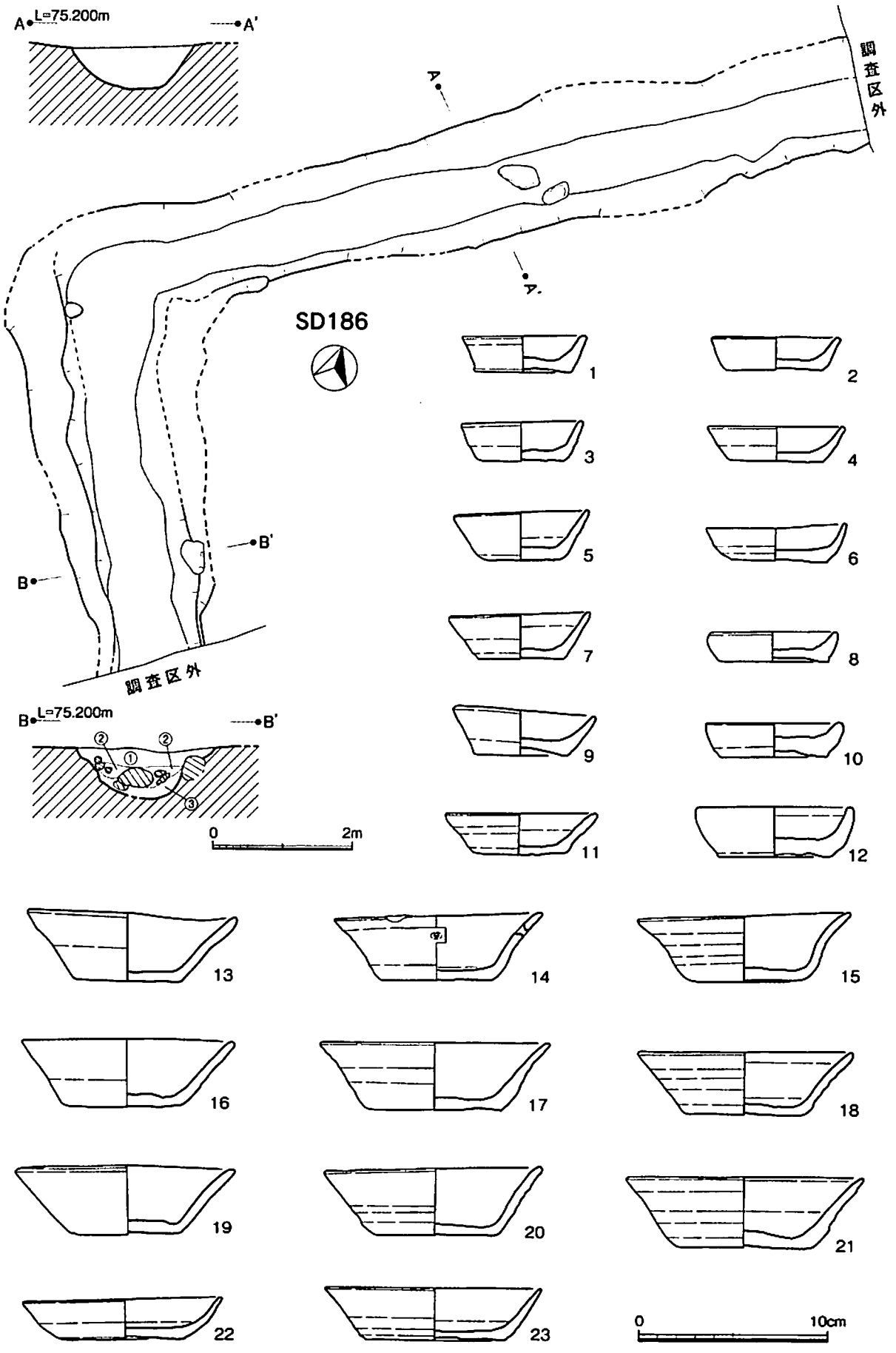
SD280 は長軸 15.12m ～、短軸 0.80m を測り、ほぼ東西方向に伸びており、SD99 と SD186 のほぼ中間地点にある。検出した深さは 0.28m と浅い。

281 号溝跡【SD281】(第 48 図)

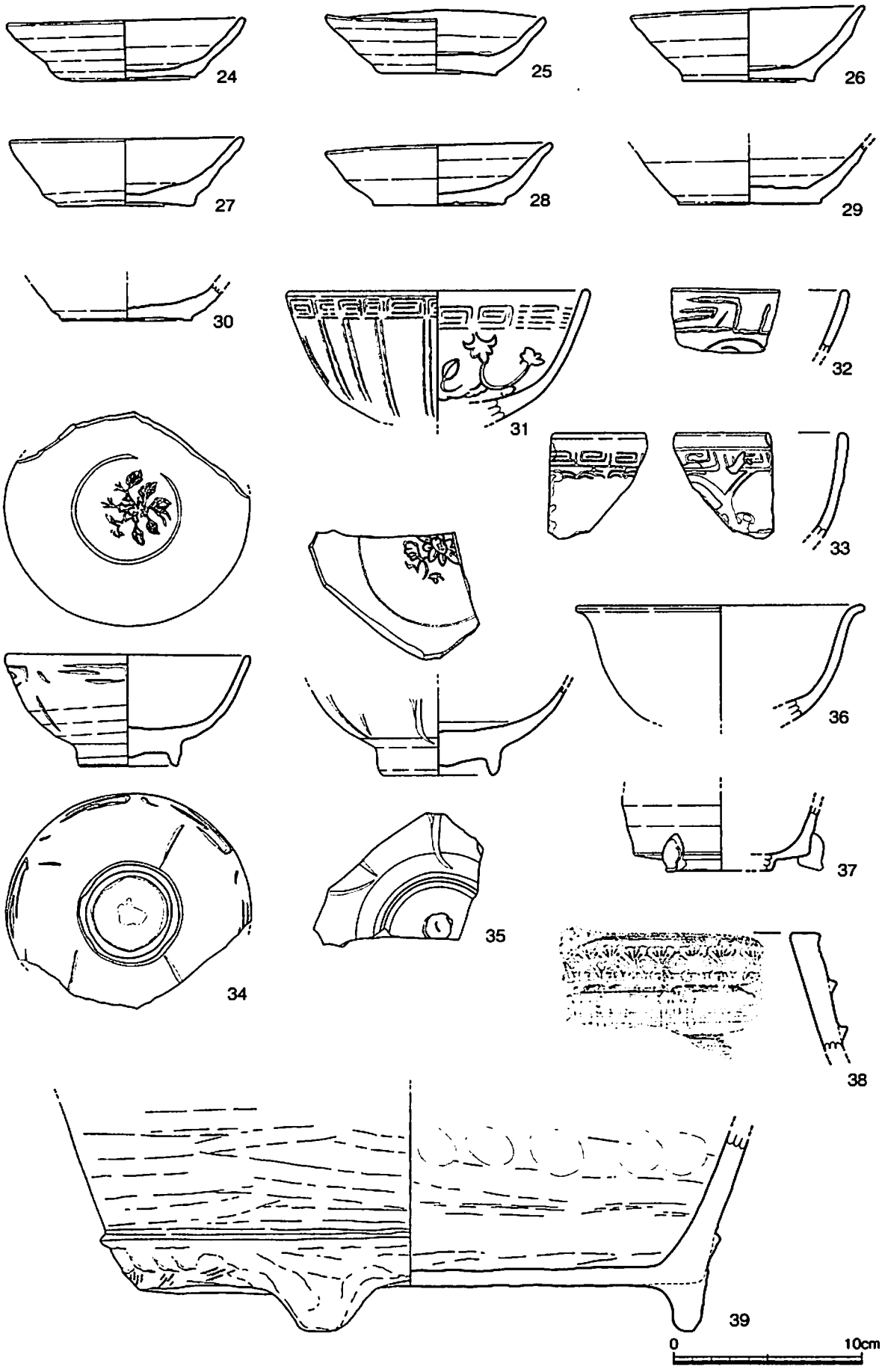
SD281 は長軸 2.80m ～、短軸 1.48m ～、深さ 0.40m を測り、南側肩部の一部を確認した。殆どは撹乱を受けている。SD272 に隣接しているが、撹乱のため、両者が切り合い関係にあるのか、同一のものかは不明である。



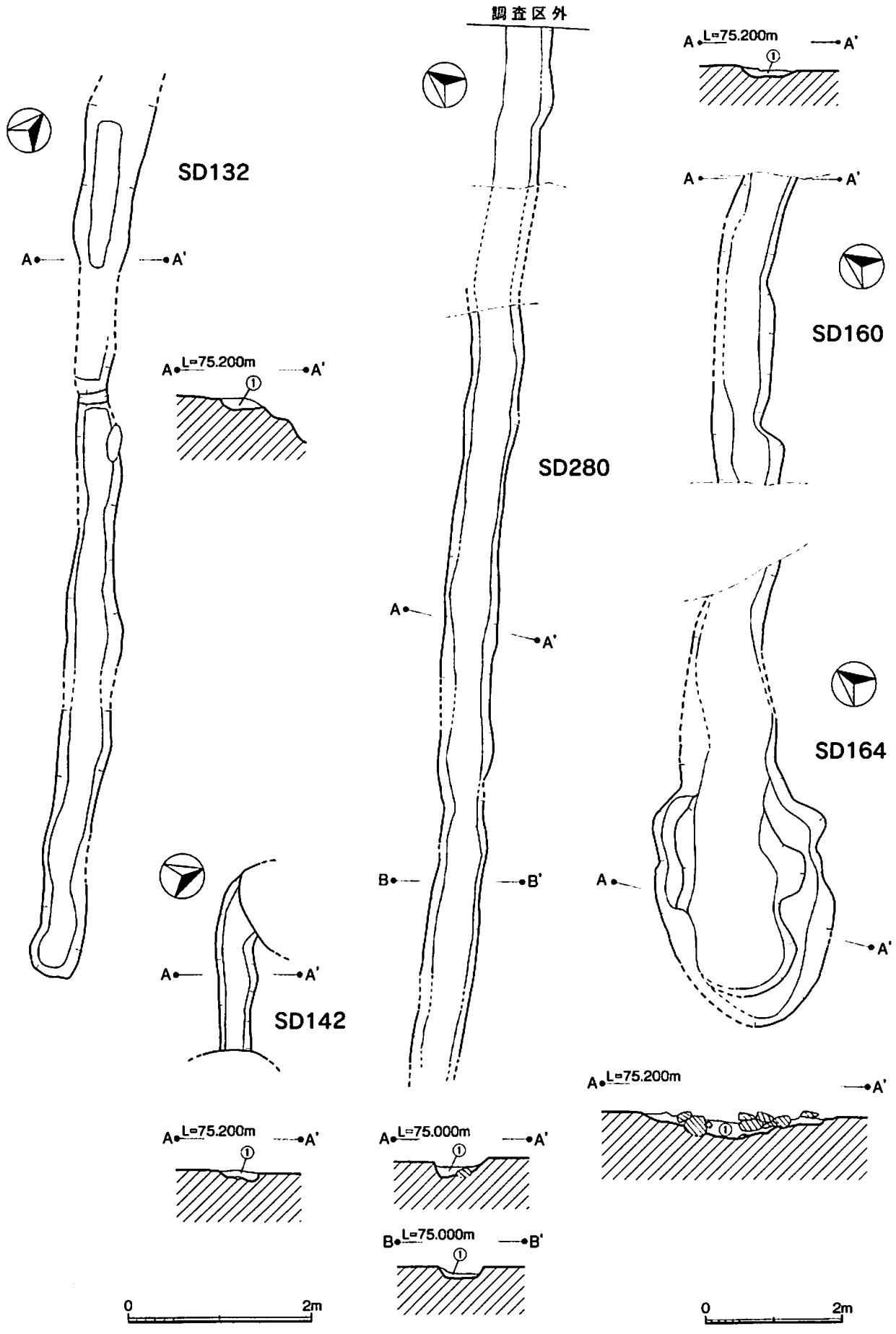
第44図　堀跡（SD99）実測図及び出土遺物実測図



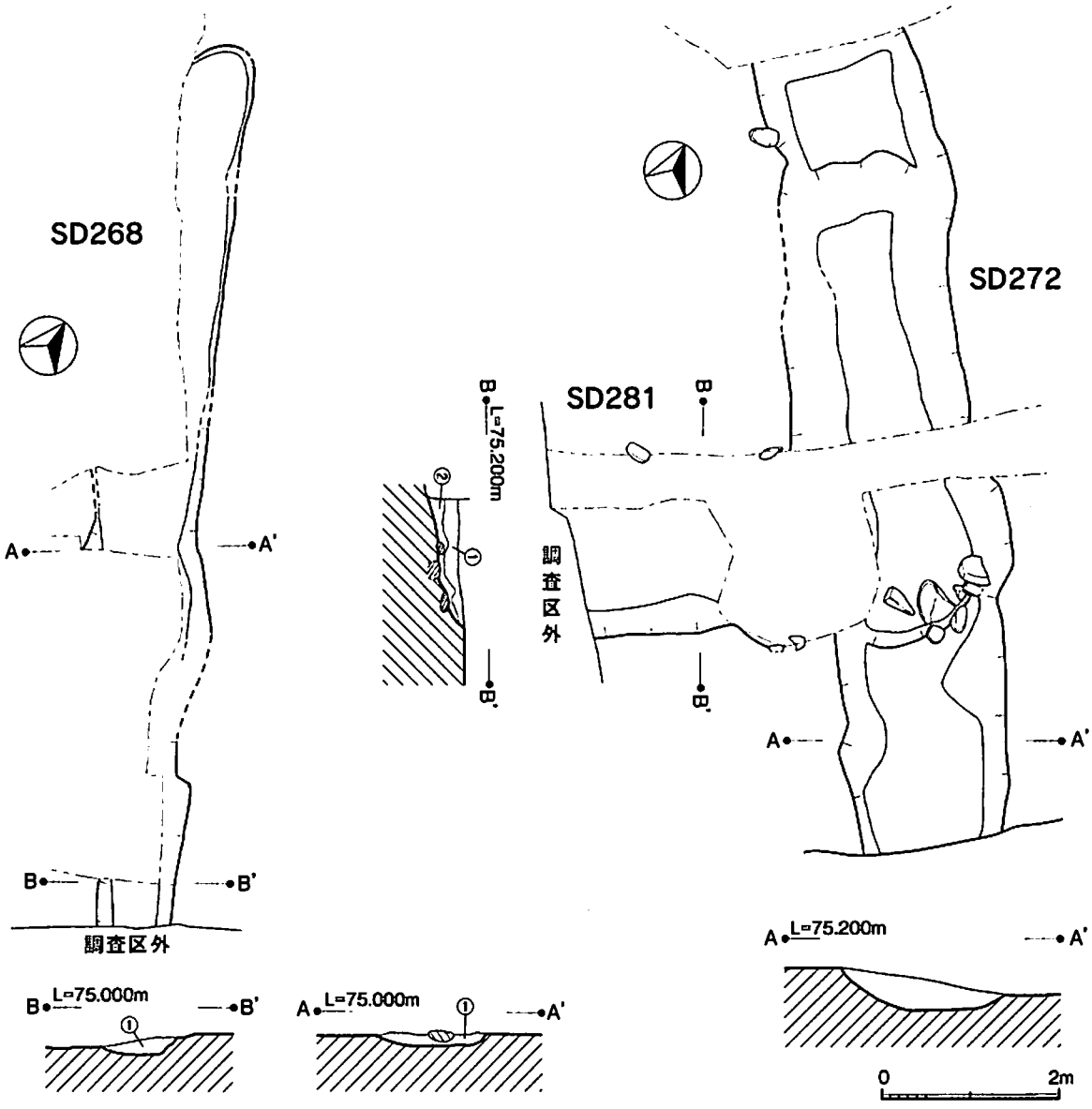
第45図　堀跡（SD186）実測図及び出土遺物実測図（1）



第46図　堀跡（SD186）実測図及び出土遺物実測図（2）



第47図　溝跡（SD132・142・160・164・280）実測図



第48図　溝跡（SD268・272・281）実測図

（寸法は検出面で計測したもの）　単位：(m)

遺構名	遺構番号	長軸	短軸	深さ	備　考
堀跡	SD99	20.40～	2.75	1.60	遺物出土
	SD186	18.60～	1.76	0.72	SD132, SK105に切られる、遺物出土
溝跡	SD132	9.60～	0.60	0.16	SD280に一部切られる
	SD142	1.90～	0.44	0.10	SK101, 105に切られる
	SD160	4.52～	0.72	0.16	
	SD164	6.40～	2.56	0.36	
	SD268	10.00～	1.32～	0.20	SK163に一部切られる
	SD272	9.00～	1.84	0.48	遺物出土
	SD280	15.12～	0.80	0.28	
	SD281	2.80～	1.48～	0.40	
土壙	SK101	1.38	0.96	0.88	SD142を切る
	SK105	1.32	0.96	0.86	SD142, SD186を切る

（寸法は検出面で計測したもの）　単位：(m)

遺構名	遺構番号	長軸	短軸	深さ	備　考
土壙	SK108	1.86	1.08	0.14	
	SK127	1.12	1.02	0.84	
	SK131	1.08	0.98	0.28	遺物出土
	SK140	1.72	1.64	0.34	
	SK150	2.08	1.32	0.22	遺物出土
	SK154	2.70	0.84	0.16	
	SK157	1.16	0.78	0.28	
	SK161	0.78	0.58	0.20	
	SK162	2.40	1.40	0.31	
	SK163	1.31	0.74～	0.22	
	SK165	1.24～	0.62	0.32	調査区外にのびる
	SK245	0.42～	0.44	0.56	SD164に切られる

表9　2区検出遺構一覧表

(5) 土壙

101 号土壙【SK101】(第 49 図)

SK101 は長軸 1.38m、短軸 0.96m、深さ 0.88m を測り、平面形は略楕円形、断面形は略台形を呈している。SD142 を切っており、覆土は①層～③層に分層できる。

105 号土壙【SK105】(第 49 図)

SK105 は長軸 1.32m、短軸 0.96m、深さ 0.86m を測り、平面形は略楕円形、断面形は深い筒状である。SD142・186 を切っており、覆土は①層～③層に分層できる。

108 号土壙【SK108】(第 49 図)

SK108 は長軸 1.86m、短軸 1.08m、深さ 0.14m を測り、平面形は不整形、断面形は浅い皿状を呈している。

127 号土壙【SK127】(第 49 図)

SK127 は長軸 1.12m、短軸 1.02m、深さ 0.84m を測り、平面形は略円形、断面形は略台形である。覆土は①層・②層に分層できる。

131 号土壙【SK131】(第 49 図)

SK131 は長軸 1.08m、短軸 0.98m、深さ 0.28m を測り、平面形はほぼ円形、断面形は深い皿状である。覆土は①層・②層に分層できる。この土壙からは遺物が出土している。

140 号土壙【SK140】(第 49 図)

SK140 は長軸 1.72m、短軸 1.64m、深さ 0.34m を測り、平面形はほぼ円形、断面形は深い皿状である。覆土は①層・②層に分層できる。

150 号土壙【SK150】(第 50 図)

SK150 は長軸 2.08m、短軸 1.32m、深さ 0.22m を測り、平面形は不整な楕円形、断面形は浅い皿状である。覆土は①層・②層に分層できる。この土壙からは遺物が出土している。

154 号土壙【SK154】(第 50 図)

SK154 は長軸 2.70m、短軸 0.84m、深さ 0.16m を測り、平面形は不整な楕円形、断面形は浅い皿状である。北東部は二段掘りになっている。

157 号土壙【SK157】(第 49 図)

SK157 は長軸 1.16m、短軸 0.78m、深さ 0.28m を測り、平面形は楕円形、断面形は深い皿状である。壁沿いに円礫が置かれている。覆土は①層・②層に分層できる。

161 号土壙【SK161】(第 50 図)

SK161 は長軸 0.78m、短軸 0.58m、深さ 0.20m を測り、平面形は不整な方形、断面形は深い皿状である。覆土は①層・②層に分層できる。

162 号土壙【SK162】(第 50 図)

SK162 は長軸 2.40m、短軸 1.40m、深さ 0.31m を測り、平面形は不整な長方形、断面形は深い皿状である。ほぼ中央部に撹乱された部分がある。北側隅の壁沿いから円礫が出土した。

163 号土壙【SK163】(第 50 図)

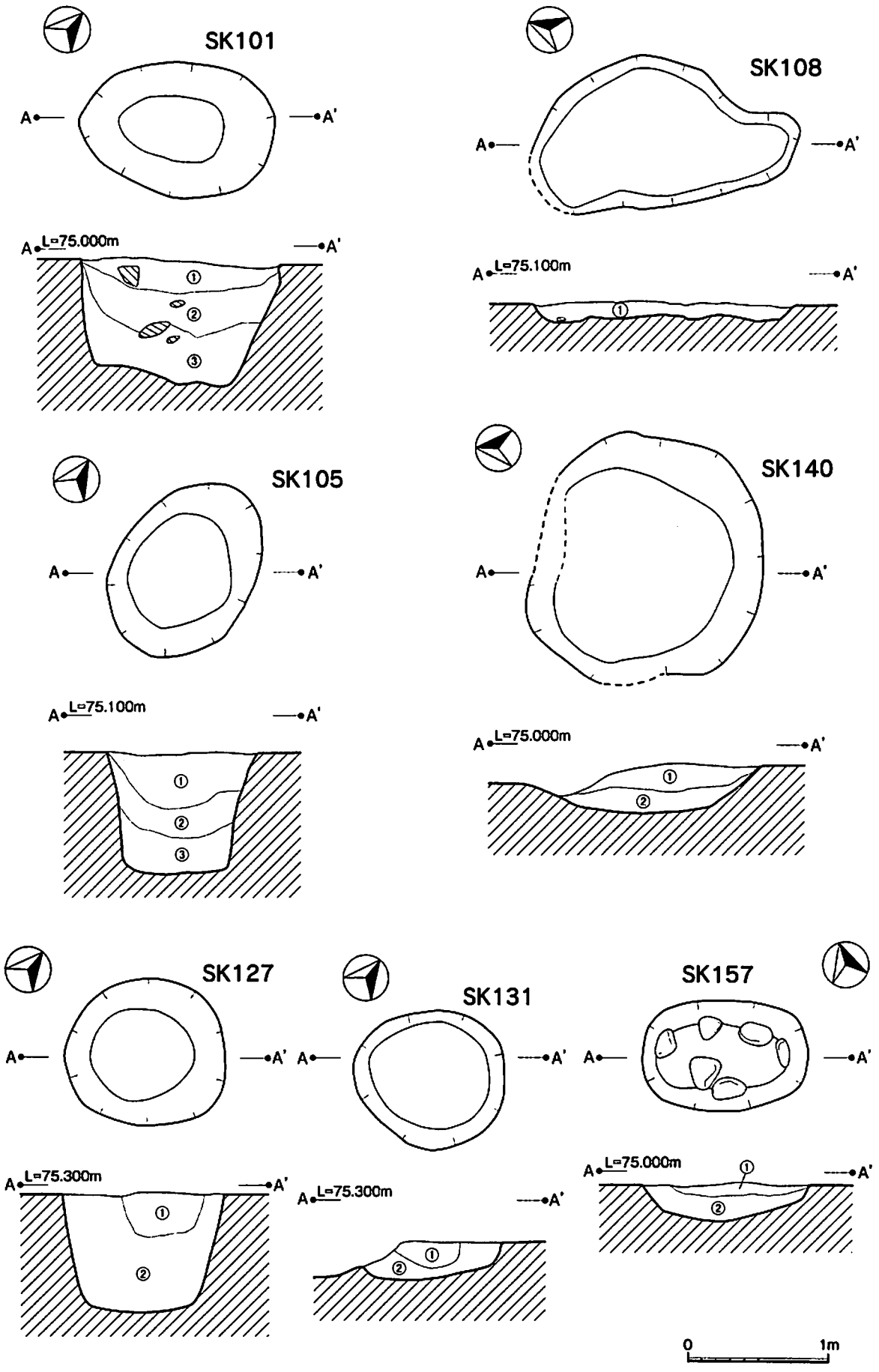
SK163 の北側は SD280 に切られていると思われる。長軸 1.31m、短軸 0.74m ～、深さ 0.22m を測り、残存している部分の平面形は長方形で、断面形は浅い皿状である。

165 号土壙【SK165】(第 50 図)

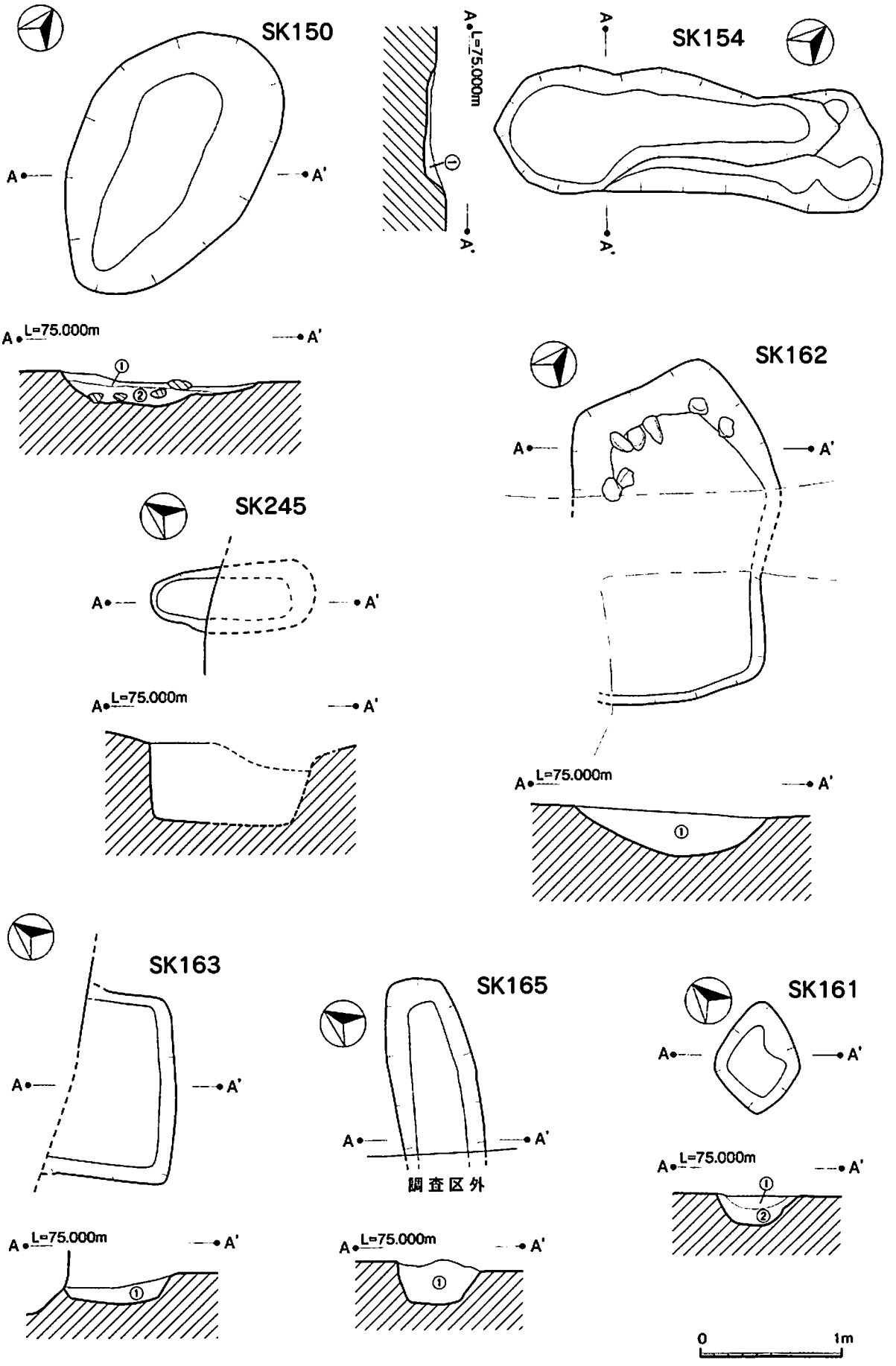
SK165 の西側部分は調査区外にある。長軸 1.24m ～、短軸 0.62m、深さ 0.32m を測り、検出した部分の平面形は略円形、断面形は略台形である。

245 号土壙【SK245】(第 50 図)

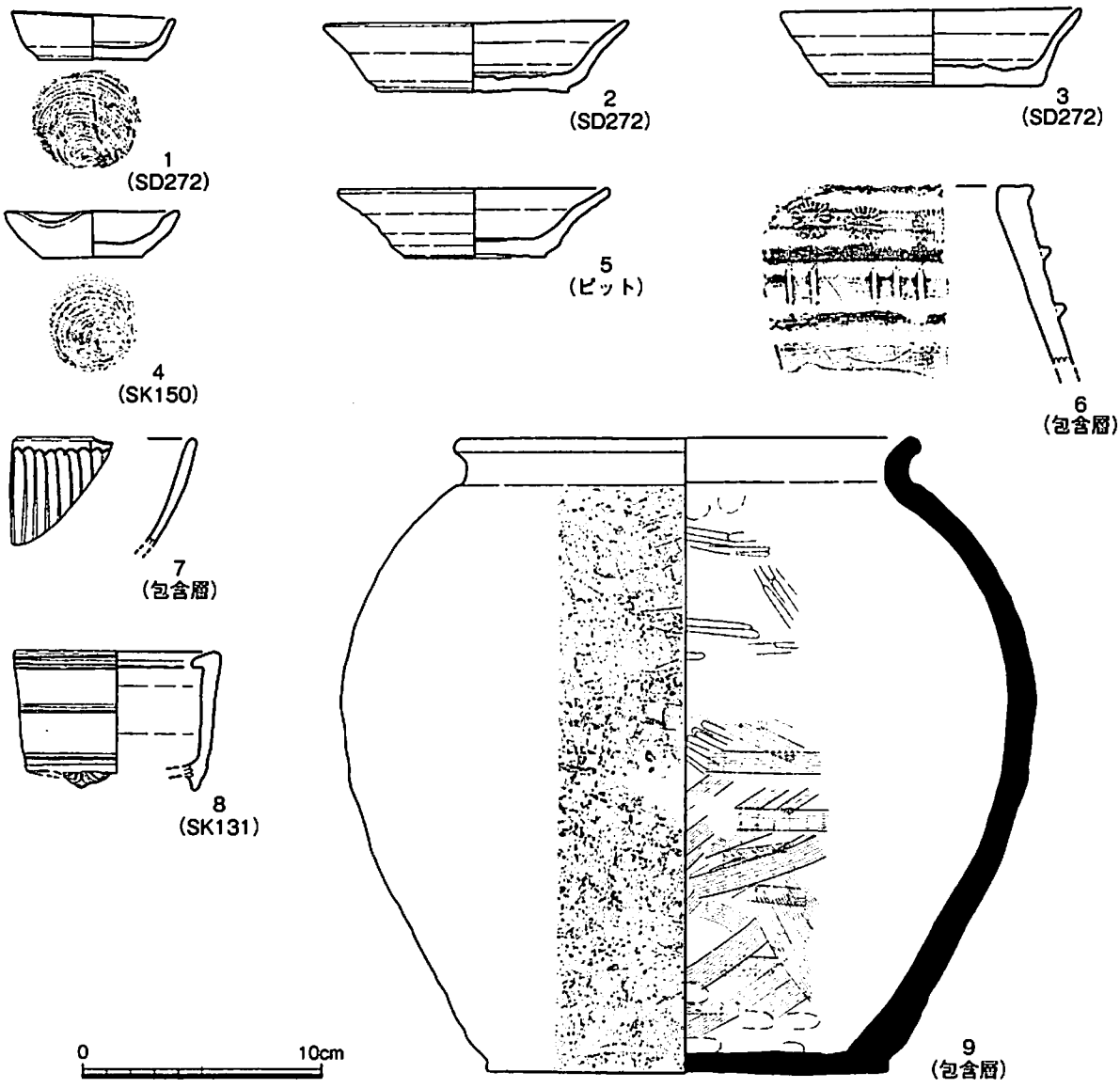
SK245 は長軸 0.42m ～、短軸 0.44m、深さ 0.56m を測り、平面形は略楕円形、断面形は略台形である。



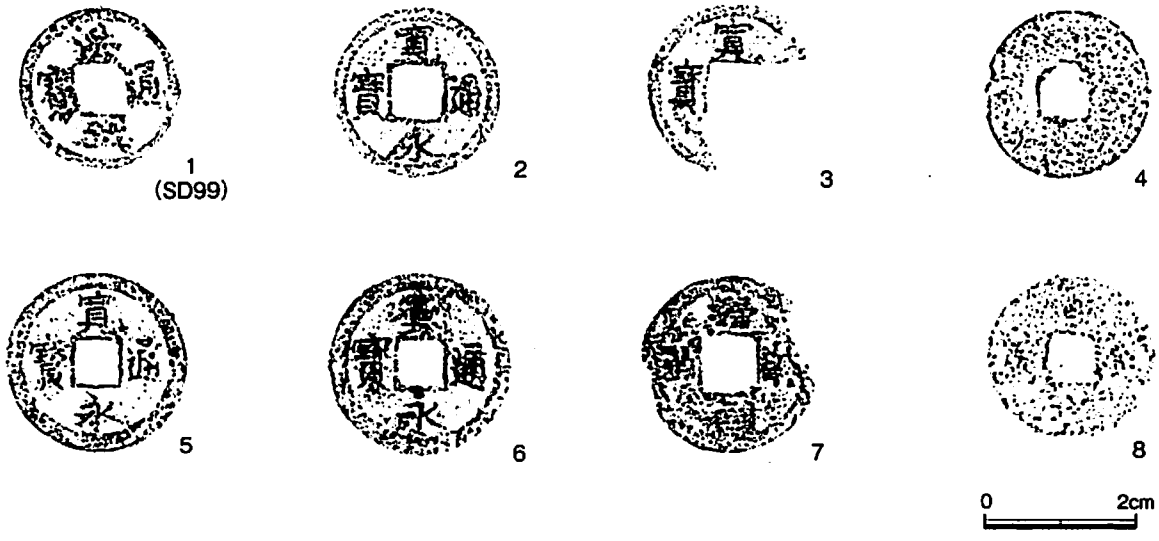
第49図　土壙（SK101・105・108・127・131・140・157）実測図



第50図　土壙（SK150・154・161・162・163・165・245）実測図



第51図　2区出土遺物実測図



第52図　2区出土古銭拓本

3. その他

ここでは、2. 遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。

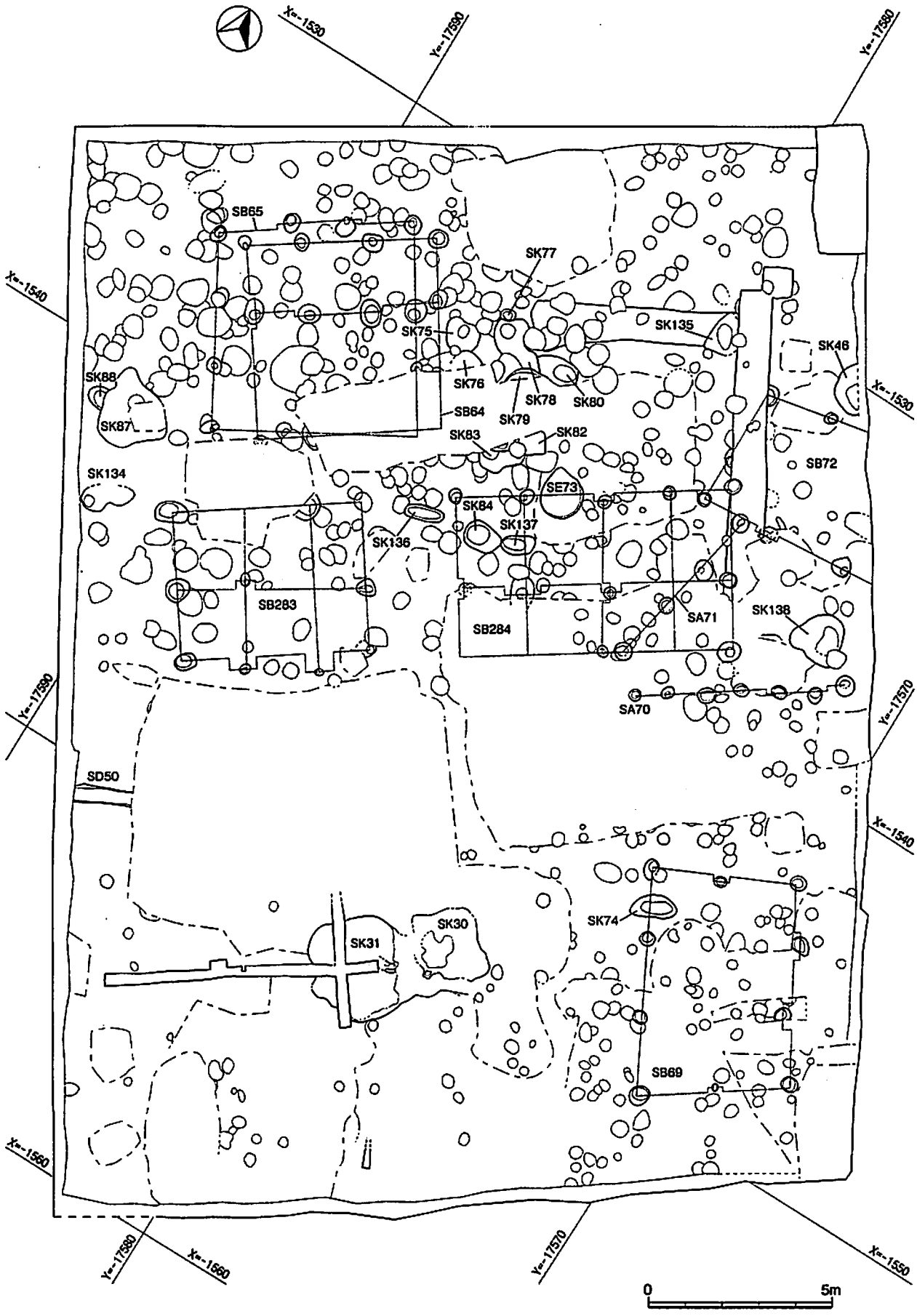
2区出土遺物（第51図～第52図・表15～表25）

1～5は外底部に糸切り痕を持つ土師器杯である。1～3はSD272出土のもので、1は小型製品、2・3は中型製品である。2・3の体部は中程からさらに外に開いている。4はSK150出土の小型製品である。5はピットから出土した中型品で、体部中程からさらに外に開いている。6は包含層から出土した瓦質土器の火鉢の口縁部片である。7は包含層から出土した青磁の口縁部片である。8はSK131から出土した青磁の香炉片である。9は包含層から出土した須恵器甕で、外器面はタタキ、内器面はミガキ・ハケメが見られる。出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、表15～表25のとおりである。

第52図は2区出土の古銭である。7・8は表25にある他の6枚と付着して出土した。

遺構番号	層順	土層名	特　徴
SD99	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性あり、しまりあり。2層に褐色土と焼土、粗砂が多く入る。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土粒とカーボン粒を含む。小石大の礫が混じる。
	③層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒とカーボン粒をごくわずかに含む。
	④層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりあり。SD5の④層に類似するが、3層の混じりが少ない（黄褐色砂質土）。
	⑤層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。全体に極小の焼土粒とわずかなカーボン粒を含む。
	⑥層	暗褐色土（Hue 10YR 3/4）	粘性あり、しまりあり。SD5の⑥層に類似するが、3層が多く交じり、全体的に撹拌される。
	⑦層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒とカーボン粒をごくわずかに含む。
	⑧層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりあり。焼土粒がわずかに入る。粗砂と礫が混じる。
SD132	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。褐色土の混じる割合が多い。
SD142	①層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。基本土層3層の褐色土のブロック（3～5mm）と、カーボンも少量含む。
SD160	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりなし。褐色ブロックを多く含み、焼土が小粒子で少し混じる。
SD164	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。褐色粘土ブロックと褐色砂質土を少し含む。焼土は少し混じる。
SD186	①層	褐色土（Hue 10YR 4/4）	粘性なし、しまりあり。焼土のような土と②の土が混じる。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。粗砂を少量含む。焼土とカーボンの小粒子が混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボンを小粒子で含む。
SD268	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。褐色土のブロックと焼土を含む。
SD280	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンと3層の土をわずかに含む。
SD281	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒と小さな礫をごくわずかに含む。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。礫が数個入る。
SK101	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。黄褐色土をブロックで、焼土の小粒子を少量含む。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。黄褐色土をブロックで含む。小礫混じる。
	③層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりなし。黄褐色土の小粒子を含む。
SK105	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒がわずかに含む。3層の明るい茶色の土が少し混じる。
	②層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性なし、しまりあり。3層の土が①の半分。
	③層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性なし、しまりあり。
SK127	①層	褐色土（Hue 7.5YR 4/4）	粘性なし、しまりあり。全体が赤い土。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。カーボンわずかに入る。小礫が少量混じる。
SK131	①層	淡黄橙色土（Hue 7.5YR 8/4）	粘性なし、しまりあり。遺物も礫も混じりなし。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。焼土の小粒子混じる。
SK140	①層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土粒とカーボン粒を少量含む。大きな礫1点、小礫2・3点混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 3/1）	粘性あり、しまりあり。極小の焼土粒をわずかに含む。白い砂も混じる。
SK150	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。焼土を少量と褐色土の砂質ブロック含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりなし。焼土と褐色土が混じる。
SK154	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりなし。褐色ブロックを多量に、カーボンも少量含む。
SK157	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。褐色（3層）と黒色土（2b層）がブロックで混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。①に比べてブロックは少量含む。
SK161	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりなし。褐色土ブロックが混じる。
	②層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりなし。①よりもブロックの割合が多い。
SK162	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりあり。焼土を少量含み、小礫も少し混じる。
SK163	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。褐色の砂質ブロックと粘土状のブロックを含む。大きめの焼土も混じる。
SK165	①層	黒色土（Hue 10YR 1.7/1）	粘性あり、しまりなし。褐色ブロックと焼土を少量含む。

表10　2区検出遺構土層注記表



第53図　3区遺構配置図（S=1/150）

第4節　3区の調査

1. 遺構分布（第3図・第53図）

第53図の3区遺構配置図中で、一点破線で表現したところは撹乱されている箇所である。3区で検出した遺構は、掘立柱建物跡6棟、柵列跡2基、溝跡1条、井戸跡1基、土壙20基である。

遺構の分布状況を見ると、遺構は調査区中程から北側に集中している。南側には掘立柱建物跡1棟、土壙3基が分布している。

2. 遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は第54図～第63図・表11～表13のとおりである。以下は各遺構を概観する。

(1) 掘立柱建物跡

64号掘立柱建物跡【SB64】（第54図）

SB64は2間×3間の側柱建物で、庇がついていると考えられる。南東隅部は撹乱されており、建物の主軸はN58°Eでほぼ東西方向である。この建物の柱穴からは遺物が出土している。

65号掘立柱建物跡【SB65】（第55図）

SB65はSB64に隣接しており、SB64と同様に南東隅部が撹乱されているが、3間×3間の側柱建物と考えられる。建物の主軸はN68°Eでほぼ東西方向である。

69号掘立柱建物跡【SB69】（第55図）

SB69は2間×3間の側柱建物で、建物の主軸はN35°Wでほぼ南北方向である。南側梁部中央の柱穴は小さい。

72号掘立柱建物跡【SB72】（第56図）

SB72は2間×2間分を確認できた側柱建物で、建物の主軸はN85°Eである。東側の柱穴は調査区外に存在すると思われるため、規模は不明である。

283号掘立柱建物跡【SB283】（第56図）

SB283は2間×3間もしくは2間×2間で庇のついた総柱建物で、建物の主軸はN35°Eでほぼ東西方向である。北側桁部の一部が撹乱されている。南側桁部、中央部の柱穴に小さめのものがある。

284号掘立柱建物跡【SB284】（第57図）

SB284は2間×4間もしくは2間×3間の身舎に庇や別棟が付属する側柱建物である。建物の主軸はN53°Eでほぼ東西方向である。

(2) 柵列跡

70号柵列跡【SA70】（第58図）

SA70の柱列の軸はN57°Eで、SB284の主軸とほぼ並行している。この柵列跡はほぼ東西方向に並ぶ7つの穴からなっており、柱列の長さは5.7m（約18.8尺）で、柱穴は直径28～48cm、深さ12～50cmで、下端レベルは一定でない。

71号柵列跡【SA71】（第58図）

SA71の柱列の軸はN15°Eでほぼ南北方向に並ぶ4つの穴からなっている。柱列の長さは4.7m（約15.5尺）で、柱穴は直径44～48cm、深さ18～60cmで、下端レベルは一定でない。北側の2つの穴は他と比べると深い。

(3) 溝跡

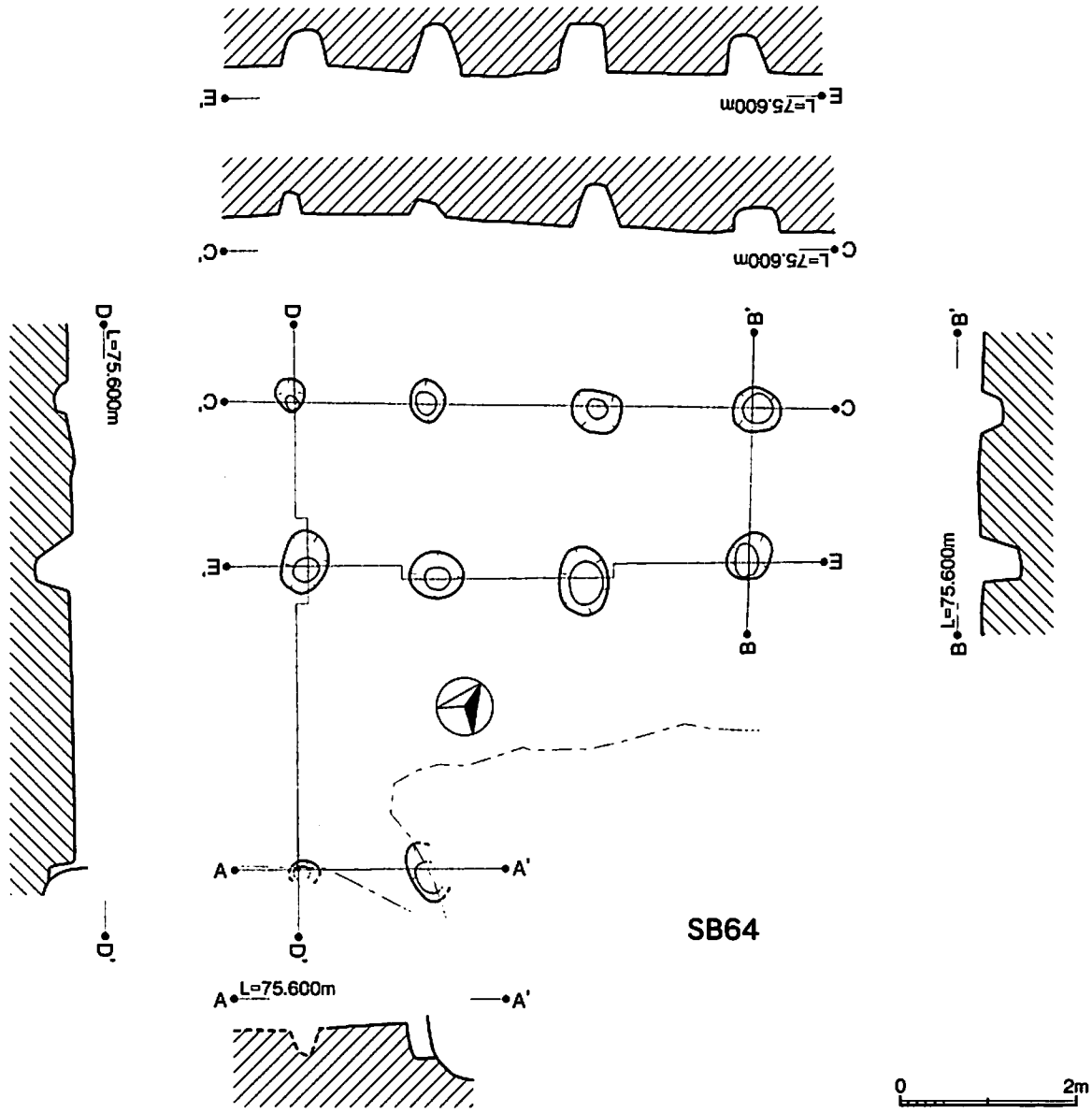
50号溝跡【SD50】（第58図）

SD50は調査区の西側端部で一部を確認したが、その東側部分は撹乱により検出することができなかった。長軸1.58m～、短軸0.40m、深さ0.12mを測り、断面形は浅い皿状を呈している。

(4) 井戸跡

73号井戸跡【SE73】（第58図）

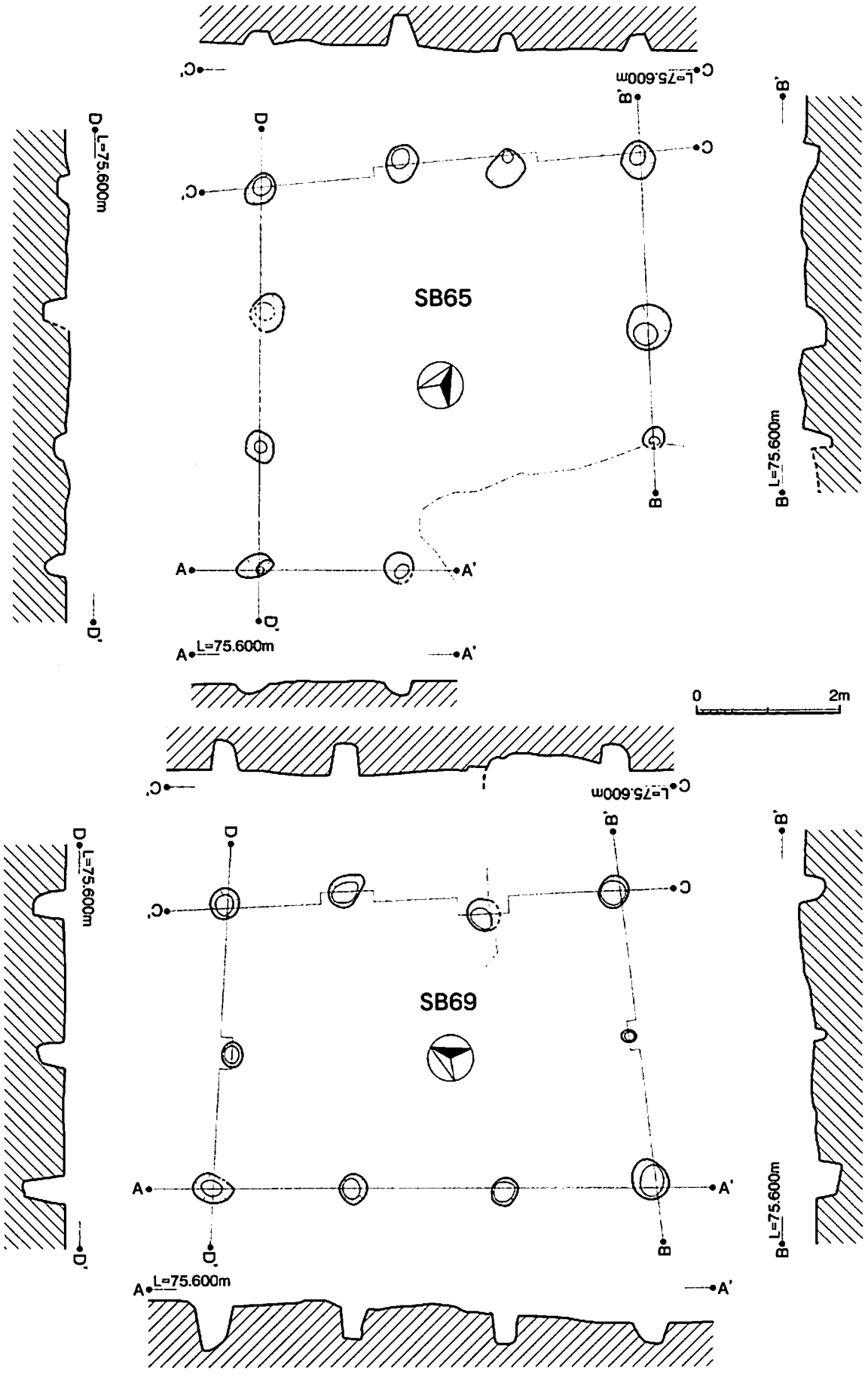
SE73は調査区北側の掘立柱建物跡が集中する箇所のほぼ中央部に位置している。長軸1.21m、短軸



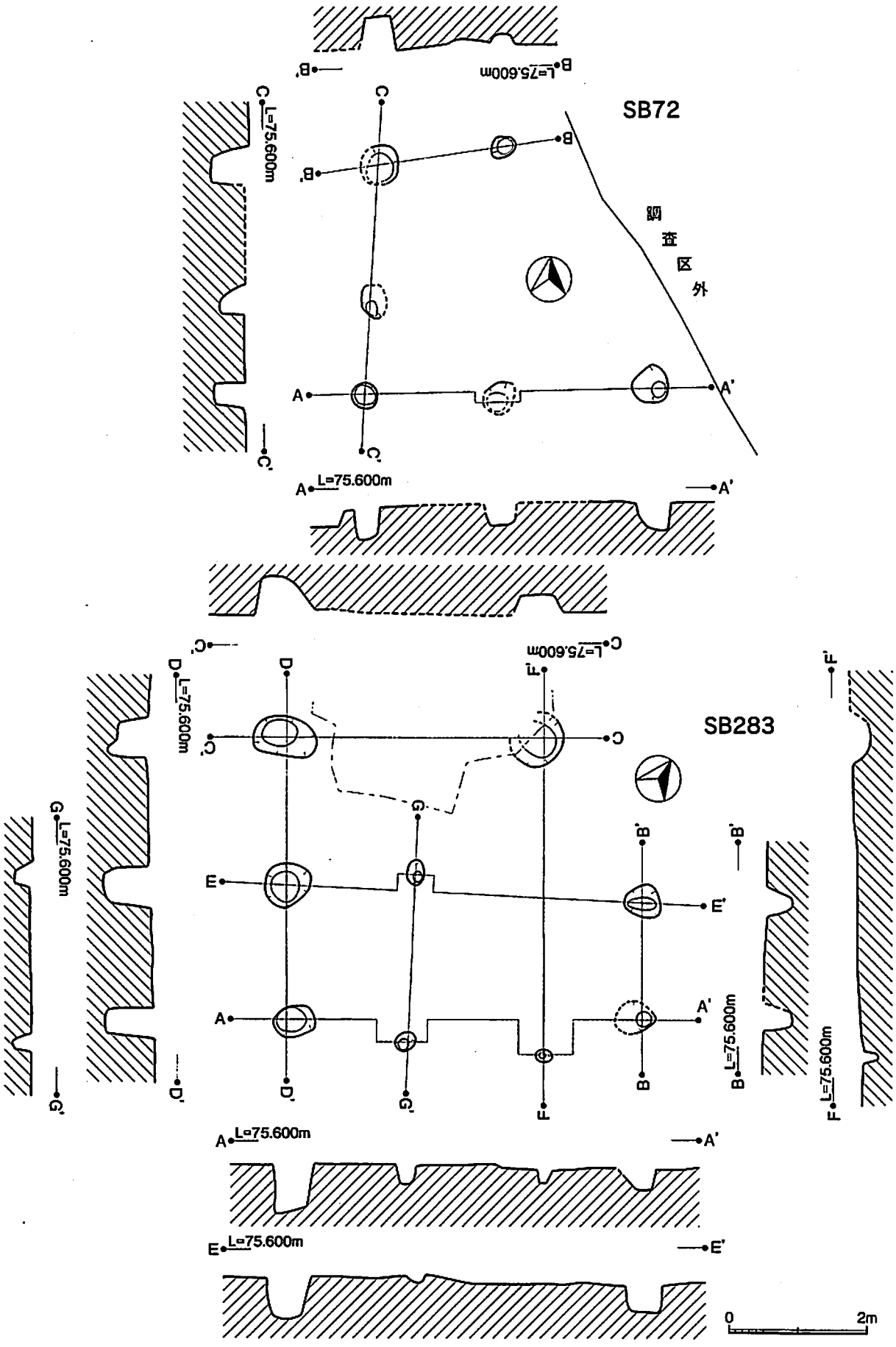
第54図　掘立柱建物跡（SB64）実測図

遺構番号	間数	桁長		梁長		建物の向き	型式	方位	庇		桁行平均		梁行平均		柱穴直径	柱穴深さ
		m	尺	m	尺					m	m	尺	m	尺	cm	cm
SB64	2×3	5.2	17.2	5.3	17.5	東西	側柱	N 58°E			1.7	5.6	3.4	11.2	24～60	18～56
SB65	3×3	5.3	17.5	5.3	17.5	東西	側柱	N 68°E			1.8	5.9	1.8	5.9	28～60	14～44
SB69	2×3	5.9	19.5	4.0	13.2	南北	側柱	N 35°W			2.0	6.6	2.0	6.6	16～52	6～66
SB72	2×2	4.3	14.2	3.2	10.6	東西	側柱	N 85°E			2.2	7.3	1.6	5.3	34～50	14～50
SB283	2×3か 2×2	5.3	17.5	4.1	13.5	東西	総柱	N 35°E			1.8	5.9	2.1	6.9	16～88	16～74
SB284	2×3か 2×4	7.5	24.8	4.3	14.2	東西	側柱	N 53°E	西	1.8	1.9	6.3	2.2	7.3	28～64	6～50

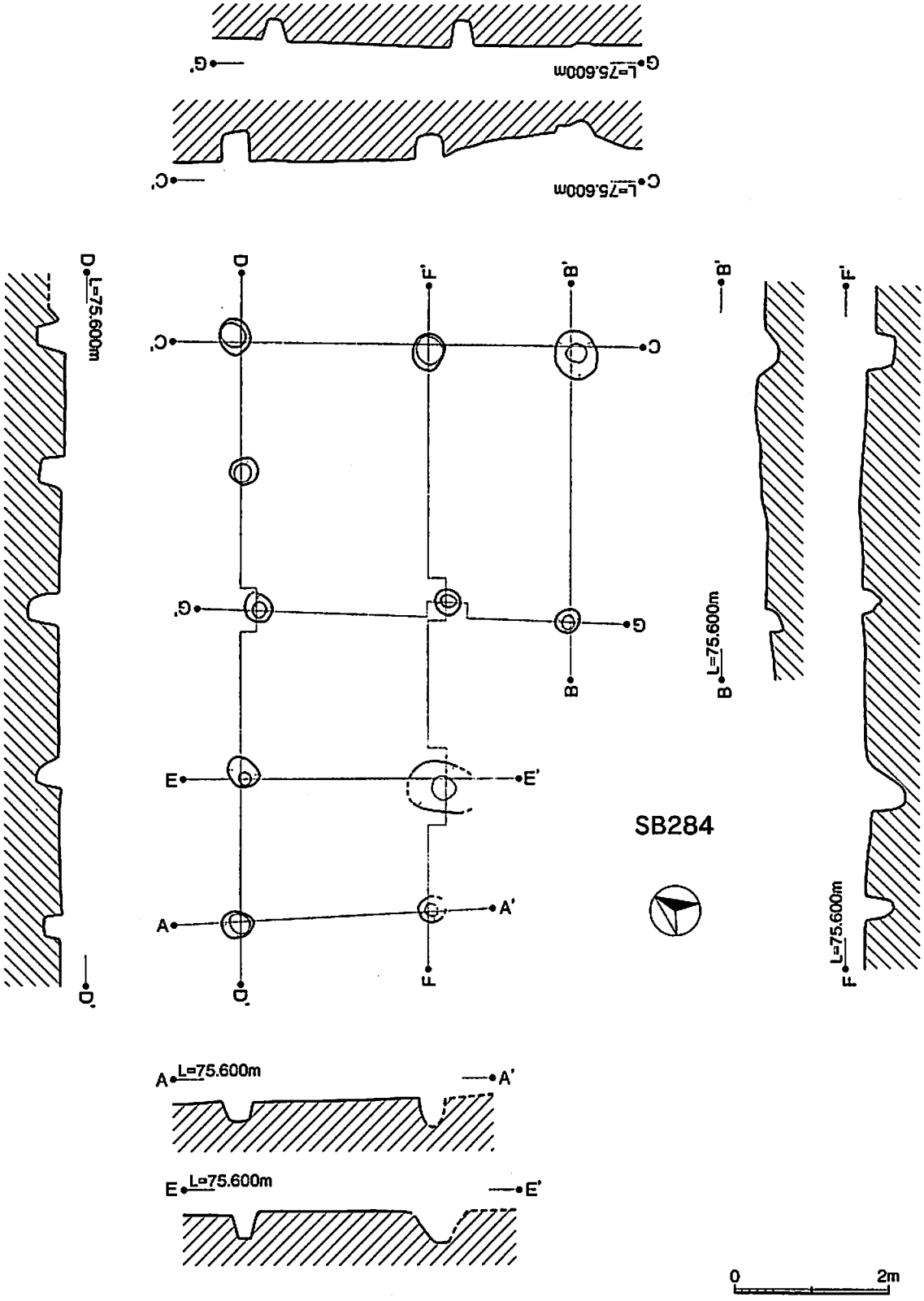
表11　3区掘立柱建物跡計測表



第55図　掘立柱建物跡（SB65・69）実測図



第56図　掘立柱建物跡（SB72・283）実測図



第 57 図　掘立柱建物跡（SB284）実測図

1.18m、深さ 0.56m を測り、平面形は略円形、断面形は筒状を呈している。掘り下げは東側半分を行ったが、その部分には、人為的に入れ込んだと判断できる円礫が密集して出土した。

(5) 土壙

30 号土壙【SK30】(第 59 図)

SK30 は長軸 2.25m ～、短軸 2.00m ～、深さ 0.20m を測り、平面形が不整な円形、断面形が浅い皿状である。土壙内部には大小の凹凸が見られる。この土壙からは遺物が出土している。

31 号土壙【SK31】(第 59 図)

SK31 は SK30 西側の隣接した箇所にある。長軸 2.80m、短軸 2.60m ～、深さ 0.25m を測り、平面形が不整な方形、断面形が浅い皿状で、内部には大小の凹凸がある。この土壙からは遺物が出土している。

46 号土壙【SK46】(第 60 図)

SK46 は調査区の東側隅にあり、約半分は調査区外にある。長軸 1.38m、短軸 0.66m、深さ 0.56m を測り、確認できた部分の平面形は略半円形、断面形が深い皿状である。

74 号土壙【SK74】(第 60 図)

SK74 は長軸 1.26m、短軸 0.60m、深さ 0.66m を測り、平面形は略楕円形、断面形が略台形で二段掘りである。覆土は①層・②層に分層できる。この土壙からは遺物が出土している。

75 号土壙【SK75】(第 60 図)

SK75 は長軸 0.94m ～、短軸 0.92m、深さ 0.42m を測り、平面形が不整な円形、断面形が二段掘りの深い浅い皿状である。南側一部が 76 号土壙（SK76）に切られる。覆土は①層・②層に分層できる。

76 号土壙【SK76】(第 60 図)

SK76 は南側約半分が撹乱されており、全体形が不明確である。長軸 0.58m ～、短軸 0.65m、深さ 0.18m を測り、検出した平面形は略半円形、断面形は浅い皿状である。

77 号土壙【SK77】(第 60 図)

SK77 は南側の一部が 78 号土壙(SK78)に切られている。長軸 0.32m ～、短軸 0.40m、深さ 0.24m を測り、確認した平面形は略円形、断面形は略台形である。

78 号土壙【SK78】(第 60 図)

SK78 は 79 号土壙（SK79）に切られ、長軸 1.78m ～、短軸 0.98m、深さ 0.42m を測る。平面形は東側に突出した不整形、断面形は深い皿状で二段掘りをしている。覆土は①層・②層に分層できる。

79 号土壙【SK79】(第 60 図)

SK79 は南側の大半が撹乱されている。長軸 1.10m ～、短軸 0.28m ～、深さ 0.34m を測り、検出できた平面形は半円状、断面形は深い皿状である。

80 号土壙【SK80】(第 60 図)

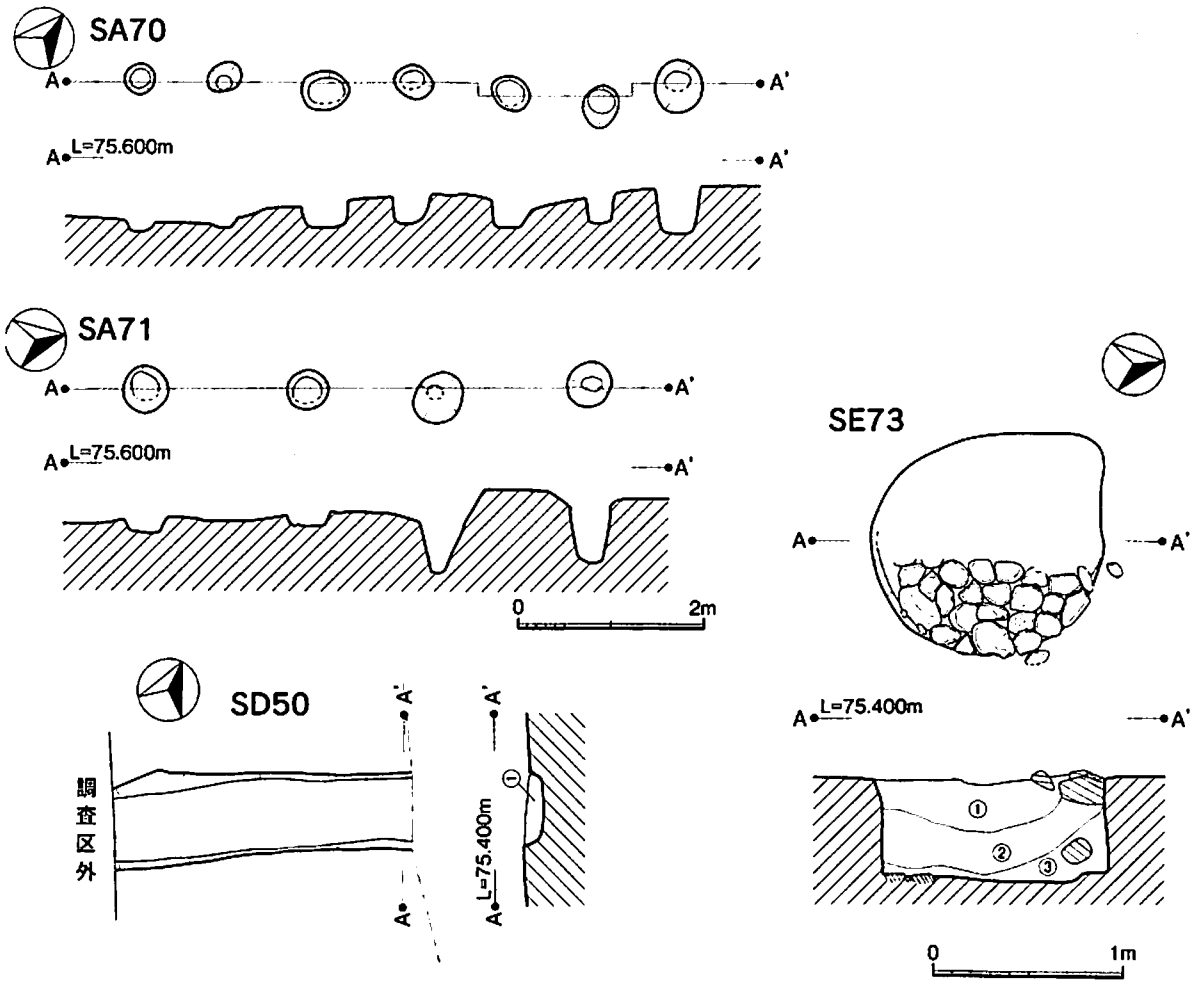
SK80 の西側は SK78・79 に切られ、南側は撹乱されており、全体形は不明確である。長軸 0.90m、短軸 0.71m ～、深さ 0.24m を測り、確認できた平面形は略方形、断面形は深い皿状である。覆土は①層・②層に分層できる。この土壙からは遺物が出土している。

82 号土壙【SK82】(第 60 図)

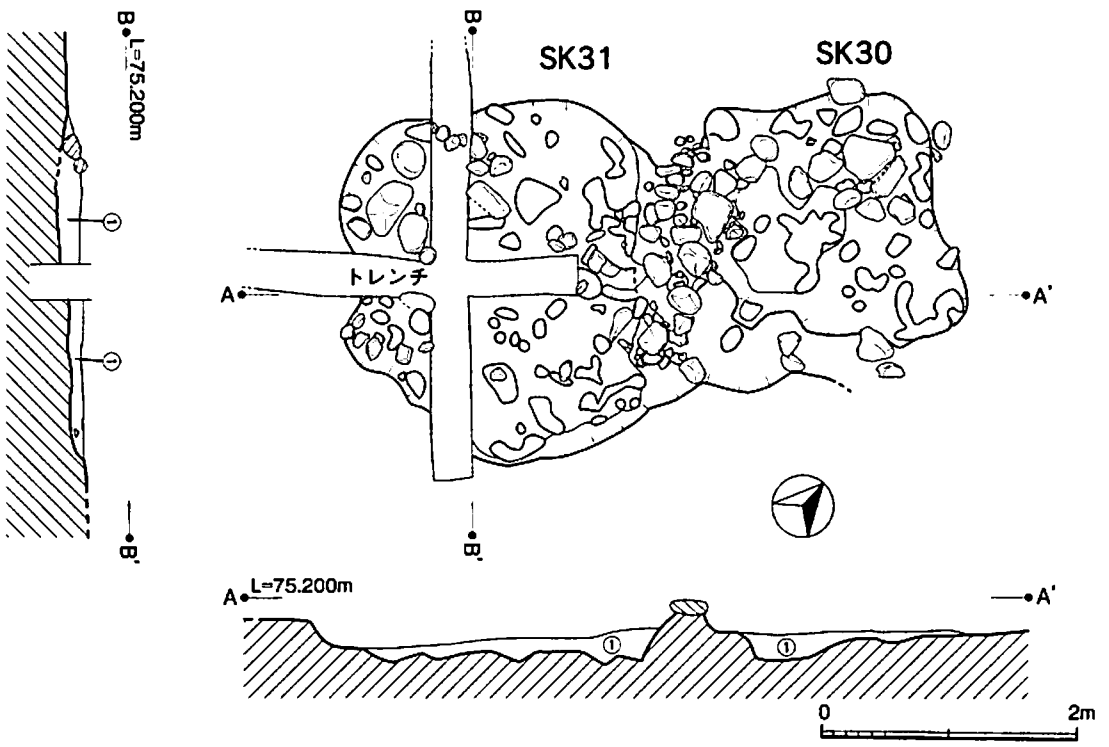
SK82 は北側約半分が撹乱されている。長軸 1.44m、短軸 0.20m ～、深さ 0.31m を測り、検出した平面形は不整形、断面形は南側にいくほど深くなる皿状である。

83 号土壙【SK83】(第 60 図)

SK83 は北側約半分が撹乱されており、東側は SK82 で切られており、全体形が不明確である。長軸 1.00m ～、短軸 0.65m ～、深さ 0.78m を測り、検出した平面形は不整形、断面形は深い筒状である。覆土は①層～③層に分層できる。



第58図　柵列跡（SA70・71）　溝跡（SD50）　井戸跡（SE73）実測図



第59図　土壙（SK30・31）実測図

84号土壙【SK84】（第61図）

SK84は137号土壙（SK137）に隣接している。長軸1.00m、短軸0.72m、深さ0.18mを測り、平面形は不整方形、断面形は皿状である。

87号土壙【SK87】（第60図）

SK87は長軸1.94m、短軸1.48m、深さ0.95mを測り、平面形は北側が半円状に突出した不整形、断面形は略台形を呈する。覆土は①層～⑤層に分層できる。

88号土壙【SK88】（第60図）

SK88の東側はSK87に切られている。長軸0.44m～、短軸0.62m、深さ0.16mを測り、検出した平面形は半円形、断面形は浅い皿状である。

134号土壙【SK134】（第61図）

SK134は長軸1.42m、短軸0.56m、深さ0.35mを測り、平面形は不整形、断面形は東側が浅い皿状、西側が略台形である。覆土は①層・②層に分層できる。

135号土壙【SK135】（第61図）

SK135は長軸1.16m、短軸0.62m、深さ0.30mを測り、確認できた平面形は略三角形、断面形は深い皿状である。覆土は①層・②層に分層できる。

136号土壙【SK136】（第61図）

SK136は長軸1.08m、短軸0.36m、深さ0.31mを測り、平面形は楕円形、断面形は深い皿状である。

137号土壙【SK137】（第61図）

SK137は長軸0.94m、短軸0.50m、深さ0.58mを測り、平面形は略楕円形、断面形は不整な台形である。覆土は①層～③層に分層できる。

138号土壙【SK138】（第61図）

SK138は長軸1.48m、短軸1.44m、深さ0.58mを測り、平面形は南側が突出した不整形、確認できた箇所の断面形は深い筒状である。覆土は①層～③層に分層できる。

遺構出土遺物（第62図・表23・表25）

第62図は遺構からの出土遺物で詳細は表23・表25のとおりである。

1はSK31、2はSK80、3はSK74、4はSA70、5・7はSB64、6・8はSK30・31から出土した。1～5は外底部に糸切り痕がある土師器である。1～4は小型製品、5は中型製品である。6は青磁椀の高台付近の破片である。7は青磁の注口部片である。8はSK31から出土した古銭である。

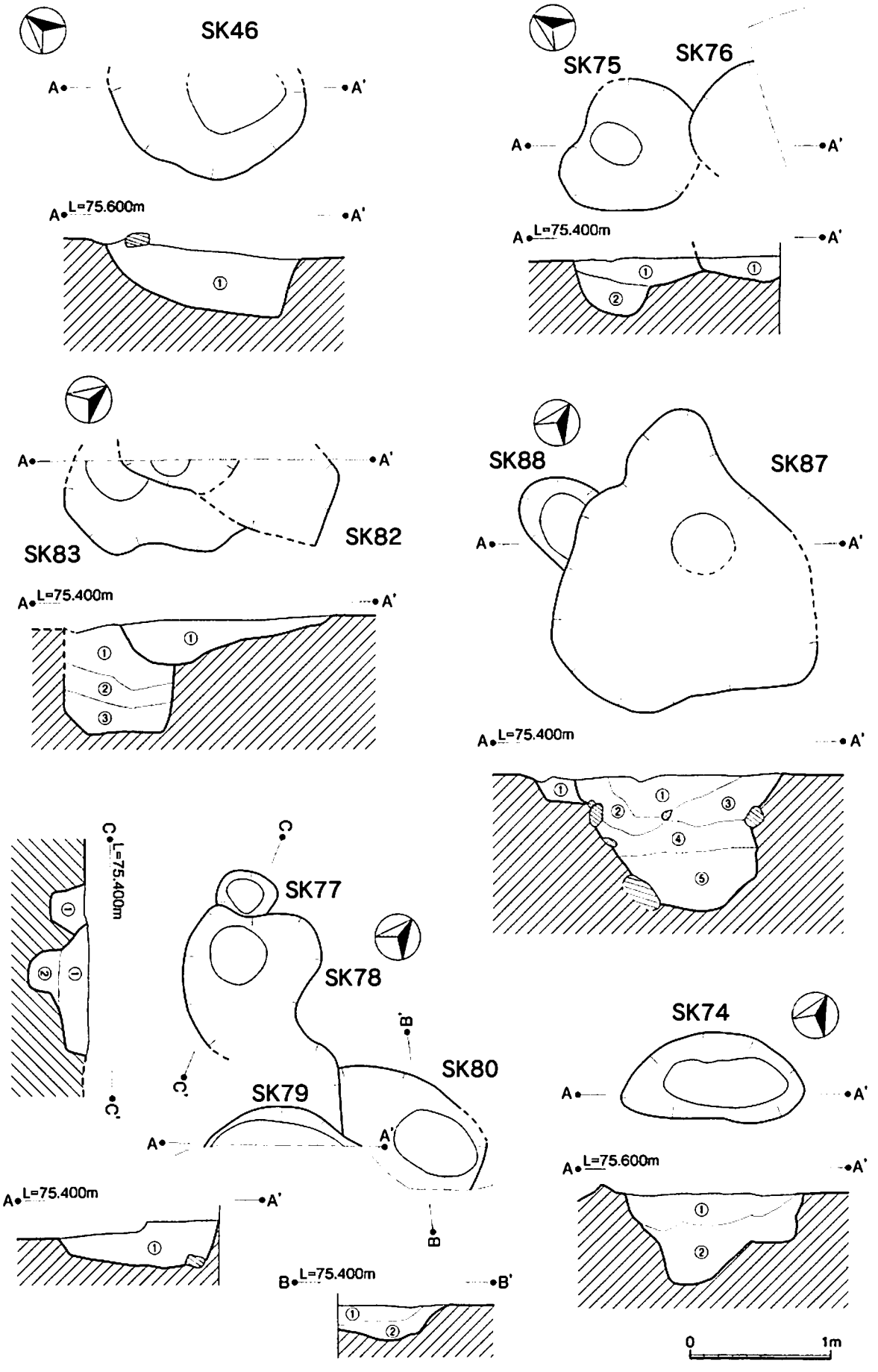
3. その他

ここでは、2. 遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。

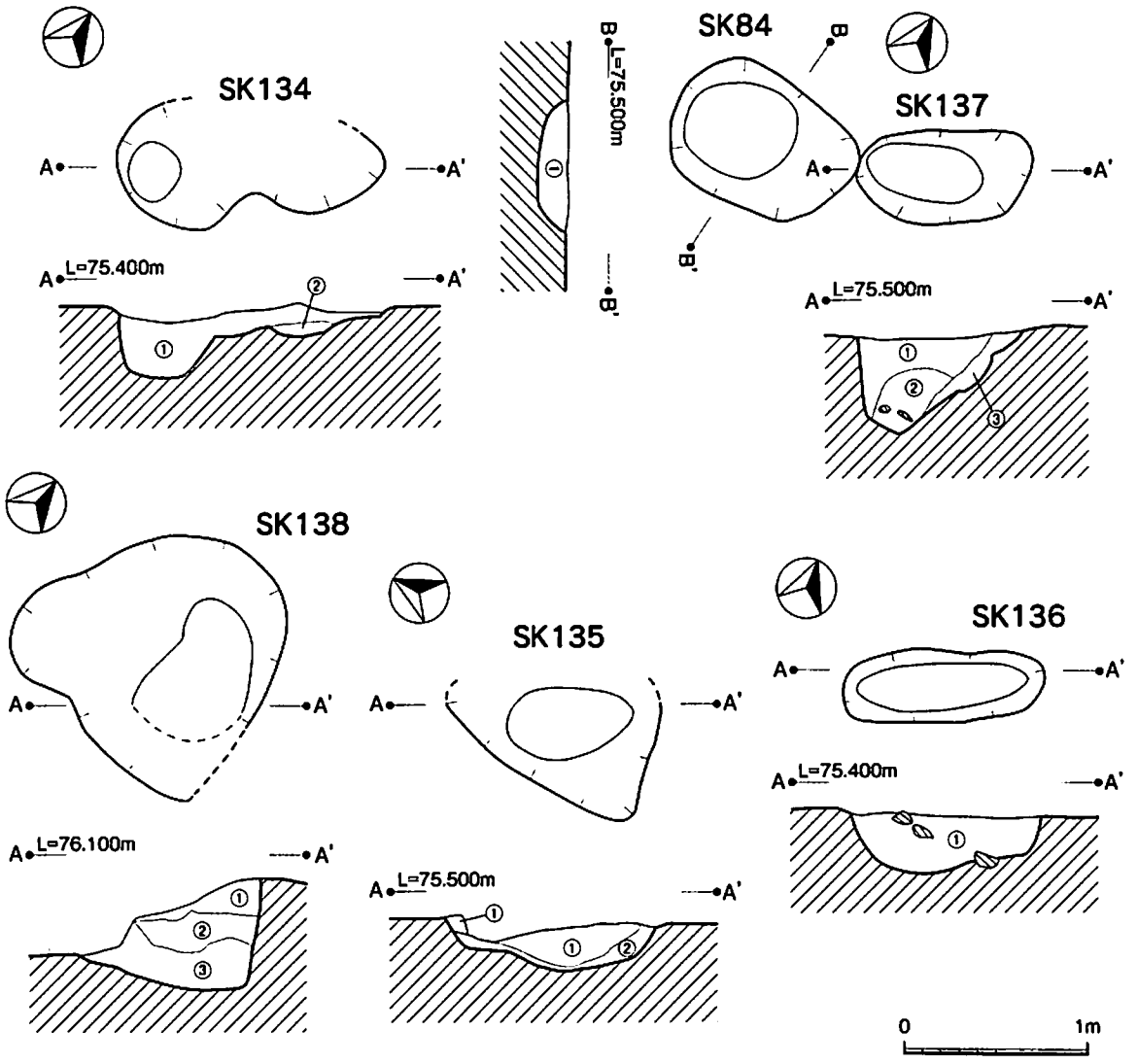
3区出土遺物（第63図・表23）

第63図は、3区の遺構以外のところから出土した遺物で、出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、表23のとおりである。

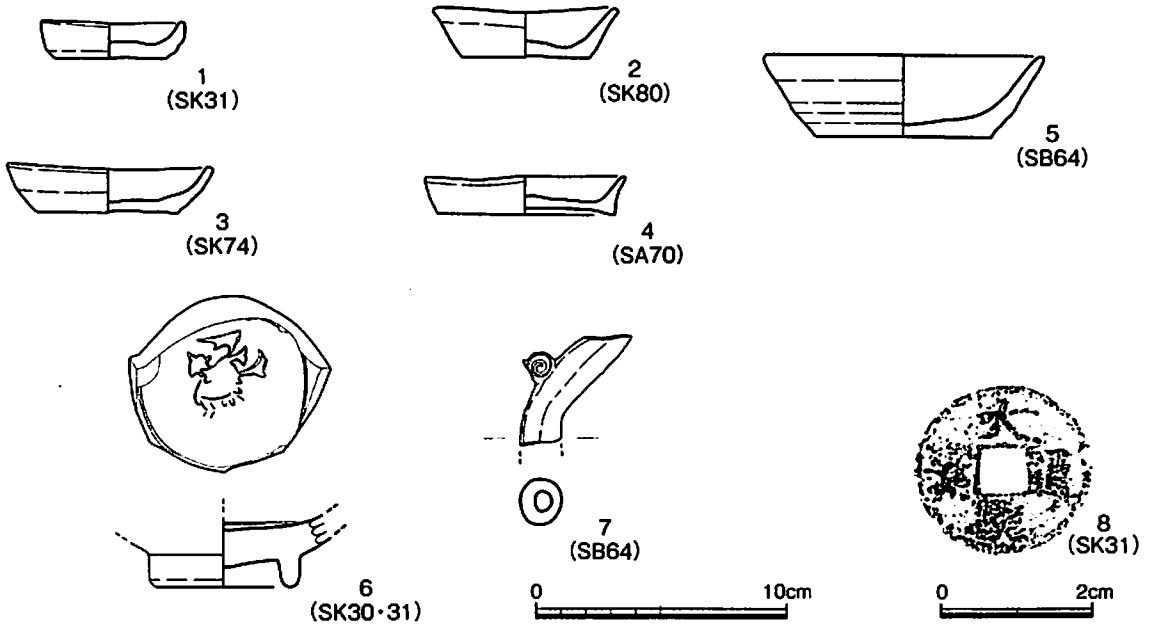
1～8、10・11は外底部に糸切り痕がある土師器である。1・6は極小皿、2～7は小型製品、8・10・11は中型杯である。10は体部中程に段があり、そこからさらに外に開く。底部には焼成後に内外器面から穿孔された穴がある。9は瓦質土器の火鉢口縁部片である。12は染付椀の破片である。13～18は青磁の製品である。13～14は椀片、15は皿片、18は琮形瓶片である。16・17は破片のため器種が不明確である。19は土製の紡錘車片である。20は備前焼き甕の口縁部付近の破片である。



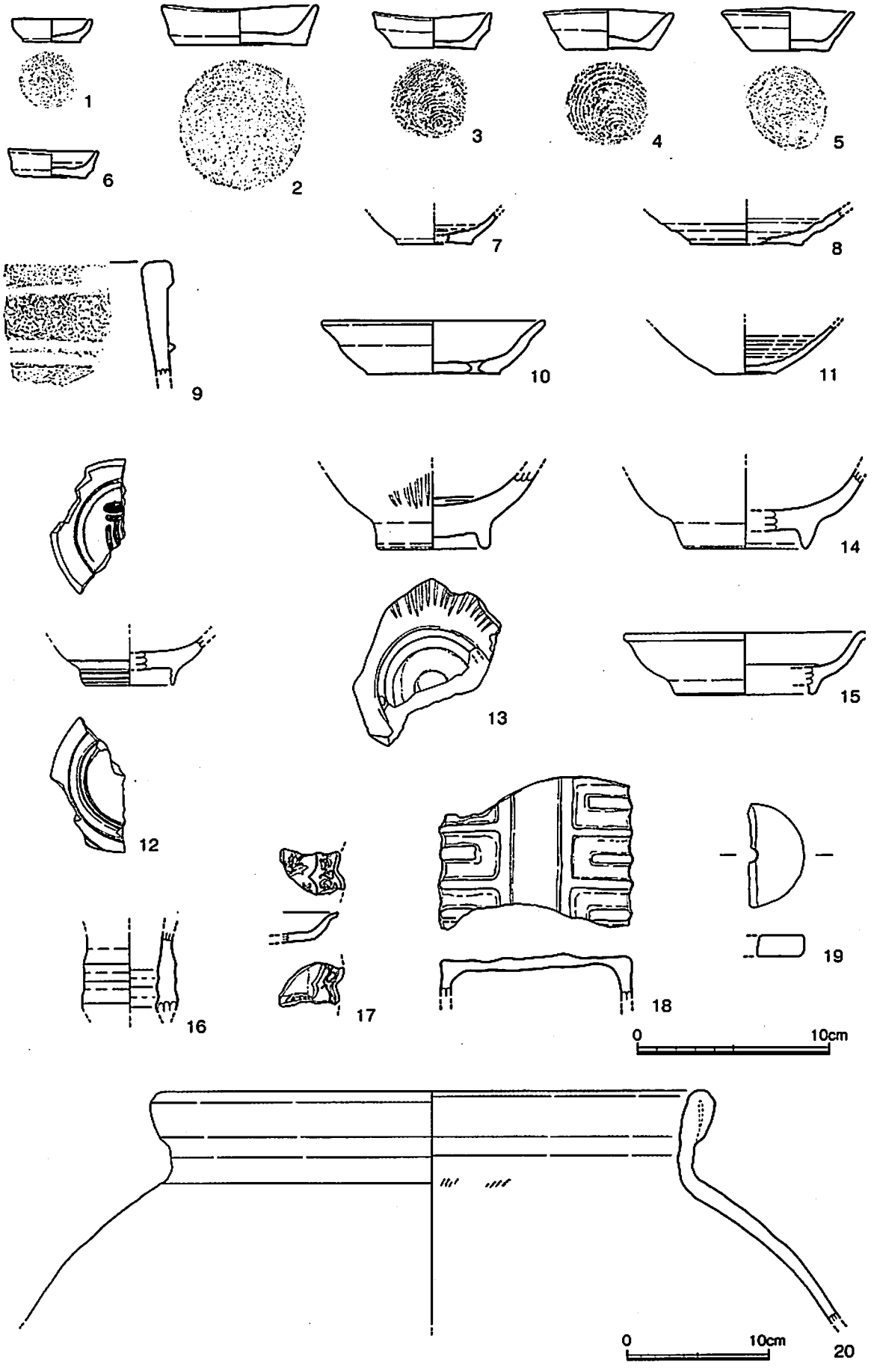
第60図　土壙（SK46・74・75・76・77・78・79・80・82・83・87・88）実測図



第61図　土壙（SK84・134・135・136・137・138）実測図



第62図　3区遺構出土遺物実測図



第63図　3区出土遺物実測図

遺構番号	層順	土層名	特　徴
SE73	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土とカーボンを全体に含む。礫が混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土とカーボンを全体に含む。①より少ない。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。②より少し暗い。極小の焼土を含む。
SD50	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土とカーボンをわずかに含む。大小の礫が混じる。
SK30	①層	黒色土（Hue 10YR 1.7/1）	粘性なし、しまりあり。焼土（1～3cm）とカーボン（1～5cm）を同じ量で全体に含む。遺物1点混じる。
SK31	①層	黒色土（Hue 10YR 1.7/1）	粘性あり、しまりあり。焼土（1～3mm）とカーボン（1～5mm）を同じ量で全体に含む。遺物も混じる。
SK46	①層	黒色土（Hue 7.5YR 1.7/1）	粘性あり、しまりあり。焼土をわずかに含み、礫も少し混じる。
SK74	①層	暗褐色土（Hue 10YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。極小のカーボンを少量と焼土をわずかに含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。
SK75	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。全体に鉄分、カーボンを含む。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性あり、しまりあり。鉄分をわずかに含み、小さな礫混じる。
SK76	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土とカーボンを含む。
SK77	①層	黒色土（Hue 7.5YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。極小の焼土をごくわずかに含む。小さな礫混じる。
SK78	①層	黒色土（Hue 7.5YR 2/1）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土とカーボンをわずかに含む。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）	粘性あり、しまりあり。極小の焼土をわずかに含み、小さな礫混じる。
SK79	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）	粘性あり、しまりなし。全体に焼土が混じり、ごくわずかにカーボンを含む。小さな礫も混じる。
SK80	①層	暗褐色土（Hue 7.5YR 3/3）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土とカーボン（2mm大）を少量含む。
	②層	黒色土（Hue 7.5YR 1.7/1）	粘性あり、しまりあり。極小の焼土をわずかに含み、小さな礫混じる。
SK82	①層	黒色土（Hue 7.5YR 3/1）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土が、カーボン（2～3mm大）をわずかに含む。
SK83	①層	黒褐色土（Hue 10YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。極小の焼土をわずかに含む。
	②層	黒色土（Hue 7.5YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。ごくわずかに焼土を含み、小さな礫混じる。
	③層	黒色土（Hue 10YR 1.7/1）	粘性あり、しまりあり。小さな礫混じる。
SK84	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボンをわずかに含む。
SK87	①層	黒褐色土（Hue 7.5YR 3/2）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土とカーボンを少量含む。小さな礫混じる。
	②層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボンをわずかに含む。礫も少し混じる。
	③層	黒褐色土（Hue 7.5Y 2/2）	粘性なし、しまりあり。焼土とカーボンを少量含み、小さな礫もわずかに混じる。
	④層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。焼土は②と同じくらい、カーボンをわずかに含む。
	⑤層	黒色土（Hue 10YR 2/1）	粘性あり、しまりあり。焼土とカーボンをわずかに含む。礫混じる。
SK88	①層	黒色土（Hue 7.5YR 3/1）	粘性なし、しまりあり。全体に焼土が、カーボン（2～3mm大）をわずかに含む。
SK134	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりなし。所々に暗褐色土を含み、焼土も少し混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 7.5YR 2/2）	粘性なし、しまりあり。ほとんど混じりなし。
SK135	①層	暗褐色土（Hue 7.5YR 3/4）	粘性なし、しまりなし。焼土と褐色粘土のブロックと砂粒を多く含む。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりなし。焼土を少し含む。
SK136	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりなし。暗褐色土のブロックを含み、焼土も少し混じる。
SK137	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりなし。焼土と暗褐色土のブロックを多く含み、褐色粘土も少し混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性あり、しまりあり。①とほとんど変わらないが、しまり強い。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/2）	粘性なし、しまりなし。暗褐色土を多く含む。
SK138	①層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりなし。焼土と暗褐色土のブロックを多く含み、褐色粘土も少し混じる。
	②層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりなし。①と比べ褐色土のブロックの混じりなし。
	③層	黒褐色土（Hue 10YR 2/3）	粘性なし、しまりなし。①と同じく、褐色土のブロックを多く含み、10cm以上も混じる。

表12　3区検出遺構土層注記表

（寸法は検出面で計測したもの）　　単位：（m）

遺構名	遺構番号	長軸	短軸	深さ	備　考
溝跡	SD50	1.58～	0.40	0.12	
井戸跡	SE73	1.21	1.18	0.56	
土壙	SK30	2.25～	2.00～	0.20	遺物出土
	SK31	2.80	2.60～	0.25	遺物出土
	SK46	1.38	0.66	0.56	
	SK74	1.26	0.60	0.66	遺物出土
	SK75	0.94～	0.92	0.42	SK76に切られる
	SK76	0.58～	0.65	0.18	
	SK77	0.32～	0.40	0.24	SK78に切られる
	SK78	1.78～	0.98	0.42	SK79に切られる
	SK79	1.10～	0.28～	0.34	
	SK80	0.90	0.71～	0.24	SK78, 79に切られる、遺物出土
	SK82	1.44	0.20～	0.31	
	SK83	1.00～	0.65～	0.78	SK82に切られる
	SK84	1.00	0.72	0.18	
	SK87	1.94	1.48	0.95	
	SK88	0.44～	0.62	0.16	SK87に切られる
	SK134	1.42	0.56	0.35	
	SK135	1.16	0.62	0.30	
	SK136	1.08	0.36	0.31	
	SK137	0.94	0.50	0.58	
	SK138	1.48	1.44	0.58	

表13　3区検出遺構一覧表

第5節　確認調査

1. 実施場所と経緯

1区の西側、2区の南側のビオトープを建設する場所で確認調査を実施した。ビオトープは全体に盛土を行い、その範囲内で工事施工する計画であるため、本発掘調査の範囲に含めなかった。

2区の発掘調査の結果、調査区で二重の堀跡を確認した。外側の堀跡（SD99）は1区の調査結果と併せて方形に巡ることが想定できるが、内側の堀跡（SD186）については、どのようになっているかを判断する資料に乏しい状態であった。地元からの要望もあったので、ビオトープ建設地内で、SD186の状態を把握する目的で確認調査を実施した。確認した遺構は検出面で掘削を止めており、遺構内の掘り下げは実施していない。調査終了後、埋め戻して遺構を保存している。

2. 確認調査結果（第3図・第64図）

トレンチをSD186が伸びていると推定できる方向の4箇所に設定した。北側から南側に向けて1～4の番号を付けた。

(1) トレンチ1

トレンチ1の西側半分は撹乱が激しく、遺構等は確認できなかった。東側半分では、地山である褐色土に掘り込んだ堀跡の一部を確認した。確認面は地表から約55cm下の部分である。堀跡の覆土は暗褐色土で礫が混じっている。深さは確認面からの約40cmで、底部は褐色土（地山）より下面の明褐色砂礫層に達している。

(2) トレンチ2

トレンチ2の土層を観察すると、表土（約20cm）の下は明褐色砂礫層まで客土（約90cm）である。そのため、遺構等の確認はできなかった。

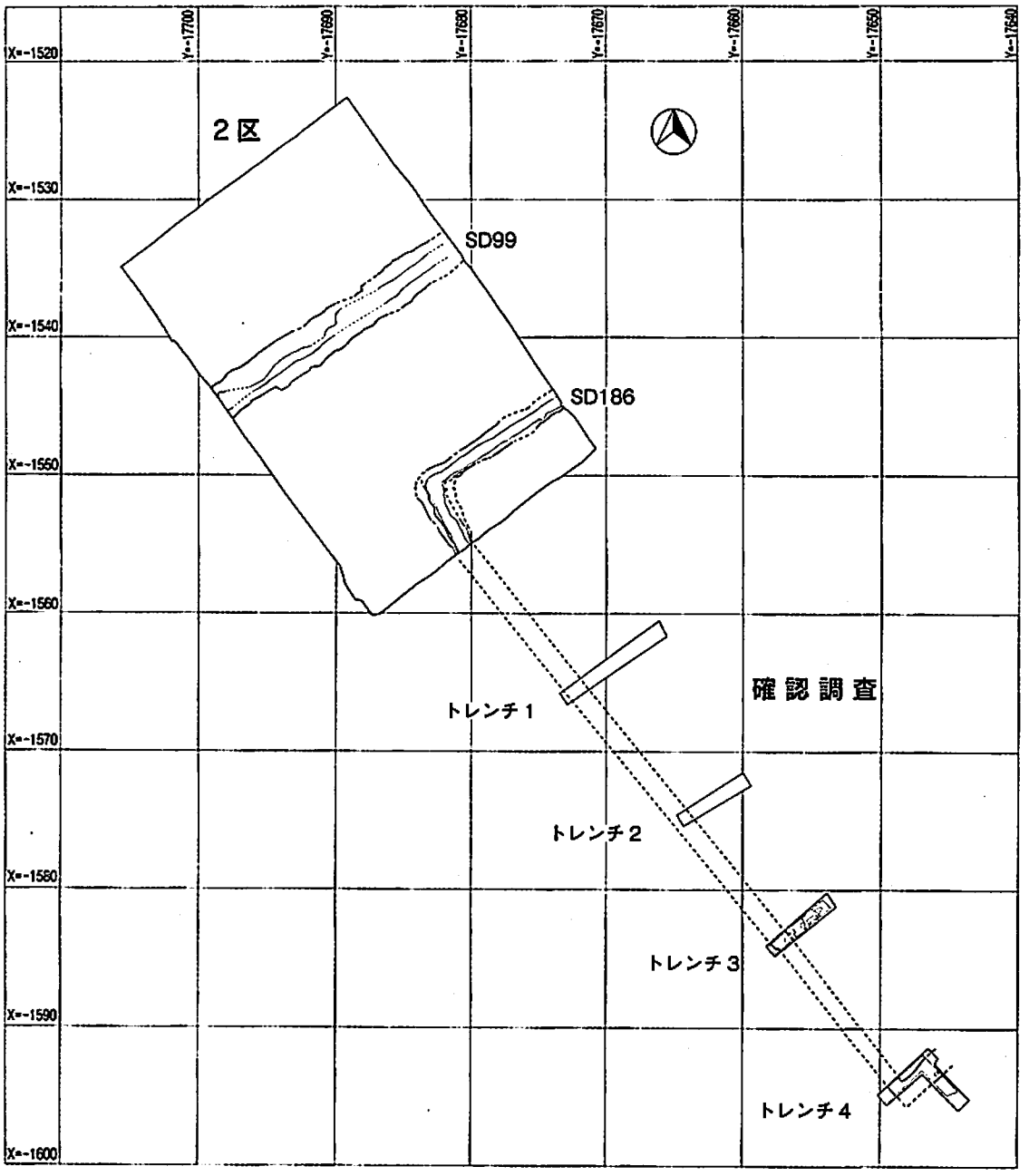
(3) トレンチ3

トレンチ3では西側と東側に寄ったそれぞれの箇所で堀跡を確認した。確認面は地表から約66cm下である。2条の堀跡は地山である褐色土に掘り込んでおり、覆土は焼土が混じる黒色土である。その確認面の上に暗褐色土（約27cm）が堆積している。これらを切った状態の方形の掘方と柱痕跡を確認した。

(4) トレンチ4

トレンチ4では堀跡の屈曲した部分を確認した。確認面は地表から約59cm下である。堀跡は地山である褐色土に掘り込んでおり、覆土は焼土が混じる黒色土である。

トレンチ3の西側で確認した堀跡とトレンチ4で確認した堀跡は2区のSD186とつながると想定できる。この想定が正しければ、SD186西側部分の屈曲部両端を確認したことになり、その長さが約59mになる。



第64図　確認調査遺構配置図（S=1/500）

第Ⅳ章　自然科学分析

隈府土井ノ外遺跡の自然科学分析報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

隈府土井ノ外遺跡は、迫間川左岸の台地上に立地し、中世の武家屋敷に関連する遺構・遺物が検出されている。

今回の分析調査では、隈府土井ノ外遺跡の遺構の年代を確認するために放射性炭素年代測定、遺構の性格を検証するために寄生虫卵分析、木材利用・植物利用・動物利用の確認のために樹種同定、種実同定、骨・貝同定を実施する。

Ⅰ．隈府土井ノ外遺跡の自然科学分析

1. 放射性炭素年代測定

(1) 試料

試料は、各遺構から出土した炭化材1点、貝3点の合計4点である。

(2) 分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC　Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に^{13}C/^{12}Cの測定も行うため、この値を用いてδ^{13}Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

(3) 結果

同位体効果による補正を行った年代測定結果を表1、暦年較正結果を表2に示す。補正年代は、SD186の炭化材が430±30BP、SD186の貝が870±30BP、SD85の貝が810±30BP、SK9の貝が930±30BPを示し、貝3点がほぼ同年代を示すのに対し、炭化材がそれよりも400年ほど新しい年代を示す。これらの年代測定値の測定誤差をσとして計算させた暦年代は、SD186の炭化材がcalAD1,433-1,469、SD186の貝がcalBC1,433-1,478、SD85の貝がcalBC1,466-1,524、SK9の貝がcalBC1,399-1,452である。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

貝3点は、$\delta^{13}C$の値からみて海洋由来の炭素によって構成されていることから、海洋炭素に由来する較正曲線を用いた暦年較正を行う。リザーバー効果による補正に関しては、地域的な補正を行うための情報に乏しいため、海洋での一般的な値（暦年較正プログラムのdefault値である約400年）を用い、地域による補正は考慮していない。炭化材1点については、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

2. 寄生虫卵分析

(1) 試料

試料は、1区SK58の4点（埋1層、埋2層、埋3層、埋4層）と1区SK59の5点（埋1層、埋2層、埋3層、埋4層、埋5層）の合計9点である。

(2) 分析方法

試料10ccを正確に秤り取る。これについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.3）による有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、寄生虫卵および花粉・胞子を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての寄生虫卵と花粉・胞子化石について同定・計数する。

結果は、寄生虫卵については堆積物1ccあたりに含まれる寄生虫卵の個数を一覧表として、花粉・胞子化石については同定および計数結果の一覧表として表示する。

(3) 結果

結果を表3に示す。同定したいずれの試料からも、寄生虫卵は検出されなかった。また、花粉化石の検出状況も悪く、木本花粉ではマツ属、コナラ属アカガシ亜属、モチノキ属が、草本花粉ではイネ科、アカザ科、ヨモギ属、タンポポ亜科が、1-3個体検出されるのみである。わずかに検出された花粉化石の保存状態も悪く、ほとんどの花粉外膜が破損・溶解していた。分析プレパラート内の状況写真を図版1に示す。

(4) 考察

今回遺構の性格に関する情報を得るために、寄生虫卵分析を実施した。寄生虫は、それに感染した中間宿主、あるいは寄生虫卵に汚染されたものなどを摂取することで、終宿主(ヒト)に感染する。寄生虫卵は普通の土壌中にも含まれるが、糞便などの堆積物で多産する調査事例も報告されている(例えば金原・金原,1992,1993; 金原ほか,1995など)。しかしながら、今回分析を実施したいずれの試料からは、寄生虫卵は1個体も検出されなかった。同試料では、花粉化石の産出状況が悪く、保存状態も悪い。一般的に、花粉やシダ類胞子の堆積した場所が常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解･消失するとされている(中村,1967; 徳永・山内,1971; 三宅・中越,1998など)。また、寄生虫卵の分解に対する抵抗性は花粉化石と同程度とされている(黒崎ほか,1993)。今回の産出状況を見る限り、花粉化石は堆積後の経年変化により分解・消失したと推測されることから、寄生虫卵も分解の影響を受けている可能性がある。

なお、わずかながらに検出された花粉化石には、木本類のマツ属、コナラ属アカガシ亜属、モチノキ属、草本類のイネ科、アカザ科、ヨモギ属、タンポポ亜科が認められた。

3. 樹種同定

(1) 試料

試料は、2区SD186から出土した炭化材1点である。

(2) 分析方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東(1982)、Wheeler 他(1998)を参考にする。また、木材組織の配列の特徴については、林(1991)、伊東(1995,1996,1997,1998,1999)や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースも参考にする。

(3) 結果

炭化材は、広葉樹のコナラ属アカガシ亜属に同定された。解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属アカガシ亜属（Quercus subgen. Cyclobalanopsis）　ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

(4) 考察

炭化材は、遺構内から出土しており、炭化していること等から、何らかの人間活動に伴って火を受けたことが推定されるが、用途などの詳細は不明である。炭化材の樹種は常緑広葉樹のアカガシ亜属に同定された。アカガシ亜属は、暖温帯常緑広葉樹林の構成する種類であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。現在の本遺跡周辺にもシラカシ等が分布していることから、本遺跡周辺に生育していた樹木を利用したことが推定される。

4. 種実の同定

(1) 試料

試料は、1区のP-7から検出された種実遺体1点である。

(2) 分析方法

種実を双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照から種類と部位を同定する。分析後の種実は、容器に入れて返却する。

(3) 結果

ブナ科コナラ属(Quercus)の果実に同定された。炭化しており黒色。長さ14.5mm、径11.5mm程度の卵状楕円体。果実頂部にある花柱や殻斗の圧痕である輪状紋を欠損する。基部は切形で、径6mm程度の円形で維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある。果皮外面はやや平滑で、微細な縦筋がある。

(4) 考察

コナラ属には、常緑となるアカガシ亜属と、落葉となるコナラ亜属（クヌギ節・コナラ節）がある。アカガシ亜属は、暖温帯常緑広葉樹林の構成種として、コナラ亜属はその伐採跡に形成される二次林の構成種として広く分布する。本遺跡では、SD186から出土した炭化材がアカガシ亜属に同定されており、少なくともアカガシ亜属が分布していたことが推定される。

コナラ属の果実（ドングリ）は、一部を除いて灰汁抜きが必要であるが、食用とすることが可能である。長期保存が可能で収量も多いため、古くから里山で保護、採取されてきた有用植物でもある。今回の結果から、遺跡内でも食糧として利用された可能性がある。

5. 骨・貝の同定

(1) 試料

試料は、1区SK234埋土一括から出土した骨1点、1区PO60から出土した貝2点、年代測定を実施する1区SD85埋2層、2区SD186埋3層、1区SK9取り上げNo.1の貝3点の合計5点である。いずれも中世の遺構から出土したとされている。

(2) 分析方法

試料に付着していた土壌は、乾いた刷毛等で落とす。一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合を行う。試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。なお、同定および解析には金子浩昌先生の協力を得た。

(3) 結果・考察

1区SK234埋土一括から出土した骨1点は、現長60mmを計る獣類の肋骨片である。骨体に厚みがあり、イノシシ(Sus scrofa)と推定される。成獣である。

1区PO60から出土した貝2点は、ハマグリ(Meretrix lusoria)の左殻1点と右殻1点である。左右殻は別個体と思われる。右殻は劣化のために原形不明である。左殻は、若干形質をとどめており、殻長50mm前後と推定される。いずれも当時食用とされたものが廃棄されたのであろう。

また、年代測定試料を行った試料は、1区SD85埋2層と2区SD186埋3層がアカニシ(Rapana venosa)であった。SK9取り上げNo.1は、アカニシの可能性があるが、破損が著しく殻柱部しか残存していないため、アッキガイ科(Muricidae)でとどめておく。いずれも螺塔・体層部が破損していることから、中身を取り出す際に打ち割られた可能性があり、食用後に破棄されたものと考えられる。

引用文献

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東　隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東　隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東　隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東　隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東　隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

島地　謙・伊東　隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別　ＩＡＷＡによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東　隆夫・藤井　智之・佐伯　浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

金原　正明・金原　正子,1992,花粉分析および寄生虫.藤原京跡の便所遺構ー右京七条一坊西北坪ー,奈良国立文化財研究所,12-15.

金原　正明・金原　正子,1993,史跡松江城二ノ丸番所跡SK-04内堆積土の分析.史跡松江城発掘調査報告書,松江市教委区委員会,51-56.

金原　正明・金原　正子・中村　亮仁,1995,大宮坊跡(厠跡)における自然科学的分析.史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ,石川県鹿島町教育委員会,51-70.

黒崎　直・松井　章・金原　正明・金原　正子,1993,糞便堆積物の分析　ー特に寄生虫卵分析についてー.日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集,日本文化財科学会,115-115.

三宅　尚・中越　信和,1998,森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態.植生史研究,6,15-30.

中村　純,1967,花粉分析.古今書院,232p.

徳永　重元・山内　輝子,1971,花粉・胞子.化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.

石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.

表 1.　隈府土井ノ外遺跡の放射性炭素年代測定結果

地区	遺構	番号	層位	種類	補正年代 BP	δ ^{13}C (‰)	測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
2 区	SD186	―	埋 3 層	炭化材	430 ± 30	−27.37 ± 0.56	470 ± 30	9612-1	IAAA-62852
2 区	SD186	―	埋 3 層	貝	870 ± 30	−2.97 ± 0.57	520 ± 30	9612-4	IAAA-62855
1 区	SD85	―	埋 2 層	貝	810 ± 30	−0.31 ± 0.58	410 ± 30	9612-3	IAAA-62854
1 区	SK9	No. 1		貝	930 ± 30	−1.63 ± 0.63	550 ± 30	9612-5	IAAA-62856

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表 2.　隈府土井ノ外遺跡の暦年較正結果

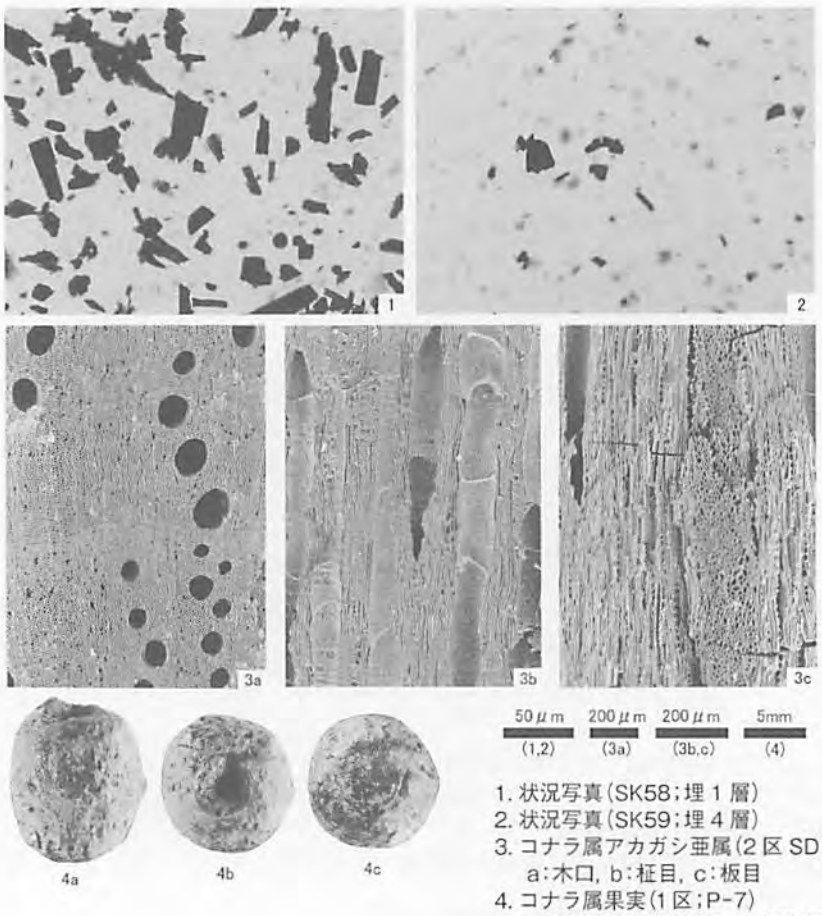
地区	遺構	層位	種別	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)				相対比	Code No.
2区	SD186	埋3層	炭化材	432± 32	σ	cal AD 1,433 - cal AD 1,469	cal BP 517 - 481	1.000	9612−1
					2σ	cal AD 1,419 - cal AD 1,511	cal BP 531 - 439	0.958	
						cal AD 1,601 - cal AD 1,615	cal BP 349 - 335	0.042	
2区	SD186	埋3層	貝	874± 32	σ	cal AD 1,433 - cal AD 1,478	cal BP 517 - 472	1.000	9612−4
					2σ	cal AD 1,409 - cal AD 1,508	cal BP 541 - 442	1.000	
1区	SD85	埋2層	貝	809± 32	σ	cal AD 1,466 - cal AD 1,524	cal BP 484 - 426	1.000	9612−3
					2σ	cal AD 1,442 - cal AD 1,585	cal BP 508 - 365	1.000	
1区	SK9		貝	929± 31	σ	cal AD 1,399 - cal AD 1,452	cal BP 551 - 498	1.000	9612−5
					2σ	cal AD 1,342 - cal AD 1,466	cal BP 608 - 484	1.000	

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01
(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3) 1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
4) 統計的に真の値が入る確率はσは 68%、2 σは 95% である。
5) 相対比は、σ、2 σのそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

表 3.　隈府土井ノ外遺跡の寄生虫卵・花粉分析結果

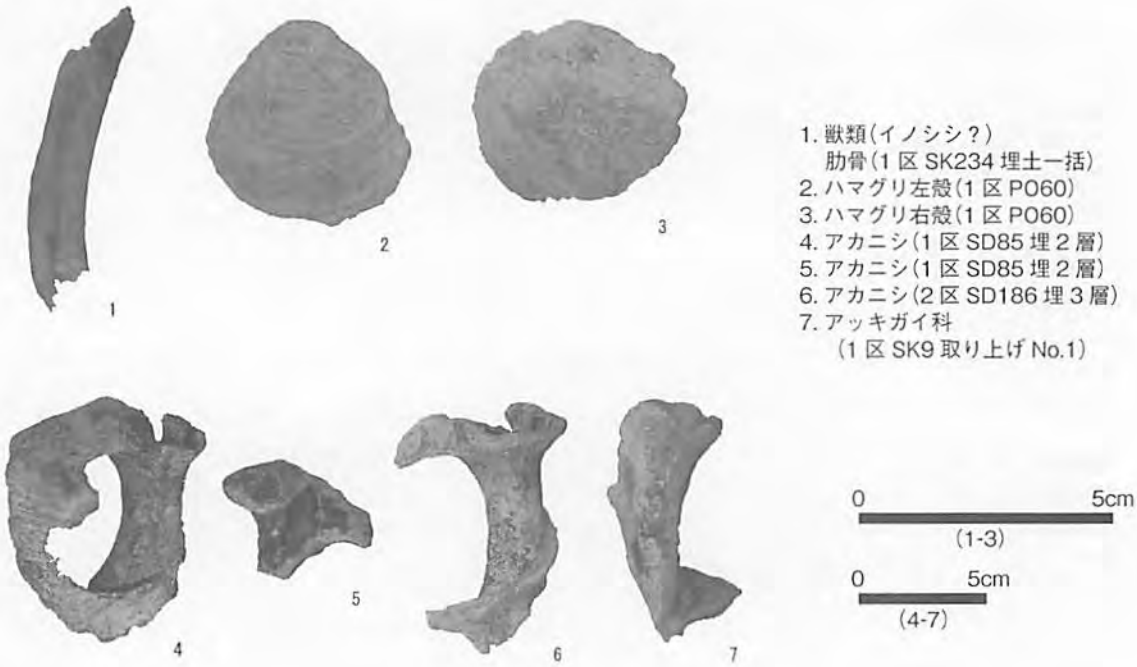
種類＼試料名	SK58				SK59				
	埋 1 層	埋 2 層	埋 3 層	埋 4 層	埋 1 層	埋 2 層	埋 3 層	埋 4 層	埋 5 層
木本花粉									
マツ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1
コナラ属アカガシ亜属	-	-	-	-	1	-	-	1	-
モチノキ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-
草本花粉									
イネ科	1	2	-	-	-	1	-	-	-
アカザ科	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ヨモギ属	-	1	1	-	-	3	-	2	1
タンポポ亜科	-	-	-	1	-	-	-	-	-
シダ類胞子									
シダ類胞子	3	7	3	6	6	1	5	1	5
合　計									
木本花粉	0	0	1	0	1	0	0	1	1
草本花粉	1	3	1	1	1	4	0	2	1
シダ類胞子	3	7	3	6	6	1	5	1	5
総計	4	10	5	7	8	5	5	4	7

図版１　隈府土井ノ外遺跡の寄生虫卵分布プレパラート内状況写真・炭化材・種実遺体



1. 状況写真（SK58；埋１層）
2. 状況写真（SK59；埋４層）
3. コナラ属アカガシ亜属（2区 SD186：埋３層）
　a：木口，b：柾目，c：板目
4. コナラ属果実（1区；P-7）
　a：側面観，b：上面観，c：下面観

図版２　隈府土井ノ外遺跡の出土骨貝類



1. 獣類（イノシシ？）
　肋骨（1区 SK234 埋土一括）
2. ハマグリ左殻（1区 P060）
3. ハマグリ右殻（1区 P060）
4. アカニシ（1区 SD85 埋２層）
5. アカニシ（1区 SD85 埋２層）
6. アカニシ（2区 SD186 埋３層）
7. アッキガイ科
　（1区 SK9 取り上げ No.1）

第V章　総括

第1節　遺構の保存と活用

1. 遺構の保存

遺構の保存については、発掘調査実施前や実施中に施設課・営繕室・文化課の三者で、設計変更等の協議を行った。協議の結果、新しく建設するプールは底面を30cmかさ上げすることで、遺構の全面保存を図った。職員駐車場は検出した遺構等に影響がない工事を行うことで、遺構の全面保存ができた。また、アリーナはできるだけ遺構に影響を及ぼさないような方法で工事を行い、部分的な保存をすることができた。保存できる部分は将来に向けて、平成18年度の発掘調査実施箇所を明確にする目的で、山砂による埋め戻しを行った。

2. 調査成果の活用（第65図）

発掘調査の成果を活用するために、施設課・営繕室・文化課の三者で協議を行い、以下の(1)～(5)を実施した。

(1) 高校玄関の西側壁面には、薬剤処理を施した4・5号堀跡の剥ぎ取った土層断面を展示し、解説文を掲載した（写真1）。

(2) アリーナ南側の職員駐車場では、下面に保存してある4・5号堀跡の平面位置を白線で表示した（写真2）。

(3) 高校正門を入った西側にあるビオトープの南東隅部には、1区で確認した2号井戸跡を移設復元した（写真3）。

(4) 2号井戸跡復元箇所の隣接地点には、発掘調査の成果を掲載した解説板を設置した（写真4）。

(5) 新校舎3階の屋上庭園の縁石には、調査区内で出土した遺構の構成要素となっていない円礫を再利用した（写真5）。

第2節　遺構と遺物

1. 掘立柱建物跡と柵列跡の変遷

1区のほぼ中央部に遺構が重複している箇所がある。その部分で、遺構の新旧関係を把握するために、遺構の掘り込み面、遺構の切り合い関係を検討し、明確なものを整理すると次のようになる。

(1) 174号掘立柱建物跡と175号柵列跡の両者は3層から掘り込んでいる。

(2) 174号掘立柱建物跡は12号掘立柱建物跡より古い。

(3) 12号掘立柱建物跡は95号掘立柱建物跡より古い。

以上のように、遺構の新旧関係から3時期が存在したことが分かり、これらを古い時期から順に1期～3期とした。

1期：174号掘立柱建物跡と175号柵列跡の時期

2期：12号掘立柱建物跡の時期

3期：95号掘立柱建物跡の時期

2. 堀跡の変遷

大きな溝跡は堀跡と表現する。1区では4・5号堀跡、2区では99号堀跡・186号堀跡を確認した。これらの変遷について考えてみる。

4・5号堀跡の土層断面を観察すると、2回の掘り込みが確認できる。最初の掘り込みは5層の砂礫層まで掘り込んでおり、断面形は台形を呈している。最初の堀跡がある程度埋まった段階で、最初の掘り込みよりやや東側にずれた位置で部分的に覆土の途中まで掘り直している。掘り直した堀跡の断面形は略三角形を呈している。2回目の掘り込みがある箇所の土層断面を観察すると、1回目の掘り込みに堆積した土は自然堆積によるものと判断できる。このことから、1回目の掘り込みと2回目の掘り込みにはある程度の時期差があると考えることができる。

しかし、当初の掘り込みと2回目の掘り込みから出土した遺物は14世紀後半～15世紀前半であり、両者に明確な時期差は認められない。このことは、2回目の掘り込みが当初の掘り込み覆土を掘り下げていることに起因すると考えられる。

写真１　土層剥ぎ取りの展示状況

写真２　４・５号堀跡の表示状況

写真３　移設復元した２号井戸跡

写真４　解説板と移設復元井戸跡

写真５　屋上庭園の状況

第 65 図　遺構の保存と活用状況

99 号堀跡の断面形は 4・5 号堀跡の 1 回目の掘り込みと同様に台形を呈している。土層を観察すると、5 層の砂礫層まで掘り込んでおり、4・5 号堀跡の掘り込み到達面と同じである。この堀跡から出土した遺物は 14 世紀後半～ 15 世紀前半で、4・5 号堀跡のものと同時期である。

186号堀跡は上面が削られており、残っているのは下面付近である。残存部の断面形は99号堀跡、4・5号堀跡の1回目の掘り込みと同様に台形である。土層断面を観察すると、これも5層の砂礫層まで掘り込んでいる。この状況も99号堀跡、4・5号堀跡の1回目の掘り込みと同じである。この堀跡から出土した遺物も14世紀後半～15世紀前半である。

以上のことから、99号堀跡は4・5号堀跡の1回目の掘り込みと一連のものであり、両者が検出した方向で伸びればほぼ直角に交わると推定できる。また、同時期に186号堀跡も存在したと考えられる。

3. 1期～3期の遺構構成の想定

1期～3期各期の遺構の構成については、上記1・2の遺構変遷をもとに次のように考えた。

1期（第66図）

1区に4・5号堀跡、2区に99号堀跡、186号堀跡があり、溝で区画された方形区画が内外の二重に存在すると考えられる。

確認できた部分は4・5号堀跡で約73 m、99号堀跡で約20 mである。この時期に遺構の新旧関係で検討した174号掘立柱建物跡、175号柵列跡があると考えた。これらに伴うと推定できる遺構を取り上げ、まとめると下記のようになる。

1区：4・5号堀跡、174号掘立柱建物跡、175号柵列跡、205号柵列跡、215号柵列跡、1号井戸跡

2区：99号堀跡、186号堀跡、251号掘立柱建物跡、246号柵列跡、255号柵列跡

3区：65号掘立柱建物跡、73号井戸跡

2期（第67図）

2期には掘り直しをした4・5号堀跡が存在し、99号堀跡、186号堀跡には掘り直しが行われていないので、2期には存在しないと考えた。遺構の新旧関係で検討した12号掘立柱建物跡が2期に存在すると考えた。これらの遺構と同時期に存在すると推定したものを取り上げ、まとめると次のとおりになる。

1区：4・5号堀跡、12号掘立柱建物跡、26号掘立柱建物跡、91号掘立柱建物跡、22号柵列跡、208号柵列跡

2区：247号掘立柱建物跡

3区：64号掘立柱建物跡、284号掘立柱建物跡、70号柵列跡

3期（第68図）

3期には遺構の新旧関係で検討した95号掘立柱建物跡、4・5号堀跡が存在すると考えた。これらの遺構に伴うと推定したものを整理し、まとめると下記のようになる。

1区：4・5号堀跡、95号掘立柱建物跡、19号掘立柱建物跡、206号柵列跡、207号柵列跡、2号井戸跡

3区：69号掘立柱建物跡、283号掘立柱建物跡

4. 1期～3期の時期

出土遺物の中心となるのが14世紀後半～15世紀前半のものであることから、遺構変遷を考慮して各期の時期を比定すると次のようになる。

1期：14世紀後半～14世紀末頃と考えられる。

2期：14世紀末頃～15世紀初頭と考えられる。

3期：15世紀初頭～15世紀前半と考えられる。

5. 土師器

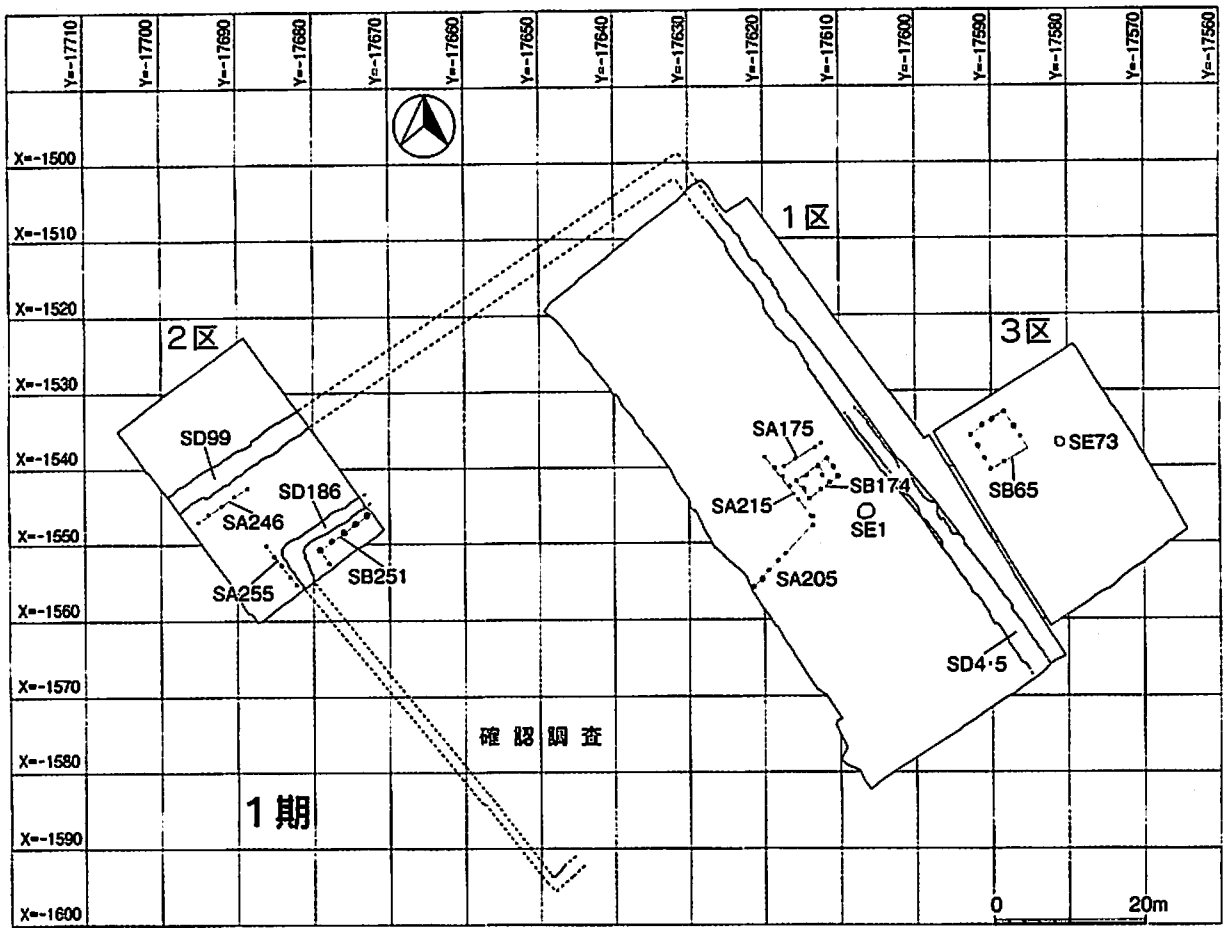
土壙から土師器が一括して出土したものの中で、8号・9号・10号・116号・117号土壙出土の土師器を選んで、土壙ごとに法量比較表を作成した（表14）。

この表はX軸に口径、Y軸に器高をとり、計測した土師器1点を1ドットで表示したものである。統計処理した土師器は8号土壙65点、9号土壙31点、10号土壙23点、116号土壙37点、117号土壙14点である。これら5基の土壙出土土師器に共通していることをまとめると、次のようなグループ分けをすることができる。

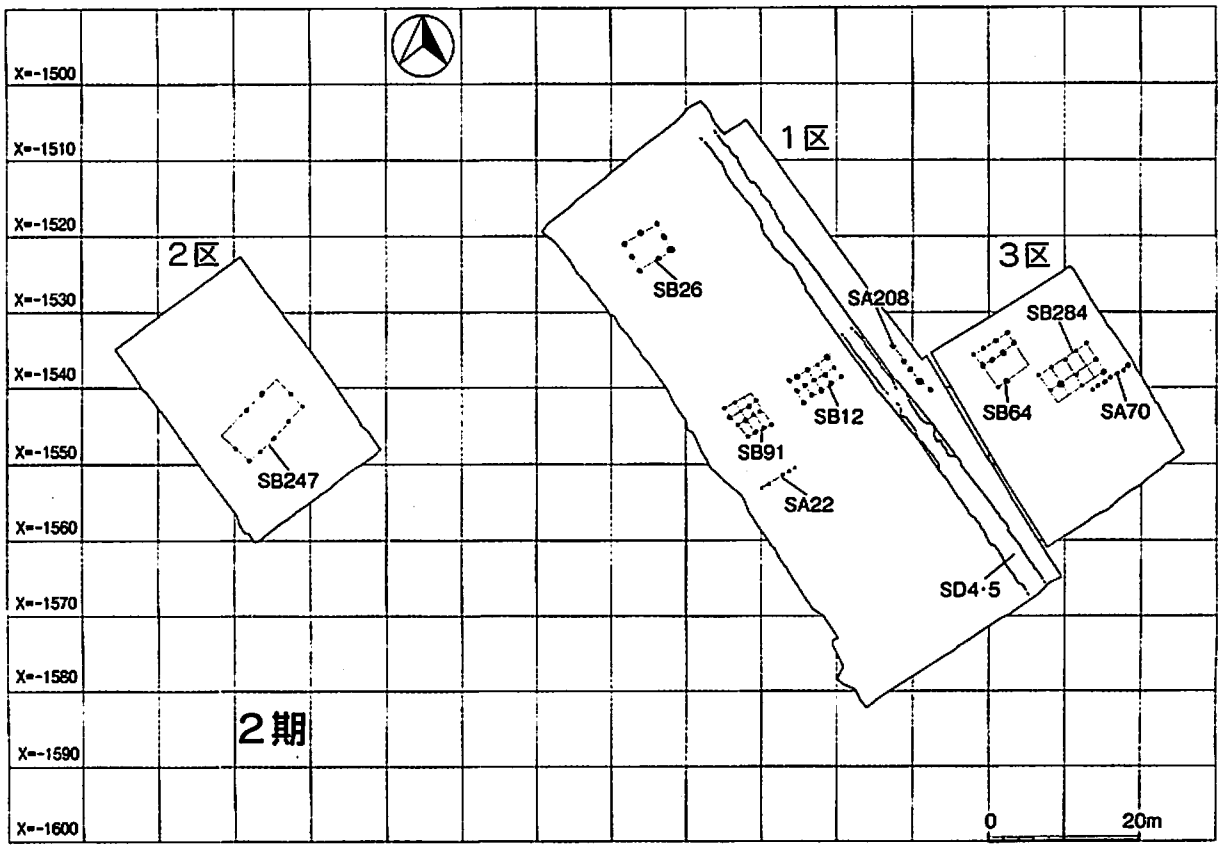
小型製品のグループ：口径6～7cm前後、器高1.4～2cm前後の計測値をもつ土師器

中型製品のグループ：口径10～11cm前後、器高2.2～3cm前後の計測値をもつ土師器

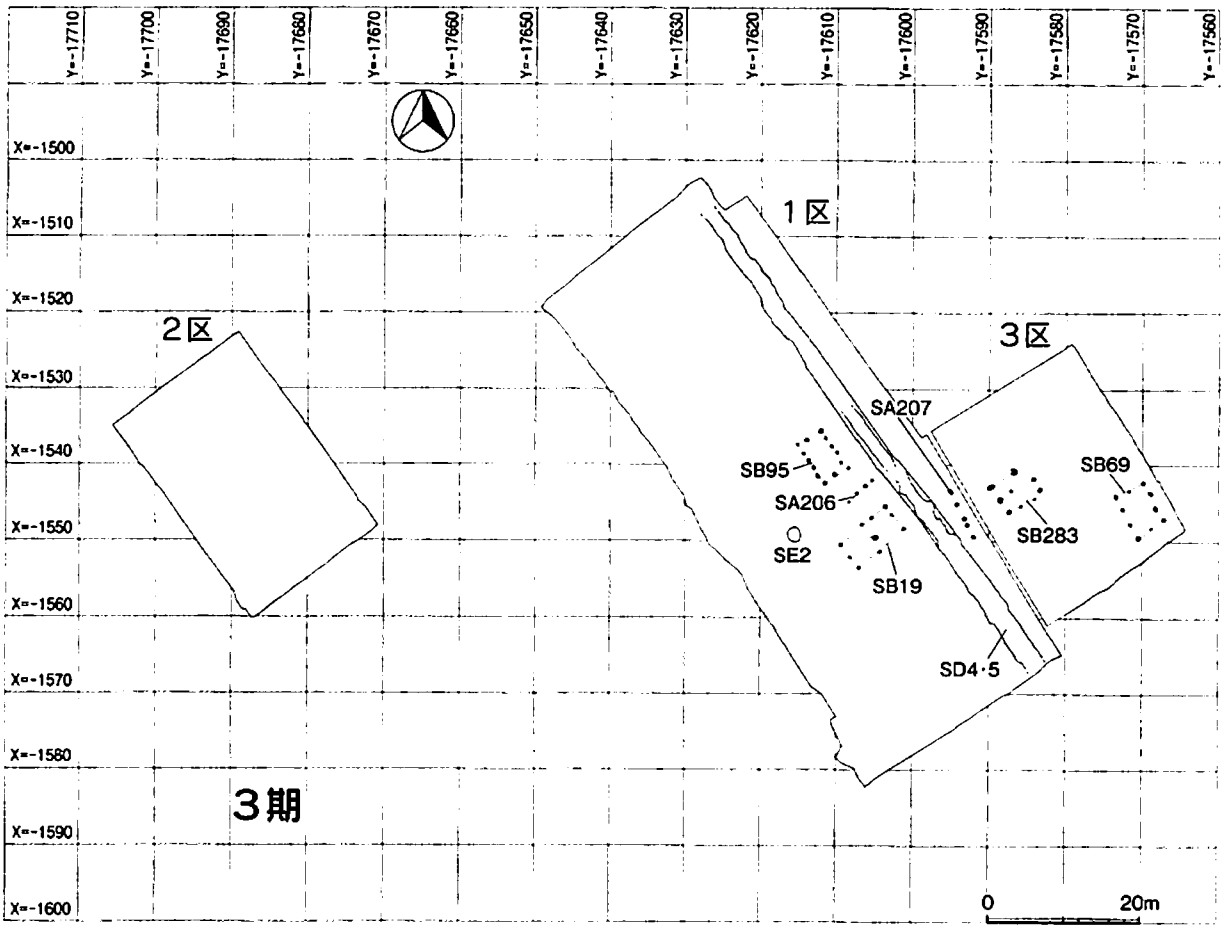
上記の2グループの他に、次のようなグループが116号土壙出土土師器の中に見られる。



第66図　遺構変遷図（1）（S=1/1000）



第67図　遺構変遷図（2）（S=1/1000）



第68図　遺構変遷図（3）（S=1/1000）

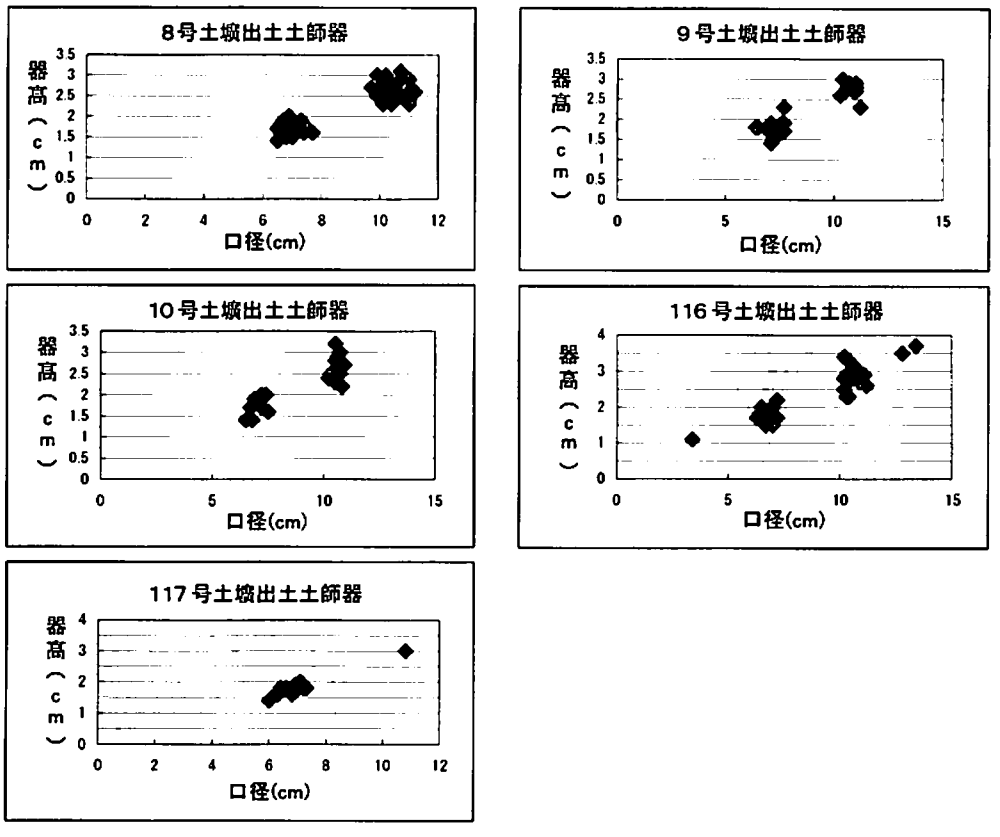


表14　土師器法量比較表

大型製品のグループ：口径 13 ～ 14cm 前後、器高 3cm 前後の計測値をもつ土師器

極小製品のグループ：口径 3cm 前後、器高 1cm 前後の計測値をもつ土師器

小型製品や中型製品の土師器出土数と比べると、大型製品と極小製品の土師器出土数は少ない。また、中型製品のグループの中に、体部中程に段をもち、そこから口縁端部に向けてさらに外側に開くものが多数出土しているのが特徴的である。

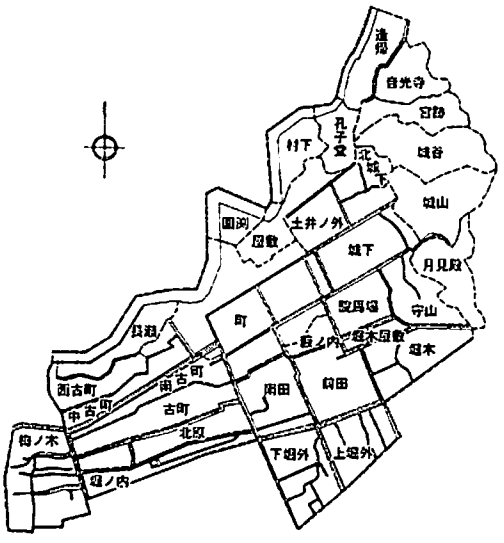
第 3 節　今回検出した遺構の評価

1. 菊池市隈府の字図

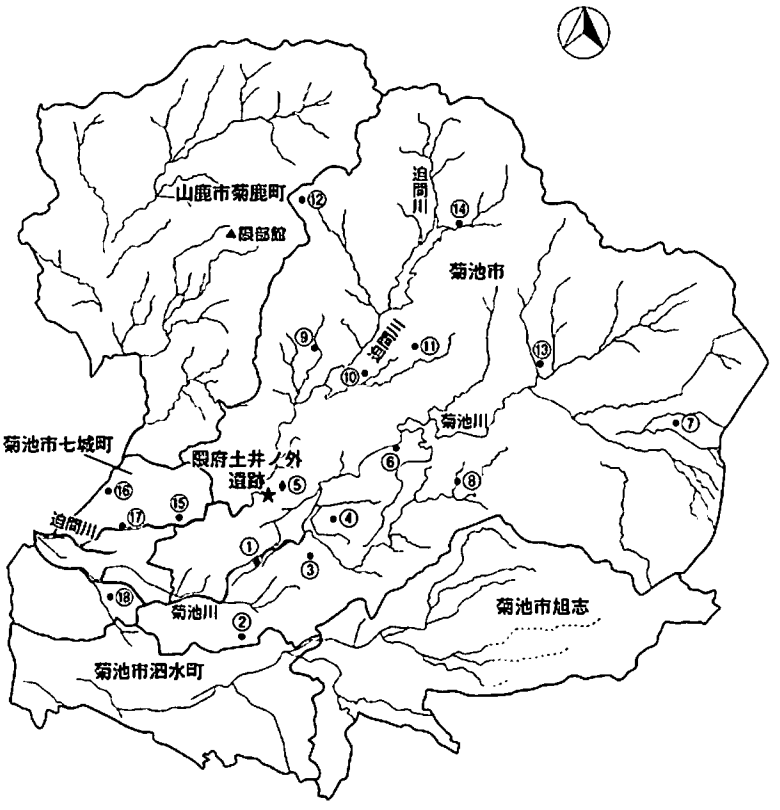
第 69 図は菊池市隈府の字図である。今回の発掘調査を実施した箇所は字図の「土井ノ外」にあたる。

その東側方向の「城山」の字名がある地点の丘陵に菊池城跡（第 70 図の⑤）が築造されている。城は標高約 110 m の丘陵地にあり、地形の改変を受け残存状態は良くない。遺構として確認できるのは北側斜面の空堀と土塁である。「城山」の南側には「守山」の字名が残っている。これらの丘陵下には平地が展開しており、「城下」「院馬場」「堀木屋敷」「屋敷」「町」「薮ノ内」「前田」「南田」「上堀外」「下堀外」「南古町」「古町」「堀ノ内」などの字名があり、方形区画になっている（文献 2 pp.109-110）。

今回確認した 4・5 号堀跡は「土井ノ外」と「城下」の間にある道路（通称：御所通り）にほぼ直行していることから、この道路は当時の道路状態を残していると考えられる。そうなれば、字図にある方形区画は菊池城が存在した時代の区割りを留めていると思われる。



第 69 図　菊池市隈府字図
（『菊池市史』付 5「菊池市字図」を一部改変）



第 70 図　菊池市周辺史跡図（十八外城）

2. 菊池十八外城跡（第70図）

菊池十八外城跡は菊池城跡を中心にして、周囲を取り囲むように配置されたものであり、この呼称は「菊池風土記」（渋江公正　1794）に初めて登場するようである（文献1 p.616）。以下、各城について概観する。

①菊池古城跡：菊池古城跡は周囲が水田である低地に位置している。現状で確認できる遺構としては、方形に成形された平坦面とその周囲に巡る堀跡である。この状況から、城跡というよりも館跡の可能性が高い（文献2 p.106）。

②古池城跡：古池城跡は現集落からの比高差約25 mの丘陵地に造られている。丘陵の先端部に直径約10 m、高さ約1.2 mの高台の遺構が確認できる（文献2 p.107）。

③戸崎城跡：戸崎城跡は標高約100 mの山地に築造されており、遺構が2箇所で確認できる。1箇所は城跡の中心部に略円形（直径約12 m）の高台があり、その周辺部に同心円状の曲輪が確認できる。この箇所から北へ約50 mの地点に遺構が確認できる箇所がもう1箇所ある。それは帯状の平坦地、土塁、空堀である（文献2 p.108）。

④城林城跡：城林城跡は標高約140 mの山地に位置している。確認できる遺構は次のとおりである。中心部に三日月状の平坦地があり、その中央部に塚と呼ばれる小マウンド（直径約5 m）がある。東側には内堀、外堀が確認できる（文献2 pp.108-109）。

⑥茂藤里城跡：茂藤里城跡は現集落との比高差約6 mの帯状の小山に造られている。平坦地、堀切状の地形が確認できる（文献2 p.110）。

⑦市成城跡：市成城跡は標高約640 mの山地に位置している。この地点から大甕が表採されたとのことだが、現状では遺構は確認できない（文献2 p.111）。

⑧黄金塚城跡：黄金塚城跡は菊池から阿蘇二重峠に至る山越道に沿った標高約223 mの山地に造られている。最も高い箇所に帯状の平坦地があり、その北側に土塁状のマウンドが確認できる。平坦地の東側端部に堀切が観察できる（文献2 p.112）。

⑨葛原城跡：葛原城跡は標高259 mの栗山に位置し、周囲は深い谷に囲まれている。東側の鞍部のくびれ部以外は開墾のため旧地形を殆ど止めていない（文献2 pp.112-113）。

⑩鷹取城跡：鷹取城跡は標高約242 mの丘陵上に立地している。確認できる遺構は次のとおりである。中心部に高台の平坦部があり、その周囲に曲輪が存在する（文献2 pp.113-114）。,

⑪五社尾城跡：五社尾城跡は標高約319 mの山地にある。尾根を東西方向に断ち切る3条の堀切で4区画に分けており、人工的な平坦面が2箇所で確認できる（文献2 p.114）。

⑫虎口城跡：山鹿市菊鹿町と菊池市との境にある標高約679 mの山頂部分に平坦部が確認できる。この箇所が虎口城跡と考えられる（文献2 pp.114-115）。

⑬掛幕城跡：掛幕城跡は標高約415 mの山地に立地しており、確認できる遺構は北側部分にある堀切である（文献2 p.115）。

⑭穴の城跡：穴の城跡については現状では城の遺構が確認できない。東側に「城野」の小名が残っている箇所は城跡の可能性がある（文献2 pp.115-116）。

⑮神尾城跡：神尾城跡は台地の南端部に位置するが、土塁が部分的に残っているだけで、詳細は不明である（文献2 p.116）。

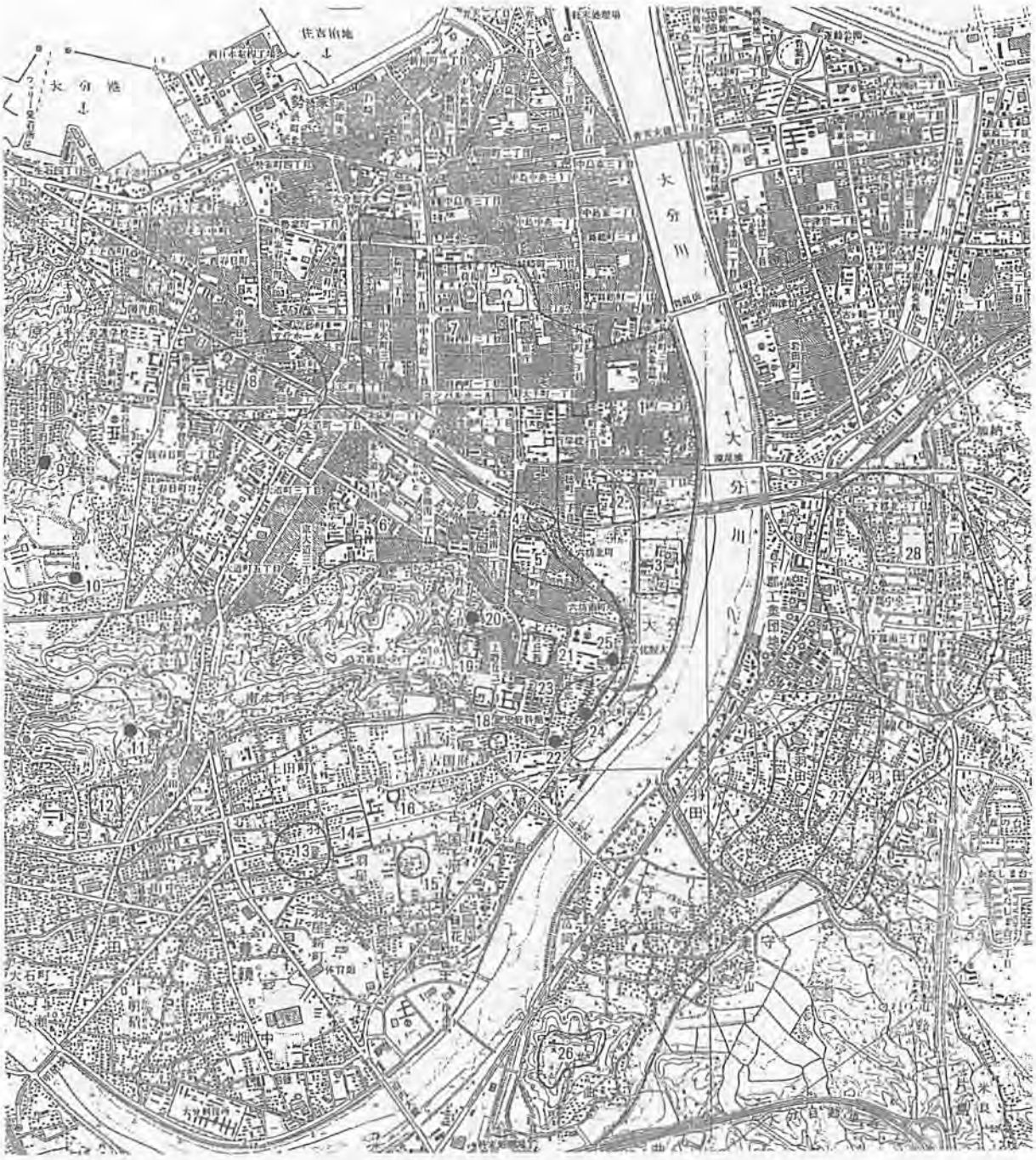
⑯台城跡：台城跡については、現状では城跡に関連する遺構は確認できない（文献2 p.117）。

⑰増永城跡：増永城跡は平地にあり、土塁が部分的に残っている。城跡というよりも館跡の可能性が高い（文献2 pp.117-118）。

⑱亀尾城跡：亀尾城跡は標高約71 mの丘陵上にあり、大半が削平されているが、部分的に堀切が確認できる（文献2 p.118）。

菊池十八外城跡を見てみたが、すべてが城跡とは言えず、①菊池古城跡、⑰増永城跡は館跡の可能性が高く、現状では城跡とは考えられないものが⑦市成城跡、⑯台城跡である。

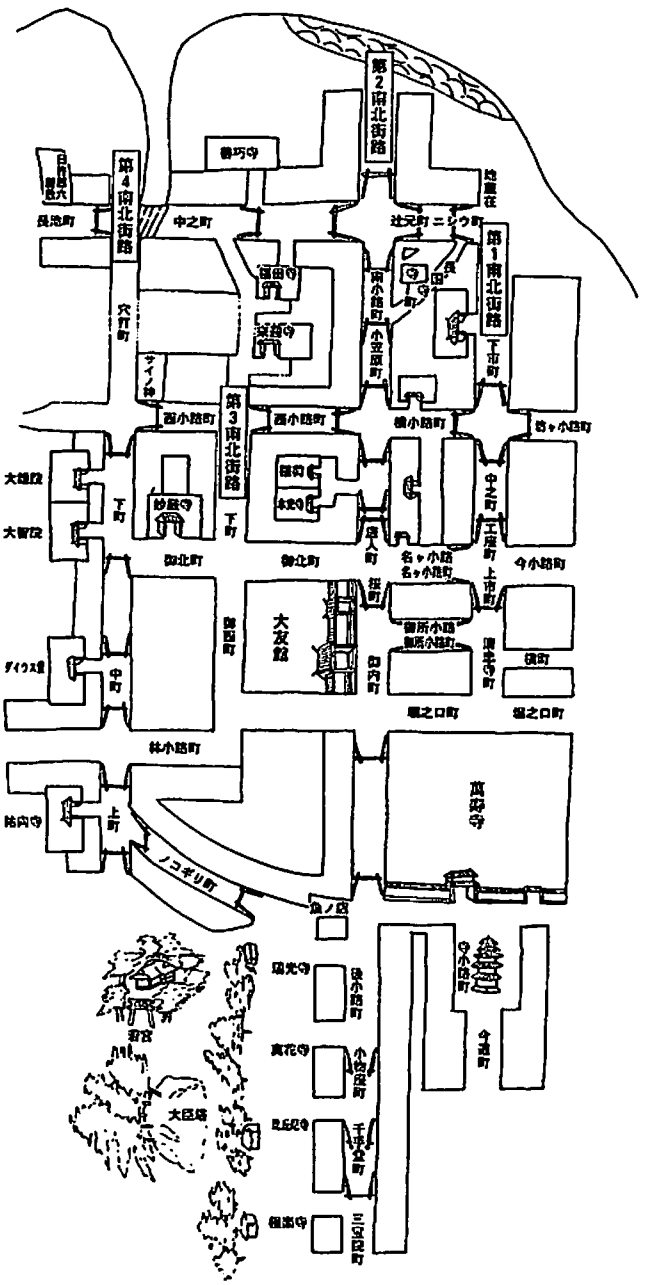
上記の4箇所を除いて、⑤の菊池城跡を中心にして周囲に分布する城跡を見ると、北側及び北東側に分布する城跡は山地に立地しており、南側及び南西側に分布する城跡は台地や丘陵に立地している。これらの城跡は



1．中世大友城下町跡　2．大友氏館跡　3．蒋山万寿寺跡　4．上野町・顕徳寺遺跡　5．若宮八幡遺跡
6．東大道遺跡　7．府内城城下町　8．東田室遺跡　9．亀甲山古墳　10．古宮古墳　11．千人塚古墳　12．永興遺跡
13．羽屋園遺跡　14．金剛宝戒寺跡　15．石明遺跡　16．町口遺跡　17．岩屋寺遺跡　18．円寿寺　19．金剛宝戒寺
20．上野廃寺　21．大友上原館跡　22．岩屋寺石仏　23．竜王畑遺跡　24．元町石仏　25．大臣塚古墳　26．守岡遺跡
27．羽田遺跡　28．下郡遺跡群

第71図　大分平野の地形と主要遺跡（1/32500）（『豊後府内4』より引用）

現段階で築造年代を考察する考古学的な資料がないため、菊池城跡と同時代に存在したかどうかの判断ができない。しかし、これらの城跡が同時代に存在したと仮定すれば、菊池城跡の周囲を城跡がほぼ完全に近い状態で取り囲んでおり、堅固な防衛体制であったと想定できる。



第72図　「府内古図」と街路名称の設定
（『豊後府内4』より引用）

3. 大友氏と大内氏に関連する遺跡の調査成果

(1) 豊後国の守護大友氏の関連遺跡の発掘調査の成果

大友氏館跡、中世大友城下町跡などの大友氏に関連する遺跡は、大分川が別府湾に流れ込む箇所から直線距離で約3kmの地点で東側に膨らんでいる所の左岸の自然堤防上に位置している。この地域で本格的な町づくりが開始されるのは、徳地元年（1306）に万寿寺が建立されてからである。これ以降、16世紀中頃から後半に最盛期になり、17世紀初頭に近世府内城下町築造に伴って移転するまで継続している（第71図、文献3 pp.4-6）。

中世豊後の中心地を描いた「府内古図」については、『大分市史』編纂時に「府内古図」の原図と思われるものが確認された。その後、明治時代の地籍図との整合性を図り、現存する大智寺、稲荷などを基点として現在の地図に写し、ほぼ正確な位置を把握することができている。3種類ある「府内古図」との整合性を図り、名称を統一したものが第72図である。

「府内古図」に描かれているのは、大友館、万寿寺、御蔵場などの施設・建物類や街路で、街路は4本の南北街路と5本の東西街路がある。また、中世大友城下町跡出土の土師質土器の編年によると、14世紀初頭～16世紀末の遺物が出土しており、中世「府内」の存続期間と考えることができる（文献4 pp.8-9）。

16世紀後半を中心とした時期に、「府内」の中心地である大友館が二町四方の規模に整備拡張され、館の南東隅に池を伴う庭園が配置されたと考えられ、「府内古図」に描かれている様子が完成したと推定されている。また、大友館には二種類の館があり、一つは府内中央部に貿易都市府内の行財政の管理拠点としての機能をもつ守護館としての大友館で、もう一つは府内に隣接した台地上に武家の棟梁館としての機能をもつ大友上原館である。このような二種類の館の存在に、館の機能分化がされていたと考えられている（文献5 pp.4-5）。

(2) 周防・長門国の守護大内氏館跡発掘調査の成果

大内氏館跡は江戸時代に描かれた「山口古図」に表示してあり、その存在が知られていた。昭和53年度から山口市教育委員会により発掘調査が実施され、その内容が明確になっている。館は堀や土塁を巡らした区画があり、その規模が時期ごとに変化している。

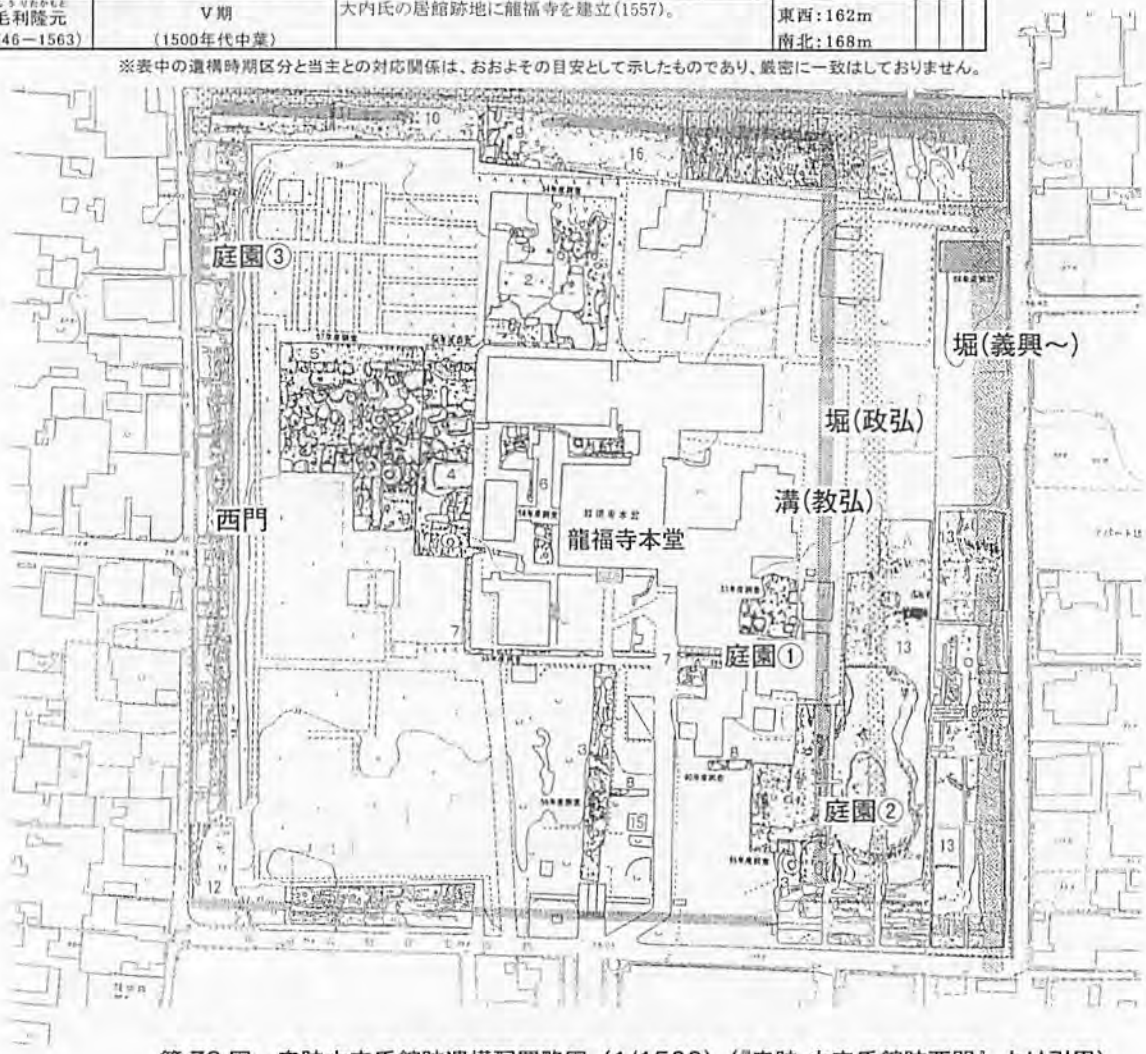
遺構の時期区分はⅠ期～Ⅴ期であり、Ⅰ期は1400年代中葉、Ⅱ期は1400年代後葉、Ⅲ期は1400年代末～1500年代初頭、Ⅳa期～Ⅳb1期は1500年代前葉～中葉、Ⅳb2期・Ⅴ期は1500年代中葉である。

Ⅰ期は幅2mの溝と塀で屋敷地を区画しており、区画の規模は東西125m、南北160m＋αである。Ⅱ期はⅠ期の屋敷地を東側と南側に拡幅し、東端部に庭園がある。区画の規模は東西140m、南北165m＋αである。Ⅲ期は屋敷地をさらに東側に拡大し、東南隅に大きな池をもつ庭園②がある。Ⅳa期～Ⅳb1期は屋敷地を西側に拡大し、北西隅の土塁を除いて枯山水の庭園を作り、西側端部に西門、石列遺構がある。西門は小さいが屋根があり、瓦以外で屋根を葺いており、砂利敷きの低い基壇がある。区画の規模は東西160m＋α、南北165m＋αである。Ⅳb2期は屋敷地が縮小され、北側と東側の一部で堀の幅を8mに広げ、高い土塁を築造している。区画の規模は東西162m、南北168mである。Ⅴ期は大内氏館に龍福寺が建立される（文献6）。

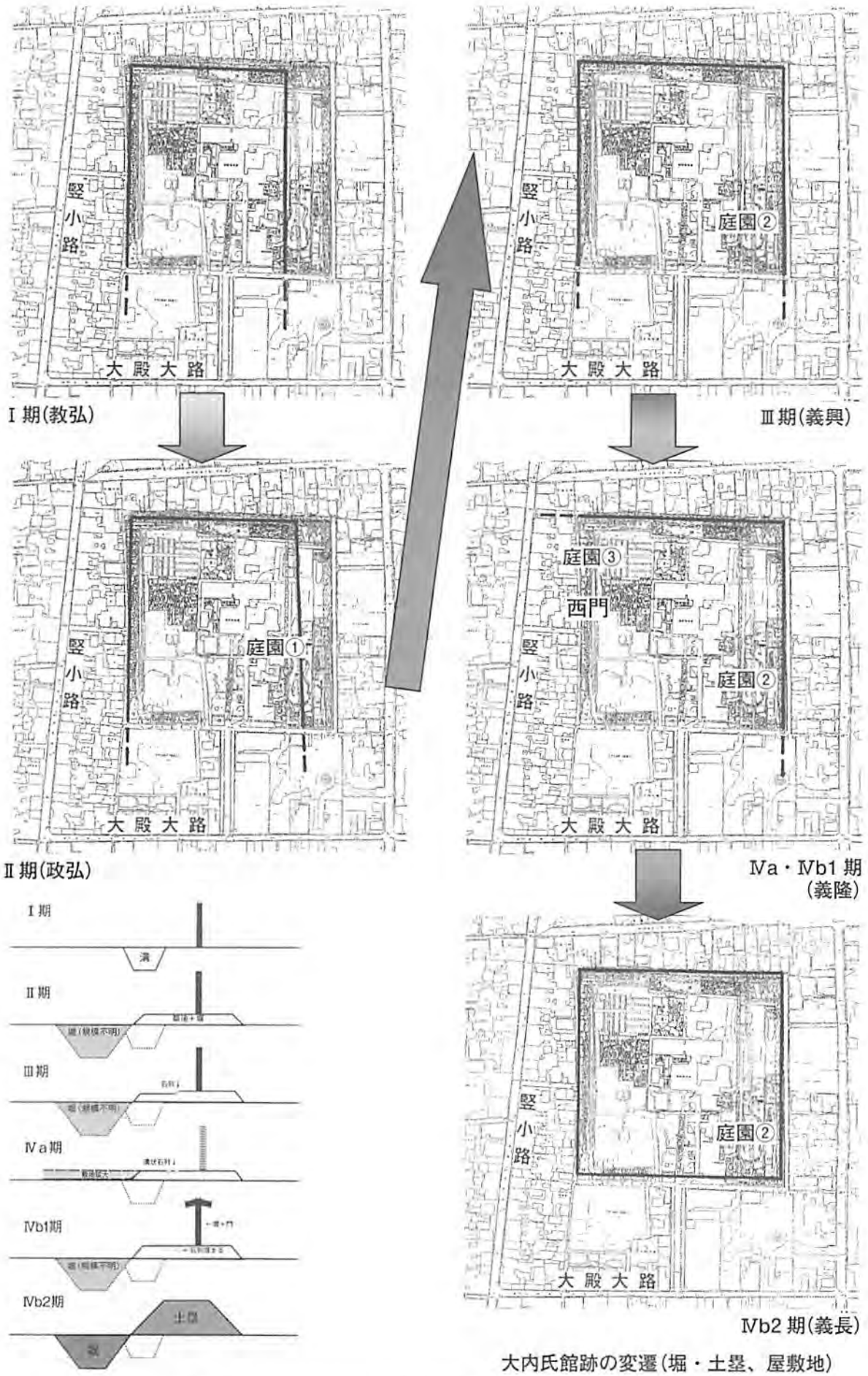
当主（家督相続期間）	遺構時期区分	館のようす	屋敷地の大きさ	庭園 ①	庭園 ②	庭園 ③
教弘（1441－1465）	Ⅰ期（1400年代中葉）	館の遺構が確認されるようになる。幅2mの溝と塀で屋敷地を囲む。	東西：125m 南北：160m＋α			
政弘（1465－1495）	Ⅱ期（1400年代後葉）	屋敷地を南に拡大。幅5mの空堀と低い土塁（一部塀を併用）に改修。庭園①がつくられる。	東西：140m 南北：165m＋α	■		
義興（1495－1528）	Ⅲ期（1400年代末～1500年代初頭）	屋敷地を東側に拡大。庭園②がつくられる。	東西：160m 南北：165m＋α		■	
義隆（1528－1551）	Ⅳa期～Ⅳb1期（1500年代前葉～中葉）	屋敷地を西側に拡大。北西隅の土塁を削平し、庭園③がつくられる。西辺に石列遺構や西門がつくられる。	東西：160m＋α 南北：165m＋α			■
義長（1551－1557）	Ⅳb2期（1500年代中葉）	屋敷地が縮小。北側と東側の一部で堀幅を約8mに広げ、高い土塁を盛る。大内氏が滅亡し館も機能を停止。	東西：162m 南北：168m		■	
毛利隆元（1546－1563）	Ⅴ期（1500年代中葉）	大内氏の居館跡地に龍福寺を建立（1557）。	東西：162m 南北：168m			

※表中の遺構時期区分と当主との対応関係は、おおよその目安として示したものであり、厳密に一致はしておりません。

大内家当主と「館跡」の変遷の対応



第73図　史跡大内氏館跡遺構配置略図（1/1500）（『史跡 大内氏館跡西門』より引用）



第 74 図　大内氏館跡の変遷（『史跡 大内氏館跡西門』より引用）

4. まとめ

「隈府」の字図に表現されている区割りは、発掘調査で確認した堀跡との関係で当時の状況をある程度反映していると考えられる。このことは「府内古図」との比較からも肯定的なものと思われる。また「隈府」の字図には「堀」「土井」「屋敷」などの字名が残っていることから、堀や土塁によって区画された屋敷が存在したと推定される。

今回の発掘調査で検出した二重の堀跡は方形になると考えられ、外側の堀跡の規模はほぼ南北方向、ほぼ東西方向ともに 90 ～ 100 m と推定できる。これは大友氏・大内氏の館跡の区画と比較すると小規模である。今回検出した建物が大友氏、大内氏と同じ守護である菊池氏館の建物とするには不十分であり、庭園等の遺構も確認できていない。また、「府内」、「山口」では守護館を中心にした町づくりが行われているが、今回の発掘調査箇所である「土井ノ外」は「隈府」の字図中で中心になっていない。以上のことから、「土井ノ外」として区画された敷地を菊池氏館跡とするには、現状では無理がある。

古図が残っていない「隈府」の区画された敷地の内容を明確にしていくには、「土井ノ外」の区画以外の周辺地区の内容を把握し、ある程度「隈府」全体の様相が確認できた段階で、調査成果を比較検討しなければならない。それには大友氏・大内氏の両遺跡で行われているような広域的、継続的な調査を長期計画のもとに行い、その成果を蓄積していくことが必要である。「隈府」地域に残されている埋蔵文化財は地域に根ざした歴史的遺産であるため、地域の埋蔵文化財の状況を的確に把握することができる市町村は発掘調査の成果を蓄積するのに重要な役割を果たすと考えている。

また、「府内」の空間構造を構成する要素として、「府内」の外郭や広域的な「大府内」の存在が指摘されている（文献 5 pp.7-8)。「隈府」を中心地とすれば、その外郭を構成する要素が十八外城と呼ばれている城跡等にあると推定できる。しかし、現状ではその築造年代や遺構等の詳細は明確でないため、今後、「隈府」と同様な調査が課題であると思う。

引用・参考文献

1. 菊池市　1982 『菊池市史』上巻
2. 熊本県教育委員会　1978 『熊本県の中世城跡』熊本県文化財調査報告第 30 集
3. 大分県教育庁埋蔵文化財センター　2006 『豊後府内 4　第 1 分冊』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第 9 集
4. 大分県教育庁埋蔵文化財センター　2007 『豊後府内 6』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第 15 集
5. 坪根伸也　2004 「守護大友氏と豊後府内（府中）の空間構造」『守護所・戦国城下町を考える（シンポジウム資料集)』
6. 山口市教育委員会　2005 「史跡大内氏館跡　西門」解説資料

法量（　）は復元値

図版No.	図番	器種	出土地点 地区	遺構	層位	取り上げ	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 (内面)	(外面)	色調 (内面)	(外面)	胎土	焼成	残存率	備考
5	1	瓦質土器 火舎	1区	SB12	Pit12	-	-	-	12.2～	横ナデ	ナデ、工具ナデ、突帯	灰白 7.5Y6/1	暗灰 N3/	密	良好	1/6	
12	1	青磁 小皿	1区	SD4	埋5層	一括	(14.6)	-	2.7～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味黄緑 8.6GY6.3/2	密	良好	1/8	
12	2	瓦質土器 擂鉢	1区	SD4	埋3層	トレンチ一括	-	(13.6)	11.2～	クシ目、摩滅	圧痕、指押さえ	灰黄 Hue2.5Y6/2	黄灰 Hue2.5Y5/1	長石、石英、黒色粒	良好	底部一部	6本のクシ目
12	3	土師器 皿	1区	SD5	埋6層	-	-	4.6	1.4～	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	雲母、赤褐色粒	良好	1/3?	底部のみ、外面底部近くに工具痕？
12	4	土師器 杯	1区	SD5	埋5層	-	-	7.4	2.3～	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	にぶい橙 Hue10YR7/3	雲母、石英、黒色粒	良好	底部3/4	内面中央に指頭圧痕
12	5	瓦質土器 火鉢	1区	SD5	埋6層	一括	-	-	4.4～	ハケ目、回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	灰黄 Hue2.5Y6/2	黄灰 Hue2.5Y6/1	長石、角閃石、雲母	良好	口縁一部	X字の刻印と、1突帯あり
12	6	瓦質土器 火鉢	1区	SD5	埋2.3層	一括	-	-	7.1～	ハケ目、回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	灰 Hue7.5Y4/1	灰 Hue7.5Y4/1	長石、角閃石、赤色粒	良好	口縁一部	2刻印と、2突帯あり
12	7	青磁 椀	1区	SD5	埋7層	-	-	-	2.6～	施釉	施釉	うす黄橙 10YR8.4/2.3	黄味灰 2.7Y6.3/2.5	密	良好		
12	8	白磁 椀	1区	SD5	埋2層	一括	-	-	2.8～	施釉	施釉	灰白 5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	密	良好	底部1/4	
12	9	青磁 把手	1区	SD5	埋5層	-	-	-	3.6～	施釉	施釉	灰白 N8.2	オリーブ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	把手のみ	
12	10	青磁 大皿？	1区	SD5	埋8層	一括	-	0.8	3.0～	施釉	施釉	明るい灰 N7.1	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	密	良好	1/8	
12	11	瓦質土器 擂鉢	1区	SD5	埋5層	-	-	-	7.1～	クシ目	圧痕、指押さえ	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、角閃石、赤色粒	良好	底部一部	7本のクシ目
12	12	瓦質土器 擂鉢	1区	SD5	埋7層	-	-	(14.8)	6.5～	クシ目	圧痕、指押さえ	灰 Hue5Y5/1	灰 Hue5Y4/1	長石、石英、角閃石、黒色粒	良好	底部一部	5本のクシ目
13	1	白磁 椀	1区	SD7	埋1層	一括	-	-	2.4～	施釉	施釉	灰白 5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	密	良好	底部1/4	高台径(5.4)cm、高台高1.2cm
14	1	土師器 皿	1区	SD33	-	No.11	5.8	4.3	1.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	長石、赤色粒、黒色粒	良好	完形	内面に赤彩？あり
14	2	土師器 皿	1区	SD33	-	No.9	6.5	5.4	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、赤色粒、黒色粒	良好	完形	
14	3	土師器 皿	1区	SD33	-	No.10	6.5	5.0	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、赤色粒、黒色粒	良好	完形	内面中央に指頭圧痕あり
14	4	土師器 皿	1区	SD33	-	No.33	6.9	5.5	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	石英、角閃石、赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	胴部に穿孔あり
14	5	土師器 皿	1区	SD33	-	No.8	6.6	5.2	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、赤色粒、黒色粒、雲母	良好	完形	内面中央に指頭圧痕あり
14	6	土師器 皿	1区	SD33	-	No.39	6.6	4.2	1.75	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	石英、黒色粒、赤褐色粒	良好	2/3	歪みあり
14	7	土師器 皿	1区	SD33	埋1層	一括	6.2	5.0	1.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	淡橙 Hue5YR8/4	淡橙 Hue5YR8/4	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	歪みあり
14	8	土師器 皿	1区	SD33	-	No.23	6.15	5.0	1.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、石英、黒色粒、石	良好	完形	
14	9	土師器 皿	1区	SD33	埋2層	一括	6.5	5.4	1.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	淡橙 Hue5YR8/4	淡橙 Hue5YR8/4	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	歪みあり、内面中央に指頭圧痕あり
14	10	土師器 皿	1区	SD33	-	No.41	(6.45)	(5.4)	2.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	角閃石、赤褐色粒、黒色粒、石	良好	2/3	
14	11	土師器 杯	1区	SD33	-	No.18,19,40	11.0	6.2	3.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、角閃石、雲母、赤褐色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	歪みあり
14	12	土師器 杯	1区	SD33	-	No.1	11.8	6.0	2.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/8	橙 Hue5YR7/8	長石、角閃石、石英、赤褐色粒	良好	完形	
14	13	土師器 杯	1区	SD33	-	No.29	10.8	7.9	2.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、石英、角閃石、赤褐色粒、黒色粒	良好	3/4	内面中央に、2ヶ所指頭圧痕あり
14	14	土師器 杯	1区	SD33	-	No.5	11.7	9.0	2.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	淡橙 Hue5YR8/4	淡橙 Hue5YR8/4	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
14	15	土師器 杯	1区	SD33	-	No.32	11.2	8.4	2.95	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue5YR7/4	石英、雲母、黒色粒、赤褐色粒	良好	完形	外面の口縁から胴部にかけて黒斑あり
14	16	土師器 杯	1区	SD33	-	No.12	11.0	7.0	2.85	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、角閃石、赤褐色粒、黒色粒	良好	1/2	
14	17	土師器 杯	1区	SD33	-	No.4?	11.05	7.6	3.05	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、石英、雲母	良好	4/5	中央に1ヶ所穿孔と途中までの孔あり
14	18	土師器 杯	1区	SD33	-	No.17	11.35	9.0	2.75	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	角閃石、黒色粒、石英、赤褐色粒、石	良好	ほぼ完形	
14	19	土師器 杯	1区	SD33	-	No.6,35,37	11.4	8.0	3.1	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、赤褐色粒、黒色粒、雲母	良好	2/3	
14	20	土師器 杯	1区	SD33	-	No.31	10.4	7.8	2.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	1/2	
15	1	土師器 皿	1区	SD18	-	No.9	6.4	4.7	1.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	完形	
15	2	土師器 皿	1区	SD18	-	No.30	6.1	4.5	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/3	浅黄橙 Hue10YR8/3	角閃石、長石、赤色粒	良好	ほぼ完形	口縁にススが付着
15	3	土師器 皿	1区	SD18	埋1層	一括	5.9	4.6	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、角閃石、黒色粒	良好	ほぼ完形	
15	4	土師器 皿	1区	SD18	埋1層	一括	6.6	4.7	1.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	雲母、角閃石、長石、黒色粒	良好	3/4	
15	5	土師器 皿	1区	SD18	-	No.26	7.0	4.9	1.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	雲母、長石、赤色粒、黒色粒	良好	3/4	
15	6	土師器 皿	1区	SD18	埋2層	一括	6.7	5.0	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、角閃石、赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	内面中央に指頭圧痕あり
15	7	土師器 皿	1区	SD18	-	No.16	7.7	6.0	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、長石、褐色粒	良好	完形	
15	8	土師器 皿	1区	SD18	-	No.3	7.8	5.6	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
15	9	土師器 皿	1区	SD18	-	No.21	(7.4)	5.7	2.1	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、褐色粒、黒色粒	良好	3/4	底部に指頭圧痕、外面に黒斑？あり
16	10	土師器 杯	1区	SD18	-	No.44	11.1	5.9	2.75	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/3	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、角閃石、赤褐色粒	良好	完形	歪みあり
16	11	土師器 杯	1区	SD18	-	No.14	11.2	7.2	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	完形	
16	12	土師器 杯	1区	SD18	-	No.39	11.4	7.0	2.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/3	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	歪みあり
16	13	土師器 杯	1区	SD18	-	No.33	(10.5)	5.6	2.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	雲母、赤褐色粒、長石、黒色粒	良好	2/3	
16	14	土師器 杯	1区	SD18	-	No.1	11.2	7.4	2.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	3/4	内面中央にナデあり
16	15	土師器 杯	1区	SD18	-	No.6	11.0	6.2	2.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	黄橙 Hue7.5YR8/6	橙 Hue5YR7/6	石英、長石、黒色粒、赤褐色粒	良好	完形	内面中央にナデあり
16	16	土師器 杯	1区	SD18	-	No.7	11.1	7.0	2.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	完形	内面中央にナデあり
16	17	土師器 杯	1区	SD18	-	No.2	10.6	7.6	2.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒、石英、角閃石、砂粒	良好	完形	
16	18	土師器 杯	1区	SD18	-	No.12	11.5	6.3	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	内面中央に指ナデあり
16	19	土師器 杯	1区	SD18	-	No.13,18	10.8	7.1	2.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	長石、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	内面中央に指ナデあり
16	20	土師器 杯	1区	SD18	-	No.15	11.2	7.3	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒	良好	3/4	
16	21	土師器 杯	1区	SD18	-	No.22	10.8	6.3	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	長石、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	内面中央に指頭圧痕あり

表15　出土遺物観察表（1）

法量（ ）は復元値

図版No.	報番	器種	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	出土地点 取り上げ	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	調整 (内面)	調整 (外面)	色調 (内面)	色調 (外面)	胎土	焼成	残存率	備考
16	22	土師器 杯	1区	SD18	-	No.35	10.8	6.0	2.5	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	歪みあり
16	23	土師器 杯	1区	SD18	-	No.4	11.4	7.7	2.3	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、石、砂粒	良好	ほぼ完形	
16	24	土師器 杯	1区	SD18	-	No.42	11.0	6.6	2.65	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	歪みあり
16	25	土師器 杯	1区	SD18	-	一括	11.6	7.0	2.7	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	3/4	
16	26	土師器 杯	1区	SD18	-	No.10	11.1	6.8	2.5	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/3	浅黄橙 Hue10YR8/3	黒色粒、赤褐色粒、石	良好	3/4	内面中央に指頭圧痕、歪みあり
16	27	土師器 杯	1区	SD18	-	No.7	11.1	6.6	2.4	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	石英、赤褐色粒、長石、黒色粒	良好	完形	内面中央と底部に指頭圧痕あり
16	28	土師器 杯	1区	SD18	-	No.40	11.5	9.9	2.65	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/3	浅黄橙 Hue10YR8/3	長石、角閃石、赤褐色粒	良好	完形	
16	29	土師器 杯	1区	SD18	-	No.41	(11.3)	(6.8)	2.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、石英、石粒	良好	2/3	
16	30	土師器 杯	1区	SD18	-	No.5	11.6	6.0	2.6	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/4	にぶい橙 Hue5YR7/4	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	1/3	
16	31	土師器 杯	1区	SD18	-	No.25	(10.8)	6.9	3.1	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	雲母、長石、黒色粒	良好	3/4	摩滅著しい
16	32	土師器 杯	1区	SD18	-	No.28	(10.6)	(6.6)	2.8	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	1/2	
16	33	土師器 杯	1区	SD18	-	No.36,38	11.0	6.6	2.4	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、角閃石、赤褐色粒、石	良好	3/4	
16	34	土師器 杯	1区	SD18	-	No.20	(10.4)	(6.5)	3.1	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	雲母、長石、赤色粒	良好	2/3	
16	35	土師器 杯	1区	SD18	-	No.27	11.5	7.3	3.6	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	雲母、黒色粒、長石	良好	ほぼ完形	
16	36	土師器 杯	1区	SD18	-	No.34	10.8	6.6	2.95	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	雲母、石英、赤褐色粒、石粒	良好	ほぼ完形	内外面にススが付着
16	37	土師器 杯	1区	SD18	-	No.29	(11.1)	6.8	3.2	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	雲母、角閃石、長石、石英	良好	4/5	
16	38	陶器 天目椀	1区	SD18	-	No.8	(10.7)	-	6.45～	施釉	施釉	黒 HueN2/1	暗い灰 N2.8	密	良好	1/3	
18	1	須恵器 杯蓋	1区	SD121	埋2層	一括	14.6	-	2.2	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ	にぶい赤褐 Hue2.5YR4/3	にぶい赤褐 Hue2.5YR4/3	白色粒、灰色砂粒	良好	ほぼ完形	つまみ部分は灰により変色
18	2	土師器 皿	1区	SD121	埋3層	一括	7.1	5.9	2.05	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/4	にぶい橙 Hue5YR7/4	石英、赤褐色粒、黒色粒、白色粒	良好	完形	
18	3	土師器 皿	1区	SD121	埋2層	一括	7.8	6.0	2.0	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、角閃石、黒色粒、赤色粒	良好	完形	
18	4	土師器 皿	1区	SD121	埋2層	一括	7.0	5.6	2.1	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、石英、角閃石、雲母	良好	完形	
18	5	土師器 皿	1区	SD121	埋1層	一括	6.8	4.9	2.0	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/4	橙 Hue7.5YR7/3	赤褐色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
18	6	土師器 皿	1区	SD121	埋2層	一括	7.1	5.9	1.8	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
18	7	土師器 皿	1区	SD121	埋2層	一括	7.1	5.5	2.0	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤色粒、雲母、長石、黒色粒	良好	ほぼ完形	
18	8	土師器 皿	1区	SD121	埋2層	一括	8.2	5.7	2.35	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	角閃石、石英、黒色粒、白色粒	良好	完形	
18	9	土師器 皿	1区	SD121	埋2層	-	8.4	6.0	1.9	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	角閃石、雲母、赤褐色粒、黒色粒、白色粒	良好	4/5	
18	10	土師器 皿	1区	SD121	埋2層	一括	7.5	6.3	2.1	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、角閃石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	完形	底部に指頭圧痕あり
18	11	土師器 皿	1区	SD121	埋3層	一括	8.3	6.0	2.1	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/4	にぶい橙 Hue5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、白色粒	良好	ほぼ完形	
18	12	土師器 皿	1区	SD121	埋2層	一括	8.4	6.3	2.3	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/4	橙 Hue5YR7/4	角閃石、雲母、黒色粒、赤褐色粒	良好	ほぼ完形	
18	13	土師器 皿	1区	SD121	埋5層	一括	7.6	5.1	2.5	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	明黄褐 Hue10YR7/6	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	赤褐色粒	良好	ほぼ完形	
18	14	土師器 皿	1区	SD121	埋1層	一括	7.8	6.4	2.1	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、雲母	良好	ほぼ完形	
18	15	土師器 皿	1区	SD121	埋5層	一括	(7.3)	4.8	1.75	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、角閃石	良好	1/2	
18	16	土師器 杯	1区	SD121	埋2層	一括	10.0	5.6	2.5	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、角閃石、白色粒	良好	1/2	内部中央に3.5mmの穿孔あり
18	17	土師器 杯	1区	SD121	埋2層	-	11.15	5.75	2.5	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue2.5YR6/6	角閃石、赤褐色粒、雲母、黒色粒、白色粒	良好	3/4	
18	18	土師器 杯	1区	SD121	-	-	11.1	6.3	2.8	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/6	にぶい橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒、白色粒	良好	3/4	板状圧痕あり
18	19	土師器 杯	1区	SD121	-	No.12	10.9	5.8	3.6	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	内面に炭？のような付着物あり
18	20	土師器 杯	1区	SD121	-	No.18	10.6	5.9	3.4	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/4	にぶい橙 Hue5YR6/4	黒色粒、赤褐色粒、角閃石、白色粒	良好	3/4	
18	21	土師器 杯	1区	SD121	-	一括	11.8	6.2	3.05	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/4	橙 Hue7.5YR7/4	角閃石、石英、黒色粒、赤褐色粒、白色粒	良好	2/3	
18	22	土師器 杯	1区	SD121	埋6層	No.15,一括	11.1	6.0	3.65	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	赤褐色粒、黒色粒、雲母、白色粒	良好	3/4	内面にススが付着
18	23	土師器 杯	1区	SD121	埋1層	-	11.0	6.4	3.3	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、雲母	良好	2/3	
18	24	土師器 杯	1区	SD121	埋2層	一括	10.8	5.2	2.9	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	橙 Hue7.5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、長石	良好	ほぼ完形	
18	25	土師器 杯	1区	SD121	-	No.11	(10.7)	6.0	3.0	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	赤褐色粒、角閃石、雲母	良好	1/3	
18	26	土師器 杯	1区	SD121	埋2層	一括	(11.0)	6.7	2.9	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	石英、角閃石、黒色粒、赤褐色粒、白色粒	良好	1/4	底部に黒斑あり
18	27	土師器 杯	1区	SD121	埋1層	一括	(12.6)	5.9	2.95	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	白色粒、赤色粒、黒色粒	良好	2/3	内面中央に指頭圧痕あり
18	28	土師器 杯	1区	SD121	-	No.13	(11.0)	(6.0)	3.5	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/4	にぶい橙 Hue5YR7/4	石英、赤褐色粒、雲母、黒色粒	良好	3/5	
18	29	土師器 杯	1区	SD121	-	No.13	11.9	7.6	3.3	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	赤褐色粒、黒色粒、雲母、白色粒	良好	ほぼ完形	外面の底部付近に指頭圧痕あり
18	30	土師器 杯	1区	SD121	-	No.14	12.0	6.7	3.4	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒、黒色粒、赤褐色粒、石英、雲母	良好	ほぼ完形	
18	31	土師器 杯	1区	SD121	埋3層	No.4	12.0	6.3	3.3	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	石英、角閃石、雲母、赤褐色粒、白色粒	良好	完形	
18	32	土師器 杯	1区	SD121	埋2層	一括	11.4	6.7	3.1	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	角閃石、石英、赤褐色粒、黒色粒	良好	1/2	
18	33	土師器 杯	1区	SD121	埋1層	一括	12.9	7.7	2.9	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、石英、角閃石、雲母	良好	4/5	
18	34	土師器 杯	1区	SD121	埋3層	No.2	11.8	6.2	2.95	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	角閃石、石英、黒色粒	良好	ほぼ完形	
18	35	土師器 杯	1区	SD121	埋3層	No.3,5	11.1	6.5	2.95	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒、赤褐色粒、角閃石、石英、雲母	良好	4/5	
18	36	土師器 杯	1区	SD121	埋2層	一括	11.4	7.6	2.8	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	角閃石、石英、赤褐色粒、黒色粒	良好	3/4	
18	37	土師器 杯	1区	SD121	埋6層	-	(10.8)	8.0	3.3	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、角閃石、黒色粒	良好	1/2	

表16 出土遺物観察表（2）

法量（　）は復元値

図版No.	図番	器種	出土地点 地区	遺構	層位	取り上げ	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 (内面)	(外面)	色調 (内面)	(外面)	胎土	焼成	残存率	備考
18	38	瓦質土器 茶釜	1区	SD121	埋1層	一括	(25.4)	-	5.6～	ﾅﾃﾞ後、ﾐｶｷ		灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y5/1	密	良好	頸部一部	指頭圧痕あり
19	39	丸瓦	1区	SD121	-	ｻﾌﾞﾄﾚｰ一括	(長さ) 13.4～	(幅) 8.9～	(厚さ) 6.1		ﾖﾖｷ	灰黄 Hue2.5Y6/1	灰黄 Hue2.5Y6/1	密	良好	一部	
19	40	骨磁 椀	1区	SD121	3層	-	1.1	-	5.35～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味黄緑 8.6GY6.3/2	密	良好	底部1/4	高台径(5.1)cm、高台高 1.1cm
19	41	骨磁 大皿	1区	SD121	埋2層	一括	-	-	4.2～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	口縁一部	口縁波状
19	42	瓦質土器 茶釜	1区	SD121	埋3層	-	(17.2)	-	8.7～	ﾅﾃﾞ、ﾊｹ目	ﾐｶｷ	灰 7.5Y5/1	灰 N5/0	やや密、白色粒	良好	口縁1/4	外面にスタンプ文、内面に指頭圧痕あり
19	1	土師器 杯	1区	SD85	埋5層	一括	7.2	4.1	2.55	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	赤褐色粒、黒色粒、角閃石	良好	ほぼ完形	歪みあり、内面中央に指頭圧痕あり、墨か?
19	2	土師器 皿	1区	SD85	埋2層	-	6.5	4.75	2.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒、赤褐色粒、雲母、石	良好	ほぼ完形	口縁に歪みあり
19	3	土師器 皿	1区	SD85	埋1層	一括	6.3	5.9	2.35	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、雲母、石	良好	ほぼ完形	
19	4	土師器 皿	1区	SD85	埋2層	一括	6.4	4.7	2.3	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、赤褐色粒、雲母	良好	完形	内面中央に指頭圧痕あり、底部に粘土塊
19	5	土師器 皿	1区	SD85	埋3層	一括	7.8	6.3	2.0	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒、赤褐色粒、雲母	良好	ほぼ完形	外面底部近くに工具痕あり、内面中央と底部に指頭圧痕あり
19	6	土師器 皿	1区	SD85	-	ｻﾌﾞﾄﾚ	7.2	5.2	2.25	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Huo7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、雲母、角閃石	良好	2/3	歪みあり
19	7	土師器 皿	1区	SD85	埋1層	-	7.3	4.4	2.2	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	角閃石、赤褐色粒、黒色粒	良好	4/5	内面中央に指頭圧痕、底部に板状圧痕
19	8	土師器 杯	1区	SD85	埋2層	一括	(10.0)	7.1	2.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒、赤褐色粒、角閃石	良好	4/5	
19	9	土師器 杯	1区	SD85	-	-	10.8	6.6	3.0	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	赤褐色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
19	10	土師器 杯	1区	SD85	埋4層	-	10.8	6.1	3.6	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	褐色粒、黒色粒	良好	2/3	内面中央に指頭圧痕あり
19	11	土師器 杯	1区	SD85	埋2層	-	(10.6)	6.9	2.7	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、白色粒、雲母	良好	3/4	内面中央に指頭圧痕あり
19	12	土師器 杯	1区	SD85	-	-	10.0	7.0	2.8	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒	良好	1/3	
19	13	土師器 杯	1区	SD85	埋3層	-	10.9	7.8	2.85	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	赤褐色粒、角閃石、雲母、白色粒	良好	4/5	
19	14	土師器 杯	1区	SD85	埋2層	一括	11.5	7.2	3.3	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/3	浅黄橙 Hue10YR8/3	長石、角閃石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	2/3	
19	15	土師器 杯	1区	SD85	埋2層	一括	(11.3)	9.0	3.0	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	2/3	底部の中心部欠損
19	16	骨磁 椀	1区	SD85	埋3層	一括	-	-	3.0～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	底部のみ	高台径5.5cm、高台高 1.3cm
19	17	染付 椀	1区	SD85	埋3層	一括	-	-	3.4～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰白に青みがかる N8.2	密	良好	1/2	高台径4.6cm、高台高 0.9cm、輪かきとり
20	1	土師器 杯	1区	SE1	-	一括	10.6	6.4	2.9	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/8	橙 Hue5YR7/8	雲母、黒色粒、長石、砂粒	良好	完形	口縁にススス付着
20	2	土師器 皿	1区	SE2	-	一括	-	3.2	1.4～	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	灰白 Hue10YR8/2	灰白 Hue10YR8/2	きめ細かい	良好	1/2?	底部のみ、中世末か?
20	3	陶器 茶碗	1区	SE2	埋2層	-	-	-	5.6～	施釉	回転ﾅﾃﾞ	にぶい橙 7.5YR5/3	黄味白 9.3Y8.6/16	密	良好	底部2/3	高台径10.8cm、高台高 1.2cm
21	1	土師器 皿	1区	SK8	-	一括10	7.0	5.4	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	白色粒子、黒色粒子、石	良好	ほぼ完形	
21	2	土師器 皿	1区	SK8	-	No.22	7.1	5.3	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子	良好	完形	
21	3	土師器 皿	1区	SK8	-	No.26	6.6	4.7	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	黄橙 Hue10YR8/6	黄橙 Hue10YR8/6	白色粒子、黒色粒子	良好	完形	底部に指頭圧痕
21	4	土師器 皿	1区	SK8	-	No.15	6.9	4.5	1.8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	雲母、白色粒子、黒色粒子	良好	4/5	
21	5	土師器 皿	1区	SK8	-	No.20	6.9	4.6	2.0	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	完形	底部のひび割れは内面に貫通
21	6	土師器 皿	1区	SK8	-	No.30	6.6	5.6	1.6	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒子、黒色粒子	良好	5/7	
21	7	土師器 皿	1区	SK8	-	No.35	7.0	5.5	1.5	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	黒色粒子、石	良好	5/6	底部に指頭圧痕
21	8	土師器 皿	1区	SK8	-	No.17	6.5	5.3	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	粗い砂粒、白色粒子、黒色粒子	良好	ほぼ完形	底部に大きなヒビ割れ
21	9	土師器 皿	1区	SK8	-	一括13	6.5	4.7	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒子、黒色粒子	良好	1/2	反転復元
21	10	土師器 皿	1区	SK8	-	No.48	7.0	5.4	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	完形	内面中央突出
21	11	土師器 皿	1区	SK8	-	No.28	6.7	5.1	1.9	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	完形	
21	12	土師器 皿	1区	SK8	-	No.29	7.2	6.5	1.8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	完形	
21	13	土師器 皿	1区	SK8	-	No.40	6.9	5.3	1.8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	白色粒子、黒色粒子、石	良好	完形	底部に指頭圧痕
21	14	土師器 皿	1区	SK8	-	No.8	6.6	5.2	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	石、白色粒子、黒色粒子	良好	完形	底部に指頭圧痕、内・外側面に焦げのような跡
21	15	土師器 皿	1区	SK8	-	No.24	6.7	5.3	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒子、黒色粒子	良好	完形	指頭圧痕
21	16	土師器 皿	1区	SK8	-	No.14	7.1	6.0	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒子	良好	完形	底部に指頭圧痕
21	17	土師器 皿	1区	SK8	-	一括8	6.5	4.8	1.4	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒子、黒色粒子、石	良好	完形	
21	18	土師器 皿	1区	SK8	-	No.38	7.4	5.4	1.8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR6/6	白色粒子、雲母、石	良好	4/5	底部に指頭圧痕
21	19	土師器 皿	1区	SK8	-	No.7-2	7.4	5.8	1.6	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	石、白色粒子、黒色粒子	良好	5/6	底部内面・外面が突出
21	20	土師器 皿	1区	SK8	-	No.21	6.8	5.6	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	黄橙 Hue10YR8/6	黄橙 Hue10YR8/6	白色粒子、黒色粒子	良好	ほぼ完形	
21	21	土師器 皿	1区	SK8	-	一括9	6.6	4.6	1.8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒子、黒色粒子	良好	ほぼ完形	
21	22	土師器 皿	1区	SK8	-	No.1	(7.2)	5.2	1.5	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	4/5	
21	23	土師器 皿	1区	SK8	-	No.7-3	6.6	5.2	1.7	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒子、黒色粒子、石	良好	5/6	底部・内面中央に指頭圧痕
21	24	土師器 皿	1区	SK8	-	No.34	6.9	5.7	2.0	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	白色粒子、黒色粒子	良好	ほぼ完形	底部に指頭圧痕
21	25	土師器 皿	1区	SK8	-	No.13	6.6	5.5	1.5	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	非常に精良、砂粒	良好	完形	
21	26	土師器 皿	1区	SK8	-	No.44	6.6	5.6	1.6	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR7/6	精良、砂粒	良好	完形	
21	27	土師器 皿	1区	SK8	-	一括14	6.7	4.8	1.8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	白色粒子、黒色粒子	良好	4/5	内面・底部に指頭圧痕、底部の一部に穴
21	28	土師器 皿	1区	SK8	-	No.41	7.1	5.5	1.8	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒子	良好	完形	底部に指頭圧痕

表17　出土遺物観察表（3）

法量（ ）は復元値

図版No.	番号	器種	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	出土地点 取り上げ	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	調整 (内面)	調整 (外面)	色調 (内面)	色調 (外面)	胎土	焼成	残存率	備考
21	29	土師器 皿	1区	SK8	-	No.42	7.3	5.6	1.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤色粒子、白色粒子、黒色粒子	良好	完形	底部に指頭圧痕
21	30	土師器 皿	1区	SK8	-	No.9	6.8	4.8	1.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	完形	
21	31	土師器 皿	1区	SK8	-	No.7-1	7.7	5.3	1.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒	良好	1/4	
21	32	土師器 皿	1区	SK8	-	一括11	7.3	5.6	1.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	白色粒子、黒色粒子	良好	ほぼ完形	底部に指頭圧痕、ややつくりが粗い
21	33	土師器 皿	1区	SK8	-	一括17	7.4	6.1	1.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	白色粒子、黒色粒子	良好	1/2	底部の厚みが非常に薄い
21	34	土師器 杯	1区	SK8	-	一括6	11.2	6.2	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	黒色砂粒	良好	1/4	底部に焦げのような節、ナデの1単位は計3条
22	35	土師器 杯	1区	SK8	-	No.43	10.4	6.5	2.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	橙 Hue7.5YR7/6	黒色粒子、白色粒子、石	良好	ほぼ完形	
22	36	土師器 杯	1区	SK8	-	No.33	10.7	5.4	3.1	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子	良好	ほぼ完形	底部に指頭圧痕
22	37	土師器 杯	1区	SK8	-	No.51	10.4	6.1	2.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	ほぼ完形	
22	38	土師器 杯	1区	SK8	-	No.2	9.7	5.5	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	4/5	一部にスス付着
22	39	土師器 杯	1区	SK8	-	No.59	10.0	5.1	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	黒色粒子、白色粒子、石	良好	ほぼ完形	
22	40	土師器 杯	1区	SK8	-	No.27	10.2	5.7	2.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	粗い砂粒、黒色粒子、石	良好	完形	底部に板状圧痕
22	41	土師器 杯	1区	SK8	-	No.45	9.9	5.9	2.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	5/6	
22	42	土師器 杯	1区	SK8	-	No.46	9.9	5.4	3.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	4/5	
22	43	土師器 杯	1区	SK8	-	No.12	11.1	6.1	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	1/2	底部に板状圧痕、内面に強いナデ
22	44	土師器 杯	1区	SK8	-	No.16	11.0	6.9	2.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	4/5	底部に板状圧痕
22	45	土師器 杯	1区	SK8	-	No.5	10.7	5.8	2.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	白色粒子、黒色粒子、石	良好	5/6	
22	46	土師器 杯	1区	SK8	-	No.6	10.6	6.1	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	白色粒子、黒色粒子、石	良好	5/7	
22	47	土師器 杯	1区	SK8	-	No.18	10.1	5.5	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	3/5	内面に指頭圧痕、つくりが粗い
22	48	土師器 杯	1区	SK8	-	No.25	10.4	5.6	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	白色粒、黒色粒子、石	良好	3/5	
22	49	土師器 杯	1区	SK8	-	No.49	10.1	5.5	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	白色粒子、黒色粒子	良好	3/5	内面に有機質痕、ひびが多くつくりが粗い
22	50	土師器 杯	1区	SK8	-	No.32	10.0	6.0	2.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	石、白色粒子	良好	5/6	底部に指頭圧痕
22	51	土師器 杯	1区	SK8	-	No.3	10.4	5.3	2.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7YR7/6	橙 Hue5YR6/6	砂粒	良好	完形	
22	52	土師器 杯	1区	SK8	-	一括1	10.1	5.5	2.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	白色粒子、黒色粒子	良好	4/5	
22	53	土師器 杯	1区	SK8	-	一括2	10.1	5.6	2.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒子、黒色粒子	良好	5/6	口縁部が大きく外湾
22	54	土師器 杯	1区	SK8	-	一括3	10.2	6.3	2.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒子、黒色粒子、石	良好	4/5	口縁部が大きく外湾、底部に板状圧痕、つくりが粗い
22	55	土師器 杯	1区	SK8	-	一括4	10.0	5.2	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒子、黒色粒子、雲母？	良好	5/6	底部・内面のつくりが粗い
22	56	土師器 杯	1区	SK8	-	一括5	10.3	5.6	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	白色粒子、黒色粒子	良好	4/5	底部に板状圧痕、内面に有機質痕
22	57	土師器 杯	1区	SK8	-	No.34	11.0	7.0	2.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	角閃石、黒色粒 、赤褐色粒	良好	完形	
22	58	土師器 杯	1区	SK8	-	一括12	10.1	6.3	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒子、黒色粒子、石	良好	4/5	
22	59	土師器 杯	1区	SK8	-	一括16	10.1	5.4	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒子、黒色粒子、石	良好	4/5	
22	60	土師器 杯	1区	SK8	-	No.36	10.4	6.2	2.4	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	非常に精良、砂粒	良好	完形	底部に板状圧痕
22	61	土師器 杯	1区	SK8	-	一括	(10.1)	5.6	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	砂粒	良好	2/3	内外面に黒斑あり、外面に焼成時についたと思われる黒色粒付着
22	62	土師器 杯	1区	SK8	-	No.47	10.7	5.5	2.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	砂粒	良好	完形	
22	63	土師器 杯	1区	SK8	-	一括	(10.8)	(6.8)	2.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	1/2	
22	64	土師器 杯	1区	SK8	-	一括	11.0	6.2	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	砂粒	良好	ほぼ完形	
22	65	土師器 杯	1区	SK8	-	No.4	10.2	6.2	3.0	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	石英、長石、角閃石、砂粒	良好	完形	底部に板状圧痕
22	66	土師器 杯	1区	SK8	-	No.50	10.2	5.3	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	砂粒	良好	完形	
22	67	土師器 杯	1区	SK8	-	No.10	10.3	5.6	2.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	石、黒色砂粒	良好	完形	底部の内面・外面に剥離、底部に板状圧痕
22	68	土師器 杯	1区	SK8	-	一括	(10.1)	(6.2)	3.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	石英、輝石、砂粒	良好	1/4	
22	69	土師器 杯	1区	SK8	-	一括15	11.0	7.6	2.4	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	白色粒子、黒色粒子	良好	2/5	底部の厚みが非常に薄い
23	1	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括8	7.2	5.8	1.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	砂粒	良好	ほぼ完形	
23	2	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括1	6.4	4.8	1.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/7	橙 Hue5YR6/7	砂粒	良好	完形	
23	3	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括4	7.4	5.7	1.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	砂粒	良好	ほぼ完形	口縁から底部にかけて焦げのように黒い
23	4	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括6	7.6	6.0	1.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石	良好	完形	
23	5	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括11	7.0	5.2	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	にぶい黄橙 Hue10YR6/4	砂粒	良好	完形	内面にスス付着
23	6	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括10	7.3	5.2	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	砂粒	良好	完形	
23	7	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括	(6.8)	5.1	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	2/3	
23	8	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括7	7.1	5.4	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	砂粒	良好	完形	
23	9	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括5	7.7	5.7	1.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	ほぼ完形	指頭圧痕あり
23	10	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括9	7.2	5.6	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	完形	
23	11	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括3	7.2	5.4	1.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	砂粒	良好	完形	
23	12	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括13	7.2	5.4	1.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	完形	

表18　出土遺物観察表（4）

法量（　）は復元値

図版No.	報番	器種	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	出土地点 取り上げ	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	調整 (内面)	調整 (外面)	色調 (内面)	色調 (外面)	胎土	焼成	残存率	備考
23	13	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括15	7.1	5.2	1.4	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒子	良好	ほぼ完形	
23	14	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括14	7.2	5.4	1.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	完形	
23	15	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括16	7.7	5.7	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒	良好	ほぼ完形	底部に指頭圧痕
23	16	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括17	7.6	5.1	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	5/6	内面中央と外面に指頭圧痕
23	17	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括	(6.5)	(5.4)	1.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	1/2	
23	18	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括	7.4	5.9	1.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	橙 Hue7.5YR7/6	長石、黒色粒、赤色粒	良好	2/3	
23	19	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括	6.5	5.5	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、赤色粒、黒色粒	良好	2/3	
23	20	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括2	7.7	5.1	2.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	砂粒	良好	完形	口縁部の一部に土器焼成時に付着した可能性の黒斑あり
23	21	土師器 皿	1区	SK9	埋1層	一括	7.1	5.5	1.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	石英、黒色粒、砂粒	良好	3/4	底部に指頭圧痕
23	22	土師器 皿	1区	SK9	-	No.9	7.5	5.1	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	
23	23	土師器 皿	1区	SK9	-	一括	(6.6)	(5.1)	1.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	石英、角閃石、黒色粒、赤褐色粒	良好	1/2	底部に指頭圧痕
23	24	土師器 杯	1区	SK9	埋1層	一括	10.7	5.9	2.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、黒色粒、褐色粒	良好	ほぼ完形	歪みあり
23	25	土師器 杯	1区	SK9	埋1層	一括12	11.0	6.6	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	砂粒	良好	完形	底部に板状圧痕、全体にスス
23	26	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	(10.6)	(5.4)	2.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	角閃石、石英、黒色粒、石	良好	1/3	外面、底部に黒斑あり
23	27	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	(11.2)	6.0	2.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、黒色粒、褐色粒	良好	2/3	底部は、一部盛りあがる
23	28	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	11.0	6.9	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	石英、赤褐色粒、角閃石	良好	2/3	
23	29	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	10.5	6.7	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	黒色粒、角閃石、石	良好	1/2	
23	30	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	10.3	6.4	2.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	長石、赤色粒、雲母、黒色粒	良好	ほぼ完形	
23	31	土師器 杯	1区	SK9	埋1層	一括	10.9	6.1	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	黒色粒	良好	ほぼ完形	底部に板状圧痕
23	32	土師器 杯	1区	SK9	埋1層	一括18	11.2	6.3	2.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	砂粒	良好	完形	底部に板状圧痕
23	33	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	10.6	6.5	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	
23	34	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	(11.0)	6.0	2.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	黒色粒 、石	良好	2/3	
23	35	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	11.0	6.3	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	
23	36	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	11.0	5.7	2.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	砂粒	不良	ほぼ完形	
23	37	土師器 杯	1区	SK9	-	一括	10.4	6.3	3.0	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	3/4	
23	38	骨製 板？	1区	SK9	埋1層	一括	-	7.8	2.7～	施釉	施釉	緑灰 Hue10GY6/1	緑灰 Hue10GY6/1	密	良好	底部と胴部	施釉やや厚い
24	1	土師器 皿	1区	SK10	-	一括6	6.7	5.4	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、角閃石、雲母、赤色粒	良好	完形	かなり歪む
24	2	土師器 皿	1区	SK10	-	No.22	7.4	5.8	2.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/8	橙 Hue5YR6/8	長石	良好	ほぼ完形	
24	3	土師器 皿	1区	SK10	-	一括4	7.1	5.4	1.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、黒色粒、赤色粒	良好	完形	かなり歪む、底部に指頭圧痕
24	4	土師器 皿	1区	SK10	-	No.23	7.2	4.6	2.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR7/6	黒色砂粒	良好	ほぼ完形	
24	5	土師器 皿	1区	SK10	-	一括	6.8	5.4	1.4	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒 、赤褐色粒、砂粒	良好	1/2	底部に板状圧痕
24	6	土師器 皿	1区	SK10	-	No.25	6.9	5.3	1.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	長石、砂粒	良好	完形	底部に棒を押しあてたあと、指頭圧痕あり
24	7	土師器 皿	1区	SK10	埋1層	一括	6.5	5.1	1.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	角閃石、石英、赤褐色粒、砂粒	良好	ほぼ完形	歪みあり
24	8	土師器 皿	1区	SK10	-	No.11	7.5	5.5	1.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	黒色砂粒	良好	完形	外面に黒斑あり
24	9	土師器 皿	1区	SK10	-	No.18	7.2	5.0	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	輝石、石英、砂粒	良好	ほぼ完形	指頭圧痕
24	10	土師器 杯	1区	SK10	-	一括	10.5	6.5	2.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	橙 Hue7.5YR7/6	黒色粒 、石英、砂粒	良好	ほぼ完形	底部内面に指頭圧痕、底部に板状圧痕
24	11	土師器 杯	1区	SK10	-	No.1	10.5	6.8	2.35	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/8	石英、黒色粒、赤褐色、石	良好	1/4	
24	12	土師器 杯	1区	SK10	-	No.17	10.9	5.8	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/4	輝石、石英、砂粒	良好	ほぼ完形	口縁部 1/6 欠損
24	13	土師器 杯	1区	SK10	-	No.10	10.3	5.8	2.4	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、輝石、砂粒	良好	ほぼ完形	
24	14	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	10.2	5.3	2.45	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/6	にぶい橙 Hue5YR7/6	角閃石、黒色粒 、石英、砂粒	良好	ほぼ完形	内部中央に黒斑あり
24	15	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	10.7	7.0	2.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	石英、角閃石、黒色粒	良好	1/2	底部に指頭圧痕
24	16	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	(10.4)	6.0	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒 、赤褐色粒、石	良好	1/3	底部に板状圧痕
24	17	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	10.3	5.4	2.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR7/6	浅黄橙 Hue7.5YR7/6	角閃石、黒色粒 、石英	良好	ほぼ完形	
24	18	土師器 杯	1区	SK10	-	No.12	(10.6)	(6.5)	2.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	石英、長石、輝石	良好	2/5	板状圧痕あり
24	19	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	10.7	6.3	2.65	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	黒色粒 、角閃石、石英、砂粒	良好	ほぼ完形	
24	20	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	10.8	5.9	2.2	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/3	浅黄橙 Hue7.5YR8/3	石英、黒色粒、砂粒	良好	ほぼ完形	
24	21	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	10.7	5.7	3.05	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	石英、黒色粒 、石	良好	ほぼ完形	口縁が一部欠損
24	22	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	(10.7)	6.1	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒 、石英、赤褐色粒	良好	1/2	底部は粗い調整
25	23	土師器 杯	1区	SK10	-	No.2	10.5	6.0	2.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	橙 Hue7.5YR7/6	石英、角閃石、黒色粒	良好	完形	
25	24	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	(11.1)	6.1	2.55	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、石英、黒色粒、赤褐色粒	良好	1/2	
25	25	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	10.8	5.5	2.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	石英、黒色粒	良好	完形	内面に指頭圧痕あり
25	26	土師器 杯	1区	SK10	-	No.14	(10.6)	(6.0)	3.1	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	明黄褐 Hue10YR7/6	長石、輝石、砂粒	良好	3/5	
25	27	土師器 杯	1区	SK10	-	No.16	(11.6)	(6.0)	2.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	石英、長石、砂粒	良好	1/3	内面に焼成時のものと思われる黒斑
25	28	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	10.6	5.9	2.95	ナデ	ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	橙 Hue7.5YR7/6	石英、角閃石、黒色粒	良好	3/4	いびつにできている、底部に板状圧痕

表 19　出土遺物観察表（5）

法量（　）は復元値

図版No.	報番	器種	出土地点 地区	遺構	層位	取り上げ	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 (内面)	(外面)	色調 (内面)	(外面)	胎土	焼成	残存率	備考
25	29	土師器 杯	1区	SK10	-	No.9	10.5	5.8	3.2	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	石英、黒色粒 、赤褐色粒	良好	ほぼ完形	内面は粗い調整
25	30	土師器 杯	1区	SK10	-	No.3	(10.3)	(6.7)	2.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	角閃石、黒色粒、石英	良好	1/4	
25	31	土師器 杯	1区	SK10	-	No.24	(11.0)	(6.0)	3.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	浅黄橙 Hue7.5YR8/6	石英、長石、輝石、赤色粒子	良好	2/5	
25	32	土師器 杯	1区	SK10	-	No.8	(11.5)	(7.2)	2.45	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	石英、黒色粒	良好	1/3	
25	33	土師器 杯	1区	SK10	-	No.20	(10.6)	(6.2)	2.2	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	輝石、長石	良好	1/2	底部に板状圧痕
25	34	土師器 杯	1区	SK10	-	No.5	-	(5.9)	1.95～	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	石英、黒色粒、赤褐色粒	良好	1/3	
25	35	土師器 杯	1区	SK10	-	No.13	(11.0)	(5.8)	2.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	石英、輝石、砂粒	良好	2/5	
25	36	土師器 杯	1区	SK10	埋1層	一括	(10.1)	(6.2)	2.2	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	角閃石、石英、石	良好	1/3	
26	1	土師器 小皿	1区	SK116	-	No.40	3.4	2.8	1.1	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	黒色粒、石英	良好	完形	ミニチュア土器？口縁にヘラによる切り込み？
26	2	土師器 皿	1区	SK116	-	No.4	7.1	5.3	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/8	黒色粒、赤褐色粒	良好	ほぼ完形	歪みあり、底部に指頭圧痕あり
26	3	土師器 皿	1区	SK116	-	No.14	6.4	4.8	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	角閃石、黒色粒、赤褐色粒	良好	完形	内面中央に指頭圧痕、歪みあり
26	4	土師器 皿	1区	SK116	-	No.12	7.0	5.1	1.85	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒、雲母	良好	完形	内面中央に指頭圧痕、歪みあり
26	5	土師器 皿	1区	SK116	-	No.40	-	4.8	1.8～	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒、雲母	良好	1/2?	底部のみ？中央に7mmの穿孔あり
26	6	土師器 皿	1区	SK116	埋1層	No.21	6.9	5.2	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒、石英	良好	完形	内面中央に指頭圧痕、歪みあり
26	7	土師器 皿	1区	SK116	-	No.34	6.8	5.7	1.95	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	内面中央に指頭圧痕あり
26	8	土師器 皿	1区	SK116	埋1層	No.6	6.9	5.4	1.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、角閃石、黒色粒	良好	完形	内外面にスス付着、歪みあり、内面中央に指頭圧痕あり
26	9	土師器 皿	1区	SK116	-	No.32	6.8	5.9	1.75	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、黒色粒	良好	完形	内面中央にひび割れと歪みあり、一部スス付着？
26	10	土師器 皿	1区	SK116	-	No.26	6.8	5.15	1.85	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	歪みあり、口縁にススあり
26	11	土師器 皿	1区	SK116	-	No.20	(7.0)	5.9	1.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、黒色粒	良好	1/2	底部は薄く、盛り上がる
26	12	土師器 皿	1区	SK116	-	No.1	6.8	5.25	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/4	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒、角閃石	良好	完形	歪みあり
26	13	土師器 皿	1区	SK116	-	No.28	6.5	5.2	2.0	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤色粒、角閃石、雲母	良好	完形	内面中央に指頭圧痕あり
26	14	土師器 皿	1区	SK116	-	No.18	6.5	5.0	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	角閃石、黒色粒、赤褐色粒	良好	4/5	歪みあり
26	15	土師器 皿	1区	SK116	-	No.33	6.7	5.2	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、石英	良好	完形	歪みあり
26	16	土師器 皿	1区	SK116	-	No.27	7.0	5.5	2.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒、赤褐色粒、雲母	良好	完形	歪みあり、底部に指頭圧痕
26	17	土師器 皿	1区	SK116	-	No.37	7.0	5.3	1.55	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、白色粒	良好	完形	
26	18	土師器 皿	1区	SK116	埋1層	No.44	7.2	5.0	2.2	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、白色粒	良好	完形	
26	19	土師器 皿	1区	SK116	-	No.29	7.2	5.6	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒、白色粒	良好	完形	内面中央と底部に指頭圧痕あり
26	20	土師器 皿	1区	SK116	-	No.22	6.3	5.5	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒、白色粒	良好	完形	内面中央に指頭圧痕あり
26	21	土師器 皿	1区	SK116	-	No.2	6.7	5.4	1.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒	良好	完形	歪みあり、底部に指頭圧痕あり
26	22	土師器 杯	1区	SK116	埋1層	-	12.8	4.2	3.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、黒色粒	良好	ほぼ完形	全体的に歪い作り
26	23	土師器 杯	1区	SK116	-	No.43	13.4	7.5	3.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、白色粒、角閃石	良好	ほぼ完形	歪みあり
27	24	土師器 杯	1区	SK116	-	No.41	10.6	5.6	2.95	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	橙 Hue7.5YR7/6	白色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
27	25	土師器 杯	1区	SK116	-	No.35	10.3	6.1	2.3	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、角閃石	良好	ほぼ完形	
27	26	土師器 杯	1区	SK116	-	No.45	10.6	6.6	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、角閃石、黒色粒、赤色粒	良好	3/4	
27	27	土師器 杯	1区	SK116	-	No.13	10.4	5.9	2.85	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色粒、雲母	良好	完形	歪みあり、底部に板状圧痕あり
27	28	土師器 杯	1区	SK116	-	No.30	10.2	6.4	2.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒、黒色粒、赤褐色粒	良好	完形	歪みあり、底部に板状圧痕あり
27	29	土師器 杯	1区	SK116	埋1層	No.31	10.4	5.5	3.3	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	黒色粒、赤褐色粒、雲母	良好	ほぼ完形	歪みあり
27	30	土師器 杯	1区	SK116	埋1層	No.36	10.3	5.4	2.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、黒色粒	良好	ほぼ完形	
27	31	土師器 杯	1区	SK116	-	No.9,10	5.2	6.1	2.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、黒色粒、赤褐色粒	良好	ほぼ完形	
27	32	土師器 杯	1区	SK116	埋1層	No.25	11.1	6.0	2.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/3	浅黄橙 Hue10YR8/4	赤褐色粒、黒色粒、白色粒	良好	完形	歪みあり
27	33	土師器 杯	1区	SK116	埋1層	No.39	10.7	5.8	3.1	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、角閃石、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	
27	34	土師器 杯	1区	SK116	埋1層	No.23	10.2	5.4	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	黒色粒、雲母、角閃石	良好	3/4	歪みあり
27	35	土師器 杯	1区	SK116	-	No.7	10.6	5.8	3.05	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	角閃石、黒色粒、赤褐色粒	良好	3/4	口縁部にスス付着
27	36	土師器 杯	1区	SK116	-	No.8	10.7	6.0	3.0	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、黒色粒、赤褐色粒	良好	ほぼ完形	歪みあり
27	37	土師器 杯	1区	SK116	-	No.42	10.2	5.4	3.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、角閃石、白色粒	良好	完形	歪みあり
27	38	土師器 杯	1区	SK116	-	No.18	(10.2)	5.8	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	2/3	
27	38	土師器 杯	1区	SK116	埋1層	No.17	10.4	6.6	2.3	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	内外面にスス付着、指頭圧痕あり
27	39	土師器 杯	1区	SK116	-	No.5	(10.3)	6.0	2.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/4	にぶい橙 Hue5YR7/4	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	1/2	
27	40	土師器 杯	1区	SK116	-	No.15	10.5	5.7	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	
27	42	土師器 杯	1区	SK116	-	No.24	(10.9)	(5.7)	2.55	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	角閃石、石英、黒色粒	良好	ほぼ完形	底部に板状圧痕
27	43	土師器 杯	1区	SK116	-	No.3	11.2	6.4	2.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、黒色粒、赤色粒	良好	2/3	
27	44	土師器 杯	1区	SK116	-	No.46	10.9	6.1	2.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、角閃石、黒色粒	良好	ほぼ完形	

表20　出土遺物観察表（6）

法量（　）は復元値

図版No.	番号	器種	出土地点 地区	遺構	層位	取り上げ	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 (内面)	(外面)	色調 (内面)	(外面)	胎土	焼成	残存率	備考
27	1	土師器　皿	1区	SK117	-	No.11	6.1	5.2	1.5	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	黒色粒、赤褐色、石英、砂粒	良好	完形	底部に指頭圧痕
27	2	土師器　皿	1区	SK117	-	No.6	6.0	5.2	1.4	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	石英、赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	内面中央にスス付着、底部に黒斑と板状圧痕あり
27	3	土師器　皿	1区	SK117	-	No.17	6.9	5.2	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	石英、赤褐色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	歪みあり、内面中央と底部に指頭圧痕
27	4	土師器　皿	1区	SK117	-	No.1.14	6.9	5.8	1.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	完形	かなり歪みあり
27	5	土師器　皿	1区	SK117	-	No.10	6.3	4.9	1.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、雲母、長石	良好	完形	
27	6	土師器　皿	1区	SK117	-	No.9	6.9	5.9	1.8	ナデ、工具痕	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、赤色粒、黒色粒、雲母	良好	完形	内面に工具痕あり
27	7	土師器　皿	1区	SK117	-	No.19	6.4	4.7	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、石英、白色粒	良好	完形	
27	8	土師器　皿	1区	SK117	埋1層	No.16	6.6	5.5	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒、角閃石	良好	ほぼ完形	
27	9	土師器　皿	1区	SK117	-	No.2	7.1	5.0	2.0	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	底部に非常に荒い所あり
27	10	土師器　皿	1区	SK117	-	No.15.18	6.4	5.2	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR6/4	にぶい橙 Hue5YR6/4	赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	
27	11	土師器　皿	1区	SK117	-	No.13	7.2	5.8	1.85	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、黒色粒	良好	完形	歪みあり
27	12	土師器　皿	1区	SK117	-	No.12	6.8	5.6	1.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、赤褐色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
27	13	土師器　皿	1区	SK117	-	No.3	7.3	5.9	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	完形	
27	14	土師器　杯	1区	SK117	-	No.15	10.8	6.1	3.0	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	2/3	底部に板状圧痕
36	1	土師器　皿	1区	SK53	埋1層	-	6.9	4.1	2.05	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	長石、赤褐色粒、雲母	良好	ほぼ完形	
36	2	土師器　皿	1区	SK100	-	No.9.11	7.8	5.6	2.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	赤褐色粒、角閃石、雲母、白色粒	良好	完形	歪みあり、内面中央に指頭圧痕あり
36	3	土師器　皿	1区	SK122	-	-	7.1	5.5	1.75	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、白色粒、雲母	良好	ほぼ完形	底部にヘラ記号？
36	4	土師器　皿	1区	SK122	埋3層	一括	7.2	6.1	1.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	白色粒、石英、雲母、赤色粒	良好	ほぼ完形	内面中央に指頭圧痕あり
36	5	土師器　杯	1区	SK100	-	No.14	11.6	7.1	3.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue5YR7/4	橙 Hue5YR7/6	石英、黒色粒、赤褐色、砂粒	良好	3/4	調整が粗く、歪みあり
36	6	土師器　杯	1区	SK100	-	一括	(15.5)	(8.6)	4.1	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	雲母、赤褐色粒	良好	1/4	外部一部に指頭圧痕
36	7	土師器　杯	1区	SK124	埋1層	一括	(11.2)	(6.4)	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	灰黄褐 Hue10YR5/2	灰黄褐 Hue10YR5/2	赤褐色粒、白色粒、雲母	良好	1/4	内面にススが付着
36	8	土師器　耳皿	1区	SK58	埋4層	一括	長さ 3.1	幅 3.0	1.4	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 7YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	長石、石英、雲母、赤色粒、砂粒	良好	2/3	
36	9	土師器　耳皿	1区	SK59	埋3層	一括	長さ 5.0	幅 3.4	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	長石、石英、雲母、赤色粒、砂粒	良好	ほぼ完形	
36	10	青磁　椀	1区	SK59	-	一括	-	-	4.5～	施釉	施釉	灰白 N8.2	貧味灰 2.7Y6.3/2.5	密	良好	口縁一部	
36	11	須恵器　甕	1区	SK55	埋1層	一括	(22.4)	-	7.1～	当て具痕	ﾀﾀｷ	明灰黄 2.5Y5/2	灰白 2.5Y7/1	白色、灰色砂粒	良好	口縁1/3	
38	1	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	トレンチ一括	-	-	5.5～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	灰黄 Hue2.5Y6/2	にぶい黄橙 Hue10YR7/2	長石、角閃石、雲母、褐色粒、黒色粒	良好	口縁一部	2刻印と、1突帯あり
38	2	瓦質土器　火鉢	1区	G-10G	2b層	一括	-	-	5.5～	ﾊｹ目、回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	黄灰 Hue2.5Y4/1	黄灰 Hue2.5Y4/1	長石、角閃石、赤色粒、黒色粒	良好	口縁一部	菊花文？の刻印と、1突帯あり
38	3	瓦質土器　火鉢	1区	E-10G	-	一括	-	-	7.3～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	黄灰 Hue2.5Y5/1	黄灰 Hue2.5Y5/1	長石、雲母、褐色粒	良好	口縁一部	菊花文と線の刻印と、2突帯あり
38	4	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	トレンチ一括	-	-	3.9～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	にぶい橙 Hue5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	角閃石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	口縁一部	1刻印と、1突帯あり
38	5	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	トレンチ一括	-	-	4.4～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	灰白 Hue5Y7/1	灰白 Hue5Y7/2	長石、角閃石、雲母、褐色粒	良好	口縁一部	1刻印と、1突帯あり
38	6	瓦質土器　火鉢	1区	E-9G	ｶｸﾗﾝ	一括	-	-	6.4～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	ｵﾘｰﾌﾞ黒 Hue5Y3/1	灰ｵﾘｰﾌﾞ Hue5Y4/2	長石、角閃石、雲母、褐色粒	良好	口縁一部	2刻印と、1突帯あり
38	7	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	トレンチ一括	-	-	3.5～	ﾊｹ目、回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	明黄褐 Hue10YR6/6	明黄褐 Hue10YR6/6	長石、角閃石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	口縁一部	1刻印あり
38	8	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	一括	-	-	4.2～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	灰黄褐 Hue10YR5/2	灰黄褐 Hue10YR5/2	長石、雲母、角閃石、褐色粒、黒色粒	良好	口縁一部	2刻印と、1突帯あり
38	9	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	一括	-	-	4.6～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	褐灰 Hue10YR5/1	褐灰 Hue10YR5/1	長石、角閃石、雲母、褐色粒	良好	口縁一部	2刻印と、1突帯あり
38	10	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	一括	-	-	8.1～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	暗灰 N3/	灰 N4/	角閃石、雲母、長石、黒色粒	良好	口縁一部	3刻印と、2突帯あり
38	11	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	一括	-	-	6.8～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	ｵﾘｰﾌﾞ黒 Hue5Y3/1	黒 Hue7.5Y2/1 灰黄 Hue2.5Y6/2	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	口縁一部	2刻印と、2突帯あり
38	12	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	一括	-	-	6.7～	ﾊｹ目、回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	黒褐 Hue2.5Y3/1	黒褐 Hue2.5Y3/1	長石、角閃石、雲母、褐色粒、黒色粒	良好	口縁一部	2刻印と、2突帯あり
38	13	瓦質土器　不明	1区	-	-	一括	-	-	3.7～	横ナデ	回転ナデ、刻印	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 10YR7/2	やや密	良好	一部	『○人』の文字あり
38	14	瓦質土器　火鉢	1区	-	-	トレンチ一括	-	-	5.5～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	石英、角閃石、白色粒、黒色粒	良好	肩部	2刻印と、2突帯あり
38	15	瓦質土器　茶釜	1区	G-10G	2層	一括	-	-	14.2～	ﾊｹ目、回転ナデ	横ナデ、板ナデ、突帯	暗灰 N3/	暗灰 N3/	密	良好	脚部一部	
38	16	瓦質土器　火舎	1区	I-12G	1b層	一括	-	-	6.0～	横ナデ	ﾐｶﾞｷ、突帯、ｽﾀﾝﾌﾟ文	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	密	良好	脚部一部	スタンプ文、円孔あり
38	17	瓦質土器　火舎	1区	I-12G	1b層	-	-	-	7.2～	横ナデ	ﾐｶﾞｷ、突帯	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	密	良好	脚部	脚に円孔あり
39	18	青磁　椀	1区	G-12G	2b層	-	1.0	-	6.9	施釉	施釉	灰味黄茶 2.5Y5.4/2.5	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	やや粗	良好	5/6	蓮弁文、高台径4.8cm、高台高1.0cm
39	19	青磁　椀	1区	-	-	一括	(6.4)	-	5.4～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	口縁1/3	
39	20	青磁　椀	1区	G-13G	ｶｸﾗﾝ	-	-	-	4.9～	施釉	施釉	灰色 N5.5	貧味灰 2.7Y6.3/2.5	やや粗	良好	口縁1/3	
39	21	青磁　椀	1区	I-11G	ｶｸﾗﾝ	一括	-	-	3.5～	施釉	施釉	明るい灰 N7.1	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	密	良好	口縁一部	
39	22	青磁　蓋つまみ	1区	-	-	一括	-	-	2.6～	施釉	施釉	明るい灰 N7.1	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	つまみ完形	
39	23	青磁　椀	1区	H-11G	1b層	一括	-	-	2.2～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	密	良好	口縁一部	
39	24	青磁　椀	1区	H-12G	-	一括	-	-	3.1～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	密	良好	口縁一部	
39	25	青磁　椀	1区	I-11G	2a層	一括	1.1	-	2.9～	施釉	施釉	明るい灰 N6.3	明るいｵﾘｰﾌﾞ 0.4GY4.9/3.2	やや粗	良好	底部完形	印花文、高台径5.3cm、高台高1.1cm
39	26	青磁　椀	1区	H-11G	-	-	1.2	-	4.1～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	底部完形	高台径5.8cm、高台高1.2cm、見込みに梵字か？
39	27	青磁　椀	1区	H-11G	2a層	一括	1.3	-	5.0～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	底部完形	スタンプ文、高台径4.6cm、高台高1.3cm

表21　出土遺物観察表（7）

法量（　）は復元値

図版No.	幅番	器種	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	出土地点 取り上げ	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	調整 (内面)	調整 (外面)	色調 (内面)	色調 (外面)	胎土	焼成	残存率	備考
39	28	青磁　椀	1区	E-9G	2b層	一括	1.0	-	4.3～	施釉	施釉	灰白 N8.2	オリーブ 2.6Y4.2/3	密	良好	底部3/4	高台径5.2cm、高台高1.0cm
39	29	染付　椀	1区	D-8G	1層	一括	1.1	-	3.4～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰白に緑がかる N8.2	密	良好	3/4	高台径4.4cm、高台高1.1cm
39	30	染付　椀	1区	-	-	一括	0.8	-	3.2～	施釉	施釉	白 N9.5	白に青みがかる N9.5	密	良好	1/3	高台径(4.8)cm、高台高0.8cm
39	31	染付　椀	1区	-	-	一括	0.2	-	1.5～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰白 N8.2	密	良好	1/3	高台径(4.9)cm、高台高0.2cm
40	32	白磁　椀	1区	-	-	一括	-	-	1.9～	施釉	施釉	うす黄橙 10YR8.4/2.3	灰味黄茶 9.5Y5.4/2.5	密	良好	底部のみ	高台径5.1cm、高台高1.0cm
40	33	白磁　椀	1区	I-11G	2b層	一括	-	-	2.7～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	密	良好	底部完形	高台径5.5cm、高台高1.5cm
40	34	土師器　香炉	1区	-	-	一括	-	-	1.0～	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	やや密	良好	一部	孔付近にススが付着
40	35	土師器　皿	1区	-	埋2層	一括	(13.7)	-	3.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 7YR6/6	橙 7YR6/6	長石、石英、雲母、赤色粒、砂粒	良好	1/3	『舎人？』の墨書あり
40	36	青磁　大皿	1区	-	1b層	-	-	-	3.0～	施釉	施釉	灰白 N8.2	オリーブ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	底部1/4	
40	37	須恵器　椀	1区	-	-	一括	-	-	3.1～	回転ナデ	回転ナデ、ケズリ	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR5/2	長石、石英、砂粒	良好	底部完形	高台径4.6cm、高台高1.2cm、灰降着？
40	38	須恵器 高台付杯	1区	H-10G	1b層	一括	(12.4)	-	4.3	ナデ、回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	褐灰 10YR6/1	長石、石英、砂粒	良好	1/2	高台径8.2cm、高台高0.9cm、外面全体に自然釉か？
40	39	須恵器　椀	1区	-	1b層	-	(16.3)	10.3	5.7	ナデ、回転ナデ	ナデ、回転ナデ	にぶい橙 Hue5YR7/4	灰 N7/	黒色粒、石英、石粒	良好	2/3	外面に黒く変色したものはススか？
40	40	須恵器　壺	1区	I-12G	カクラン	一括	-	-	6.9～	当て具痕	ヘラキ	灰赤 Hue2.5YR4/2	褐赤灰 Hue10R4/1	白色粒、雲母、石	良好	頸部	車輪文？
40	41	焙烙	1区	H-12G	-	一括	(5.4)	-	4.2～	-	-	にぶい黄 2.5Y6/3	黄灰 Hue5YR6/6	密	良好	1/2	
40	42	不明	1区	-	-	一括	-	-	3.4～	回転ナデ	回転ナデ	灰白より黄色 N8.2	橙 Huc5YR6/6	やや密	やや不良	底部完形	高台径4.1cm、高台高1.3cm、胎土は軟質、歪みあり
40	43	信楽　茶壺	1区	PB317	-	-	(18.0)	-	10.5～	回転ナデ	回転ナデ	灰褐 7.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	長石、石英、赤色粒、砂粒	良好	口縁1/4	灰降着？
44	1	土師器 耳皿？	2区	SD99	埋3層	一括	(5.6)	2.9	1.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/3	浅黄橙 Hue10YR8/3	雲母、黒色粒	良好	1/2	欠損部両側の立ち上がりから、耳皿の可能性あり
44	2	土師器　杯	2区	SD99	埋8層	-	(7.3)	(5.0)	2.2	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	雲母、白色粒	良好	1/5	内面中央に指頭圧痕
44	3	土師器　杯	2区	SD99	埋8層	一括	10.8	5.5	3.1	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	赤褐色粒、白色粒、雲母	良好	3/4	
44	4	瓦質土器　火鉢	2区	SD99	埋3層	一括	-	-	6.2～	回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	暗灰黄 Hue2.5Y5/2	黒褐 Hue2.5Y3/1	長石、石英、雲母、褐色粒	良好	口縁一部	2刻印と、1突帯あり
44	5	瓦質土器　火鉢	2区	SD99	埋3層	-	-	-	3.3～	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、刻印、突帯	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	にぶい黄橙 Hue10YR6/3	石英、雲母、長石、角閃石、黒色粒	良好	頸部一部	1刻印と、1突帯あり
44	6	瓦質土器　火鉢	2区	SD99	埋3層	一括	28.4	-	9.3～	クシ目	ハケ目後、圧痕	暗灰 N3/	暗灰 N3/	長石、雲母、褐色粒	良好	口縁一部	7本のクシ目
44	7	染付　皿	2区	SD99	埋4層	-	(13.9)	-	3.45	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味青 10B5.5/3.6	密	良好	1/10	高台径(6.7)cm、高台高0.65cm
44	8	青磁　大皿	2区	SD99	埋3層	-	-	-	7.1～	施釉	施釉	灰白 N8.2	オリーブ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	一部	波状口縁か？
44	9	陶器　椀	2区	SD99	埋8層	-	-	-	3.5～	施釉	施釉	うす茶 2.6YR6.1/3	黄味灰 2.7Y6.3/2.5	密	良好	口縁一部	
44	10	陶器　壺	2区	SD99	埋4層	-	-	-	5.25～	施釉	施釉	苅めの茶 7.9YR3.6/2	茶色 7.9YR3.6/2	やや粗	良好	口縁一部	
44	11	青磁　小皿	2区	SD99	2a,8層	一括	(12.1)	-	3.4	施釉	施釉	明るい灰 N6.3	オリーブ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	1/4	波状口縁、高台径(5.6)cm、高台高0.7cm
45	1	土師器　皿	2区	SD186	埋2層	一括	6.55	5.1	2.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	石英、雲母、赤褐色粒、角閃石	良好	5/6	内面に指頭圧痕？あり
45	2	土師器　皿	2区	SD186	埋2層	一括	6.6	5.1	1.75	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	橙 Hue5YR6/6	黒色粒、赤褐色粒、角閃石、石英	良好	ほぼ完形	
45	3	土師器　皿	2区	SD186	埋5層	-	6.4	4.6	2.1	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	
45	4	土師器　皿	2区	SD186	埋2層	一括	7.1	5.0	1.95	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	石英、黒色粒、赤褐色粒、角閃石	良好	ほぼ完形	
45	5	土師器　皿	2区	SD186	埋2層	一括	7.1	4.3	2.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	完形	内外面に炭化物付着
45	6	土師器　皿	2区	SD186	埋2層	一括	7.3	5.0	2.1	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	にぶい橙 Hue7.5YR7/3	角閃石、石英、赤褐色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
45	7	土師器　皿	2区	SD186	-	一括	7.4	4.6	2.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	完形	内外面に炭化物付着
45	8	土師器　皿	2区	SD186	埋土	一括	6.6	5.7	1.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	
45	9	土師器　杯	2区	SD186	埋3層	-	7.3	5.0	2.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、雲母	良好	ほぼ完形	
45	10	土師器　皿	2区	SD186	埋2層	-	7.0	5.6	1.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue5YR7/6	橙 Hue5YR7/6	赤褐色粒、石英、黒色粒、砂粒、角閃石	良好	完形	
45	11	土師器　皿	2区	SD186	-	一括	7.9	4.9	2.3	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	
45	12	土師器　皿	2区	SD186	-	一括	(8.0)	5.9	2.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR8/6	橙 Hue7.5YR8/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	3/4	
45	13	土師器　杯	2区	SD186	埋2.5層	一括	11.0	5.7	3.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	赤褐色粒、黒色粒、雲母	良好	ほぼ完形	
45	14	土師器　杯	2区	SD186	埋2層	-	11.1	6.0	3.1	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	黒色粒、赤褐色粒、雲母	良好	ほぼ完形	2ヶ所の穿孔あり、口縁に指押さえ痕
45	15	土師器　杯	2区	SD186	埋5層	-	11.1	5.8	3.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Huo7.5YR7/6	長石、角閃石、雲母、黒色粒、赤色粒	良好	3/4	
45	16	土師器　杯	2区	SD186	埋2層	一括	11.1	6.3	3.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	赤褐色粒、黒色粒	良好	3/4	
45	17	土師器　杯	2区	SD186	埋2層	-	(12.2)	7.3	3.6	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒、雲母	良好	2/3	
45	18	土師器　杯	2区	SD186	埋5層	-	11.2	6.2	3.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	黒色粒、赤色粒、雲母	良好	ほぼ完形	
45	19	土師器　杯	2区	SD186	埋2層	一括	10.4	6.0	3.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Huo7.5YR6/6	赤褐色粒、黒色粒、雲母	良好	ほぼ完形	
45	20	土師器　杯	2区	SD186	埋5層	-	11.5	6.7	3.7	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、赤色粒、黒色粒、雲母	良好	ほぼ完形	
45	21	土師器　杯	2区	SD186	-	一括	12.4	7.0	3.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	長石、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
45	22	土師器　杯	2区	SD186	埋2層	-	10.5	6.3	2.2	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue10YR8/3	長石、角閃石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	完形	つくりが薄い
45	23	土師器　杯	2区	SD186	埋2層	一括	11.5	7.6	2.8	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR8/3	橙 Hue7.5YR8/3	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	4/5	口縁部が薄い
46	24	土師器　杯	2区	SD186	埋6層	-	12.3	7.2	3.2	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
46	25	土師器　杯	2区	SD186	埋5層	-	11.5	6.2	3.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、角閃石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	歪みあり、底部が非常に厚い

表22　出土遺物観察表（8）

法量（　）は復元値

図版No.	図番	器種	出土地点 地区	出土地点 遺構	出土地点 層位	出土地点 取り上げ	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	調整 (内面)	調整 (外面)	色調 (内面)	色調 (外面)	胎土	焼成	残存率	備考
46	26	土師器　杯	2区	SD186	埋2層	-	12.2	6.8	4.0	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、角閃石、黒色粒、雲母	良好	ほぼ完形	
46	27	土師器　杯	2区	SD186	埋5層	-	12.0	7.2	3.6	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue10YR7/3	にぶい橙 Hue10YR7/3	角閃石、石英、赤褐色粒、黒色粒	良好	3/4	一部にススが付着
46	28	土師器　杯	2区	SD186	埋2層	-	12.0	7.0	3.3	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR8/6	橙 Hue7.5YR8/6	長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	歪みあり
46	29	土師器　杯	2区	SD186	埋2層	-	-	7.5	3.1～	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	雲母、長石、赤色粒、黒色粒	良好	底部～胴部	内面に工具痕あり
46	30	土師器　杯	2区	SD186	-	一括	-	6.8	1.9～	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue10YR8/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/4	長石、角閃石、雲母、赤色粒、黒色粒	良好	底部のみ	黒斑あり
46	31	青磁　椀	2区	SD186	埋2層	-	(15.8)	-	6.9～	施釉	施釉	うす黄橙 10YR8.4/2.3	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	密	良好	口縁1/4	
46	32	青磁　椀	2区	SD186	-	一括	-	-	2.3～	施釉	施釉	灰白 N8.2	黄味灰 2.7Y6.3/2.5	密	良好	口縁一部	
46	33	青磁　椀	2区	SD186	埋2層	-	-	-	5.5～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味黄緑 8.6GY6.3/2	密	良好	口縁一部	
46	34	青磁　椀	2区	SD186	埋3層	-	12.5	-	6.0	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味緑 2.1G5.4/2	密	良好	5/6	高台径4.9cm、高台高1.2cm
46	35	青磁　椀	2区	SD186	埋5層	-	-	-	4.6～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	底部1/3	高台径(5.8)cm、高台高1.5cm、印花文
46	36	青磁　椀	2区	SD186	埋1層	-	(14.7)	-	6.1～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	口縁1/4	
46	37	青磁　香炉	2区	SD186	-	一括	-	-	4.3～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	密	良好	1/4	高台径(5.0)cm、高台高0.6cm
46	38	瓦質土器　火鉢	2区	SD186	埋1,2層	-	-	-	6.2～	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、刻印、突帯	ｵﾘｰﾌﾞ黒 Hue5Y3/1	ｵﾘｰﾌﾞ黒 Hue5Y3/1	長石、石英、雲母、赤色粒	良好	口縁一部	2刻印と、2突帯あり
46	39	瓦質土器　火舎	2区	SD186	埋2層	-	-	-	12.6～	粗ﾅﾃﾞ、指頭圧痕	ﾅﾃﾞ、工具ﾅﾃﾞ、突帯	灰 10Y5/1	暗灰 N3/	密	良好	底部1/4	
51	1	土師器　杯	2区	SD272	埋3層	一括	6.6	4.4	2.1	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	雲母、赤褐色粒	良好	ほぼ完形	口縁に一部ススが付着
51	2	土師器　杯	2区	SD272	埋4層	-	12.8	8.1	3.0	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	浅黄橙 Hue7.5YR8/4	長石、雲母、角閃石、赤色粒、黒色粒	良好	ほぼ完形	
51	3	土師器　杯	2区	SD272	埋3層	-	12.5	8.8	3.3	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	長石、雲母、角閃石、黒色粒、赤色粒	良好	ほぼ完形	
51	4	土師器　杯	2区	SK150	埋土	一括	7.1	4.2	2.0	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、雲母、白色粒	良好	完形	口縁に削った痕あり
51	5	土師器　杯	2区	PB804	ｶｸﾗﾝ	一括	(11.4)	6.0	2.9	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR7/6	橙 Hue7.5YR7/6	赤褐色粒、白色粒	良好	2/3	
51	6	瓦質土器　火鉢	2区	-	-	一括	-	-	7.5～	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、刻印、突帯	灰 Hue5Y4/1	灰 Hue5Y4/1	長石、石英、雲母、褐色粒	良好	口縁一部	3刻印と、2突帯あり
51	7	青磁　椀	2区	E-2G	2b層	一括	-	-	4.5～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	口縁一部	
51	8	青磁　香炉	2区	SK131	-	一括	-	(8.4)	5.7～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	1/3	高台高1.3cm
51	9	須恵器　壺	2区	-	ｶｸﾗﾝ	-	18.9	16.7	26.6	ﾅﾃﾞ、ﾊｹ、ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ、ﾀﾀｷ後ﾅﾃﾞ	ｵﾘｰﾌﾞ黒 Hue5Y3/1	灰 N6/	黒色粒、角閃石、赤褐色粒、石	良好	1/3	口縁から胴部に鉄錆付着
62	1	土師器　皿	3区	SK31	埋1層	一括	5.2	4.4	1.5	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい褐 Hue7.5YR5/3	にぶい黄褐 Hue10YR5/3	黒色粒、赤褐色粒、雲母	良好	5/6	外面に黒粒付着、少し歪みあり
62	2	土師器　杯	3区	SK80,81	埋1層	-	7.0	5.0	1.95	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	黒褐 Hue5YR3/1	にぶい黄褐 Hue10YR5/4	雲母、赤褐色粒	良好	1/2	内面全体にススが付着
62	3	土師器　皿	3区	SK74	埋1層	-	7.7	5.5	1.9	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue5YR6/6	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	赤褐色粒、石英、雲母	良好	5/6	内面中央に指頭圧痕
62	4	土師器　皿	3区	SA70,P4	-	-	7.7	7.1	1.5	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	明褐 Hue7.5YR5/6	にぶい褐 Hue7.5YR5/4	赤褐色粒、雲母、石英	良好	5/6	歪みあり
62	5	土師器　杯	3区	SB64,P19	埋2層	一括	(10.8)	6.9	3.2	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	にぶい橙 Hue7.5YR6/4	赤褐色粒、黒色粒、雲母	良好	2/3	
62	6	青磁　椀	3区	SX30・31	-	一括	-	-	2.8～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	底部のみ	高台径5.2cm、高台高1.3cm
62	7	青磁 注口付き器具	3区	SB64,P34	-	-	-	-	4.3～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰味黄緑 8.6GY6.3/2	密	良好	一部	
63	1	土師器　小皿	3区	-	1b層	一括	(4.0)	3.0	1.2	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	にぶい橙 Hue7.5YR7/4	赤褐色粒、雲母	良好	5/6	ミニチュア土器
63	2	土師器　皿	3区	D-15G	-	ｶｸﾗﾝ	7.8	6.95	2.1	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	赤褐色粒、黒色粒、雲母	良好	完形	
63	3	土師器　杯	3区	D-12G	1層	一括	6.6	4.0	2.3	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	赤褐色粒、石英、雲母	良好	ほぼ完形	
63	4	土師器　杯	3区	-	1層	一括	6.4	4.6	2.1	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	赤褐色粒、石英、雲母	良好	ほぼ完形	
63	5	土師器　皿	3区	-	1層	一括	6.1	4.5	1.9	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	橙 Hue7.5YR6/6	赤褐色粒、石英、雲母	良好	ほぼ完形	歪みあり
63	6	土師器　小皿	3区	-	1層	一括	4.5	3.7	1.5	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	赤褐色粒、雲母、石英	良好	ほぼ完形	ミニチュア土器
63	7	土師器　杯	3区	D-14,15G	埋1層	一括	-	(3.9)	1.7～	ﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	灰白 N8/	灰白 N8/	雲母	良好	底部1/3	底部に工具痕？きめ細かい
63	8	土師器　杯	3区	C-14G	埋1層	一括	-	(5.8)	2.0～	ﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	灰白 Hue10YR8/2	灰白 Hue10YR8/2	雲母、黒色粒	良好	底部1/4	底部に工具痕？きめ細かい
63	9	瓦質土器　火鉢	3区	E-12G	1層	-	-	-	6.0～	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、刻印、突帯	黒 N2/	黒 N2/	長石、雲母、角閃石、赤色粒	良好	口縁一部	2刻印と、1突帯あり
63	10	土師器　杯	3区	D-15G	2b層	一括	(11.8)	(7.1)	2.8	ﾅﾃﾞ、回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	橙 Hue7.5YR6/6	明褐 Hue5YR5/8	赤褐色粒、雲母、石英	良好	1/6	外面と底部に赤彩あり、底部に1ヶの穿孔と2ヶの窪みあり
63	11	土師器　杯	3区	-	埋1層	一括	-	(3.2)	2.6～	ﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ、糸切り痕	灰白 Hue10YR8/2	灰白 Hue10YR8/2	雲母、石英	良好	1/4	きめ細かい
63	12	染付　椀	3区	-	-	一括	-	-	2.5～	施釉	施釉	灰白 N8.2	灰白に青みがかる N8.2	密	良好	1/3	高台径(4.6)cm、高台高0.8cm
63	13	青磁　椀	3区	E-15G	ｶｸﾗﾝ	一括	-	-	4.0～	施釉	施釉	明るい灰 N7.1	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	やや密	良好	2/3	高台径(5.6)cm、高台高1.4cm
63	14	青磁　椀	3区	D-14,15G	-	一括	-	-	4.2～	施釉	施釉	灰白 N8.2	明るいｵﾘｰﾌﾞ 0.4GY4.9/3.2	密	良好	底部1/3	高台径(6.2)cm、高台高1.3cm
63	15	青磁　皿	3区	D-15G	ｶｸﾗﾝ	-	(12.3)	-	3.3	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	口縁1/3	高台径(7.0)cm、高台高0.8cm
63	16	青磁　？	3区	C-14G	-	-	-	-	4.1～	施釉	施釉	灰白 N8.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 8.5Y5.5/2.8	密	良好	一部	印花文
63	17	青磁　？	3区	-	1a層	-	-	-	1.2～	施釉	施釉	明るい灰 N7.1	灰味黄茶 2.5Y5.6/2.6	密	良好	一部	
63	18	青磁　琮形瓶	3区	C-14G	-	一括	-	-	7.8～	施釉	施釉	うす黄橙 10YR8.4/2.3	うす緑 4G7.9/1.6	密	良好	胴一部	
63	19	土製紡錘車	3区	C-8G	ｶｸﾗﾝ	一括	長さ(5.4)	厚さ(1.1)	穿孔径(0.75)	ﾅﾃﾞ、横ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ、横ﾅﾃﾞ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 Hue10YR7/3	やや密	良好	1/2	
63	20	備前　甕	3区	D-13,14G	-	一括	(38.4)	-	16.4～	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	暗灰 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	粗、白色砂粒、小石	良好	口縁一部	灰釉掛？

表23　出土遺物観察表（9）

図版No.	報番	器種	材質	出土地点			法量（cm）					
				地区	遺構	層位	長さ	幅	孔上	孔下	厚さ	重さ（g）
36	12	浮子	軽石	1区	SK59	-	長径8.15	短径7.15	2.7	2.2	4.3	84.1
40	44	硯	安山岩	1区	-	-	3.35～	4.6	-	-	1.7	26.6
40	45	浮子	軽石	1区	-	一括	径8.3	-	2.1	2.5	4.7	114.0
40	46	浮子	軽石	1区	H-12G	-	径6.8	-	1.25	1.6	2.6	67.5
40	47	骨銅製飾金具	骨銅	1区	トレンチ	一括	2.20	3.80	-	-	0.1	4.94
44	12	硯	粘板岩	2区	SD99	2層	9.85	6.45	-	-	1.8	142.4

表24　その他の遺物観察表

図版No.	報番	種類	出土地点			法量		備考
			地区	遺構	層位	径(mm)	重量（g）	
40	48	熙寧元寶	1区	カクラン		23	2.8	中国・宋の神宗の元豊元年（1068年）鋳造
40	49	豊宋元寶	1区	F-10G	一括	24	3.0	中国・北宋の徽宋の建中靖国元年（1101年）鋳造
52	1	洪武通寶	2区	SD99	埋5層	22	1.9	中国・明の太祖の洪武元年（1368年）鋳造
52	2	寛永通寶	2区	カクラン	-	23	2.0	江戸時代から用いられた代表的な貨銭
52	3	寛〇〇寶	2区	カクラン	-	23	0.9	残存1/2
52	4	不明	2区	P810	-	22	1.9	
52	5	寛永通寶	2区	清掃時	一括	24	2.7	
52	6	寛永通寶	2区	カクラン	-	25	2.9	裏に文の文字あり
52	7	洪武通寶？	2区	カクラン	一括	24	2.5	
52	8	不明	2区	カクラン	一括	23	2.7	
-	-	不明	2区	カクラン	一括	22	2.5	
-	-	不明	2区	カクラン	一括	23	3.2	
-	-	不明	2区	カクラン	一括	22	1.7	8個が付着した状態で検出
-	-	不明	2区	カクラン	一括	22	1.5	
-	-	不明	2区	カクラン	一括	22	1.5	
-	-	不明	2区	カクラン	一括	22	1.1	
-	-	不明	2区	清掃時	一括	23	2.2	
62	8	大〇（通寶）	3区	SK31	埋土トレンチ	24	2.4	大観通寶？

表25　出土古銭観察表

図版１　１区全景

図版２　掘立柱建物跡（SB12）（西→東）

図版３　掘立柱建物跡（SB19）（西→東）

図版４　掘立柱建物跡（SB26）（西→東）

図版５　掘立柱建物跡（SB86）（西→東）

図版６　掘立柱建物跡（SB91）（東→西）

図版７　掘立柱建物跡（SB95）（北→南）

図版８　掘立柱建物跡（SB174）（東→西）

図版 9　柵列跡（SA22）（西→東）

図版 10　柵列跡（SA144）（南→北）

図版 11　柵列跡（SA175）（東→西）

図版 12　柵列跡（SA177・178）（東→西）

図版 13　柵列跡（SA180）（西→東）

図版 14　柵列跡（SA183）（東→西）

図版 15　柵列跡（SA205）（東→西）

図版 16　柵列跡（SA215）（西→東）

図版 17　堀跡（SD5）（南→北）

図版 18　溝跡（SD6）（南→北）

図版 19　溝跡（SD16）（西→東）

図版 21　溝跡（SD29・33）（北→南）

図版 20　溝跡（SD18・SX112）（南→北）

図版 22　溝跡（SD85・121）（南西→北東）

図版 23　溝跡（SD33）遺物出土状況（北→南）

図版 24　井戸跡（SE1）（東→西）

図版 25　井戸跡（SE2）（南→北）

図版 26　土壙（SK8）遺物出土状況（西→東）

図版 27　土壙（SK9）（東→西）

図版 28　土壙（SK10）遺物出土状況（南→北）

図版 29　土壙（SK42）（西→東）

図版 30　土壙（SK44・47）（西→東）

図版 31　土壙（SK48）（南西→北東）

図版 32　土壙（SK54）（東→西）

図版 33　土壙（SK56）（東→西）

図版 34　土壙（SK58）（北→南）

図版 35　土壙（SK63）（北→南）

図版 36　土壙（SK100）（東→西）

図版 37　土壙（SK116・117）（南→北）

図版 38　土壙（SK119・120）（南→北）

図版 39　土壙（SK122）（北→南）

図版 40　土壙（SK123）（西→東）

図版 41　土壙（SK124）（南→北）

図版 42　土壙（SK126）（北→南）

図版 43　土壙（SK146）（北→南）

図版 44　土壙（SK170）（西→東）

図版 45　土壙（SK171）（東→西）

図版 46　土壙（SK194）（北→南）

図版 47　土壙（SK200）（東→西）

図版 48　土壙（SK217）（北→南）

図版 49　土壙（SK218）（東→西）

図版 50　土壙（SK219）（東→西）

図版 51　土壙（SK220）（北→南）

図版 52　土壙（SK224・237）（北→南）

図版 53　土壙（SK234）（東→西）

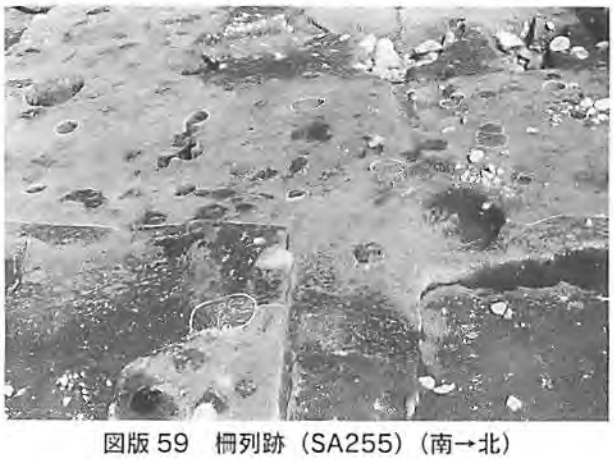
図版 54　土壙（SK240）（東→西）

図版 55　2 区全景（南→北）

図版 56　掘立柱建物跡（SB247）（東→西）

図版 57　掘立柱建物跡（SB251）（東→西）

図版 58　柵列跡（SA248）（東→西）

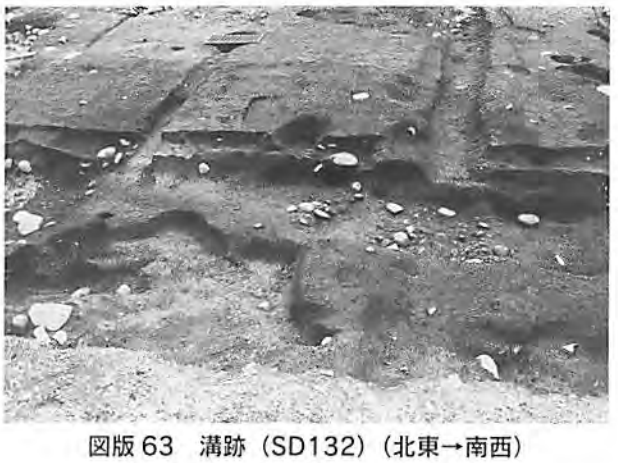


図版 59　柵列跡（SA255）（南→北）

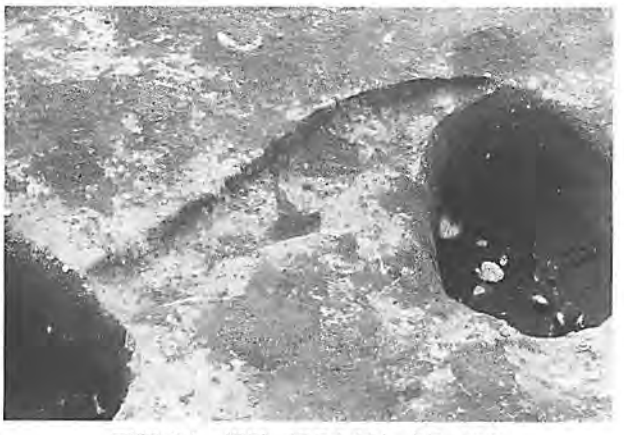
図版 60　柵列跡（SA261）（東→西）

図版 61　柵列跡（SA262）（東→西）

図版 62　柵列跡（SA264）（北→南）



図版 63　溝跡（SD132）（北東→南西）



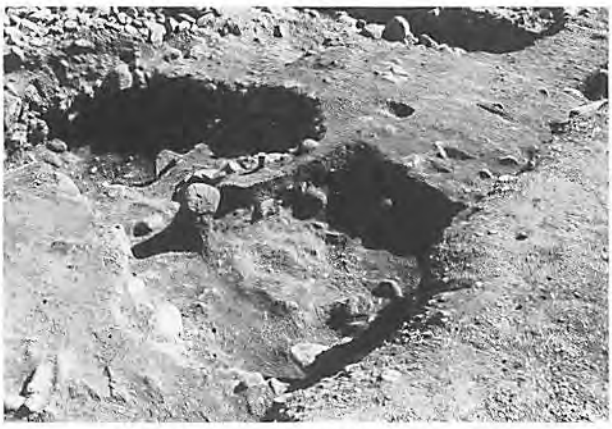
図版 64　溝跡（SD142）（東→西）

図版 65　溝跡（SD160）（南→北）

図版 66　堀跡（SD186）（南→北）

図版 67　溝跡（SD272）（東→西）

図版 68　溝跡（SD280）（北→南）



図版 69　溝跡（SD281）（西→東）

図版 70　土壙（SK105）（南→北）

図版 71　土壙（SK108）（東→西）

図版 72　土壙（SK127）（北→南）

図版 73　土壙（SK131）（北→南）

図版 74　土壙（SK140）（南→北）

図版 75　土壙（SK150）（東→西）

図版 76　土壙（SK154）（北→南）

図版 77　土壙（SK157）（東→西）

図版 78　土壙（SK161）（東→西）

図版 79　土壙（SK162）（南→北）

図版 80　土壙（SK163）（東→西）

図版 81　土壙（SK165）（北→南）

図版 82　土壙（SK245）（東→西）

図版 83　3 区全景（1）（東→西）

図版 84　3 区全景（2）（東→西）

図版 85　3 区全景（3）（東→西）

図版 86　掘立柱建物跡（SB64）（東→西）

図版 87　掘立柱建物跡（SB65）（東→西）

図版 88　掘立柱建物跡（SB69）（西→東）

図版 89　掘立柱建物跡（SB72）（南→北）

図版 90　柵列跡（SA70・71）（西→東）

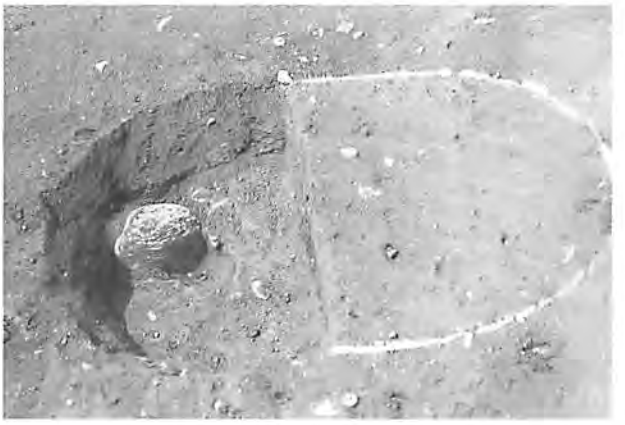
図版 91　溝跡（SD50）（西→東）

図版 92　井戸跡（SE73）（西→東）

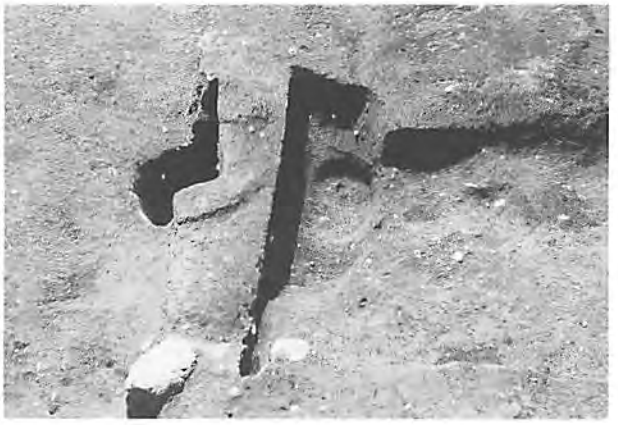
図版 93　土壙（SK30・31）（西→東？）

図版 94　土壙（SK75・76・77・78・79）（北→南）

図版 95　土壙（SK82・83）（北→南）



図版 96　土壙（SK84）（南→北）



図版 97　土壙（SK135）（北→南）

図版 98　土壙（SK136）（西→東）

図版 99　土壙（SK137）（東→西）

図版 100　土壙（SK138）（北→南）

図版 101　1 区 SB12・SE1・2 出土遺物

図版 102　1 区 SD4・5・7 出土遺物

図版 103　1 区 SD33 出土遺物

図版 104　1 区 SD121 出土遺物

図版 105　1 区 SD85 出土遺物

図版 106　1 区 SD18 出土遺物

図版 107　1 区 SK8 出土遺物

図版 108　1 区 SK9 出土遺物

図版 109　1 区 SK10 出土遺物

図版 110　1 区 SK116 出土遺物

図版 111　1 区 SK117 出土遺物

図版 112　1 区 SK53・55・58・59・122・124 出土遺物

図版 113　1 区 SK100 出土遺物

図版 114　1 ～ 3 区出土古銭

図版 115　1 区出土遺物

図版 116　2 区 SD99・272 出土遺物

図版 117　2 区 SD186 出土遺物

図版 118　2 区 SK131・150・その他出土遺物

図版 119　3 区 SB64・SA70・SK30・31 出土遺物

図版 120　3 区出土遺物

あとがき

熊本県立菊池高等学校校舎等改築工事のために、平成17年度から18年度の限られた時間のなかで埋蔵文化財発掘調査が行われました。平成19年度から整理を開始し、平成20年度には担当者の変更と資料室の移転などを経て、やっと、ここに隈府土井ノ外遺跡の報告書が完成しました。

報告書にとりまとめることができたのは、ひとえに暑い時も寒い時も発掘作業をしていただいた方々、暖かく見守って下さった菊池高校や地域の皆様、整理作業に携わってくださった多くの方々の努力の賜物です。本当にありがとうございました。

なお、菊池高校の玄関横には、本調査で発掘された中世の堀跡の土層断面が、ビオトープには井戸跡が当時を物語っております。もし、現地に行かれる機会がありましたら、是非観ていただきたいと思います。

【調査作業に携わった方々】

青山立子、麻生昭子、麻生昇、池田登、池邊智佳子、石井聡郎、稲本佳子、上村明徳、有働憲史、大久保哲哉、大久保靖子、岡内正子、緒方京子、緒方広幸、緒方義江、垣田菜美、川口敬太郎、菅規男、木佐木博美、木村エミ子、久保りか、児玉惟清、小山勝子、坂川安治、佐藤シモ子、佐藤昭三、城惟清、城修一、城隆義、瀬田哲磨、荅ヨシメ、高野史郎、高野せい子、田代妙子、中川千章、中林静代、中村精一、平野康子、堀京之助、本田揚子、前田幸一、前田靖夫、増田政隆、松岡祐三、宮川エイ子、宮本敦史、村上勝也、村上幸喜、守田妙子、山下太郎、渡辺進一（以上、敬称略・五十音順）

【整理作業に携わった方々】

入船多美子、内田孝子、大塚トシ子、甲斐正子、川井田久子、古閑知子、後藤直美、重永照代、谷川亜紀子、谷村恵子、益田久子、村山紀子、山下千栄子、平川恵里子、平川早苗、府内博子、松本裕子、宮崎典子（以上、敬称略・五十音順）

報告書抄録

ふりがな	わいふどいのそといせき
書名	隈府土井ノ外遺跡
副書名	熊本県立菊池高等学校校舎等改築工事に伴う埋蔵文化財調査
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第248集
編集者	西住欣一郎、廣田静学、木村元浩、松村洋史
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862－8609　熊本市水前寺6丁目18番1号
発行年月日	2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
わいふどいのそといせき 隈府土井ノ外遺跡	くまもとけんきくちしわいふ 熊本県菊池市隈府1332-1	43210	068	32度59分08秒	130度48分40秒	2005.11.21 ～ 2006.11.30	約4,400㎡	熊本県立菊池高等学校校舎等改築工事

所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
隈府土井ノ外遺跡	中世	掘立柱建物跡 柵列跡 堀跡 溝跡 井戸跡 土壙 不明遺構	土師器 陶磁器 須恵器 瓦質土器 石製品 青銅製品 古銭	

熊本県文化財調査報告第248集

隈府土井ノ外遺跡

熊本県立菊池高等学校校舎等改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

発行年月日　平成21年3月31日

編集・発行　熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市水前寺6丁目18番1号
TEL. 096(333)2707

印　刷　弘栄印刷株式会社
〒862-0938　熊本市長嶺東8丁目6番1号
TEL. 096(389)5570（代）

20 教委 教文
② 007

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 248 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：隈府土井ノ外遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/